

授業名	人間と仏教			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1101
英文名	Human and Buddhism			開講時期	春・秋学期		必修選択	必修	
担当者	伊藤 茂樹・工藤 美和子			対象学生	総合文化1回生、幼児教育1回生				
授業の概要	本授業は仏教の起源である開祖釈尊の生き方とその教え、また法然の生涯と教えを中心として概説することにより、我々の生きる意義を理解することを目指す。「ブッダの生涯」「ブッダの教え」「法然の生涯」「法然の教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然を概説し、私たちの人間形成に意義を持つ内容を学び、建学の理念を学んで行きたい。								
学修成果到達目標	1) 建学の精神を理解することが出来る。 2) 釈尊の教えである「苦」の理念を自らの問題として理解することが出来る。 3) 法然の平等思想を理解することが出来る。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (汎用能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テキスト	『ブッダと法然』(学術図書出版社、2019年)								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	理解度テストを回収の後、解答の解説を行います。								
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オフィスアワー	後日研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	人間と仏教	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「仏教とは何か」	(学修内容) 宗教とは？ 仏教とはどのような教え？ 何故仏教を学ぶの？ 仏教を学ぶ基本中の基本を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 建学の精神を概説します。華頂学園の環境をみつめてみましょう。仏教を学ぶ意義について学びましょう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について、教科書を一通り読んでおくこと。建学の精神をノートにまとめる。
第3回	「インドの文化」	(学修内容) 釈尊誕生の前提としてインドの歴史と文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インドの文化を調べる。
第4回	「ブッダの生涯 誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダの誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第5回	「ブッダの生涯 四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊等)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第6回	「ブッダの生涯 苦行」	(学修内容) ブッダが出家の後、苦しい修行を何度も経験し、三十五歳で悟りを開いたことについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 出家後のブッダについて、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯 悟り」	(学修内容) 悟りの内容である縁起の思想。四諦八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦八正道について、該当する教科書を読むこと。 授業後はノートを整理する。
第8回	「ブッダの生涯 釈尊の伝道」	(学修内容) 釈尊は、35歳で悟りを開いて後、教化伝道の生活を送ります。釈尊の教化伝道の生活を学びます。確認テストを実施します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊の伝道について、該当する教科書の範囲を読むこと。 授業後は、ノートを整理する。
第9回	「法然の生涯と思想 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生とその背景について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然の生涯と思想 父の死」	(学修内容) 法然上人は9歳で父の死に直面します。その後、僧侶としての道を進んでゆきます。比叡山登山と、延暦寺での修学について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 父の死について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然の生涯と思想 比叡山修学・南都遊学」	(学修内容) 法然上人は、比叡山で一定の年月を修行して過ごした後、南都遊学をします。浄土教に出会うまでを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の比叡山修学、南都遊学について、教科書の該当する範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然の生涯と思想 立教開宗」	(学修内容) 法然上人の浄土宗開宗と、浄土宗の教えについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の開宗について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然の生涯と思想 大原問答・東大寺講説」	(学修内容) 大原問答と東大寺講説について、概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答と東大寺講説について該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然の生涯と思想 法難・臨終」	(学修内容) 専修念仏教団の法難と法然上人の臨終について概説します。また知恩院の成立も理解します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難、臨終について、該当する教科書の範囲を読むこと授業後、ノートの整理をする。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダ・法然の教えが現代の我々とどのように関わるかを考えます。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 全15回分授業のノートを読み返しておくこと。ブッダの悟り、法然上人の教えをまとめる。

授 業 名	基礎ゼミナール			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1102
英 文 名	Freshman Seminar I			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	工藤 美和子・伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	2年間の学びで、日本文化・現代文化における知識を学び、大学での学びに必要な能力を獲得すると同時に、社会人としての基本的教養を身につけることで、将来への見通しをたてることを目的とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 大学での学びについて理解することができる。 2) 学生生活を送るうえで必要な表現力を身につけることができる。 3) 学生生活を送るうえで必要な情報検索能力を身につけることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	特に指定しない。必要な資料は授業内で配布する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題はコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	個人やグループ活動の進捗状況によって修整するなど、授業時に変更を加えることがある。 大学の授業は難解である。難しいのが当たり前だと認識して臨んでもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので各自確認すること。								
実 践 的 教 育									

授業名	基礎ゼミナール	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	基礎ゼミナールへの導入(1)履修登録科目の確認(全体での授業を予定)	(学修内容)履修登録の科目を考え、自ら学ぶ学習内容を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講義内容の振り返りを行う。
第2回	基礎ゼミナールの導入(2)2年間の流れとGmail等の使用方法について学ぶ(全体での授業を予定)	(学修内容)総合文化学科の2年間の流れを知り、ポータルサイト、Gmail、Classroomの活用について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講義内容の振り返りを行う。
第3回	学生生活をデザインしよう 互いを知る	(学修内容)自己紹介ワークシートを作成、ゼミ担当教員とゼミのメンバーと交流する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講義内容の振り返りを行う。
第4回	大学の学び方 授業の受け方	(学修内容)授業の受け方やノートの取り方、授業内課題、定期試験について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りを行う。
第5回	学生生活の目的と方法(1)望む将来像について考える	(学修内容)自らの将来像についてワークシートを用いながら考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ワークシートへの書き込みと授業の振り返りを行う。
第6回	学生生活の目的と方法(2)将来への計画を立てる	(学修内容)1回生の1年間で取り組むことは何かを考え、学修ポートフォリオの記入を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りをする。
第7回	フィールドワーク	(学修内容)フィールドワークを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りを行う。
第8回	レポートの書き方を学ぶ	(学修内容)作文とレポートの違いを理解する。レポート作成の方法を知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の振り返りを行う。
第9回	レポートを書いてみる	(学修内容)課題にそったレポートを書いてみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートに取り組み提出する。
第10回	レポートを見直してみよう	(学修内容)レポートの書き方について復習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習に取り組む。
第11回	学外学習(1)事前学習の準備	(学修内容)学外学習について知る。事前・事後学習の方法、レジュメ作成法を学び、グループ毎に事前学習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習を意識しながら学外学習の準備をする。
第12回	学外学習(2)学外学習を実施する	(学修内容)事前学習をふまえて学外学習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ全体で取り組むこと。不明な点や質問等があれば必ずゼミ担当教員に相談すること。
第13回	学外学習(3)事後学習の準備	(学修内容)事後学習を復習し、レジュメを作成し発表(プレゼンテーション)の準備を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ全体で発表の準備に取り組むこと。
第14回	学外学習(4)発表	(学修内容)レジュメを準備し、グループ毎に発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ全体で発表の準備に取り組むこと。
第15回	春学期の振り返りと夏期休暇に向けての取り組み(全体授業を予定)	(学修内容)春学期に作成したワークシートを見直しながら春学期の学生生活の振り返りを行う。夏期休暇中の過ごし方について目標と計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 春学期全体について振り返りのレポートを作成する。

授 業 名	基礎ゼミナール			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1102
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき・鈴木 えり子・名賀 亨・林 静香・眞崎 雅子・山部 泰司・柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	1回生春学期の基礎ゼミナールは「初年次教育」と位置づけ、大学での学びの特徴、目的を見据えて学ぶ意義、学びの方法として講義の受け方、レポートや小論文の書き方、発表資料作成の仕方、プレゼンテーション方法などを体験的に学ぶ。また、その中に幼児教育学科としての取り組みを盛り込んでいく。授業形態としては、20人までの少人数クラスを専任教員が担当し、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど演習を基本として実施する。また、客観的評価としてのPROGテストや主観的評価としての学修ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) 将来の目的を明確に説明できる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ実践できるようになる。 4) 発表方法(資料、口頭発表)の基礎を身につけ実践できるようになる。 5) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。								
留 意 事 項	基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。個別面談を適宜実施します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	各教員が授業時に伝える。								
実 践 的 教 育									

授業名	基礎ゼミナール	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションとゼミへの導入（履修登録等のサポート含む）全体での授業を予定	（学修内容）基礎ゼミナールの位置づけやプログラムなどを確認しながらゼミの役割を共有する。クラスルームについて理解をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを確認しておく。講義要項を確認して不明な点をなくす。質問事項をメモする。
第2回	オリエンテーションとゼミへの導入（2年間流れ、Gmailの使い方など）全体での授業を予定	（学修内容）学校行事や学科行事を含めて2年間の流れを共有し、ポータルサイトやGmailの使い方を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 華頂短期大学のホームページを開いてみる。Gmailを使い、ゼミナール担当教員にメールを送信する。
第3回	お互いに知り合うワークショップ（学校生活のイメージ作り）	（学修内容）自己紹介シートを使った自己紹介を実施する。ゼミメンバーと交流する。また、オリエンテーションでの疑問を解消する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） キャンパスライフや講義要項に目を通し、自分に関係のある箇所に線を引いて確認する。
第4回	お互いに知り合うワークショップ（少人数の関係づくり）	（学修内容）フィールドワークを通して交流する。ゼミメンバーとの交流をさらに深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日のゼミで気づいたことをノートに書き出す。
第5回	合同ゼミナール（絵本大賞の説明、SNSの注意点、課外活動など）全体での授業を予定	（学修内容）幼児教育学科全体に関係する絵本大賞、子どもデパート、SNSの注意点などについて説明・共有する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 華頂短期大学のホームページを確認しておく。絵本大賞のテーマを考え所定の用紙で提出する。
第6回	学生生活の目標（望む将来について考える）	（学修内容）適宜ワークシートも活用しながら将来の夢や望む将来像を整理する。また、学生同士で共有する時間を持つ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 将来の夢について聞かれたらどう答えるか考えておく。ワークシートを完成して提出する。
第7回	学生生活の目標（望む将来に向かう計画を立てる）	（学修内容）適宜ワークシートを活用しながら1年後の目標や1年間で取り組むことなどを整理する。学修ポートフォリオの記入を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員や学生とのコミュニケーションを参考に自分の計画をブラッシュアップする。
第8回	書簡文の作成	（学修内容）お世話になった人へ近況報告を書く。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 誰に近況を伝えるかを思い浮かべておき、何を伝えるかを考えてくる。
第9回	書簡文の作成	（学修内容）チェックリストをもとに報告書を見直して書き直す。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 近況報告の清書をし、仮に投函する設定で必要なものを考えて準備をしてくる。
第10回	大学での学び方（課題の探求、授業の受け方、ノートの取り方、試験について）	（学修内容）春学期の前半を振り返り、各自のノートも参照しながら、大学での学び、ノートの取り方、筆記試験・レポート試験について整理する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の書いたノートを持参する。授業で分かったことを復習し、翌日の授業から実践する。
第11回	レポートの書き方	（学修内容）レポートの基本的な書き方（体裁、書式、テーマ選び、内容）を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 基本的な書き方を踏まえて、短いレポートを書いて提出する。
第12回	絵本に親しむ	（学修内容）絵本の選び方と読み聞かせを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） （事前学修）子どもの頃に好きだった絵本を思い出しておく。具体的な理由を言葉で発表する準備をする。
第13回	絵本に親しむ	（学修内容）子どもに向けて絵本の読み聞かせを実践を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） （事前学修）子どもに向けて読み聞かせをするための準備（下読み）をしておく。
第14回	春学期の振り返り	（学修内容）学修ポートフォリオ、春学期に作成したワークシートを活用し春学期の振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 振り返りに気づいたことをまとめておく。
第15回	春学期の振り返り・夏季休暇に向けて全体での授業を予定	（学修内容）振り返りで気付いたことを共有し、夏季休暇の過ごし方について計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 基礎ゼミナールの内容を踏まえ、春学期全体について振り返りレポートを作成する。

授 業 名	基礎ゼミナール			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1110
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	工藤 美和子・伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	日本文化・現代文化における知識を学び、社会人としての基本的教養を身につけ、社会に貢献できる基礎力と応用力を育成することを目的とする。また、目的を達成するために、プレゼンテーションの機会を設けるとともに、卒業研究への準備を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 大学における学びの見通しをもつことができる。 2) 日本文化・現代文化について必要な知識を学び、豊かな教養を有することができる。 3) 将来目標をたて、達成のために主体的に行動することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	特に指定しないが、必要な資料は授業内で配布する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題やレポートはコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	授業内容の進捗状況によって修整するなど変更を加えることもある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので各自で確認すること。								
実践的教育									

授 業 名	基礎ゼミナール	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	春学期の振り返り（全体で授業を行う予定）	（学修内容）春学期の基礎ゼミの振り返りと夏期休暇の課題について確認する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 基礎ゼミナールの内容を整理する。各自ゼミ生が課題レポート作成および発表の準備を行う。
第2回	夏期課題の発表準備	（学修内容）夏期休暇に課した課題について各自発表の準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表準備をする。レジュメの作成・発表原稿の作成と担当教員に確認。
第3回	課題の個別発表	（学修内容）各自レジュメを準備し発表を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 作成したレジュメをもとに発表を行い、レジュメを担当教員に提出する。
第4回	課題の個別発表	（学修内容）各自レジュメを準備し発表を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 作成したレジュメをもとに発表を行い、レジュメは担当教員に提出する。
第5回	フィールドワーク（1）目的と準備	（学修内容）フィールドワークを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） フィールドワークの目的と方法について各自理解すること。
第6回	フィールドワーク（2）レポート作成の準備	（学修内容）フィールドワークで発見したことや調べたことをまとめてレポートを作成する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） レポートの書き方について春学期で学んだことを復習もかねて見直すこと。
第7回	フィールドワーク（3）レポート提出	（学修内容）レポートを作成し担当教員に提出すること。 （事前事後学修課題の内容）（60分） レポートの書き方に準じて作成する。
第8回	レポートの振り返り	（学修内容）レポートの内容について振り返りを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自レポートの内容を読み込んでおくこと。
第9回	グループワーク（1）グループ学習に向けて	（学修内容）各グループごとに研究テーマ・テーマの目的・方法・役割分担を決める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 活動の準備、整理、発表への準備を行う。担当教員には進捗状況を報告すること。
第10回	グループワーク（2）グループ学習の実施	（学修内容）各グループが研究テーマの発表準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 活動の準備、整理、発表の準備を行う。担当教員に進捗状況を報告すること。
第11回	グループワーク（3）発表	（学修内容）各グループが立てた研究テーマに関して発表を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表の準備を行う。レジュメを準備する。レジュメは担当教員に確認、提出すること。
第12回	卒業研究について（全体での授業を行う予定）	（学修内容）卒業研究（卒業研究レポートと卒業制作）について知る。卒業研究アンケートをとる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自、卒業研究の具体的なテーマを考えておくこと。アンケートを記し担当教員に提出すること。
第13回	個人面談	（学修内容）アンケートをもとに担当教員による個人面談を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 具体的な卒業研究のテーマおよび将来の進路について各自考えておくこと。
第14回	個人面談	（学修内容）アンケートをもとに担当教員による個人面談を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 具体的な卒業研究のテーマおよび将来の進路について各自考えておくこと。
第15回	秋学期の基礎ゼミナールの振り返りと創作表現演習への取り組み（全体で授業を行う予定）	（学修内容）基礎ゼミナール 全体を振り返り、創作表現演習にむけて学修計画を策定する。春期休暇中の課題の説明。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「創作表現演習」への準備を行う。春期休暇中の課題について説明を受け各自取り組むこと。

授 業 名	基礎ゼミナール			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1110
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき・鈴木 えり子・名賀 亨・林 静香・眞崎 雅子・山部 泰司・柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	基礎ゼミナール は、春学期に引き続き教員と学生、学生同士のコミュニケーションや協働を基本とし、学修や学生生活の基盤となる時間と位置づけられる。内容については、幼児教育学科全体として取り組む「絵本の作成」を軸にテーマを設定したフィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなど演習を基本として実施する。また、春学期に作成した計画や学修ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) 将来の目的を明確に説明できる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ実践できるようになる。 4) 発表方法(資料、口頭発表)の基礎を身につけ実践できるようになる。 5) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (実践力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。								
留 意 事 項	基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。適宜個別面談を行います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	各教員が授業時に伝える。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		基礎ゼミナール	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	夏季休暇の振り返りと秋学期への導入	(学修内容) 春学期の最後に策定した夏季休暇の計画も参考に夏季休暇を振り返る。また、秋学期の学修、学生生活について確認する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認しておく。学修ポートフォリオの当該箇所を入力する。	
第2回	手作り絵本作成の準備	(学修内容) 手作り絵本の今年度設定されたテーマについて考えてみる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 手作り絵本のテーマからイメージできる言葉を書き出しておく。	
第3回	手作り絵本の作成 (ストーリー、構成)	(学修内容) 絵本のストーリーや基本構成を考えるとところから、絵本作りをスタートする。また、個別面談の準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ストーリーの概要を考えてくる。個別面談シートを記入して提出する。	
第4回	手作り絵本の作成 (ページ割、下絵) 個別面談	(学修内容) コピー用紙のサンプルも活用し、ページ割、下絵など絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。	
第5回	手作り絵本の作成 (下絵、ストーリー配置) 個別面談	(学修内容) 提出用の用紙に下絵、ストーリーを配置して絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。	
第6回	手作り絵本の作成 (完成に向けた作業) 個別面談	(学修内容) 各自の進度に合わせて絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業時間以外も活用して絵本作成を進める。	
第7回	手作り絵本の作成 (完成に向けた作業) 個別面談	(学修内容) 各自の進度に合わせて絵本の作成を進める。また、並行して個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業時間以外も活用して手作り絵本作成を進める。	
第8回	フィールドワーク(見学)	(学修内容) 保育の視点を意識して公園や動物園等の近隣施設を訪問・見学し、保育の視点を学ぶ。実施日が前後することがある。 (事前事後学修課題の内容)(30分) フィールドワークの成果をまとめておく。	
第9回	フィールドワークの振り返り	(学修内容) フィールドワークを通じて学んだことを出し合い、グループで話し合うことで保育の視点を整理する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) グループで話し合った内容をまとめる。	
第10回	保育内容の探求	(学修内容) 各自で設定したテーマに沿って保育に関連する内容について探求する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 設定したテーマに必要なものをノートに書き出しておく。	
第11回	保育内容の探求	(学修内容) 各自またはゼミ単位で設定したテーマに沿って保育に関連する内容について探求する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 探求成果をノートにまとめておく。	
第12回	保育内容の探求	(学修内容) 各自で設定したテーマに沿って保育に関連する内容について探求する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 探求成果をノートにまとめておく。	
第13回	保育内容の探求	(学修内容) 各自で設定したテーマに沿って保育に関連する内容について探求する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの探求成果をプレゼンテーションできるようにしておく。	
第14回	手作り絵本の完成	(学修内容) 手作り絵本を完成させ言葉を付箋に書きいれ、再度全体の流れを見直す。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 全体の流れ(絵と文のバランス)を確認しておく。	
第15回	1年間の振り返りと手作り絵本の提出	(学修内容) 基礎ゼミナールで取り組んできた内容を中心に1年間の学生生活を振り返る。また手作り絵本を完成させて提出する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の内容を参考にまとめたレポートを作成する。学修ポートフォリオの当該箇所を入力する。	

授 業 名	総合ゼミナール			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CS2116
英 文 名	Senior Seminar I			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		必 修	
担 当 者	浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき・渋谷 郁子・鈴木 えり子・名賀 亨・野田 隆生・福井 百合子・水谷 隆・山部 泰司・柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>これまでの授業や実習での経験をふまえ、自らの能力を客観的に把握する。その上で、長所をいっそう活かすための手立てを考え、それぞれの子ども理解と保育実践の力を確実に伸ばしていく。さらに、卒業後もその良いところを伸ばし続けることができるよう、上記の手立てを実践する。その過程においては、ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団の一人としての自覚を持って活動をする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1．幼児教育・保育関連の領域における自己の得意なことを客観的に把握できる。 2．各自の得意なことがらと、それをさらに伸ばすための取り組みについてプレゼンテーションができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	制作物・提出物については、適宜教員からのフィードバックをおこないます。								
留 意 事 項	総合ゼミナールは短大生活の集大成としてとらえています。毎回出席はもちろんですが、教員や学生同士での積極的なコミュニケーションを図ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で伝えます。								
実践的教育									

授業名	総合ゼミナール	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス(全体)	(学修内容)総合ゼミナールのねらいや目的を共有する (事前事後学修課題の内容)(30分) 時間割を作成・持参する
第2回	ポートフォリオを作成する	(学修内容)2年次の学びの目標を設定しポートフォリオを記入する (事前事後学修課題の内容)(30分) 自己紹介シートを作成する
第3回	お互いに知り合うワークショップ	(学修内容)自己紹介シート等を作成、それを使った自己紹介などを通じてゼミメンバーと交流する。また、オリエンテーションでの疑問を解決する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ワークショップの内容を書き取り、フィードバックを行う
第4回	フィールドワーク	(学修内容)新緑の季節に親しみ、子どもの遊びについて考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 学外で気になったことを小レポートにまとめる
第5回	保育内容の研究(1)	(学修内容)さまざまな保育内容について考え、またその楽しさを知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 手遊びをひとつ全員の前で披露できるようにする
第6回	保育教材の研究(2)	(学修内容)さまざまな保育内容について考え、またその楽しさを知る (事前事後学修課題の内容)(30分) さまざまな保育内容について考え、またその楽しさを知る
第7回	保育教材の研究(3)	(学修内容)さまざまな保育内容について考え、またその楽しさを知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 気になった絵本を選び、メンバーの前で読み聞かせを行う
第8回	保育教材の研究(4)	(学修内容)さまざまな保育内容について考え、またその楽しさを知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもたちを対象にした運動遊びをひとつ考えておく
第9回	プレゼンテーションへの個別指導(1)	(学修内容)各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、総合ゼミナールで実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自のテーマを考え、教員から個別指導が受けられるようにアイデアをまとめておく。
第10回	プレゼンテーションへの個別指導(2)	(学修内容)各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、第12回の授業で実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自のテーマを考え、教員から個別指導が受けられるようにアイデアをまとめておく
第11回	プレゼンテーションへの個別指導(2)	(学修内容)各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、総合ゼミナールで実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自のテーマを考え、教員から個別指導が受けられるようにアイデアをまとめておく
第12回	秋学期に向けての企画を考える	(学修内容)秋学期の企画についてゼミメンバーで話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) どのような企画をやりたいのか、自分の考えをまとめておく
第13回	各自のテーマ発表	(学修内容)自己の設定した課題についてゼミメンバーと情報を共有する (事前事後学修課題の内容)(30分) 取り組みたいテーマについての発表を準備する
第14回	キャリアを考える	(学修内容)学外実習での学びなどを振り返り、自分のキャリアについて考える時間を持つ (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のキャリアについての考えをまとめる
第15回	春学期のまとめ	(学修内容)半年間の活動の振り返りを行い、PDCAサイクルの検証を行う 将来について考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 半年間の活動について、自分の考えをまとめる

授 業 名	総合ゼミナール			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS2122
英 文 名	Senior Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき・渋谷 郁子・鈴木 えり子・名賀 亨・野田 隆生・福井 百合子・水谷 隆・山部 泰司・柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>これまでの授業や実習での経験をふまえ、自らの能力を客観的に把握する。その上で、長所をいっそう活かすための手立てを考え、それぞれの子ども理解と保育実践の力を確実に伸ばしていく。</p> <p>さらに、卒業後もその良いところを伸ばし続けることができるよう、上記の手立てを実践する。</p> <p>その過程においては、ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団の一人としての自覚を持って活動をする。</p> <p>また、長所を活かす手立ての実践過程とその成果についてプレゼンテーションを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 自分自身の取り組みに必要な情報を自主的に調べ、その達成のために必要な製作、フィールドワーク、ワークショップ等を計画・調整・実践することができる。</p> <p>2. 自分自身の取り組みの過程とその成果について、プレゼンテーションができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物・提出物については、適宜教員からのフィードバックをおこないます。								
留 意 事 項	総合ゼミナールは短大生活の集大成としてとらえています。毎回出席はもちろんですが、教員や学生同士での積極的なコミュニケーションを図ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で伝えます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション（全体）	（学修内容）秋学期に向けて、夏休みの学修を振り返り、目標を立てる （事前事後学修課題の内容）（30分） 夏休みの学習（保育実習、教育実習）を振り返る	
第2回	各自のテーマ設定（1）	（学修内容）個別面談にてテーマ設定をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマについての方法や結論をまとめておく	
第3回	各自のテーマ設定（2）	（学修内容）個別面談にてテーマ設定をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマについての方法や結論をまとめておく	
第4回	企画に関する計画と実践（1）	（学修内容）学生企画に関する計画と実践をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の役割に沿った準備をおこなう	
第5回	企画に関する計画と実践（2）	（学修内容）学生企画に関する計画と実践を行う （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の役割に沿った準備をおこなう	
第6回	企画に関する計画と実践（3）	（学修内容）学生企画に関する計画と実践をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分の役割に沿った準備をおこなう	
第7回	実践に関する振り返り	（学修内容）全体で集まり、実践に関する反省会をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 学生企画と自らの行動に関する振り返りをおこなう	
第8回	運動遊びに関する企画・運営（全体）	（学修内容）運動遊びに関する企画・運営をおこなう （事前事後学修課題の内容）（30分） 子どもたちを対象にした運動遊びをひとつ考えておく	
第9回	プレゼンテーションの用意をする（1）	（学修内容）各自のテーマに応じたプレゼンテーションの用意をする （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員の指導をもとに発表方法・内容をブラッシュアップする	
第10回	プレゼンテーションの用意をする（2）	（学修内容）各自のテーマに応じたプレゼンテーションの用意をする （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員の指導をもとに発表方法・内容をブラッシュアップする	
第11回	プレゼンテーションの用意をする（3）	（学修内容）各自のテーマに応じたプレゼンテーションの用意をする （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員の指導をもとに発表方法・内容をブラッシュアップする	
第12回	プレゼンテーションの用意をする（4）	（学修内容）各自のテーマに応じたプレゼンテーションの用意をする （事前事後学修課題の内容）（30分） 教員の指導をもとに発表方法・内容をブラッシュアップする	
第13回	プレゼンテーション（1）	（学修内容）各個人が自らのプレゼンテーションを実施する （事前事後学修課題の内容）（30分） 他人の発表をも参考にしてプレゼンテーションの完成度を高める	
第14回	プレゼンテーション（2）	（学修内容）各個人が自らのプレゼンテーションを実施する （事前事後学修課題の内容）（30分） 他人の発表をも参考にしてプレゼンテーションの完成度を高める	
第15回	プレゼンテーション（3） およびまとめ	（学修内容）各個人が自らのプレゼンテーションを実施する 卒業後に向けて、短期大学生生活の振り返りを行う （事前事後学修課題の内容）（30分） 他人の発表をも参考にしてプレゼンテーションの完成度を高める これまでの生活について自分の考えをまとめる	

授業名	創作表現演習			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	CS2119
英文名	Senior Seminar I			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	松尾 章子・新矢 昌昭・工藤 美和子・伊藤 茂樹・堀出 雅人			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>学科の学びを通して関心のあるテーマを選び、課題発見を通して自らの学修を進める。これまでの学びや経験を活かして、総合文化学科1回生対象のフィールドワークを企画する。ゼミ担当者を中心に、ゼミ生と協働して企画・募集を行う。フィールドワークを秋学期に実施すべく、1回生対象にプレゼンテーションを実施し、参加者決定までを行う。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 各自の興味関心に基づいたテーマについて、学びを進めることができる。 2) ゼミ生と協働しながら、フィールドワークを企画・募集することができる。 3) 企画したフィールドワークについて、パワーポイントを使用してプレゼンすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	なし								
参考書	適宜授業中に指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートについては、コメントを付して返却します。プレゼンテーションについてはその都度コメントします。								
留意事項	演習授業ですので、積極的な参加を期待します。中間発表は、必ず一人一度は行います。								
オフィスアワー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名	創作表現演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	全体オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 本日の内容を振り返り、重要な事柄についてはスケジュール帳に書き込む。
第2回	全体グループワーク: 研究テーマの検討	(学修内容) 各自興味のあるテーマについて話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: プリントを読み、研究テーマについて考える。 事後: 研究テーマの内容や方法について再検討する。
第3回	フィールドワーク企画1: 各ゼミで内容検討(日時・テーマ)	(学修内容) 秋学期のフィールドワーク企画に向けて、ゼミごとに検討を開始する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: フィールドワーク企画の一つを考える。 事後: フィールドワークテーマについて詳しく調べる。
第4回	各ゼミ: 研究テーマの検討	(学修内容) 興味・関心のある研究テーマについて、ゼミごとに検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 第6回授業でテーマを決定できるように再検討する。
第5回	フィールドワーク企画2: 各ゼミで内容検討(行程・参加費)	(学修内容) フィールドワークの行程や詳細について、ゼミごとに検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: フィールドワーク訪問先の情報を調べる。 事後: 行程を見直し、注意点や再検討の必要な点などをメモする。
第6回	各ゼミ: 研究テーマの決定と計画の立て方	(学修内容) 個々の研究テーマを決定し、今後の計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 希望する研究テーマを決める。 事後: 研究計画書を作成する。
第7回	フィールドワーク企画3: 全体で内容検討(他ゼミと共有・調整)	(学修内容) 各ゼミで検討中のフィールドワーク案を、他ゼミと共有し日程や訪問先について調整を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 各ゼミの内容を全員が理解する。 事後: 調整が必要な個所について検討する。
第8回	各ゼミ: 研究の進め方(個別面談)	(学修内容) 個々の研究の進め方について個人面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 研究テーマ・研究計画について各自整理する。
第9回	フィールドワーク企画4: 各ゼミでプレゼンテーションに向けて準備	(学修内容) 1回生対象のプレゼンテーションに向けて、パワーポイントを作成などの準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: パワーポイントのレイアウトを考える。 事後: プレゼンテーションに向けてリハーサルを行うなど準備を行う。
第10回	各ゼミ: 研究構成と目次案	(学修内容) レポートの構成と目次案の立て方を学び、検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 目次案を作成し、次回授業時に提出する。
第11回	各ゼミ: 構成と目次案(個別面談)	(学修内容) レポートの構成と目次案について個人面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 構成と目次案に沿って研究のイメージを膨らませる。
第12回	全体: フィールドワークプレゼンテーション(1回生との調整により、日程が前後することがある)	(学修内容) 1回生を対象に、秋学期フィールドワークについてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: パワーポイントを作成し、プレゼンの準備をする。 事後: 募集要項にのっとり、参加者の調整を行う。
第13回	全体: 中間発表(日程が変更される可能性有)	(学修内容) それぞれの研究テーマの進捗状況について、レジュメを作成して発表し、共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 中間発表時の配布資料を作成する。
第14回	各ゼミ: 草稿執筆・創作の準備(個別面談)	(学修内容) 草稿執筆・創作に向けて、今後の予定を立て準備を始める(個別面談)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 草稿執筆・創作について復習する。
第15回	フィールドワーク企画5: 各ゼミでプレゼンテーションの振り返り まとめ	(学修内容) プレゼンテーションと春学期の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: レポートをまとめる。

授 業 名	創作表現演習				開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS2127	
英 文 名	Senior Seminar II				開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修		
担 当 者	松尾 章子・新矢 昌昭・工藤 美和子・堀出 雅人・ 伊藤 茂樹				対 象 学 生	総合文化2回生					
授業の概要	創作表現演習Iに引き続き、課題発見を通して自らの学修を完成させる。主体的、継続的に探究しようとする意欲をもって、多面的、論理的に考えた成果を、適切な表現方法を用いて発表する。 創作表現演習Iで企画したフィールドワークを実施する。										
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 中間発表全体会で、研究テーマのポイントを踏まえてプレゼンすることができる。 2) 各自の研究テーマを、レポート12,000字又は創作物とレポート5,000字にまとめることができる。 3) ゼミ生と協働して、企画通りにフィールドワークを実施することができる。										
学位授与の 方針との関連		知識・理解					汎用的技能				
		態度・志向性					総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技			
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()					
テ キ ス ト	なし										
参 考 書	適宜、授業中に指示します。										
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート・制作物はコメントを付して返却します。										
留 意 事 項	中間発表は、必ず一人一度は行います。										
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。										
実践的教育											

授 業 名	創作表現演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	全体：レポートの書き方確認	(学修内容) レポートの書き方(章立て、コピペ、引用・参考文献など)について確認する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後：授業のまとめをする。
第2回	各ゼミ：中間発表会の準備1 目的	(学修内容) 中間発表会の準備をする。発表内容について個別にアドバイスする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後：授業のまとめをする。
第3回	各ゼミ：中間発表会の準備2 方法	(学修内容) 中間発表会の準備をする。発表内容について個別にアドバイスする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前事後：発表の整理、準備を行う。
第4回	各ゼミ：中間発表会の準備3 考察	(学修内容) 中間発表会のパワポ・レジメを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後：パワポ・レジメを確認し、発表の練習を行う。
第5回	各ゼミ：フィールドワーク実施(各ゼミの設定日に実施)	(学修内容) 1回生を対象にフィールドワークを実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：フィールドワーク内容・注意点・役割分担を確認する。 事後：実施後の気づきを書き留める。
第6回	全体：中間発表会1	(学修内容) 中間発表会第1回目を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：担当教員にパワポ・レジメを提出する。 事後：アドバイスを書き留めて、考察する。
第7回	全体：中間発表会2	(学修内容) 中間発表会第2回目を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：担当教員にパワポ・レジメを提出する。 事後：アドバイスを書き留めて、考察する。
第8回	各ゼミ：レポート構成の再確認	(学修内容) 研究レポート内容の再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前事後：研究レポート発表の事後指導を受ける。
第9回	各ゼミ：草稿作成1 序論・本論・結論の3部構成を知る	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前事後：草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。
第10回	各ゼミ：草稿作成2 序論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前事後：草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。
第11回	各ゼミ：草稿作成3 本論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前事後：草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。
第12回	各ゼミ：草稿作成4 本論を書く(続き)	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前事後：草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。
第13回	各ゼミ：草稿作成5 結論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前事後：草稿を作成する。担当教員に進捗状況を報告し指導を受ける。
第14回	各ゼミ：提出準備	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後：提出前の点検作業を行う。
第15回	全体：レポート提出前の点検	(学修内容) 最終的な確認と点検を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後：内容、誤字脱字等の最終確認を行う。

授業名	情報ビジネス演習c～g			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1106
英文名	Information Business Practice			開講時期	春・秋学期		必修選択	必修	
担当者	猿渡 綾子・佐藤 愛・谷口 永里子			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	保育者のためのパソコン講座 阿部正平 萌文書林								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	・情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードが分かる状態で授業に参加してください。 ・2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。 容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 ・毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 【谷口】授業の前後時間で対応します。 【佐藤・猿渡】研究室前にも掲示します。								
実践的教育									

授業名	情報ビジネス演習c～g	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明, 情報処理室の使用手法, Gメールの送受信 アカウントの追加, 情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバス、教科書P31～49、373～382、392～395、入学時に配布されたポータルサイトの冊子を読み持参 事後: メールを送信
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意, Wordの開始、保存、終了 コピー&貼り付け, ページ設定, 書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: USBメモリを購入し持参する, 教科書P132～140、153、154を読む 事後: 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をClassroomから提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換, ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P137～147、156～160を読む 事後: 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をClassroomから提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入, テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P181～189を読む 事後: 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をClassroomから提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P168～181を読む 事後: 第5回課題 (Word・表) を印刷し提出。文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P129～200を読んで、第2～5回目までの授業を復習する 事後: 第6回課題 (Word・レジメ) をClassroomから提出
第7回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更, スライドマスターの編集, 箇条書き インデント、Tabキーの使い方, 画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P332～344を読む 事後: 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をClassroomから提出
第8回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成, ノートの記入, 印刷設定 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P328～360を読む 事後: 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第9回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 次回プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P328～360を読んで、第12～13回の復習をし、発表テーマを考えてくる 事後: 発表用スライドを完成させ、Classroomから提出
第10回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 発表用原稿を作成する 事後: プレゼンテーションの振り返りを行う
第11回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明, データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P216～251を読む 事後: 第11回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をClassroomから提出
第12回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P236～240を読む 事後: 第12回課題 (Excel・関数を使用した計算) をClassroomから提出
第13回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 棒、折線、円、複合などのグラフ, 印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P241～266を読む 事後: 第13回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第14回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書P244～248を復習し、レポート案を作成してくる 事後: 選んだ統計データの分析を行う
第15回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 選んだ統計データの分析とレポート案の作成 事後: 第14、15回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をClassroomから提出

授 業 名	キャリアデザインa			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CS1105
英 文 名	Career Design			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>キャリアデザインとは、「どのような職業につきたいのか」「どのような働き方や家庭生活を送りたいか」といった人生の理想を描き、理想の実現に向けた計画のことである。この講義では、キャリアとは何かという基礎を学び、グループワーク、グループアクティビティなどを通して自らのキャリアを描いていく。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 自らのキャリアやキャリア・デザインについて具体的にできる 2) 進路実現に向けた計画性を養う 3) 自己理解を確立する</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布								
参 考 書	授業中に適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	グループワーク、グループアクティビティ、発表などへのコメントを加える								
留 意 事 項	インターンシップを受講する学生は、履修することが望ましい。キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に提示する								
実践的教育									

授業名	キャリアデザインa	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	キャリアデザインとは何か	(学修内容) キャリアの意味 (事前事後学修課題の内容) (30分) キャリアの意味を自身で書いておく(前回にプリント配布)
第3回	外部講師による講義 その1	(学修内容) 働くとは (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に内容を提示するので、質問を考えてくること
第4回	会社見学	(学修内容) 会社の見学、従業員による説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) 当該会社の概要を理解しておく
第5回	自己理解	(学修内容) 自己理解の重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己紹介をまとめておく
第6回	自己理解の実践	(学修内容) 自己紹介の発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己の気づきをまとめる
第7回	自己理解の振り返り	(学修内容) 自己をみつめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己紹介文の提出
第8回	自己理解とコミュニケーション	(学修内容) グループワークを通じた自己理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題について予め考えておく
第9回	外部講師による講義 その2	(学修内容) 社会人力 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に内容を提示するので、質問を考えてくること
第10回	業界研究	(学修内容) 業界とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のある業界を調べておく
第11回	企業研究	(学修内容) 企業とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のある企業を調べておく
第12回	業界、企業研究発表	(学修内容) 発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のある業界、企業についてのレジュメ作成
第13回	グループアクティビティ その1	(学修内容) グループによる課題解決(集団の意思決定) (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身で予め課題についてまとめておく
第14回	グループアクティビティ その2	(学修内容) グループによる課題解決(商品開発) (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身で予め課題についてまとめておく
第15回	キャリアデザインの発表	(学修内容) キャリアデザインの発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自らのキャリアデザインのレジュメ

授業名	キャリアデザインb・c			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1105
英文名	Career Design			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>キャリアとは、その語源をたどれば「人生」という意味をもつ。一回生のみなさんにとっては入学後間もない段階で次の進路を考えることに違和感を感じるかもしれない。しかし、この2年間の学びをより充実したものにするためには、これからの自分がどうありたいのか、目標や方向性を定めることが短大での学びの目的となる。この授業を通して、2年後、特に就職を意識した進路選択を主な前提とし、就職活動に関する基礎的な知識、また職場で求められる力、さらにハローワークなど就業に関する行政支援などへの理解を深めることをめざす。15回を通して、今後の生涯（人生）計画の基本図を作れるように、受講生一人ひとりが課題に取り組む構成となっている。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。 2) 進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。 3) 課題解決に向けて自主的に、また、仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して臨むことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	適宜ワークシートや資料を配布します								
参考書	授業中に適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求める課題に対して、授業中での講評、あるいは、適宜、コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。プレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に全体やグループへコメントを返します。								
留意事項	<p>傾聴は職場や生活なかで人と人との信頼関係を生む大切な行為です。 授業担当者の説明をよく聴く、また受講生同士の話し合いや発表の時にも相手のことを聴くことを守りましょう。 講義は授業担当者が一方的に話すのではなく受講生へ問いかけながら進めます。挙手や発言を求められた際は積極的に意見を出して下さい。あなたの授業への関わり方がこの授業での学びをさらに高めます。 最後に、提出物は期日までに提出することも大切ですので、15回を通して忘れずに提出できるように頑張りましょう。</p>								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する								
実践的教育									

授 業 名		キャリアデザインb・c
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス キャリアとは デザインとは	(学修内容) 15回の授業の流れを把握し自身の学修計画を立てることができる 「キャリアデザイン」の意味を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: シラバスを読んでくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第2回	就職活動(シューカツ)の現在	(学修内容) 就職活動に必要な知識を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 就職活動(シューカツ)について話を聴いたり、ネットで調べる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第3回	進路実現に向けた業界研究	(学修内容) インターネットを利用して様々な業種や職場を調べることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 保育所や幼稚園などで働くひとの役割・役職を書き出す 事後: 授業の感想をまとめ提出
第4回	業界研究の結果の共有	(学修内容) 自ら調べた業種や職場のことを他者と共有し情報交換することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 自分が調べた業界研究の結果をまとめ提出する 事後: 授業の感想をまとめ提出
第5回	社会で求められる汎用的な力	(学修内容) 社会人基礎力など雇用可能性を高める力を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: どんな職場でも求められる力を考えてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第6回	これまでの自分を振り返る	(学修内容) 卒業後の進路実現に向けてこれまでの自分のことを説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 過去をふりかえり失敗からの成功体験をまとめる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第7回	いまの自分を捉える	(学修内容) 卒業後の進路実現に向けていまの自分の思いや強みを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 自分の強みをまとめる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第8回	これからの自分を想像する	(学修内容) 卒業後の進路実現に向けてこれからどんな自分になりたいか説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 卒業後の人生設計を考える 事後: 授業の感想をまとめ提出
第9回	自己PRの作成	(学修内容) 過去・現在・未来の自分を他者に伝える資料を作成できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 授業で取り上げた自分の過去、現在、未来を復習する 事後: 授業の感想をまとめ提出
第10回	作成した自己PRの発表	(学修内容) 作成した自己PR文をもとにプレゼンができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: プレゼン用の資料を作成する 事後: 授業の感想をまとめ提出
第11回	職場で用いる言葉遣い	(学修内容) 敬語、尊敬語、謙譲語の使い分けを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 敬語、尊敬語、謙譲語の使い分けについて調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第12回	採用試験に向けた準備	(学修内容) 採用試験の面接や筆記試験などに向けた準備を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 採用試験の種類について調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第13回	様々な働き方	(学修内容) 正規雇用・非正規雇用、パート・アルバイト、嘱託など雇用の形態を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 雇用形態のメリットとデメリットについて調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第14回	ハローワークなど就業に関する行政支援	(学修内容) 就業に関する行政などの支援のあり方を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: ハローワークの機能について調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第15回	ワークライフバランス	(学修内容) 仕事と家庭の両立などQOLを高める制度や働き方について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: 「家事労働」について調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出

授業名	ビジネスマナー			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CS1113
英文名	Business Etiquette			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	市川 順子			対象学生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	<p>ビジネスマナーは、社会の常識やルールを学ぶことによって、相手の立場を考えて行動することを基本とします。本講義では働く場での人間関係や環境を知り、より良い人間関係を築くことに欠かすことのできないコミュニケーション能力の向上を目指します。また働く場にふさわしい社会人としての立ち居振る舞いについてはロールプレイを通して演習し実践力を身に付け、接客対応ができるまでの応用力を身に付けることを目標とします。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 社会人としてふさわしい立ち居振る舞いができる。 2) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。 3) 働く場のルールや環境を知り、「働く」ことに対する意識と心構えができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	青木テル著 『ビジネスマナー』 早稲田教育出版								
参考書	講義中に指示します								
課題に対するフィードバックの方法	授業内小テストを回収後、解答解説を行います。提出された課題についてはコメントを付けて返却します。実技についてはその都度コメントします。								
留意事項	授業で学修したことは、できる限り実践し、身につけるようにしてください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の業務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	ビジネスマナー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/働くことへの心構え	(学修内容) 授業計画について 学生と社会人の違いを知り働くことへの心構えについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業までにシラバスをよく読んで確認し、授業をイメージしておく
第2回	社会人としての立ち居振る舞いと基本のあいさつ	(学修内容) 社会人としての立ち居振る舞いを学ぶ 第一印象について考え、よい印象を与える自己紹介を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として感じのよいあいさつの仕方を身に付けるための練習を行う 自分から進んであいさつすることを実践する
第3回	社会人としての言葉遣い 1 敬語を知る	(学修内容) 敬語の種類と基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として基本的な敬語を覚えて可能な限り日常で使う
第4回	社会人としての言葉遣い 2 接遇用語をつかう	(学修内容) 敬語と接遇用語を使い、人間関係を円滑にするコミュニケーション力を身に付ける (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として基本的な接遇用語を覚えて可能な限り日常で使う
第5回	電話対応の基本と受け方	(学修内容) 電話対応の基本を学び、感じのよい電話の受け方ができるようにロールプレイで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学んだ電話の受け方を友人や家族とロールプレイで練習し、可能な限り実践する
第6回	電話伝言メモ作成とかけ方	(学修内容) 伝言メモ作成のポイントを学ぶ 感じのよい電話のかけ方ができるようにロールプレイで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として感じのよい電話のかけ方を友人や家族とロールプレイで練習し、可能な限り実践する
第7回	さまざまなパターンの電話対応	(学修内容) さまざまなパターンの電話対応ができるようにロールプレイで練習する 伝言メモの作成を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として実習先やインターンシップ先に電話ができるように練習しておく
第8回	訪問のマナー	(学修内容) 他社を訪問する際の基本を学び、実習先などの訪問の準備を行う練習をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、訪問先で、感じのよい笑顔、あいさつ、立ち居振る舞いができるようにする
第9回	来客の対応の基本	(学修内容) 来客対応の基本を学び、受付・案内・名刺交換をペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 受付・案内・見送りの流れを復習し、ポイントを確認しておく 友人や家族と名刺交換の復習をしておく
第10回	冠婚葬祭と慶事	(学修内容) 社会人として必要な交際業務(慶事)について知り、対処ができるように学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 祝儀袋(水引の結び方・のし)について復習しておく
第11回	冠婚葬祭と弔事	(学修内容) 社会人として必要な交際業務(弔事)を知り、対処ができるように学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、弔事のマナーについての知識を確認しておく
第12回	贈答(中元・歳暮)と見舞いのマナー	(学修内容) 社会人として必要な贈答の知識と見舞いのマナーの基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 贈答の知識と見舞いのマナーについて復習しておく
第13回	ビジネス文書(社内文書)	(学修内容) 社会人として必要とされるビジネス文書の形式を知り作成できるように学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 社内文書のレイアウト、作成について復習しておく
第14回	ビジネス文書(社外文書)	(学修内容) 社会人として必要とされる社外文書の形式と返信ハガキの記入について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、例を参考にしながら簡単な社外文書が書けるようにしておく
第15回	封筒の宛て名書きと文書の取り扱い	(学修内容) 封筒の宛て名書きと文書の取り扱い等について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップ先や実習先へのお礼状を書けるようにしておく

授 業 名	社会人マナー			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	IC1403
英 文 名	Social Manners			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	市川 順子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>社会人としての心構え、知っておくべき常識とマナーについて学修します。社会常識を日常生活・仕事に関連させて考え、自らの行動・実践に応用することができることを目標としています。具体的には社会人としての立ち居振る舞いや言葉遣いの演習を通して、より良い人間関係の構築に欠かせないコミュニケーション能力の向上を目指します。また自己表現の重要性を認識することで、就職活動等の面接や実社会で必要となる「自分で考えること」や「伝えること」も含めて社会人としての基礎的マナーをグループワークやロールプレイを行いながら学んでいきます。</p>								
学 修 成 果 達 到 目 標	<p>1) 社会人としての常識を知り、自らの言動において実践し応用できる。 2) マナーや言葉遣いの演習を通して適切な言葉遣いで自己表現ができる。 3) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	社会稲本恵子編著 『大学生のキャリアデザイントレーニング』 晃洋書房								
参 考 書	講義中に指示します								
課題に対するフィードバックの方法	授業内小テストを回収後、解答解説を行います。提出された課題についてはコメントを付けて返却します。実技についてはその都度コメントします。								
留 意 事 項	授業で学修したことは、できる限り実践し、身につけるようにしてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の業務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	社会人マナー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会人とは	(学修内容) 授業計画について 「社会人とは」を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと
第2回	社会人基礎力	(学修内容) 社会人基礎力を身に付けるためにどのようにすればよいか考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1回目の復習をし、社会人基礎力を身に付けるためにどのようにすればよいか自分自身で考えておく
第3回	第一印象の大切さと社会人に必要な立ち居振る舞い	(学修内容) 第一印象の重要性和構成要素を知りそれぞれのポイントを学ぶ 社会人として必要な立ち居振る舞いを学び、ロールプレイを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 第一印象をよくするためにはどうすればいいのか確認しておく 学んだ立ち居振る舞いが身につくまで練習しておく
第4回	社会人として必要な言葉遣い 1 敬語の基本	(学修内容) 敬語の種類と基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、基本的な敬語を覚える
第5回	社会人として必要な言葉遣い 2 クッション言葉と改まった表現	(学修内容) クッション言葉と改まった表現を学び、それらを使ってグループで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として学んだ敬語の使い分けを友人や家族とロールプレイで練習し、可能な限り実践する
第6回	社会人として必要な言葉遣い 3 いろいろな場面での言葉遣い	(学修内容) 社会でのいろいろな場面での言葉遣いを考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだことを学校など色々な場面で可能な限り実践する
第7回	コミュニケーション 1 話し方・聴き方	(学修内容) 人間関係を円滑にするための話し方と聴き方を学び、ペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだことを学校など色々な場面で可能な限り実践する
第8回	コミュニケーション 2 目的をもって話す	(学修内容) 色々な場面で目的を持って話す練習をする 自己アピールを考えグループ内で発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、感じのよい自己アピールが出来るように練習する
第9回	電話対応 1 電話の特徴と電話対応の基本	(学修内容) 電話対応の基本を学び、電話をかける練習をペアワークで行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、基本的なかけ方を友人や家族とロールプレイで練習し、可能な限り実践する
第10回	電話対応 2 電話の受け方と伝言メモ作成	(学修内容) 電話を受ける際の注意点と基本的な電話用語を学び、ペアワークを行う 伝言メモ作成のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、電話対応を友人や家族とロールプレイで練習し、可能な限り実践する
第11回	訪問のマナー 1 基本的な訪問のマナー	(学修内容) 基本的な訪問時のマナーや上座・下座、名刺の受け渡しについて学び、ペアワークを行う (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として、学んだことを実践できるようにしておく
第12回	訪問のマナー 2 来客対応の基本	(学修内容) 来客対応(受付・案内・見送り等)について学び、グループワークを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだことを実践できるようにしておく
第13回	文書作成 1 ビジネス文書の基本	(学修内容) ビジネス文書の種類と書き方について学ぶ 社内文書を作成できるようにレイアウトやポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(90分) 社内文書を作成できるように学んだことを復習しておく
第14回	文書作成 2 手紙を書くための基本	(学修内容) 手紙の構成と手紙用語、封筒の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として、実習先や企業などにお礼状が書けるようにする
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として、これまで学習したことを自分自身で振り返る

授業名	インターンシップ			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CS1115
英文名	Internship			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	新矢 昌昭			対象学生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	春季休暇中に行うインターンシップを通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。								
学修成果到達目標	1) 自身の職業適性を把握することができる 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3) 社会人を養うことができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。プリントを配布する								
参考書	講義中に適宜指示する								
課題に対するフィードバックの方法	グループワークや発表に関して、コメントを加える								
留意事項	春学期と同じく、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある								
オフィスアワー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期インターンシップの報告書を提出
第2回	インターンシップ報告会1	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第3回	インターンシップ報告会2	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第4回	インターンシップ報告会3	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第5回	希望就職先の事前研究	(学修内容) 企業研究について (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の情報、資料収集
第6回	希望就職先の研究発表	(学修内容) 企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の研究成果レジュメ
第7回	会社見学事前学習	(学修内容) 会社見学先について (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく
第8回	会社見学の実施	(学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (30分) 会社見学先での意見や質問を考えておく
第9回	会社見学事後学習	(学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第10回	外部講師による講演1回目	(学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく
第11回	外部講師による講演2回目	(学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく
第12回	学外授業	(学修内容) 大阪企業家ミュージアム見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考えておく
第13回	インターンシップの準備	(学修内容) インターンシップ先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要書類を作成しておく
第14回	インターンシップ事前学習	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第15回	インターンシップ事前説明会	(学修内容) 職業体験の心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく

授 業 名	インターンシップ			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS1107
英 文 名	Internship			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	夏季休暇中に行うインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。主としてインターンシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2) 企業研究、自己分析をすることができる 3) インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワーク、発表へのコメントを加える								
留 意 事 項	インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加する可能性がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく
第2回	グループワークの実践	(学修内容)課題に対するグループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく
第3回	グループワークの実践と復習	(学修内容)課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (事前事後学修課題の内容)(60分) 先週で学んだ自身の考え、反省点をまとめておく
第4回	会社見学の準備	(学修内容)会社見学先の企業研究発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく
第5回	会社見学の実施	(学修内容)会社見学 (事前事後学修課題の内容)(60分) 会社見学先での意見や質問を考えておく
第6回	会社見学のまとめ	(学修内容)会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第7回	外部講師による講義1回目	(学修内容)働くこととは何か (事前事後学修課題の内容)(60分) 自身にとって働くこととは何かを考えておく
第8回	外部講師による講義2回目	(学修内容)近年の就職活動についての動向 (事前事後学修課題の内容)(60分) 就職活動に対する疑問を考えておく
第9回	外部講師による講義3回目	(学修内容)インターンは何故するのか (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンをなぜするのかを考えておく
第10回	就業体験先の確認	(学修内容)就業体験先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンに関する必要書類の作成
第11回	インターンシップの準備	(学修内容)インターンシップ先企業分析 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップ先企業についての資料、情報収集(
第12回	インターンシップの事前学習1回目	(学修内容)インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第13回	インターンシップの事前学習2回目	(学修内容)インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第14回	インターンシップ事前説明会	(学修内容)インターンシップの心構えと準備 (事前事後学修課題の内容)(60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく
第15回	インターンシップに向けて	(学修内容)インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターンシップに向けての自身の抱負を考えておく

授 業 名	プレゼンテーション演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1406
英 文 名	Presentation Practice			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>複雑化する社会の中で、職場や地域社会の場において、さまざまな価値観をもった他者と協働するにあたり、自らの意見やアイデアを相手にわかりやすく伝えるための力（「プレゼンテーション力」）が今後より一層求められるでしょう。国際的な競争に生き残るための技術革新や新商品の開発、我が国が抱える少子高齢、人口減少をはじめさまざまな社会的課題など、私たち一人ひとりから生み出されるアイデアや解決方法がいま必要とされています。その解決法を他者と共有し、共感を生み出したり、アイデアとアイデアをつなげ創造するためのツールとして、プレゼンテーションの場が会社や地域社会で設けられています。そこで、この授業では、プレゼンテーションの作成を助けるMicrosoft社のPowerPointの基本的な操作方法の習得とともに、オリジナルのスライド資料作りおよびプレゼンを通して、相手にわかりやすく伝え共感を生み出すための力を伸ばすことを目的としています。そのため、授業中に、教室のPCを活用した作品作り、クリッカーをはじめ学内ネットワークを活用した作品に対する学生と教員とのやりとり、プレゼンテーションとその評価などアクティブ・ラーニングを実践します。</p>								
学 修 成 果 対 象 業 務	<p>(1)職場や地域を想定し、社会人として自らの考えを相手にわかりやすく伝えることができる (2)PowerPointの基本的な操作方法を習得できる (3)課題に対して自ら工夫して作品づくりに取り掛かることができる (4)他者の意見やアイデアを参考に、自らの作品のより善く修正することができる</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	noa出版 『ドリルマスター PowerPoint 2016 & プレゼンテーション』 noa出版 2016年								
参 考 書	授業時に適宜指示します								
課題に対する フィードバック の方法	授業終了時にコメントカードを配布し、次回の授業時冒頭に提出をもとめる場合は、その授業時間中での講評や後日各自にコメントをつけたカードを返却します。最終課題として、各自、文化をテーマにスライド資料を作成し、プレゼンを実施しますが、その計画、途中経過、プレゼンといった区切り区切りで資料などをチェックし、より内容が充実するように適宜助言をします。								
留 意 事 項	パソコンを操作する時間が増えます。人前での発表を課題とします。特別な配慮が必要がある場合は事前に相談してください。 基本的にテキストに沿って学修を行うため、必ずテキストを購入することをお願いします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、E-Learninシステムの設計および運用に携わる								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本授業のねらいと流れを説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 授業の感想をコメントカードにまとめ次回提出	
第2回	プレゼンテーションの基本を学ぶ	(学修内容) 自らのプレゼンテーション能力を磨く必要性を説明できる(テキストの範囲:STEP1) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP1を読んでくる 事後 ネットや雑誌などでビジネスの世界等でプレゼンに関する記事を調べる	
第3回	プレゼンテーションの達人たち/PowerPointの立ち上げ	(学修内容) 【ICT活用】内容 人を惹きつけるプレゼンの達人のプレゼンの特徴を説明できる, PowerPointの立ち上げ方法を理解し, 操作できる. (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP2を読んでくる 事後 授業の感想を配布するコメントカードにまとめ次回提出	
第4回	PowerPointを活用した資料作成	(学修内容) 資料の作成過程とアウトラインの作成方法を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP3を読んでくる 事後 「良い」プレゼン資料のポイントをコメントカードにまとめ次回提出	
第5回	プレゼンテーションの作成	(学修内容) 状況に応じたスライドテーマの選択しスライド作成の準備ができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP4を読んでくる 事後 日本(京都)文化・国際文化・現代文化で調べたい文化を次回まで決める	
第6回	プレゼンテーションを編集	(学修内容) スライド資料の編集やヘッダーとフッターを操作できる 調べたい文化についてインターネット等で情報を獲得できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP5を読んでくる 事後 受講生に紹介した文化のテーマを決める	
第7回	特殊な文字やイラストを挿入	(学修内容) ワードアートと画像の挿入方法を理解し操作できる 他の受講生に紹介した文化の材料を整理することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP6を読んでくる 事後 発表用スライド資料の構成を考える	
第8回	表やグラフを挿入	(学修内容) 説得力を高めるプレゼン作りのため, データをExcelでグラフ化したものを貼り付けられる. 情報を引用する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP7を読んでくる 事後 発表用スライド資料のテーマに沿った統計データを検索する	
第9回	図形の挿入	(学修内容) PowerPointの機能としてSmartArtや図形・表をスライドに挿入することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP8を読んでくる 事後 発表スライド資料にも図形や表を挿入するため, その内容を検討する	
第10回	アニメーション効果	(学修内容) プレゼンの効果をより高めるアニメーション機能を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP9を読んでくる 事後 発表スライド資料を作成しはじめる	
第11回	発表準備	(学修内容) プレゼンを行い際に必要な準備物を理解し用意することができる(パソコンとプロジェクターの接続方法や手元資料の印刷方法等) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 STEP10を読む 事後 発表スライドの途中経過を報告できるように準備する	
第12回	プレゼンする時の注意事項	(学修内容) プレゼンを行い際の服装や話し方、質疑応答の仕方など基本事項を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 STEP13を読む 事後 発表スライドの完成・提出にむけて準備を進める	
第13回	プレゼンの成果発表	(学修内容) 【プレゼンテーション】自らが取り上げたテーマに沿ってプレゼンテーションを行い質疑応答ができる(一人5分程度) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表用プレゼンを完成させ当日までに担当教員にデータを提出 事後 プレゼンを終えた反省点をコメントカードにまとめ次回に提出	
第14回	プレゼンの反省とスライド資料の改善	(学修内容) 【ICT活用】発表会の結果を受けて、他者の意見を参考にスライド資料を修正することができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストSTEP11,STEP12を読む 事後 修正したスライド資料を期日までに教員にデータで提出	
第15回	学修成果のふりかえり	(学修内容) プレゼンの達人といまの自分のプレゼン力と比較し、今後、どういった力をつける必要があるか分析し、授業後の学びにつなげることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 これまでの授業をふりかえった感想をコメントカードにまとめ提出 事後 最終レポートに向けて教員の他の受講生のコメントをまとめる	

授 業 名	ビジネス文書表現			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1114
英 文 名	Business Writing			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>ビジネスの現場で用いる文書は、特定の相手に対して、必要な事項を過不足なく、誤解の生じないように伝達することを目的としたものです。その目的にかなう文書を作成するためには、伝えるべき内容にふさわしい形式で、受け手を明確に意識し、簡潔に表現することが必要です。この授業では、ビジネスの現場にふさわしい形式（フォーマット）と言語表現のポイントを説明した上で、実際に文書を作成することで、その体得を図ります。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ビジネスで用いられる各種の書式を目的に応じて使い分けができる。 2) 目的に適う簡潔な文章表現ができる。 3) 敬語を中心とした待遇表現が適切に使い分けられる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリントを配布します。（電子媒体による提示も含まれます）								
参 考 書	キャリアハンドブック 他、授業中適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、学生相互の批評をするとともに、随時コメントを付します。								
留 意 事 項	<p>授業時に作成する文書は、学生相互の添削の対象とします。 授業の進行等の事情に応じて各回の内容を変更することがあります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。 国語辞典あるいはそれに類するもの（スマホのアプリ等）を持参してください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	ビジネス文書表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ビジネス文書の文体について	(学修内容) 授業の運営方針の確認 ビジネスで用いる文書の特徴についての解説および作文 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。
第2回	報告文の基本 いわゆる5W1Hについて	(学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評 批評と説明を受けての作文 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、添削された作文を書き直しておく。
第3回	前回課題の講評と相互批評	(学修内容) 前回の課題を講評し、また学生相互による批評を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作文とそれに対する批評への自分なりに意見(同意・反論等)をメモしておく。
第4回	前回授業での批評を踏まえての再作文	(学修内容) 前回作成文書を、相互添削等の作業を経て完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した文書を推敲し、書き直す。
第5回	報告文の基本についての振り返り	(学修内容) 完成作として提出された作文の講評を行い、より読みやすい文書の作成を目指す。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、類似テーマによる作文を各自が実践する。
第6回	敬語の基本と練習	(学修内容) 日本語の待遇表現のシステムを学び、基本的な用語を身につける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、日本語の敬語について振り返り、疑問に思ふ点をメモしておく。
第7回	敬語の応用練習	(学修内容) 前回の授業で得た知識を元に、ロールプレイング等の応用練習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業中の練習課題を振り返り、記憶する。
第8回	書簡文の基本	(学修内容) 縦書き書簡文の基本的な形式を、歴史的経緯を含めて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、縦書き書簡文の書き方について自分なりに調べて要点をメモしておく。
第9回	書簡文の実際	(学修内容) 様々な書簡文の例を学び、作成練習をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した書簡文の修正をしておく。
第10回	書簡文の講評と相互批評	(学修内容) 前回作成した書簡文の相互批評および講評を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、講評を受けた自分の書簡文を完成させる。
第11回	ビジネスレターの基本と作成 付、MSワードの基本操作の確認	(学修内容) ビジネスレターの基本的形式を解説し、作文する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、MSワードの操作を復習し、分からないことがあればメモをしておく。
第12回	ビジネスレターの講評と相互批評	(学修内容) 前回作成したものを講評し、相互批評する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作品を推敲し、完成させる。
第13回	電子メールの基本	(学修内容) 電子メールの基本的マナーと書式について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、社会人としてのマナーにかなったメールを送る。
第14回	電子メールの講評と相互批評	(学修内容) 前回作成した電子メールの講評および相互批評を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、再度作成した電子メールを送付する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と、それに対応する今後の学修を箇条書きでまとめておく。

授 業 名	情報文化と倫理			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2121
英 文 名	Information Culture and Ethics			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯川 宗紀			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>PC、ネット、スマホ等々が日常に欠かせなくなり、意識さえしなくなった世界、それはどのような世界で我々にどんな恩恵をもたらし、どのような不幸をもたらすのか。</p> <p>現代に至るまでのメディアの歴史、それによる社会変容、理論的研究を紹介し、現代における情報文化の問題点と倫理について資料・映像を使い、事例を交えながら考えていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1.メディアの変化を歴史的に学ぶことにより現状の情報文化を把握することができる。</p> <p>2.これまでのメディア研究から情報に対する倫理を理解することができる。</p> <p>3.現在のネット環境と自身との関わり方を考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配付する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートにコメントを付けて返却								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義前後に対応します								
実 践 的 教 育									

授 業 名		情報文化と倫理
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義計画 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	聞くことから観ること	(学修内容) 語りから文字への変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第3回	書物	(学修内容) グーテンベルクの活版印について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第4回	書物が誕生する社会的背景	(学修内容) 社会状況と印刷技術について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第5回	書物がもたらした社会変容	(学修内容) 技術による社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第6回	出版メディアの誕生	(学修内容) マス・メディア、新聞の誕生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第7回	電子メディア・ラジオの誕生	(学修内容) ラジオと聴衆についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第8回	電子メディア・テレビの誕生	(学修内容) テレビと視聴者についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第9回	コンピューターの歴史	(学修内容) コンピューターの発展とその背景について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第10回	インターネットの歴史	(学修内容) インターネットの歴史、特に日本国内での歴史について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第11回	「検索」が世界を創る	(学修内容) 検索システムによる社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第12回	新しい『1984』 SNSで楽しみ進める監視・管理社会	(学修内容) SNSの問題点、倫理点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第13回	IoTとビッグデータ	(学修内容) 現状のIT技術の紹介と問題点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第14回	意識すら出来ないIT化社会での倫理	(学修内容) 現代社会でのITリテラシーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく

授業名	キャリア実践演習			開講学年	1・2回生	単位数	1単位	科目コード	CS2120
英文名	Career Practical Seminar I			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	新矢 昌昭			対象学生	総合文化1・2回生、幼児教育2回生				
授業の概要	この講義では、目前に迫った進路決定の実現について、計画的、綿密的に実践することに目的がある。就職活動本番に向けたグループディスカッションや模擬面接、発表、討議などを中心に行う。また、この講義を就職活動や進路活動と結びつけ、学生間で情報共有も図りたい。								
学修成果到達目標	1) 自己の進路実現と連携する 2) 就職活動について、明確な意識を持つ 3) 就職活動情報を共有する								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。プリントを配布								
参考書	講義中に適宜指摘する								
課題に対するフィードバックの方法	グループワークや発表などに関して、コメントを加える								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。インターンシップを受講していることが望ましい								
オフィスアワー	研究室の扉に提示する								
実践的教育									

授 業 名		キャリア実践演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)この講義ですること (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	就職活動に向けて	(学修内容)就職活動への諸注意 (事前事後学修課題の内容)(30分) 就職活動スケジュールの確認
第3回	コミュニケーション力を身につける	(学修内容)グループワークの実践 (事前事後学修課題の内容)(60分) ワークシートをまとめておく
第4回	面接練習	(学修内容)個人面接 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「面接に対する心構え」を読んでおく
第5回	集団面接練習	(学修内容)集団面接 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「面接に対する心構え」を読んでおく
第6回	グループディスカッション	(学修内容)就職活動を想定したグループディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) ワークシートをまとめておく
第7回	先輩からのアドバイス その1	(学修内容)先輩による就職活動体験の報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在の週就職活動の不安や悩みをまとめておく
第8回	先輩からのアドバイス その2	(学修内容)先輩による就職活動体験の報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在、就職活動の不安や悩みをまとめておく
第9回	外部講師による講義	(学修内容)今の就職活動と自己の将来 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講師に対する質問をまとめておく
第10回	企業関連施設訪問(ジョブパークなど)	(学修内容)事前の諸注意と企業紹介 (事前事後学修課題の内容)(30分) 施設先での質問を考えておく
第11回	学内企業説明会 1回目	(学修内容)学内企業説明会への参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) どのようなものであったのかをレポート
第12回	学内企業説明会 2回目	(学修内容)学内企業説明会への参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) どのようなものであったのかをレポート
第13回	就職活動報告 その1	(学修内容)現在の就職活動についての現状と報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現状の就職活動に関するレジユメの作成
第14回	就職活動報告 その2	(学修内容)現在の就職活動についての現状と報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現状の就職活動に関するレジユメの作成
第15回	就職活動報告 その3	(学修内容)現在の就職活動についての現状と報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現状の就職活動に関するレジユメの作成

授 業 名	キャリア実践演習			開 講 学 年	1・2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CS2128
英 文 名	Career Practical Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1・2回生、幼児教育2回生				
授業の概要	この講義では、来年から社会人になるための心構えや知識を涵養することに目的がある。特に、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である社会人基礎力を完成してもらいたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会人基礎力を完成する 2) 現代社会を把握する 3) 自己の将来設計を明確にする								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指摘する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表などに関して、コメントを加える								
留 意 事 項	キャリア実践演習を受講しておくこと。キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。インターンシップを受講していることが望ましい。大阪企業家ミュージアムは代替の場合がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	キャリア実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 講義の進め方と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバを読んでおく
第2回	現代社会と若者	(学修内容) わたしたちを取り巻く社会情勢 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	現代社会と経済	(学修内容) 経済の動き (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第4回	新聞を読む	(学修内容) 新聞の読み方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布新聞を読んでおく
第5回	新聞から見る現代 その1	(学修内容) 新聞記事を元に発表、討議 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞を用いたレジュメを作成
第6回	新聞から見る現代 その2	(学修内容) 新聞記事を元に発表、討議 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞を用いたレジュメを作成
第7回	大阪企業家ミュージアム見学(予定)	(学修内容) 大阪企業家ミュージアムの見学と職員による講義 (事前事後学修課題の内容) (30分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく
第8回	社会人力の復習	(学修内容) 社会人力とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会人力についての配布プリントを読んでおく
第9回	社会人力の確認	(学修内容) 社会人力ワーク作業 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自らの社会人力を配布プリントから確認しておく
第10回	社会人力の完成に向けて	(学修内容) 社会人力チャート記入 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自己の社会人力の弱点を認識しておく
第11回	社会人力の発表	(学修内容) 自己の社会人力についての発表と討議 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己の社会人力についてのレジュメ
第12回	社会人力グループワーク	(学修内容) グループワークを通して社会人力を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回発表したレジュメについて、修正、加筆したものを用意
第13回	下級生に向けてのアドバイス その1	(学修内容) 就職活動へのアドバイス (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動体験のレジュメを作成
第14回	下級生に向けてのアドバイス その2	(学修内容) 就職活動へのアドバイス (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動体験のレジュメを作成
第15回	下級生に向けてのアドバイス その3	(学修内容) 就職活動へのアドバイス (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動体験のレジュメを作成

授 業 名	ビジネス英語			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2409
英 文 名	Business English			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>ビジネスシーンで英語が使える人材の必要性がますます高まっている。ここでは、基本的なビジネスの場における英語表現を学修し、実際のビジネスシーンで活用できるようにする。また、ビジネス上重要な英語表現を反復し、ロールプレイングを行うことで、英語で会話することへの抵抗感をなくし、楽しみながら活きた英語表現の修得を目指す。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 英語で簡単な英語応対ができる。 2) プロトコルの基本的な考え方を理解している。 3) テキストに沿って、ビジネスEメールやビジネスレター、自身の英文履歴書を書くことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	芳野総子他著 『はじめてのビジネス・イングリッシュ』 三修社 1,800円+税								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、返却時に解答とコメントを付して返却します。								
留 意 事 項	<p>積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。 ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師</p>								

授 業 名	ビジネス英語	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Unit 1: 来客対応の基本	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 Unit 1の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(10分) 事後: Unit 1の英文を声に出して3回以上読む。
第2回	Unit 1: 来客対応の基本	(学修内容) Unit 1の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 1 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 1 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第3回	Unit 2: 約束のない客、見送り	(学修内容) Unit 2の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 2 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 2 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第4回	Unit 3: 電話対応の基本	(学修内容) Unit 3の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 3 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 3 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第5回	Unit 4: 問い合わせ、伝言	(学修内容) Unit 4の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 4 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 4 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第6回	Unit 5: プロトコルの原則、出迎え、送迎	(学修内容) Unit 5の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 5 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 5 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第7回	Unit 6: 車中での会話、工場訪問、夕食会	(学修内容) Unit 6の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 6 Exercisesを書いて提出する。 事後: 招待状と返信はがきを作成する。
第8回	Unit 7: 観光案内、見送り	(学修内容) Unit 7の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 7 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 7 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第9回	Unit 11: Eメールの構成	(学修内容) Unit 11の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 11 Exercisesを書いて提出する。 事後: 英文メールを書く。
第10回	Unit 12: サンプルEメール	(学修内容) Unit 12の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 12 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 12 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第11回	Unit 12: サンプルEメール(続き)	(学修内容) Unit 12の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)
第12回	Unit 13: ビジネス・レター	(学修内容) Unit 13の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: Unit 13 Exercisesを書いて提出する。 事後: p. 59 Exercise Bのレターを書く。
第13回	Unit 14: 英語による面接	(学修内容) Unit 14の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 14 Exercisesを書いて提出する。 事後: Unit 14 Exercisesを声に出して3回以上読む。
第14回	Unit 15: 英文履歴書の書き方	(学修内容) Unit 15の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前: Unit 15 Exercisesを書いて提出する。 事後: p. 67 Exercise Bのレジюмеを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容) 総復習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: レポート提出に向けて準備する。

授業名	子どもの人権			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1112
英文名	Children's Rights			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>人権は、歴史的にみればわかるように、固定的なものではない。人権の主張があり、それが支持を得て社会的に承認され、法的に認められること等を通して、人権として定着してくる。このように人権は人々の努力によって拡大、伸張するものであることを把握する。授業では、具体的にいくつかの問題を取りあげ、人権と人権問題、その改善と解決の方法を考えていく（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会における共生と多様性を把握することができる。 2) 「グローバル化」とともに少子高齢社会が進行している日本社会において、男女共同参画社会の実現についてどのような問題があるのかについて理解できる。 3) 「グローバル化」とともに人口減少が進行し労働力が弱体化していく日本社会において、女性の社会進出は重要なものとなる。女性労働において、どのような問題があるのかについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	授業時に資料を配布する								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	授業始め又終盤にて実施する								
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	子どもの人権	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要について説明する。人間について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定した予習・復習
第2回	人権問題の多様性	(学修内容)社会権・平等権・自由権について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定した予習・復習
第3回	グローバル化により生じている問題	(学修内容)尊厳・平等・自由が否定される事例について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定した予習・復習
第4回	外国人の問題	(学修内容)外国人との共生の問題について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 関連報道記事を準備する。
第5回	外国人の問題	(学修内容)自治体における外国人との共生に関する取り組みを理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 関連報道記事を準備する。
第6回	少子高齢化の問題	(学修内容)少子社会における子ども・家族の問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 関連報道記事を準備する。
第7回	性の問題	(学修内容)男女共同参画社会への道のりについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 関連報道記事を準備する。
第8回	男女の行動の違いについて --性差の刷り込みの影響	(学修内容)性差の刷り込みの影響について考察します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習。
第9回	男女の行動の違いについて --社会環境が性差を生む?	(学修内容)社会環境により性差を生む側面について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習
第10回	男女の行動の違いについて --女性は交渉を避ける傾向あり?	(学修内容)女性らしさというジェンダー規範の問題について考査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習。
第11回	性差を超えた取り組み	(学修内容)人との関わりかたの差について考察し、性差を超えた取り組みについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習。
第12回	女性労働の問題 --女性の社会進出の現状	(学修内容)国際比較をまじえて女性の社会進出の現状について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習。
第13回	女性労働の問題 --女性労働の壁について	(学修内容)女性労働の制度的な壁となっている問題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習。
第14回	女性労働の問題について --社会保障のありかた	(学修内容)女性労働における社会保障のありかたについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習。
第15回	まとめ	(学修内容)本講義のポイント整理。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 定期レポートにむけた質問事項。

授 業 名	現代子ども学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1103
英 文 名	Study of Modern Children			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	流石 智子・名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>幼児教育を学ぶにあたって「子ども」を理解することはとても重要なことである。とりわけ子どもの成長の理解は保育を行う上で、不可欠な学びの要素と言える。</p> <p>子どもには、成長発達する権利があり、どのような状況でも守られる権利がある。そのことは社会で理解されているのであるが、近年子どもに関係した問題や課題、理解が不十分であるためにおこる子どもの生活不安の問題が顕在化している。</p> <p>この授業では、子どもに関係するさまざまな事柄を理解するために、多面的な視点で学びを深める。また、グループに分かれて討議したり、自分の意見を相手に伝えることができよう、発表等をすることもある。また、子どもの「学び」と「成長」に焦点をあて、事例なども紹介しながら学びを深めていければと考えている。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1, 子どもとは、どのような存在かを理解できる。</p> <p>2, 生活をする子どもの姿を知り、子どもの成長発達について理解できる。</p> <p>3, 子どもの学びのプロセスについて理解できる。</p> <p>4, 子どもを取り巻く環境を理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	なし。適宜、資料を配付する。								
参 考 書	授業内で、提示する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートの返却時に、説明、解説をする。								
留 意 事 項	レポート課題の提出は4回あり。各担当者、2回の予定である。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示、演習室にも掲示あり。在室時、時間があれば対応する。								
実践的教育									

授業名	現代子ども学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもってなに	(学修内容) オリエンテーション 子どもの理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どもについて調べ、ノートに整理する。
第2回	健康と子ども	(学修内容) 健康ってどういうことかな。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「あなたは、健康ですか。」について、健康についてノートに整理する。
第3回	養育環境と子ども	(学修内容) 養育について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 養育について、ノートにまとめておく。
第4回	妊娠と出産と子ども	(学修内容) 妊娠・出産について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「妊娠・出産について」自分の考えをまとめる。
第5回	子どもの貧困・社会的排除	(学修内容) 現代の子どもの生活実態を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「子どもの貧困について」最近、気にかかることをノートにまとめる。
第6回	教育を受ける権利と子ども	(学修内容) 教育を受ける権利とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 教育を受ける権利について、ノートに整理する。
第7回	外国籍の子どもたち	(学修内容) 多文化教育・保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 外国籍の子どもは、どれくら日本にいるのか調べ、ノートに整理する。
第8回	子どもを取り巻く遊びなど	(学修内容) 今どき・・・の子どもについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子どものあそびについて調べる。ノートに整理する。
第9回	子どもの育ちと発達	(学修内容) 子どもが育つこと、発達する事とはどういうことかを理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 発達について調べてノートにまとめておく
第10回	認知能力と非認知能力	(学修内容) 子どもの学びの基本となる認知能力・非認知能力について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 認知能力と非認知能力について調べてノートにまとめておく。
第11回	子どもの学びと育ちの特性	(学修内容) 多様な体験から生み出される子どもの学びを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 体験学習について調べてノートにまとめておく。
第12回	子どもの学びを体験する	(学修内容) グループワークを通して学びを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: グループワークの方法について、まとめておく。
第13回	子どもの学びを支える大人の役割	(学修内容) 子どもを取り巻く大人が子どもの学びと育ちに与える影響と役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: ファシリテーションについて調べてノートにまとめておく。
第14回	学びと育ちを生み出す子どもの遊び	(学修内容) 子どもの多彩な学びを創り出す遊びにどのようなものがあるのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 子どもの遊びを調べてノートにまとめておく。
第15回	子どもの遊びを広げる児童文化財	(学修内容) 絵本や絵雑誌、童話や昔話など子どもの遊びを支える児童文化財について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 児童文化財にどのようなものがあるのか調べてノートにまとめておく。

授 業 名	子どもの理解と援助			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1111
英 文 名	Understanding and Supporting Children			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育において、ひとりひとりの発達を把握して実践を展開することの意義を理解し、具体的な保育場面からそのイメージを具体的にもつことを目的とする。授業においては、発達の状況を把握する意義を押さえた後、各年齢の発達の特徴を解説した後、その特徴があらわれている保育実践を紹介し、保育の展開を理解できるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生後6年間の子どもの発達を理解する。 2) 保育のなかでどのように子どもたちを援助しているかを理解する。 3) 集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 西川由紀子『かかわりあって育つ子どもたち』(かもがわ出版)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業への感想や質問について、翌週の授業冒頭で解説する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に伝える								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子どもの理解と援助	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの発達を学ぶ意義	(学修内容) 子どもを理解するために発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 1章を読んで、たいせつなポイントにラインを引いてくる
第2回	0歳児の発達	(学修内容) 0歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章、3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第3回	0歳児の保育の実際	(学修内容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第4回	1歳児の発達	(学修内容) 1歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第5回	1歳児の保育	(学修内容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第6回	2歳児の発達	(学修内容) 2歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第7回	2歳児の保育	(学修内容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第8回	3歳児の発達	(学修内容) 3歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第9回	3歳児の保育	(学修内容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第10回	4歳児の発達	(学修内容) 4歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第11回	4歳児の保育	(学修内容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでくる
第12回	5歳児の発達	(学修内容) 5歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第13回	5歳児の保育	(学修内容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第14回	気になる子への対応(乳児クラス)	(学修内容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章、5章、2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第15回	気になる子への対応(幼児クラス)	(学修内容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3, 4, 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる

授 業 名	ことばと表現			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS1104
英 文 名	Words and Expressions			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	この授業は、保育の学びの基盤となる、ことばと表現に関する知識や考え方を身につけることを目的としています。この目的を果たすために、ことばと思考の関係、社会人として求められるコミュニケーションの基本、保育の学びに必要な言葉など、様々な観点から講義形式の解説を行い、次いで、解説に基づいた、プレゼンテーションや作文等の作業を行います。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育の学びに必要な基本的用語を知り、今後の学修に活かすことができる。 1) 社会人として求められる的確な言語コミュニケーションができる。 2) 言葉を使うことの楽しさを伝えることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	プリントを配布します。								
参 考 書	谷田貝公昭『新版 保育用語事典』一芸社 2016年								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントとともに返却します。								
留 意 事 項	国語辞典、あるいはそれに類するもの(スマホのアプリ等)を持参してください。 授業の進行や受講生の興味・関心に応じて各回の内容を変更する可能性があります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	ことばと表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス / 人間にとっての言葉の意味	(学修内容) 授業の目的と運営方針の解説 言葉ともの捉え方の関係について (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。
第2回	保育に関わることば 一般的用語について	(学修内容) 保育現場で必要となる一般的な用語についての解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業中扱った言葉の意味・用法を再確認し、ノートを整 理しておく。
第3回	保育に関わることば 専門用語について	(学修内容) 保育と密接に関連する用語についての検討 (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習として、『保育用語事典』を通覧し、疑問に思った言葉をマーク しておく。
第4回	保育に関わることば 専門用語と概念について	(学修内容) 保育と密接に関連する用語とその背後にある概念についての検討 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『保育用語事典』の興味のある部分を熟読し、記憶して おく。
第5回	保育に求められるコミュニケーションスキル 書簡文の解説	(学修内容) 縦書き書簡文の形式と意味についての詳説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業内容を再確認し、ノートを整 理しておく。
第6回	保育に求められるコミュニケーションスキル 書簡文の完成	(学修内容) 書簡文の作成と相互添削による確認作業 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、書簡文の形式のバリエーションを把握し、メモを作成して おく。
第7回	保育に求められるコミュニケーションスキル 待遇表現(敬語)の解説	(学修内容) 日本語の敬語の仕組みとコミュニケーションにおける意味の概説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、敬語について様々な場面をシュミレートし、会話文を想定 しておく。
第8回	保育に求められるコミュニケーションスキル 待遇表現(敬語)の練習	(学修内容) 様々な場面を想定した敬語の練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業内容を再確認し、練習した会話を記憶する。
第9回	保育に求められるコミュニケーションスキル 目的に応じた文体	(学修内容) 日本語表現における文体についての概説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業の内容を再確認し、ノートを整 理しておく。
第10回	保育に求められるコミュニケーションスキル 出来事を伝える文章	(学修内容) 5W1Hを基本とした客観的文書についての解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、指定された課題で報告文を作成する。
第11回	保育に求められるコミュニケーションスキル 「連絡帳」について	(学修内容) 保育所の「連絡帳」の目的と適切な文体の解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、保育所の連絡帳について自分なりに調べ、メモをとって おく。
第12回	ことばともの見方の関係 リフレーミング	(学修内容) リフレーミングについての概説 「ネガボ」変換の実習(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分なりの問題意識で様々な事象をリフレーミングし、記 録をしておく。
第13回	ことばともの見方の関係 昔話の再定義	(学修内容) 有名な昔話を別視点から捉え直す(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、日本の昔話(任意のもの3つ以上)のあらすじを確認し、 箇条書きでまとめておく。
第14回	ことばともの見方の関係 弁証法的な思考	(学修内容) 弁証法の概説と実習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、指定されたテーマで簡単な論述文を作成する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りと自己評価 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題を箇条書きで書き出し、 それに対応する今後の学修について考えておく。

授 業 名	現代社会の教育問題			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2123
英 文 名	Educational Issues of Modern Society			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>少子高齢化がすすむ中で子どもを取り巻く生活環境及び教育環境は大きく変化している。このような現実を踏まえ、現代社会の教育の変化に気づきその問題について、その課題解決のために何が出来るかを考え、自分の考えを構築していくことを目指す。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1) 現在における教育（保育）問題を理解する。 (2) 現在における教育（保育）問題を理解し、多様な視点から検討できる。 (3) 現在における教育（保育）問題について自分の考えを述べるができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	月刊切り抜き速報「保育と幼児教育版」KKニホン・ミック								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたコメントシートについて授業内でコメントを返します。								
留 意 事 項	子どもや教育問題について書かれているインターネットのニュースや新聞などの情報を検索して情報収集しておきましょう。受講生の主体的な取り組みを活かしていきたいと思います。受講生の興味のある幼児教育・保育に関してのテーマを取り上げていきます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に伝えます。								
実践的教育									

授業名	現代社会の教育問題	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業概要の説明。現在社会の「教育問題」のキーワードから連想することばをリストアップする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「教育問題」のキーワードで思いつく言葉を考えてくる。
第2回	いじめ・不登校・引きこもり	(学修内容) いじめ・不登校・引きこもりについて話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いじめ・不登校・引きこもりに対する自分の考えをまとめてくる。
第3回	早期教育	(学修内容) 早期教育の実態を理解する。早期教育の是非を話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の習い事の体験を書き出し、現在の自分にとってどのような影響があるかをレポートにまとめて提出する。
第4回	習い事	(学修内容) 習い事の実態調査を行い、その結果について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 友達に習い事について聞き取り調査を行い、自分の考えをまとめてくる。
第5回	実体験不足	(学修内容) 幼稚園において実体験不足をどのように補うことができるのかを話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実体験不足のことばの意味を具体的に考えてくる。
第6回	メディアと幼児教育	(学修内容) テレビやビデオを活用した幼児教育について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習先でのビデオやテレビの活用事例を思い出しておく。
第7回	学びの貧困・教育の格差問題	(学修内容) 教育の格差問題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が現在までかかった教育資金を計算してくる。
第8回	幼児産業	(学修内容) 幼児産業と言われるキッズマーケットの高級化について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) スタジオアリス、キッズファッション、玩具などキッズマーケットについて考えてくる。
第9回	規範意識	(学修内容) 道徳教育が教科化された背景を理解する。幼児期に必要な道徳性や規範意識について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習での体験を踏まえて幼児期に必要な道徳・規範意識の内容をレポートにまとめて提出する。
第10回	家庭教育におけるしつけ ～鬼から電話～	(学修内容) 家庭教育で行うべきしつけについて話し合う。よいしつけ、悪いしつけはどのように異なるのかを考えてみる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ネットで「鬼から電話」を検索し内容を知る。
第11回	学校教育におけるしつけ ～納得できないルール～	(学修内容) 集団生活におけるしつけ教育の必要性について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習先の集団生活におけるルールを書き出してくる。
第12回	保護者支援 ～毒親～	(学修内容) 毒親について話し合う。従来の過保護・過干渉とはどのように違うのか、同じなのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 毒親の意味を調べてくる。
第13回	自己肯定感	(学修内容) 自己肯定感を育てる保育活動を考えてみよう。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分自身の自己肯定感についてチェック表を記入し振り返りを行う。
第14回	次世代の学校教育 ～これからの幼稚園～	(学修内容) グローバル化や人工知能を取り入れた教育方法について理解する。幼児教育において必要な視点を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 時代の進歩ともなう子どもを取り巻く課題について自分の考えをまとめてくる。
第15回	まとめ	(学修内容) 今後の教育の幼児教育の在り方と保育者としての視点を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内で取り上げた教育問題の以外の身近な教育問題のテーマを一つ考えてくる。

授業名	現代の児童文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CS2118
英文名	Contemporary Children's Culture			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	柿本 真代			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	児童文化財の役割や保育現場や家庭での活用を学ぶとともに、現代の児童文化についての調査および発表や児童文化財の制作および発表を通して具体的な指導場面を想定して保育を構想する技術・方法を身に付ける。								
学修成果到達目標	1)現代の子どもたちを取り巻くメディア環境の特徴について説明できる。 2)様々な児童文化財の特徴とその活用方法について説明できる。 3)児童文化財を制作し、それを活用した指導計画を立案・実践することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	授業中に適宜紹介します。								
参考書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	発表についてはその都度コメントをします。								
留意事項									
オフィスアワー	初回の授業の際に説明します。								
実践的教育									

授業名	現代の児童文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容や目的、内容に関するアンケート (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) シラバスを読んでおく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第2回	絵本の構造	(学修内容) 絵本の構造やことばと絵の関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料を予習してノートにまとめる (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第3回	図書館の活用	(学修内容) 様々な図書館の活用方法やデータベースの使い方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 自身のアクセスしやすい図書館について調べておく (事後) 近隣の図書館に訪れ資料を探す
第4回	現代のメディア環境と子ども	(学修内容) グループディスカッションを通して子どもとメディアの関係について考えをまとめる (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) データベース等の使い方を確認しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第5回	現代のメディア環境と子ども	(学修内容) 子どもとメディアの関係についてグループごとに発表をする (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) グループに分かれて発表の準備をする (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第6回	児童文化財と情報機器の活用	(学修内容) 保育現場での児童文化財と情報機器の活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第7回	手づくり絵本	(学修内容) 手づくり絵本の制作方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第8回	紙芝居	(学修内容) 紙芝居の実演と制作について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第9回	シアタースタイルの児童文化財	(学修内容) シアタースタイルの児童文化財の実演と制作について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第10回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第11回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第12回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第13回	文化財の発表	(学修内容) 制作した文化財を用いた指導計画を立案・発表する (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導計画を立案する (事後) コメントシートをもとに今後の課題をまとめる
第14回	文化財の発表	(学修内容) 制作した文化財を用いた指導計画を立案・発表する (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導計画を立案する (事後) コメントシートをもとに今後の課題をまとめる
第15回	まとめ	(学修内容) 文化財の制作・模擬保育についての講評を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の内容を復習しておく (事後) これまでの学びをもとにレポートにまとめる

授 業 名	子どもの遊びと生活			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CS2125
英 文 名	Children's Play and Living			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史・名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	「生活科」の設置目的や内容を理解する。幼児の遊びや生活経験をかきね身につけた学びを小学校以降の生活や学習の芽生えとして伸ばしていくことの重要性を学ぶ。幼児にふさわしい生活展開ができるよう、幼稚園教員としての専門性を高め、資質の向上を図る。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 生活科の目標や概要を理解し説明することができる。 2) 自然教材を用いた保育について、保育者としての視点を説明することができる。 3) 子どもの非認知的能力を育てるためのかわりについて説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	文部科学省編『幼稚園教育要領』平成29年3月、『小学校学習指導要領解説 総則編』平成29年7月 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』平成30年3月、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年3月）、 文部科学省編『小学校学習指導要領解説 生活編』平成29年とその他は適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については点検し、コメントをつけて返却する。または、授業内にてフィードバックを行う。								
留 意 事 項	出席を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	1回目の授業で発表する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長								

授 業 名		子ども遊びと生活
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「生活科」について理解する ～ 幼児教育と小学校教育の連続性～	(学修内容) 授業の進め方・流れ・評価の仕方を確認する。 「生活科」の目標・内容・改訂の要点などを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、内容をまとめておく。
第2回	幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解する	(学修内容) 幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解し、教材を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、内容をまとめておく。
第3回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊び名人になろう (1) 飛ぶおもちゃをつかって遊ぼう	(学修内容) 素材の特性を生かし、飛ぶおもちゃをつかって遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。
第4回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊び名人になろう (2) 飛ぶおもちゃをもっと工夫してつくる遊ぼう	(学修内容) 素材の特性を生かし、飛ぶおもちゃを工夫してつくる遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。
第5回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊び名人になろう (3) がりがりプロペラをつくる遊ぼう幼	(学修内容) 身近な材料を使って、がりがりプロペラをつくる遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。
第6回	幼児理解に基づいた教材づくり 季節と遊ぼう (1) 秋を見つけよう	(学修内容) グループに分かれて秋の自然を諸感覚で感じながら観察を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 秋の自然を観察し撮った写真や観察した資料をまとめておく。
第7回	幼児理解に基づいた教材づくり 秋と遊ぼう (2) 秋のもので森の生き物たちをつくる遊ぼう	(学修内容) 秋のものと身の回りにある材料を組み合わせる遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 秋のものと身の回りにある材料を準備し、つくるものを考えておく。
第8回	幼児理解に基づいた教材づくり 秋と遊ぼう (3) 見つけた秋を伝え合おう	(学修内容) 秋の自然観察をパワーポイントにまとめ、発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておく。
第9回	アプローチカリキュラムとは	(学修内容) 幼稚園から小学校へのつなぎを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) アプローチカリキュラムについて調べてまとめておく。
第10回	遊びを中心とした子どもの学びと育ち	(学修内容) 遊びを通して子どもの学びと育ちの意味を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 幼稚園や保育園の実習で体験した遊びを整理し子どもの学びを考える。
第11回	子どもの遊びを考えてみる	(学修内容) アプローチカリキュラムを意識して具体的な遊びを考え発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの様々な遊びを考えて整理しておく。
第12回	アプローチカリキュラムの企画(1)	(学修内容) グループごとにアプローチカリキュラムの企画を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 幼稚園児の園外保育について調べておく。
第13回	アプローチカリキュラムの企画(2)	(学修内容) 具体的に現場に出て企画したカリキュラムを実践してみる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 実践に必要な準備をしておく。
第14回	アプローチカリキュラムの企画(3)	(学修内容) カリキュラムの実践を振り返りパワーポイントにまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 実践した記録を整理しまとめておく。
第15回	アプローチカリキュラムの企画と評価	(学修内容) パワーポイントにまとめたカリキュラムを発表し全員で評価する (事前事後学修課題の内容)(60分) パワーポイント発表に必要な準備を進めておく

授 業 名	保幼小連携の実際			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CS2126
英 文 名	Actual Conditions of Nursery school-kindergarten-elementary school Cooperation			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	近年、小1プロブレムと呼ばれる現象が問題となっており、状況を改善するために教育現場では、様々な取り組みが行われています。さらに、幼稚園教育要領や小学校学習指導要領が改訂され、保幼小の円滑な接続が重要な課題として取り上げられました。本授業では、幼児教育から小学校教育へ移行する際、どのような問題が生じているのかを明らかにし、連携や接続の方法や工夫について考えていきます。この授業では、反転授業を行いますので、必ず調べ学習をする必要があります。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 幼小接続期における課題を調べ発表することができる。 2. 幼小連携の取り組内容を考え発表することができる。 3. 実習の取り組みと本授業を関連づけ考えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	随時、プリントを配布する								
参 考 書	文部科学省中央審議会答申 第1章「こどもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の方向性」 文部科学省中央審議会答申 「幼稚園と小学校教育との連携・接続について」								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で提出する制作物や感想文についてコメントをいれて返却する。								
留 意 事 項	自身の実習で出会った子どもや、保育所、幼稚園の取り組みをしっかりとまとめてもらっておくと具体的な事例が出しやすいです。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	初めの授業において提示する。 質問等があるときにはGメールを使って連絡してもらおうとよい。								
実践的教育									

授業名	保幼小連携の実際	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 幼小連携を学ぶ意義	(学修内容) 授業の進め方や評価の方法についてガイダンスを行う。この授業を行う意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読んでくること。 事後 実習で出会った「ちょっと気になる子」の保育実践をまとめる。
第2回	こども理解1 保育実習事例作成	(学修内容) 保育実習で出会った気になる子の保育実践を深めるため事例そのものを深める。図書館で行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実習で出会った「ちょっと気になる子」の保育実践をまとめる。 事後 調べた内容を追加しまとめてくる。
第3回	こども理解2 保育実践事例作成	(学修内容) 保育実習で出会った気になる子の保育実践を深めるため事例そのものを深め発表準備を行う。図書館で行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 調べた内容を追加しまとめてくる。 事後 発表準備を行う。
第4回	こども理解3 保育実践発表	(学修内容) 保育実習で出会った気になる子の保育実践を深めるため事例そのものを深め発表を行う。他の学生の発表を聞きディベートを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 発表準備を行う。 事後 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(修学前)
第5回	幼小連携の課題と政策の流れ1 修学前の課題	(学修内容) 幼稚園、保育所それぞれの教育目標、生活目標を理解し、グループワークを通して現在の課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(修学前) 事後 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(小学校)
第6回	幼小連携の課題と政策の流れ2 小学校の課題	(学修内容) 小学校の教育目標を理解し、グループワークを通して現在の課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 幼小連携で課題となっている事柄を調べてくる。(小学校) 事後 アプローチカリキュラムについて調べてくる。
第7回	アプローチカリキュラムの理解	(学修内容) アプローチカリキュラムとは何か、保育所や幼稚園で行われているアプローチカリキュラムを探る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 アプローチカリキュラムについて調べてくる。 事後 実習で出会ったアプローチカリキュラムをまとめてくる。
第8回	アプローチカリキュラムの実際	(学修内容) 保育所や幼稚園で行われているアプローチカリキュラムを具体的に知り、小学校の教科への接続について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実習で出会ったアプローチカリキュラムをまとめてくる。 事後 スタートカリキュラムとして考えられる教科と内容を考える
第9回	スタートカリキュラムの理解	(学修内容) スタートカリキュラムの意味を理解し、具体的な教科でどんなことが行われているのかを知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 スタートカリキュラムとして考えられる教科と内容を考える。 事後 今日の学びをまとめてくる。
第10回	スタートカリキュラムの実際	(学修内容) 実践者からの事例を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 先週の学びをまとめてくる。 事後 今日の話聞いて感想を書き提出する。
第11回	様々なアプローチカリキュラム1 アプローチカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 様々なカリキュラム実践を見つけてくる。 事後 発表原稿を完成に近づける。
第12回	様々なアプローチカリキュラム2 アプローチカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表原稿を完成に近づける。 事後 発表原稿を完成させる。
第13回	様々なスタートカリキュラム1 スタートカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 様々なカリキュラム実践を見つけてくる。 事後 発表原稿を完成に近づける。
第14回	様々なスタートカリキュラム2 スタートカリキュラムを構築する	(学修内容) 気になる子を対象とした、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムについてグループで具体的な内容を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 発表原稿を完成に近づける。 事後 発表原稿を完成させる。
第15回	具体的なカリキュラム作成 発表	(学修内容) 気になる子を対象にした幼稚園、保育所のカリキュラム及び小学校のカリキュラムと連携方法について発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 発表準備を行う。 事後 発表した内容をレポートにまとめる。

授 業 名	家庭と子育て支援			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2117
英 文 名	Family and Child Care Support			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	現在子育てに関する多くの問題があらわれており、家族のあり方や、私たちの家族に対するイメージが問題解決を阻む要因となる場合も少なくない。本講義では、家族は「近代社会」で新しく作られたものであるという認識をもち、子育てをするにあたって何が問題なのかということを広く社会環境の中で考え、それとともに何が家族の支援になるのかを国際比較も用いながら考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代家族の「見方」を習得することができる。 2) 現代家族がかかえる子育て問題を理解することができる。 3) 保育場面での親の問題を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	配布プリント使用								
参 考 書	『男の育児・女の育児』大和礼子ほか編著（昭和堂）、『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著（ミネルヴァ書房）ほか適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	リアクションペーパーに対してコメントする								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育									

授 業 名		家庭と子育て支援	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション：家族・家庭のイメージ	(学修内容)現在の私たちの家族・家庭のイメージはどのようなものか理解する(グループワーク、ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスをよみ、授業の全体像を把握しておく	
第2回	近代家族の誕生	(学修内容)近代化によって誕生した家族について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 近代化とは何か調べておく	
第3回	子育て家族のかたち	(学修内容)子育てをしている家族形態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 現在の家族形態はどのようになっているかを身近なところで調べておく	
第4回	育児ストレス	(学修内容)育児ストレスや育児不安について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 育児ストレスにはどのようなものがあるか考えておく	
第5回	母親の育児の実態	(学修内容)母親の育児の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく	
第6回	母親の育児ストレス：事例研究	(学修内容)母親の育児ストレスの実態を理解し、具体的な事例を映像を通してみる(ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく	
第7回	母親の育児ストレス：事例研究のまとめと課題	(学修内容)事例を分析し、課題を検討する(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく	
第8回	父親の育児の実態	(学修内容)父親の育児の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 父親の育児について情報を集めてくる	
第9回	父親の育児ストレス：事例研究	(学修内容)父親の育児ストレスについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく	
第10回	父親の育児ストレス：事例研究のまとめと課題	(学修内容)事例を分析し、課題を検討する(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく	
第11回	日本の育児支援制度	(学修内容)日本における育児支援制度について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 育児支援制度にはどのようなものがあるか調べておく	
第12回	北欧の育児支援制度	(学修内容)スウェーデンなどの子育て支援制度について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 外国の育児支援制度にはどのようなものがあるか調べておく	
第13回	北欧の育児支援の実態	(学修内容)スウェーデンの子育て支援の実態について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく	
第14回	日本の育児支援の課題	(学修内容)北欧と日本の子育て支援を比較し、日本の課題を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておく	
第15回	まとめ	(学修内容)春学期の振り返りをする (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期のノートをみておく	

授 業 名	保育と情報メディア			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CS2124
英 文 名	Child Care and Information and Media			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>子どもたちを取り巻く環境はこの20年で大きく様変わりしました。たとえば、運動会や生活発表会を保存するメディアとして、ひと昔前はビデオカメラが主流でしたが、最近はスマートフォンで手軽に動画撮影が可能になり、インターネット上で子どもたちの様子をいつでも見ることが可能になっています。また、子どもたちがメディアに触れる年齢も下がってきており、わずか0歳児でもタッチパネルを扱っている事例を目にする機会も増えているでしょう。</p> <p>この授業ではそうした情報メディアが子どもたちの生活にどのような変化をもたらしているのか、さまざまな事例をもとに考えていきたいと思います。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちがどのようなところでメディアの影響を受けているのか、説明することができる 2. 保護者が気を付けなければならない子どもの個人情報を守るポイントについて説明できる 3. 情報社会の進展が保育にどのような影響を与えたのか、説明することができる 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	特に指定なし								
参 考 書	授業内で適宜プリントを配布します								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートについては、次の授業で口頭にてフィードバックを行います								
留 意 事 項	授業内ではあるテーマをもとにディスカッションを行います。 積極的な姿勢を求めます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で告知します								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：神戸親和女子大学 情報処理教育センター 勤務								

授 業 名	保育と情報メディア	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) この授業の方針や小レポートについて説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) コンピュータとスマートフォンの違いについて発表できるようにする
第2回	Society 5.0 について考える	(学修内容) 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の違いを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 上記の社会の特徴について発表できるようにする
第3回	SNSの光と影	(学修内容) SNSの特徴、長所、短所について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) LINE、Instagram、twitterの使い分けについて発表できるようにする
第4回	ハードウェアとソフトウェア	(学修内容) ハードウェアとソフトウェアの違いを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) なぜスマートフォンやタブレットが普及したのか考え、レポート提出する
第5回	インターネット	(学修内容) WWWの仕組みについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットの歴史をまとめる
第6回	保育で見られる多様なメディア(1) 教育動画	(学修内容) 幼児向け通信教育の教材を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児向け通信教育の教材を探しておく
第7回	保育で見られる多様なメディア(2) 子ども向けTV番組	(学修内容) 子ども向けTV番組の歴史を振り返る (事前事後学修課題の内容) (60分) 子ども向けTV番組はどのような点が変化してきたのか、考え、レポート提出する
第8回	保育で見られる多様なメディア(3) youtube	(学修内容) 子ども向けyoutubeを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) TVやビデオ等との違いについてまとめる
第9回	保育で見られる多様なメディア(4) 保護者対応	(学修内容) 保護者への情報モラル教育を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園や保育所で見られる情報に関する事例を探しておく
第10回	情報セキュリティ	(学修内容) ウイルス、個人情報保護、暗号化について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) なぜウイルスソフトをインストールしなければならないのか、理由をこたえられるようにする
第11回	インターネットリテラシー	(学修内容) 情報の真偽、著作権、肖像権について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) SNSのメリットとデメリットを発表できるようにする
第12回	IoTの実際	(学修内容) IoT活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) IoT活用されているものを調べ、パワーポイントで資料を作成し、発表できるようにする
第13回	IoTの実際(2) どのような分野でIoTが進められているのか	(学修内容) IoTについての発表を行い、受講生同志の情報共有を図る (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表を聞いて一番印象に残った発表とその理由をレポートにまとめる
第14回	高度情報社会の進展	(学修内容) ビッグデータの活用、自動運転システム、スマート家電について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の社会の情報化はどんな方向に進むのかレポートにまとめる
第15回	まとめにかえて これからの情報社会のゆくえ	(学修内容) 身の回りの情報機器や保育業界の変化について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分のもっている情報機器でもっとも進化したものを紹介する

授 業 名	健康と生涯スポーツ a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1404
英 文 名	Health and Lifelong Sports Ia・b			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	吉永 有佳			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得し、生涯スポーツにつなげる事できる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育み、積極的に参加できる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (健康への理解)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない								
参 考 書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	授業後に質問を受け付け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別に対応をする。実技テスト及び授業後に小レポートを行う。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	健康と生涯スポーツ a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	アイスブレイキング	(学修内容)コミュニケーションを目的としたレクリエーション (事前事後学修課題の内容)(60分) アイスブレイキングについて具体的に調べてまとめる
第3回	ソフトバレーボール1	(学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・ソフトバレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの特徴を具体的に調べてまとめる
第4回	ソフトバレーボール2	(学修内容)基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールのルールの復習
第5回	ソフトバレーボール3	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第6回	ソフトバレーボール4	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第7回	講義1	(学修内容)健康と体力について (事前事後学修課題の内容)(60分) 健康について自分の考えをまとめておく
第8回	体力測定1	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力テストについて具体的に調べてまとめる
第9回	体力測定2	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体力テストについて具体的に調べてまとめる
第10回	講義2	(学修内容)体力評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定について振り返りをしておく
第11回	バドミントン1	(学修内容)基本技術の習得・バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを具体的に調べてまとめる
第12回	バドミントン2	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる
第13回	卓球1	(学修内容)基本技術の習得・卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球のルールを具体的に調べてまとめる
第14回	卓球2	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) 卓球の戦術について具体的に調べてまとめる
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(80分) 講義内容を振り返り、レポートにまとめて提出

授 業 名	健康と生涯スポーツ c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1404
英 文 名	Health and Lifelong Sports Ic			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	眞崎 雅子			対 象 学 生	幼児教育1EF				
授業の概要	講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深め、実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し自己の体力の現状を認識し、レポートにまとめる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理能力を習得することができる。 2) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識と技能を習得することができる。 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	必要に応じてプリントを配付する。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。以下活動実績： ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師								

授 業 名		健康と生涯スポーツ c
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：本授業の概要説明	(学修内容) 授業目標と計画や進め方について説明する 柔軟性チェック (事前事後学修課題の内容) (30分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm) 振返り(内省記録)の提出
第2回	講義1：運動と健康	(学修内容) 健康関連体力と運動について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前：健康に対する考えをまとめる 後：振返りの提出
第3回	有酸素運動と心拍数の測定	(学修内容) 有酸素運動理論や脂肪燃焼効果について実践的に学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前：有酸素・無酸素運動について調べる 後：振返りの提出
第4回	体力測定1：筋(持久)力・投力・走力・柔軟性の測定	(学修内容) 文部科学省新体力テストを実施する (事前事後学修課題の内容) (30分) 体調管理
第5回	体力測定2：跳躍力・敏捷性・全身持久力の測定	(学修内容) 文部科学省新体力テストを実施する (事前事後学修課題の内容) (30分) 体調管理
第6回	バドミントン1：基本技術の習得	(学修内容) フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュを中心に実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) バドミントンの特性と基本技術を調べる 後：振返りの提出
第7回	バドミントン2：簡易ゲーム	(学修内容) バレーバドミントンでチームプレーを通して技術を習得する (事前事後学修課題の内容) (30分) バレーバドミントンのルールを考える 後：振返りの提出
第8回	バドミントン3：ルールの理解と実践	(学修内容) シングルス・ダブルスの実践を通してルールを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シングルス・ダブルスの公式ルールを理解する 後：振返りの提出
第9回	バドミントン4：基礎技術の向上と応用	(学修内容) ダブルスの戦術を活かし、ゲームを実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) バドミントンの戦術を調べる 後：振返りの提出
第10回	ソフトバレーボール1：基本技術の習得	(学修内容) パス・サーブ・スパイク・レシーブを中心に実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) ソフトバレーの特性と基本技術を調べる 後：振返りの提出
第11回	ソフトバレーボール2：簡易ゲームで技術の習得	(学修内容) ソフトバレーの簡易ゲームを通して技術を習得する (事前事後学修課題の内容) (30分) ソフトバレーのルールを考える 後：振返りの提出
第12回	ソフトバレーボール3：ルールの理解と実践	(学修内容) ソフトバレーの実践を通してルールを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) ソフトバレーの公式ルールを理解する 後：振返りの提出
第13回	ソフトバレーボール4：基本技術の向上と応用	(学修内容) ソフトバレーの戦術を活かし、ゲームを実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) ソフトバレーの戦術を調べる 後：振返りの提出
第14回	講義2：健康と体力	(学修内容) 健康と体力について理解し、自身の新体力テスト・有酸素運動実践データを評価する (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践データを基に自己の健康と体力における課題について考える 後：振返りの提出
第15回	講義3：健康な学生生活と運動習慣	(学修内容) 健康的な大学生活についてのレポートを作成し提出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 生活習慣や実践データを振返り自身の課題や改善点について考える

授 業 名	健康と生涯スポーツ a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1411
英 文 名	Health and Lifelong Sports a・b			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉永 有佳			対 象 学 生	幼児教育1AB・1CD				
授業の概要	本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を高めることができる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップを育み、積極的に参加できる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (健康への理解)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない								
参 考 書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	授業後に質問を受け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別対応を行う。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実践的教育									

授業名	健康と生涯スポーツ a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを確認しておく
第2回	講義1	(学修内容)スポーツを楽しむ為に必要な基本的な生活習慣を見直し、健康維持について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 健康づくりにはどのようなものがあるか、考えておく
第3回	講義2	(学修内容)スポーツを行う上での安全配慮について。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 安全配慮にはどのようなものがあるか、考えておく
第4回	バレーボール1	(学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バレーボールのルールを具体的に調べてまとめる
第5回	バレーボール2	(学修内容)基本技術の習得・バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) バレーボールのルールの復習
第6回	バレーボール3	(学修内容)バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バレーボールの戦術について具体的に調べ、まとめる
第7回	バレーボール4	(学修内容)バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バレーボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第8回	バドミントン1	(学修内容)基本技術の習得・バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを具体的に調べてまとめる
第9回	バドミントン2	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる
第10回	バドミントン3	(学修内容)バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べてまとめる
第11回	バスケットボール1	(学修内容)基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを具体的に調べてまとめる
第12回	バスケットボール2	(学修内容)基本技術の習得・バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールのルールの復習
第13回	バスケットボール3	(学修内容)バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第14回	バスケットボール4	(学修内容)バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行う (事前事後学修課題の内容)(30分) バスケットボールの戦術について具体的に調べてまとめる
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(80分) 授業内容を振り返り、レポートにまとめて提出する

授 業 名	健康と生涯スポーツ c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE1411
英 文 名	Health and Lifelong Sports c			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	眞崎 雅子			対 象 学 生	幼児教育1EF				
授業の概要	講義では、スポーツの文化的役割や傷害予防について理解し、実技では各種スポーツの基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。また、運動時の心拍数を測定し、個々の体力に応じた運動強度について理解を深め「私の健康と運動」についてのレポートにまとめる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 運動実践時の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、実践した運動内容について検討することができる。 2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践を通して、適切な強度による運動を生涯に亘り実践する意義について理解することができる。 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につけることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (協調性)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修 (杏林書院)								
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。ウォーキング時は運動靴を使用すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。以下活動実績； ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師								

授 業 名	健康と生涯スポーツ c	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：本授業の概要説明	(学修内容) 授業目標と計画や進め方について説明する 柔軟性チェック (事前事後学修課題の内容) (30分) 振返り(内省記録)の提出
第2回	講義1：スポーツ傷害の予防と応急手当	(学修内容) スポーツ傷害と応急手当について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前：応急手当について調べる 後：振返りの提出
第3回	有酸素運動と心拍数の測定1	(学修内容) エアロビックダンスの実践を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前：有酸素・無酸素運動について調べる 後：振返りの提出
第4回	有酸素運動と心拍数の測定2	(学修内容) ダンスエクササイズの実践を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前：様々なダンスエクササイズについて調べる 後：振返りの提出
第5回	アルティメット(フライングディスク競技)1：基本技術の習得	(学修内容) フォア・バックハンド、パスを中心に実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) アルティメットの特性と基本技術を調べる 後：振返りの提出
第6回	アルティメット2：簡易ゲーム	(学修内容) 簡易ゲームを通してアルティメットの特性を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) アルティメットのルールを調べる 後：振返りの提出
第7回	卓球1：基本技術の習得	(学修内容) フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュを中心に実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) 卓球の特性と基本技術を調べる 後：振返りの提出
第8回	卓球2：ルールの理解と実践	(学修内容) シングルス・ダブルスの実践を通してルールを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 卓球の公式ルールを理解する 後：振返りの提出
第9回	ミニ運動会1：企画・準備 グループワーク	(学修内容) 運動会の意義、種目決め、役割等を決めて企画案を提出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身の仕事内容を確認し準備をする 後：振返りの提出
第10回	ミニ運動会2：実践と評価	(学修内容) 紅白チーム分け・各グループごとに担当した種目を実践し評価する (事前事後学修課題の内容) (30分) 担当種目の司会・進行について確認する 後：振返りの提出
第11回	バスケットボール1：基本技術の習得	(学修内容) パス・ドリブル・様々なシュートを中心に実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールの特性と基本技術を調べる 後：振返りの提出
第12回	バスケットボール2：簡易ゲーム	(学修内容) バスケットボールの簡易ゲームを通して技術を習得する (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールのゲームを考える 後：振返りの提出
第13回	バスケットボール3：ルールの理解と実践	(学修内容) バスケットボールの実践を通してルールを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールの公式ルールを理解する 後：振返りの提出
第14回	バスケットボール4：基本技術の向上と応用	(学修内容) バスケットボールの戦術を活かし、ゲームを実践する (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールの戦術を調べる 後：振返りの提出
第15回	講義2：スポーツと文化	(学修内容) 健康とスポーツの意義についてレポートを作成し提出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 文化としてのスポーツの価値について考える

授業名	保育英語コミュニケーション a			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1405
英文名	Child Care English Ia			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	山本 典子			対象学生	幼児教育1AB				
授業の概要	演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にしてテキストを進めます。保育英語に特化した授業になりますが、また、専門領域に関する教材や異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。さらに毎回の授業でグループワークを取り入れます。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて英語で伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく英語のまま理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	Children's Garden 赤松直子著 成美堂								
参考書	保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集) 社団法人国際子育て支援機構著 保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集)								
課題に対するフィードバックの方法	提出された宿題や課題は採点しコメントとともに返却します。								
留意事項	テキストは毎回使用するので、必ず購入し持参してください。このテキストは秋学期も使用します。宿題は期日に提出すること。予習・復習はしっかりと行うこと。評価方法は上記にあります。テキストを持ってきていない、寝ている、スマホを見ているなど、授業態度によってはそのとおりではありません。欠席5回で定期試験受験資格がなくなります。出欠、遅刻に関しては初講日にくわしく説明します。授業の進み具合によっては授業計画は前後することがあります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：NHK文化センター京都支社								

授 業 名		保育英語コミュニケーション a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 5文型の問題 / ABC song Chapter 1 Children's Garden P.6	(学修内容) 読書記録シート、出欠・遅刻の扱いについて テキストp.6 ABCの歌を歌う (事前事後学修課題の内容)(30分) p.6目を通しておく	
第2回	be動詞・一般動詞の理解 Chapter 1 Children's Garden p.7,8,9	(学修内容) be動詞・一般動詞の演習 テキストp.7,8,9 p.9はリスニングの後ペアワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト p. 7-9の予習 特にp.8	
第3回	be動詞・一般動詞の疑問文 1 Chapter 1 Children' Garden p.10,11	(学修内容) be動詞・一般動詞の疑問文の演習 p.9の復習としてリスニングの後音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にbe動詞・一般動詞の復習しておくこと テキストp.10,11の予習	
第4回	be動詞・一般動詞の疑問文 2 Chapter 2 The First Day of the Internship p.12,13,14	(学修内容) be動詞・一般動詞の疑問文の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) be動詞・一般動詞の疑問文の復習しておくこと テキストp.14,15を予習	
第5回	5文型の問題 Chapter 2 The Frist Day of the Internship p.15,16,17	(学修内容) be動詞・一般動詞,5文型 p.15リスニングと音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にp.16を準備しておく	
第6回	現在進行形の理解 Chapter 3 Out We Go! p.18,19,20	(学修内容) 復習としてp.15会話リスニングの後音読 現在進行形の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 笑顔で場面を楽しめるよう会話音読	
第7回	現在進行形の演習 Chapter 3 Out We Go! p.21,22,23	(学修内容) 現在進行形の復習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在進行形の復習 p.22の準備	
第8回	動詞過去形の演習 Chapter 1 ~ 3の復習	(学修内容) 動詞過去形の演習 復習としてp.9,15,21会話のリスニングの後音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 動詞時制復習	
第9回	Chapter 4 Splash,splash p.24,25,26	(学修内容) 外の遊びの単語 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.26の準備	
第10回	Chapter 4 Splash,splash p,27,28,29 感情を表す形容詞	(学修内容) 感情を表す形容詞の理解、演習 p.27会話のリスニングの後ペアワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.28の準備	
第11回	Chapter 5 Pancake Day p.30,31,32 感情を表す形容詞	(学修内容) 感情を表す形容詞の復習・演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 感情を表す形容詞の復習	
第12回	動詞未来形の演習 Chapter 5 Pancake Day p.33,34,35	(学修内容) p.33会話リスニングの後グループで音読 動詞未来形の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.34の予習	
第13回	Chapter 6 Read Me, Tell Me Stories p.36,37,38 / Urashima Taro	(学修内容) Urashima Taroの音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.38の準備	
第14回	Chapter 6 read me, Tell me p. 39,40,41 / Urashima Taro	(学修内容) Urashima Taroの音読 p.39会話リスニングの後ペアワークで音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.39,40の準備	
第15回	動詞時制のまとめ 春学期の総復習	(学修内容) 文法事項も含めて復習 定期試験の説明 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.27,33,39の会話がスムーズに音読できるように練習	

授 業 名	保育英語コミュニケーション b・c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1405
英 文 名	Child Care English Ib・Ic			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	早瀬 和栄			対 象 学 生	幼児教育1CD・1EF				
授業の概要	演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。保育英語に特化した授業を行います。毎回の授業で、グループワークをとりいれます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『保育英語』 赤松直子 (成美堂)								
参 考 書	保育英語検定受験予定の者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1400円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1400円								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたりレポートについては、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によって授業計画は前後することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育英語コミュニケーション b・c
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容)(15分) 本授業のシラバスを読む
第2回	英語でエッセイを読む	(学修内容)多読のすすめ 英語でエッセイを読む (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 6-8の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第3回	Chapter 1 こどもの園保育園	(学修内容)保育で使う英語表現、リスニング問題 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 9-11の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第4回	Chapter 1 来月、実習が始まります	(学修内容)登園時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 12-14の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第5回	Chapter 2 実習初日	(学修内容)教室内で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 15-17の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第6回	Chapter 2 実習生の加藤えみ です。	(学修内容)挨拶で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 18-20の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第7回	Chapter 3 さあ、出かけましょう!	(学修内容)園庭で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 21-23の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第8回	Chapter 3 いいお天気ね	(学修内容)言葉遊び・アナグラム (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 24-26 の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第9回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(学修内容)水泳の時間に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 27-29の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第10回	Chapter 4 オリンピック選手みたい	(学修内容)着替えの時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 30-32の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第11回	Chapter 5 ホットケーキの日	(学修内容)料理のときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 33-35の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第12回	Chapter 5 おいしい、おいしい、おいしいよ	(学修内容)食事の時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 36-38の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第13回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(学修内容)読み聞かせのときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 39-41の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第14回	Chapter 6 今日は何のお話?	(学修内容)こども絵本について (事前事後学修課題の内容)(60分) pp. 42-44の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第15回	テキストの総復習	(学修内容)日常表現 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの見直し

授 業 名	保育英語コミュニケーション a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1412
英 文 名	Child Care English a			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	山本 典子			対 象 学 生	幼児教育1AB				
授業の概要	演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習していることを前提にテキストを進めます。春学期から引き続き保育英語に特化した授業になります。毎回の授業でグループワークを取り入れます。また異文化理解にもつながる多読も続けます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を実につけることができる。 2) 過去形や現在完了形を用いて自身のことを伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	Children's Garden 赤松直子著 成美堂 春学期のテキストの続きをします。								
参 考 書	保育英語ワークブック (保育英語検定3級問題集) 保育英語ワークブック (保育英語検定2級問題集) 国際子育て支援機構著								
課題に対する フィードバック の方法	提出された宿題、課題はコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	後期もテキスト中心に授業を進めますが、音読や発表の機会が増えます。予習、復習、宿題はしっかりとやっておいてください。提出物は期日を守ること。評価方法は上記のとおりですが、前期同様、授業態度によってはそのとおりではありません。進み具合によっては授業計画は前後することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：NHK文化センター京都支社								

授 業 名		保育英語コミュニケーション a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	Chapter 7 Activities with Watermelons p.42,43,44 月の名前	(学修内容) 動詞時制の復習 月の名前の歌 (事前事後学修課題の内容)(60分) 動詞の時制の復習	
第2回	Chapter 7 Activities with Watermelons p.45,46,47 月の名前のテスト	(学修内容) 月の名前のテスト p.45会話のペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.46の準備 単語を覚える	
第3回	動詞・現在完了形の演習 Chapter 8 Happy Birthday! p.48,49,50	(学修内容) 現在完了形の演習 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.50の準備	
第4回	動詞・現在完了形の演習 Chapter 8 Happy Birthday! p.51,52,53	(学修内容) 現在完了形の演習 p.51の会話のペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 現在完了形の復習 p.52の準備	
第5回	助動詞の演習 Chapter 9 Children at Play p.54,55,56 遊びの名前	(学修内容) 助動詞の意味と使い方 遊びの名前を覚える (事前事後学修課題の内容)(60分) p.56の準備	
第6回	助動詞の演習 Chapter 9 Children at Play p.57,58,59	(学修内容) 助動詞を使って文を作る p.57会話を音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) 助動詞の復習 p.58の準備	
第7回	Chapter 7~9の復習 動詞時制の復習	(学修内容) 動詞時制の復習 p.45,51,57会話復習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 動詞時制の復習をしておく。	
第8回	形容詞対語 Chapter 10 Baby News p.60,61,62	(学修内容) 形容詞の対語を覚える 赤ちゃんに関する単語 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.62の準備	
第9回	形容詞対語のテスト Chapter 10 Baby News p.63,64,65	(学修内容) 形容詞のテスト p.63会話リスニングとペアワーク音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.64の準備	
第10回	Chapter 11 The Tooth Family p.66,67,68 歯に関する単語 / Kasajizou	(学修内容) 歯に関する単語を覚える Kasajizouの音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.68の準備	
第11回	Chapter 11 The Tooth Family p.69,70,71 Kasajizou	(学修内容) p.69会話の音読 Kasajizouの音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.70を準備	
第12回	体の部分の単語 Chapter 12 The Green-eyed Witch p.72,73,74	(学修内容) 体の部分の単語を覚える (事前事後学修課題の内容)(60分) p.74の準備	
第13回	体の部分の単語のテスト Chapter 12 The Green-eyed Witch p.75	(学修内容) p.74会話音読 (事前事後学修課題の内容)(60分) p.74の会話がスムーズに読めるように予習 体の部分の単語を覚える	
第14回	Chapter 12 p.76,77 The Mouse's Marriage	(学修内容) The Mouse's Marriageを読む (事前事後学修課題の内容)(60分) p.76の準備	
第15回	Chapter 7~12 秋学期の復習	(学修内容) 秋学期復習 定期試験の準備 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストやプリントのわからないところを探しておく	

授 業 名	保育英語コミュニケーション b・c			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1412
英 文 名	Child Care English b・c			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	早瀬 和栄			対 象 学 生	幼児教育1CD・1EF				
授業の概要	英語・コミュニケーション に続き、演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。グループワークやプレゼンテーションを実践します。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 会話や多読に必要な文法の基礎を身につけることができる。 2) 身近なトピックについて、簡単な単語を用いて意見を伝えることができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『保育英語』 赤松直子(成美堂)								
参 考 書	保育英語検定受験予定の者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定テキスト3級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語検定テキスト2級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1400円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1400円								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたりレポートについては、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によっては、授業計画は前後することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		授 業 計 画
保育英語コミュニケーション b・c		
	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育英語について考える (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読む pp.42-44の予習、英作文の練習問題をしておく。
第2回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(学修内容) 行事で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.45-47の予習、英作文の練習問題をしておく。
第3回	Chapter 7 おなかですいかが大きくなるよ	(学修内容) グループワークの実践 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.48-50の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第4回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(学修内容) お誕生日会で使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.51-53の予習、英作文の練習問題をしておく。
第5回	Chapter 8 スターが生まれました	(学修内容) 招待状を作成するときに使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.54-56の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第6回	Chapter 9 子どもと遊び	(学修内容) 子どもと遊ぶ時に使う英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.57-59の予習、英作文の練習問題をしておく。
第7回	Chapter 9 マーク君、やった!	(学修内容) 感情をあらわす英語表現、ペアワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.60-62の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第8回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(学修内容) 赤ちゃんを保育するときに使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.63-65の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第9回	Chapter 10 おむつ交換をしてもよろしいですか?	(学修内容) 赤ちゃんへの語りかけに使う英語表現とグループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.66-68の予習、英作文の練習問題をしておく。
第10回	Chapter 11 歯の妖精	(学修内容) 歯磨きを指導するときに使う英語表現とプレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.69-71の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第11回	Chapter 11 妖精の物語	(学修内容) 乳児室で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.72-74の予習、英作文の練習問題をしておく。
第12回	Chapter 12 緑の目の魔女	(学修内容) 演劇会での英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.75-77の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第13回	Chapter 12 どの魔女がどの時計を見たの?	(学修内容) お楽しみ会での英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.78-80の文法説明を読んでおく。
第14回	テキスト総復習 (1)	(学修内容) テキストの文法問題の復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト文法問題の見直し
第15回	テキスト総復習 (2)	(学修内容) 日常で使える英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト英作文の見直し

授業名	教育原理			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CE1208
英文名	Principles of Education			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えた思想家を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。なお、資料の共有やレポート作成・提出のためにICT機器を活用する予定である。								
学修成果到達目標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明することができる。 2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明することができる。 3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	竹内聖子・内山絵美子編著『生活事例からはじめる教育原理』 青踏社 2020年								
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 その他適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求めるレポートなどは後日授業中にチェックしたものを返却します。優れているレポート等は授業中に紹介し、他の受講生の見本としてどこが優れていたのか説明を行います。								
留意事項	主として講義により授業を進めます。テキストを読みその内容から幼児教育の基本的な知識を習得するとともに自らの考えを書き出すこと、また、伝え合うことが授業の中心となります。そのため、必ずテキストは購入してください。また、配慮事項がある場合は早めに相談してください。								
オフィスアワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育									

授業名	教育原理	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教育とは何か	(学修内容) 教育という言葉の語源を学び、教育の目的を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「教育」から連想されるイメージや単語を書き出してくる 後:テキスト第1章を再読し、キーワードを復習する
第2回	世界の子ども観の変遷	(学修内容) 世界の近代以前・以降の子ども観について説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:シュタイナー教育の特徴について調べ書き出してくる 後:テキスト第13章を再読し、キーワードを復習する
第3回	世界の教育の歴史 フレーベルによる幼児教育を中心に	(学修内容) 世界の教育の歴史の概要を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:フレーベルについて調べ書き出してくる 後:テキスト第14章を再読し、キーワードを復習する
第4回	日本の子ども観の変遷	(学修内容) 我が国の近代以前・以降の子ども観について説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:浮絵など昔の子どもの描かれ方を調べてくる 後:テキスト第11章を再読し、キーワードを復習する
第5回	日本の教育の歴史	(学修内容) 我が国の幼児教育・保育の歴史を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「寺子屋」について調べてくる 後:テキスト第12章を再読し、キーワードを復習する
第6回	教育と福祉	(学修内容) 教育と福祉、あるいは保育の定義を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼稚園と保育所との違いを調べてくる 後:テキスト第2章を再読し、キーワードを復習する
第7回	教育の目的、機能	(学修内容) 教育の今日的課題と法律上の教育の位置づけや役割を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:テレビや新聞から現在の教育保育現場の課題を1つ調べてくる 後:テキスト第3章を再読し、キーワードを復習する
第8回	就学前教育の制度	(学修内容) 幼児教育・保育の無償化と諸外国の就学前教育の制度を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼児教育・保育の無償化について調べてくる 後:テキスト第6章を再読し、キーワードを復習する
第9回	乳幼児期の発達と教育の特性	(学修内容) 乳幼児期の発達を踏まえ教育実践を転換する意義を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:見学等で触れた幼児教育実践の内容とねらいを書き出してくる 後:テキスト第5章を再読し、キーワードを復習する
第10回	乳幼児教育期における教育実践の基礎	(学修内容) 子ども理解に基づく保育の計画、実践、省察を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:各幼稚園のホームページからその教育目標を調べてくる 後:テキスト第7章を再読し、キーワードを復習する
第11回	乳幼児期における遊びの意義と教育実践	(学修内容) 乳幼児期における「遊び」の意味とその特徴を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:乳幼児期の具体的な「遊び」をイメージして書き出す 後:テキスト第8章を再読し、キーワードを復習する
第12回	就学前教育と小学校教育の違い	(学修内容) 就学前教育と小学校教育との差異と連携の在り方を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携について調べてくる 後:テキスト第9章を再読し、キーワードを復習する
第13回	保育者の専門性	(学修内容) 保育者の専門性と現場での同僚性について説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:保育者の専門性について考え書き出してくる 後:テキスト第10章を再読し、キーワードを復習する
第14回	「遊びを通して学ぶ」とは モンテッソーリメソッドを中心に	(学修内容) 幼児教育の「遊び」の重要性と保育者の役割を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:モンテッソーリについて調べ書き出してくる 後:テキスト第15章を再読し、キーワードを復習する
第15回	生涯学習	(学修内容) 生涯学習の意味と我が国のその現状について説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「生涯学習」から連想されるイメージや単語を書き出してくる 後:テキスト第4章を再読し、キーワードを復習する

授 業 名	保育原理			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1201
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育の意義や目的について理解し、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領を中心とした保育に関する法令や制度を学ぶ。また、保育の基本、保育思想や歴史の変遷について学び、保育の現状と課題を学びながら深めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育の意義及び目的が理解できる。 2) 保育所、幼稚園、認定こども園における保育の基本が理解できる。 3) 保育に関する法令や制度、保育の思想や歴史の変遷について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『哲学する 保育原理』第2版 伊藤潔志編著 教育情報出版 『改訂新版 保育用語辞典』一藝社								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは授業内でコメント返します。 小テストは添削をして返却し解答の解説を行います。								
留 意 事 項	講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。教科書をしっかり読んでおく。途中で理解度を把握するため、小テストを実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示しますので確認してください								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。 到達目標について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の幼少期を振り返る。	
第2回	保育に関する法令や制度	(学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園に関する法令や制度を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第1章-1を読んでワークシートを見直す。	
第3回	保育・教育課程の現在	(学修内容) 保育所・幼稚園・認定こども園における保育・教育課程の意義を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第1章-2を読んで配布資料を見直しておく。	
第4回	日本の保育の現状	(学修内容) 待機児童問題 子どもの貧困 潜在保育士 小1プロブレム 保育士不足問題など日本の保育の現状を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育用語辞典で授業で学習した保育用語を調べておく。	
第5回	保育を基礎から考える	(学修内容) 保育の意味を理解する。子どもの最善の利益について理解する。保育の原理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第4章を見直しておく。	
第6回	子どもの発達理解と援助	(学修内容) DVDの視聴を通して子どもの内面についてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ディスカッションを通して何を学んだのかをレポートにまとめてみる。	
第7回	小テスト 保育者の援助について	(学修内容) 小テストを実施する。小テストの解説を行う。前回のDVDを再度視聴し、保育者の援助・役割について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 小テストの準備をする。ディスカッションや発表についての気づきをレポートにまとめておく。	
第8回	諸外国の保育の思想と歴史変遷	(学修内容) 諸外国の保育思想と歴史を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第2章-1,2や保育用語辞典を参考にして配布プリントを仕上げておく。	
第9回	日本の保育の思想と歴史変遷	(学修内容) 日本の保育思想と歴史を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第2章-3,4,5と保育用語辞典を参考にして配布プリントを仕上げ提出する。	
第10回	幼稚園・保育所・認定こども園での生活と遊び	(学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園の生活を理解し、子どもの遊びについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) インターネットのHPで実習園の保育目標、保育方針、目指す子ども像、年間行事、生活の流れなど実態を把握しておく。	
第11回	養護と教育の違い	(学修内容) 教育と養護の目的について理解する。教育と養護の違いを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園保育教育要領の第1章総則の部分を読みワークシートを仕上げ提出する	
第12回	子ども理解の視点	(学修内容) 事例を通して子ども理解を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として提示した事例について気づきをレポートにまとめて提出する。	
第13回	保育における集団と個人	(学修内容) 集団と個人の関係、保育の形態について保育実践との関係を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 多様な保育形態について保育用語辞典を参照に関連する箇所を読んでまとめる。	
第14回	教育としつけ	(学修内容) 教育現場における事例を通して子どもへの支援を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章を読んでよい教育とはどのようなものかを自分の意見をまとめる。	
第15回	保育者の役割	(学修内容) 指導計画・評価の必要性を理解し保育者の役割を具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 返却した小テストや配布プリントを見直し不十分な部分を書き出す。	

授 業 名	子どもの保健			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1210
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育の現場では、適切に養育する力量が求められる。専門家としての養育に必要な育児技術、健康管理、安全管理について学ぶ。「子どもの保健」で学んだ基礎知識と融合し、乳幼児のお世話と保健的対応、疾病予防、感染予防、応急・救急処置の基本的知識と技術を理解する。また安全の確保、事故予防等の基礎知識を学ぶ。理解を深めるために、適宜、動画視聴、演習、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。</p>								
学 修 成 果 達 到 目 標	<p>子どもの健康増進、心身の発育・発達を促す保健活動や保育環境を考え、保育場面での安全管理と衛生管理を学び、具体的な方法がわかる。</p> <p>子どもの成長、発達についての観察、判断について理解し、一部行える。</p> <p>子ども(乳幼児)の健康と子育てに必要な日常的な養護について、子どもの特徴をふまえて考え、一部実践できる。</p> <p>子どもの病気やケガの看護や処置、予防対策が理解でき、一部行える。</p> <p>疾病や障害をもつ乳幼児の保育について理解できる。</p> <p>子どもの健康および安全にかかわる保健活動の計画、評価について学び、考えられる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	小林美由紀編著「授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全 演習ノート」診断と治療社								
参 考 書	大西文字・遠藤幸子・興水めぐみ ほか「子どもの健康と安全」中山書店 中根淳子/佐藤直子編著、北川好郎/濱口典子著 「子どもの保健」ななみ書房								
課題に対するフィードバックの方法	授業後の小テストは解答後に答えと解説を表示する。								
留 意 事 項	教科書とノートを持参して受講してください。 授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱うこと。 専門家として子どもの健康と発育・発達を支援し、病気やケガの保健的対応や、保育環境の衛生管理・安全管理について必要な知識と技術を身につけることが求められる。 まずは子どもや自分自身の健康に関心を持つことが大切である。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回授業オリエンテーションで知らせる。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師、教員としての実務経験から、乳幼児の様子や、病気・ケガの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。								

授 業 名	子どもの保健	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーション 子どもの保健と環境	(学修内容) 授業の目的・内容・評価等についての説明(しっかりメモを取って控えておくこと)。子どもの健康と保育環境(調整、快適性)について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P1~3を熟読しておくこと。健康とは?を説明できるように復習しておくこと。
第2回	子どもの保健的対応(日常の観察と健康診査、症状に対するケア)	(学修内容) 乳幼児の観察と測定、そこからの健康状態と発育状態の判断について学び、一部演習する。集団の健康管理について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P4~11、授業資料(後日提示)をよく見ておく。子どもの体温、呼吸、脈拍の正常値と測定方法を復習しておく
第3回	保育場面での安全管理(衛生管理)	(学修内容) 保育場面での衛生管理について学び、具体的な方法を習得する。吐物処理の方法の動画を視聴・演習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P12~15、授業資料(後日提示)をよく見ておくこと。
第4回	保育場面での安全管理 安全管理(危機管理、事故防止、災害への備え、安全教育)	(学修内容) 保育場面での安全管理の具体的な方法を習得する。子どもの特徴と起こりやすい事故、危険予知、予防についてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P16~26を熟読しておくこと。
第5回	子どもの体調不良に対する適切な対応(発熱、けいれん、下痢・嘔吐、便秘、咳)	(学修内容) 発熱、けいれん、下痢・嘔吐、便秘、咳の対応(観察、看護)を学ぶ。氷枕の作り方、けいれん時の対応について動画視聴を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P36~39、授業資料(後日提示)を熟読。乳幼児が脱水症を起こし易い理由を復習しておくこと。
第6回	子どもの体調不良に対する適切な対応 ケガ(外傷、骨折・打撲・捻挫、熱傷、鼻血)	(学修内容) 子どものケガに対する適切な対応と処置について学び、一部演習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P39~45を熟読しておくこと。
第7回	子どもの体調不良に対する適切な対応(子どもの重篤な状態の判断と対応)	(学修内容) 急変や重篤な状態の判断と対処(異物誤嚥・混入、ショック、心肺蘇生)について学ぶ。一部、動画視聴・演習を行い理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P46~51を熟読しておくこと。
第8回	子どもの感染症対策(感染の基礎知識、感染予防対策)	(学修内容) 感染症の基礎知識と、感染拡大を予防するための具体的な方法がわかる。子どもに多い感染症の各特徴を理解する。予防接種について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P59~69を熟読。子どもに多い感染症の概要についておさらいしておくこと。
第9回	保育場面での養護(お世話)(保育活動、食事、排泄、睡眠の自立支援)	(学修内容) 乳幼児の発育発達過程、食事・排泄・睡眠の発達の過程をふまえ、発達課題にそった支援を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P74~75、授業資料(後日提示)をよく見ておくこと。
第10回	保育場面での養護(お世話)(乳幼児のだっこ、おむつ交換、衣類の更衣、歯磨き・うがい)	(学修内容) 乳幼児の日常のお世話について具体的な方法を学ぶ。理解を深めて実践へつなげるため、一部、動画視聴・演習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P76~86、授業資料(後日提示)をよく見ておくこと
第11回	個別的な対応を要する子どもへの対応(てんかん、アレルギー、気管支喘息)	(学修内容) てんかん、アレルギー、気管支喘息をもつ子ども、障害のある子どもへの対応について学ぶ。一部、理解を深めるため、動画を視聴する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P79~88、授業資料(後日提示)をよく見ておくこと。
第12回	個別的な対応を要する子どもへの対応(慢性疾患、肢体不自由児、感覚器官の障害)	(学修内容) 心疾患、腎疾患、内分泌疾患をもつ子どもへの対応、肢体不自由児、感覚器官の障害をもつ子どもへの対応について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P87~102を熟読しておく。
第13回	個別的な対応を要する子どもへの対応(発達障害、養育支援)	(学修内容) 発達障害をもつ子どもへの対応について理解する。医療費などの援助等について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P87~102を再度、熟読しておくこと。
第14回	母子保健と地域での保健活動 子どもの健康と安全のための管理体制と保健活動の連携、協働	(学修内容) 母子保健対策、子どもの保健活動における連携について学ぶ。保健活動の実際と職員間、他職種との連携、共働について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P127~139、141、154~156を読んでおくこと。健やか親子21について調べておくこと。
第15回	保育における保健活動 定期試験についてオリエンテーション	(学修内容) 保育における保健活動の計画作成、活用、記録、評価について学ぶ。また保育者自身の健康管理と生活習慣について考える。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 教科書P111~121を熟読しておく。授業全体の復習とまとめをしておくこと。

授業名	子どもの保健			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CE1203
英文名	Infant Health			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	福井 百合子			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもの健康とそれを増進するための保健活動の意義をふまえ、子どもの心身の発育・発達の過程、健康状態の把握、子どもに多い病気について学ぶ。子どもの健康と健やかな育ちを支援するために必要な基礎的な知識を学ぶ。理解を深めるために、適宜、動画視聴、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。								
学修成果到達目標	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を知り、子どもの保健活動の意義を説明できる。 子どもの成長・発達（形態、運動機能、精神機能、生理機能の発達）を学び、年齢に応じた成長・発達がイメージし説明できる。 子ども（乳幼児）の健康と子育てに必要な日常的な養護について子どもの特徴をふまえて考えられる。 子どもの病気や障害についての基礎知識を学び、特徴的な症状などが言える。 子どもを守り育てるための安全管理や、保健活動に必要な保護者支援、関係機関との連携について学び、考えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	小林美由紀 編著「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト」診断と治療社								
参考書	大西文子・興水めぐみ・神道邦実・増尾美穂 ほか「子どもの保健 演習」（改訂第2版）中山書店 （その他、授業内で紹介します）								
課題に対するフィードバックの方法	授業後の小テストは解答後に答えと解説を表示する。								
留意事項	教科書とノート持参で受講してください。子どもの健康については小児医学や保健知識も含まれるため、授業内容の理解に備え、事前に教科書や授業資料を読んでおくこと。								
オフィスアワー	第1回授業オリエンテーションで知らせる。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	授業オリエンテーション 母子保健の現状(子どもを取り巻く環境)と保健活動の意義と目的	(学修内容) 授業の目的・内容・評価等についての説明(しっかりメモを取って控えておくこと)。子どもの保健、保健活動の意義・目的を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバス等を事前に確認しておくこと。教科書P1~7、9~13を読んでおくこと。	
第2回	子どもの健康と保健(現状と課題) 子どもの発育・発達と保健	(学修内容) 母子保健の現状と課題について知る。ヒトの成り立ち、胎児期から出生後の新生児について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P14~26を熟読しておくこと。(60分) P16図4を見て胎児循環と新生児循環の違いを考えておくこと。	
第3回	子どもの発育・発達と保健 子どもの身体発育、運動機能の発達と評価	(学修内容) 子ども(乳幼児)の身体発育、神経・運動機能の発達について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P28~40を熟読。運動機能の発達について動作獲得のめやす時期についてまとめておくこと。	
第4回	子どもの生理機能の発達と生活習慣	(学修内容) 子ども(乳幼児)の体温調節、呼吸、循環、消化、排泄、水分代謝、睡眠について理解する。生活習慣、食育について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P42~48を熟読し、乳幼児の体温調節と水分代謝について教科書の内容を予習しておくこと。	
第5回	子どもの精神機能の発達と感覚機能の発達	(学修内容) 子ども(乳幼児)の精神機能の発達(情緒の発達、言語の発達)、感覚機能の発達について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 感覚器官からの情報が及ぼす、子どもの成長・発達への影響を考えておくこと。	
第6回	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 子どもの虐待防止と保健活動	(学修内容) 心身の健康状態の観察、健康診断等について学ぶ。ワーク:ペア或いはグループで互いの状態を観察する。虐待防止と保健活動について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P60~63、51~58、授業資料(後日提示)を読んで、健康状態の観察点を考えておくこと。	
第7回	子どもの病気 (免疫の発達と子どもに多い感染症)	(学修内容) 子どもの免疫の発達と、子どもに多い感染症について学ぶ。 感染予防について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P65~79を熟読。保育所における感染対策ガイドラインと学校保健安全法を調べておくこと。	
第8回	子どもの病気 (新生児の病気、先天性疾患)	(学修内容) 新生児の病気、先天性疾患とスクリーニング検査について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P91~95、130~131を熟読。新生児スクリーニング検査とは何かを調べておくこと。	
第9回	子どもの病気 (アレルギー疾患とアナフィラキシー症状) 子どもの重篤な状態の判断と対応	(学修内容) アレルギー疾患とアナフィラキシー症状、対処について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P91~104、81~89を熟読しておくこと。	
第10回	子どもの病気 (慢性疾患)循環器、腎泌尿器、呼吸器の病気	(学修内容) 消化器、呼吸器、循環器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P106~113の該当部分を熟読しておくこと。	
第11回	子どもの病気 (消化器、血液、内分泌、神経の病気)	(学修内容) 血液、腎・泌尿器、腎泌尿器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P106~113の該当部分を熟読しておくこと。	
第12回	子どもの病気 (神経、感覚器の病気)	(学修内容) 内分泌、神経、整形外科系、感覚器(皮膚、目、耳)の病気について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P106~113の該当部分を熟読しておくこと。	
第13回	子どもの事故とケガ 環境整備(安全と衛生)	(学修内容) 子どもの特徴と起こりやすい事故と安全管理について学び、危険要因について考える(危険予知)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業資料(後日提示)を見て実際の場面をイメージしておくこと。	
第14回	保育環境の整備(安全管理、衛生管理、快適さ) 子どもの健康診断と保健活動における連携 保護者との情報共有と家族支援	(学修内容) 保育環境の整備、子どもの健康診断と保健活動における関係機関とのネットワーク、職員間の連携、保護者との協力について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業資料(後日提示)と教科書P119~137を見ておくこと。	
第15回	子どもを取り巻く環境と保健活動 母子保健の役割、母子保健対策 定期試験についてオリエンテーション	(学修内容) 母子を取り巻く環境と保健活動の役割や母子保健対策について学ぶ。 定期試験に関するの方法や注意点などを説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P101~116を読んでおく。授業全体の復習とまとめをしておく。	

授 業 名	子ども家庭福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1204
英 文 名	Child Welfare			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育士は、保育所のみならず、児童福祉施設全般で働く社会福祉専門職である。そのため、保育士には、少子化・保育・虐待など児童問題について 現代の子どもの生活について 諸外国の児童福祉について 児童福祉の法制度について学ぶことが必須となる。教科書を用いて統計的に理解し、配布プリントで重要点を整理し、映像素材を視聴して、実践の様子を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (64 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (36 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	芝野松次郎 宮野安治 新川泰弘 山川宏和 編著 「子ども家庭福祉入門」[ミネルヴァ書房]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、採点してコメントを書いて返却する。								
留 意 事 項	出席とレポートを重視する。テストの参照資料が成績に大きく関係する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実践的教育									

授 業 名	子ども家庭福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	超少子高齢化社会における子ども家庭福祉	(学修内容)人口減少社会、丙午、少子化対策 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章を参照しておく
第2回	子どもの権利擁護	(学修内容)コルチャック、子どもの権利条約について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第4章を参照しておく
第3回	子ども家庭福祉の歴史	(学修内容)日本・欧米の子ども家庭福祉史 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章を参照しておく
第4回	子ども家庭福祉の実施機関	(学修内容)児童福祉六法、行政機関について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第7章を参照しておく
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(学修内容)児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章を参照しておく
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(学修内容)児童福祉法と児童虐待防止法について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章を参照しておく
第7回	児童福祉法について 2012～2020年の改正	(学修内容)近年の児童福祉法改正について (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第10章を参照しておく
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(学修内容)児童虐待の定義と対策 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を参照しておく
第10回	児童福祉の専門職について	(学修内容)児童福祉に従事する専門職について (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2章を参照しておく
第11回	保育支援と福祉について	(学修内容)日本と諸外国の保育政策・サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 第6章を参照しておく
第12回	母子保健について	(学修内容)妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第9章を参照しておく
第13回	社会的養護について	(学修内容)乳児院の実際について (事前事後学修課題の内容)(30分) 第8・10章を参照しておく
第14回	障がい児の福祉について	(学修内容)障がい児の現状と福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 第8・10章を参照しておく
第15回	ひとり親家庭の支援について	(学修内容)ひとり親家庭への福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 第8・10章を参照しておく

授 業 名	社会福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1205
英 文 名	Social Welfare			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>わたしたちが住んでいる地域では、乳幼児・子ども・青年・高齢者・障害者等さまざまな人が生活をしています。すべての人が「幸せだ」と実感できる社会であれば何も言うことはないのですが、ある日突然、当たり前を送ることができない現実に直面することがあります。そうなったら、どうすればいいのでしょうか？</p> <p>本講では、わたしたちの生活をおびやかすような「あっ、どうしよう!？」に対して、どのような支援体制が準備されているのかを理解し、そこから保育士を目指す専門職として必要な知識や価値観を見出していくことを目的としています。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 保育士が社会福祉専門職であることを理解できる。</p> <p>2) 社会福祉の法的基盤や行政の仕組みについて説明することができる。</p> <p>3) 社会問題を理解し、それに対して必要な社会資源を結びつけることができる。</p> <p>4) 保育士としての資格を生かすことのできる社会福祉事業を知ることができる。</p> <p>5) 生存権(生きる権利)について説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	橋本好市・宮田徹 編集『学ぶ・わかる・みえる 保育と社会福祉【第3版】』みらい 2019年4月1日 第3版第1刷発行								
参 考 書	<p>流石智子著『日本の母子福祉 これからの母子家庭の幸せを考えるための本』あいり出版 2016年、糸井佐知子著『えっ7人の子ども?』女子パウロ会 2008年、曾和信一著『障がい者・児共生とは何か 「自立と共生」の福祉・教育・保育』ミネルヴァ書房 2007年、宮野誠保著『昔話にみる福祉 ひとつの試み』朝日新聞出版サービス 2001年、小倉襄二・浅野仁編『新版老後保障を学ぶ人のために』世界思想社 2006年</p>								
課題に対するフィードバックの方法	視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用した場合のリアクションペーパーの内容を踏まえ、次の授業冒頭にてコメントを行います。								
留 意 事 項	<p>1) テキスト履修となるので、毎回の講義時には必ずテキストを持参するように。</p> <p>2) ノートについては取り外しができるようルーズリーフが望ましい。</p> <p>3) 視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用する場合には、必ず小レポートを課すことになるので指定された様式にて期限までに提出すること。</p> <p>4) 定期試験(筆記試験)については、予め出題の内容や持込みできる物について説明する。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		社会福祉
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～なぜ「社会福祉」を学ぶのか?～	(学修内容) 1) 講義の進め方と成績評価の方法について 2) 「社会福祉」を学ぶ意味 (事前事後学修課題の内容)(15分) テキストを必ず購入すること。 ノートはルーズリーフが望ましい。
第2回	保育と社会福祉	(学修内容) 1) 少子・高齢社会について 2) 生活課題と社会福祉 3) 社会福祉の概念 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第1章ならびに第2章(pp.15-39)を読んでおくこと。
第3回	社会福祉のあゆみ	(学修内容) 1) 欧米の社会福祉 2) 日本の社会福祉 3) 戦後の社会福祉 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第3章(pp.41-54)を読んでおくこと。
第4回	生活を守る社会保障制度	(学修内容) 1) 社会保障とは 2) 個人の尊厳と生存権 3) 年金と医療と福祉 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第4章(pp.55-70)ならびに第15章(pp.205-220)を読んでおくこと。
第5回	社会福祉の法制度と行財政	(学修内容) 1) 福祉三法から福祉六法へ 2) 福祉行政の実施機関 3) 福祉計画と財源 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第5章ならびに第6章(pp.71-95)を読んでおくこと。
第6回	子どもと児童家庭福祉 ～子どもを取り巻く環境と諸問題～	(学修内容) 1) 子どもの権利保障 2) 子ども・子育てに関する制度の変遷 3) 子どもを取り巻く環境と諸問題 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第8章(pp.105-119)を読んでおくこと。
第7回	子どもと児童家庭福祉 ～子ども虐待の現状と課題～	(学修内容) 1) 子ども虐待の現状 2) 対応する行政機関 3) 社会的養護と家庭的養護 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第8章を再度読んでおくこと。
第8回	障害と社会福祉 ～障害者・児福祉の変遷過程～	(学修内容) 1) 日本人の障害観 2) 障害者の権利とノーマライゼーション 3) 障害に関する制度の変遷過程 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第9章(pp.121-132)を読んでおくこと。
第9回	障害と社会福祉 ～障害のある子どもへの援助～	(学修内容) 1) 障害児の現状 2) 専門施設での援助 3) 関連する課題 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第8章ならびに第9章を読んでおくこと。
第10回	高齢者と社会福祉 ～高齢社会が抱える課題～	(学修内容) 1) 高齢者保健福祉の変遷過程とその課題 2) 介護保険制度の誕生 3) 地域包括ケアシステムの構築 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第10章(pp.133-144)を読んでおくこと。
第11回	高齢者と社会福祉 ～認知症の特性とその介護～	(学修内容) 1) 高齢者の疾病と障害 2) 認知症の特性と理解 3) 介護の現場では (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第7章(pp.97-103)、 第10章を読んでおくこと。
第12回	社会福祉の専門職と倫理	(学修内容) 1) 社会福祉の専門職 2) 社会福祉に関連する専門職 3) 社会福祉専門職の倫理 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第12章(pp.157-174)を読んでおくこと。
第13回	地域で生きるということ ～介護と保育の連携～	(学修内容) 1) タテ割り行政からの脱却 2) 介護と保育の融合 3) 地域共生社会の実現に向けて (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第11章(pp.145-156)を読んでおくこと。
第14回	地域で生きるということ ～小規模施設と地域社会～	(学修内容) 1) 地域密着型施設の誕生 2) 世代間交流 3) ある施設の挑戦 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の内容を復習し、テキスト第11章を再度読んでおくこと。
第15回	まとめにかえて ～「生きる権利」と「社会福祉」～	(学修内容) 1) 全体のふりかえり 2) なぜ「社会福祉」を学ぶのか 3) 保育士と介護福祉士のこれから (事前事後学修課題の内容)(60分) ノートの整理とテキスト第16章(pp.221-226)を読んでおくこと。

授 業 名	日本国憲法			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1206
英 文 名	The Constitution of Japan			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	大庭 弘継			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	憲法や法律は、日常生活であまり意識されないかもしれませんが、しかし、憲法や法律は、私たちの日常生活を支える重要な仕組みです。この講義では、日常生活との関係から憲法や法律をまなぶとともに、犯罪のような事件に巻き込まれたときに役立つ知識、さらに主権者として必須の知識を習得します。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本国憲法を、くらしに関連する法律と共に、理解する。 2) 人生の各段階で直面する様々な問題を、法的側面から理解することができる。 3) 主権者として必要な知識を習得することができる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリントを毎回配布します。								
参 考 書	『おとめ六法』(上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年)、『マンガでわかる日本国憲法』(木山泰嗣監修、池田書店、2014年)、『こども六法』(山崎聡一郎、弘文堂、2019年)、『もしも世界に法律がなかったら』(木山泰嗣、日本実業出版社、2019年)、授業中に適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認のための小テスト等を行い、授業時に解説・コメントを行います。								
留 意 事 項	関連するニュースを取り上げ、発言・コメントを求めます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	質問・相談等は、担当授業終了後に受け付けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	日本国憲法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（憲法、法律、日常生活）	（学修内容）講義概要を紹介し、憲法・法律と日常生活の関係についての概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本授業計画（シラバス）に目を通すとともに、日本国憲法を一読しておくこと。
第2回	幸福追求権と公共の福祉	（学修内容）日本国憲法で規定する「幸福追求権」と「公共の福祉」の関係、「自己情報コントロール権」など新たな自己決定権を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第3回	経済的自由と労働権（フリマアプリ、アルバイト、就職）	（学修内容）いわゆるフリマアプリにより若年層にも身近になった経済活動について、「職業選択の自由」などの憲法規定、労働法規とともに考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第4回	婚姻（恋愛、パートナーシップ）	（学修内容）婚姻は両性の合意のみによって成立する。恋愛関係と婚姻の違い、事実婚について学習する。また離婚の問題について扱う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第5回	家族（家族関係での権利と義務）	（学修内容）家族には、相続や介護といった複雑な問題が付随してくる。家族関係で生じる権利や義務について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第6回	子供の権利	（学修内容）子供（未成年）の権利と制約について、また親と社会の義務について、少年法や子どもの権利条約を含めて、学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第7回	教育と学問（学校制度、学問の自由）	（学修内容）教育を受ける権利を中心に、義務教育と大学の教育の相違、学問の自由について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第8回	表現の自由（SNS、創作活動）	（学修内容）SNSの普及によりネットでの中傷が社会問題化している。憲法に定めのある表現の自由と公共の福祉の関係などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第9回	生存権（社会保障、セーフティネット）	（学修内容）憲法が定める「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に関連する社会福祉、社会保障、公衆衛生について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第10回	犯罪と刑罰（逮捕、刑罰）	（学修内容）憲法は、犯罪と処罰について多くの条文を割いている。被疑者の権利や私人逮捕など、犯罪に巻き込まれた場合に必要となる知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第11回	司法制度（基本原則、裁判員裁判）	（学修内容）憲法が想定する司法制度を学ぶとともに、刑事司法における裁判員制度や民事における裁判外紛争解決手続きなど、現在の司法制度を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第12回	参政権（選挙、幅広い政治参加）	（学修内容）選挙権年齢の18歳への引き下げや、多様な政治参加の進展など、現代の参政権について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第13回	行政権と地方自治（内閣、行政機構、地方自治）	（学修内容）現代の国家において、行政権は国民生活の広範に及んでいる。憲法が想定する行政権の在り方と、行政国家現象と称される実情を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第14回	納税の義務（納税、予算）	（学修内容）この講義では、納税の義務、納税の仕組み（確定申告と源泉徴収など）、納税に準じる年金などの制度、国家予算の仕組みについて概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第15回	憲法改正問題	（学修内容）憲法改正問題について、特に9条の平和主義と自衛権への賛否双方の議論を紹介しつつ、その他の論点や、外国の憲法について紹介する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。

授 業 名	音楽の基礎理論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1207
英 文 名	Basic Theory of Music			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	小川 隆昭			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育現場で必要な音楽理論の基礎学習と並行しながら、初歩的なピアノ技術を身につける。 理論（楽典）については、グループに分かれ、問題を考察し合い、解決するまで互いに話し合う。また、ピアノについては、音楽の補助的役割を担っている。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育現場で使う音楽理論の基礎が理解できる。 2) グループワークによる理論の習得及び、発表によって自身の習得が確認できる。 3) 音楽理論を理解した上で、ピアノを弾くことによって正しく楽譜が読めるようになる。 4) 一人で新しい曲を弾くことが出来るための基礎的な能力を身につける。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (基本的な音楽技術)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『ジュニアクラスの楽典問題集』（ドレミ楽譜出版社）森本琢朗・池田恭子 共著 『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他 経験者は進度に応じた曲								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	音楽理論の課題について、毎回解答の解説を行う。								
留 意 事 項	音楽理論について、理解できるまで担当者に質問すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回、曜日と時間は研究室前に掲示。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：・私立音楽院助手 ・おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導								

授業名	音楽の基礎理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)線と間 ト音記号 音名 ヘ音記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第2回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音符と休符 小節と縦線 拍子記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第3回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)譜表 オクターブ バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第4回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音符と休符 拍子とリズム バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第5回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)強起と弱起 奏法を指示する記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第6回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)強弱を表す記号 シンコペーション バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第7回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)複縦線と反復記号 連符 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第8回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)速度記号 装飾音符と装飾記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第9回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)奏法を指示する用語と記号 変化記号 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く。 今回習ったピアノの復習。
第10回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)幹音と派生音 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第11回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音程(完全音と長音程、短音程) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第12回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音程(幹音どうしの音程の数え方、派生音を含んだ音程の数え方) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第13回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音階(長音階) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第14回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)音階(短音階) バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第15回	音楽理論 ピアノ	(学修内容)和音 バイエルを使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今回習ったピアノの復習

授 業 名	乳児保育			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1303
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	日比野 桂子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育所や認定こども園における乳児3歳未満児(0,1,2歳児)の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し実際の保育場面で活用・探究できる実践力を身につける。</p> <p>1)乳児保育の概念と意義、乳児保育の基本や援助方法を理解する。 2)発達段階の特徴を踏まえ、いのちを守る保育者の立場から、乳児を理解する視点を身につける。 生活や遊び心の育ちの 援助・方法の実際を学ぶ。 3)保護者との連携により乳児を育てる保育者として、地域における子育て支援の実際を学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)乳児期(0,1,2歳児)の理論や基礎的な知識・技術を理解し実践できる。 2)乳児期の発育・発達について理解し、年齢に応じた援助、健康管理、事故防止などの視点を説明できる。 3)保護者支援の重要性を理解し、その対応や配慮事項について簡潔に説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	『講義で学ぶ乳児保育』小山朝子編著 亀崎美沙子 善本眞弓 わかば社 2019年度								
参 考 書	『演習で学ぶ乳児保育』善本眞弓編著 小山朝子 亀崎美沙子 わかば社 0歳~6歳 心の育ちと対話する保育の本 加藤繁美著 (株)学研教育出版 授業中、適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は、授業により、「振り返りテスト」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は、適宜、添削・助言等を行う。								
留 意 事 項	日常生活の中で「乳児」を観察する積極的な意識を持つておくこと。乳児の理解を助けるためにDVDを視聴することにより、保育者としての資質や実践力を深めてほしい。なお、シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味・関心・理解等により、柔軟に対応することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：西七条保育園 保育士として勤務 南山城学園 小規模保育園3園 園長として勤務								

授 業 名		乳児保育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児および乳児保育の目的と役割	(学修内容) 乳児の概念について理解することができる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、シラバスを読んで、内容、評価方法を確認しておく。
第2回	乳児保育の基本、保育制度改革の動向	(学修内容) 乳児期の法的制度および乳児保育の歴史、基本について理解する。 「保育所指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP14～P27に目を通し、養護と教育の一体について要点をまとめておく。振り返りテストを行う
第3回	0,1,2歳児の発達	(学修内容) 保育者として発達段階、発達過程を理解して、受容的・応答的・共感的ななかかわりの重要性を自覚できる。(0歳児～2歳児)(3歳児) (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児期の主な身体の発達、主な言葉の発達、主な社会性の発達に目を通し、気になる箇所を書きだしておく。振り返りテストを行う。
第4回	赤ちゃん運動発達のDVD視聴	(学修内容) 乳児の発達についての道すじを理解し見通しを持った保育援助を理解する。DVD視聴しながら乳児の実際について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 視聴後に得た乳児の運動発達の学びをレポートにまとめる
第5回	乳児(0歳児)の保育内容	(学修内容) 乳児(0歳児)の発達の特徴や道筋について学ぶ。 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (事前事後学修課題の内容) (30分) 0歳児の3つの視点とねらいについて読み込んでおく。 振り返りテストを行う。
第6回	1歳以上3歳未満児の保育内容	(学修内容) 1歳以上3歳未満児の発達の特徴や道筋について学ぶ 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (事前事後学修課題の内容) (30分) 5領域とそれぞれのねらいについて読み込んでおく。 振り返りテストを行う。
第7回	五感を育む遊びやおもちゃ 乳児の年齢に合った絵本の読み聞かせワーク	(学修内容) 乳児の年齢に合った絵本について理解する。ねらい(テーマ)を明確にし読み聞かせのポイントを見つけることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児にふさわしい絵本を選びグループ内でプレゼンテーションする。 事前に課題プリントを作成する。読み聞かせを行う。
第8回	乳児の心の発達(自我の誕生と拡大)	(学修内容) 「探索・探究要求」「同調・共感要求・」「三項関係の成立」心の育ち自我の拡大と第2の自我の誕生の筋道を理解できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2の自我の誕生への保育の大切ななかかわりを具体例をもとにグループワークで理解を深める
第9回	乳児の生活の基本	(学修内容) 乳児の生活の基本(食事・睡眠と休息・排泄・着脱・清潔について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児期の子ども特有の生理的リズム(デイリープログラム)に目を通しておく。テキストP69～P71 振り返りテストを行う。
第10回	乳児の遊び(0歳～2歳)	(学修内容) 乳児の遊びについて年齢ごとに学ぶ。各年齢に適したおもちゃについて理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児の各年齢に適したおもちゃを学び、手作りおもちゃの資料を基に課題プリントを作成する
第11回	五感をはぐくむ遊びやおもちゃ おもちゃ作りワーク	(学修内容) 乳児にとっての生活や遊びについて理解する。安全・安心・快適おもちゃを考案する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) あらかじめ、五感を合成するおもちゃ作りの準備物を持参する。
第12回	乳児保育の環境構成	(学修内容) 0,1,2歳児の保育に必要な環境構成を学ぶ。乳児が安心して過ごせる場の大切さを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 0歳児クラス～2歳児クラスの環境構成の特徴についてまとめておく
第13回	乳児保育における全体的な計画 指導計画の書き方を学ぶワーク	(学修内容) 乳児期の保育課程・指導計画の必要性と考え方を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育計画を作成する際の基本的なポイントをふまえて未完成の指導計画を完成させる
第14回	乳児の健康管理と安全への配慮	(学修内容) 保育室の安全管理、健康管理(SIDSの理解)などリスクマネジメントについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に乳児保育における事故防止・安全対策の資料を読んでおく
第15回	これまでの授業をふりかえり、次につながる保育者としての課題を明確にする。	(学修内容) いのちを守る保育者として、安心・安全・快適にかかわるための課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 今までの、配布資料や、振り返りテストに目を通して、学んだことをまとめておく。

授 業 名	音楽 (ピアノと歌)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE1401
英 文 名	Music			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・加藤 雅子・松村 佳奈・内藤 規子・小瀬治 弘美・千田 浩美・北村 陽子・後藤 由美子・永松 圭子・権田 志帆子・水谷 佳代子・高科 絵美代・阿久津 啓・今井 順子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を身につけるため、ピアノ及び子どものうたの弾き歌いレッスン(個別指導)と、子どもの歌等の歌唱指導(声楽専門教員による集団指導)を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 楽譜を正確に読むことができる 2) 基礎的なピアノ演奏技術を習得し、『バイエルピアノ教則本』96番以上の曲を弾くことができる 3) 基本的な歌唱法を習得し、『子どものうた』を大きな声で正確に歌うことができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (音楽的基礎能力)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 (演奏能力)		
テ キ ス ト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室発行)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回練習してきた曲について個別指導を行い、口頭で助言・指導を行う。								
留 意 事 項	『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』の弾き歌いは、レッスンのステップ表(1回目の授業で配布)に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップ9(全15ステップ)まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は、1回生終了時に音楽 を必ず修了する必要がありますので留意してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	音楽（ピアノと歌）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）レッスンの進め方と注意事項等の説明・担当教員の紹介・各自のピアノレッスン曲の決定 （事前事後学修課題の内容）（60分） 小中高等学校の音楽の授業で学んだ基本的な音楽理論を復習しておく（各レッスン担当者が口頭で理解度を確認する）。
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]腹式呼吸と発声法・手遊び歌	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸の習得と発声法・手遊び歌「キャベツ」遊び歌「大きな栗の木の下で」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]腹式呼吸と発声法・手遊び歌と季節の歌	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸と発声法・手遊び歌「パンダ・うさぎ・コアラ」季節の歌「こいのぼり」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音の高さ
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]腹式呼吸と発声法・輪唱	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]腹式呼吸の習得と発声法・輪唱「かえるの合唱」「一年中のうた」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 大譜表
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]輪唱（小グループ活動）	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]輪唱「一年中のうた」（小グループ活動） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音名と変化記号
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]輪唱のグループ発表（小テスト）	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]輪唱「一年中のうた」のグループ発表 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「おべんとう」「おつかいありさん」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 変化記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「こぶためきつねこ」「かたつむり」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音符と休符
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「いぬのおまわりさん」「アイアイ」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上） 宿題：音楽理論のプリント 音符
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「いぬのおまわりさん」「アイアイ」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズムの練習	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・付点とシンコペーションのリズム「アンパンマンたいそう」 （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・試験曲の発表と個人ボイスチェック	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の発表と個人ボイスチェック （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・試験曲（個人ボイスチェック）	（学修内容）[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の練習（個人ボイスチェック） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける曲を練習する（1日20分～30分以上）
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・試験曲（個人ボイスチェック）	（学修内容）[ピアノ]各自指定された試験曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・試験曲の練習（個人ボイスチェック） （事前事後学修課題の内容）（140分） 各自レッスンを受ける試験曲を練習する（1日20分～30分以上）
第15回	声楽のまとめ	（学修内容）「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 （事前事後学修課題の内容）（140分） 声楽の試験曲を練習する（30分以上） ピアノの試験曲を練習する（1日20分～30分以上）

授 業 名	音楽 (ピアノと歌)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE1408
英 文 名	Music			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・永峯 翠子・内藤 規子・小鍛治 弘美・権田 志帆子・千田 浩美・北村 陽子・後藤 由美子・水谷 佳代子・永松 圭子・加藤 雅子・松村 佳奈・高科 絵美代・今井 順子・阿久津 啓			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽 で修得した音楽的感性と知識・技能を更に発展させ、幼稚園教諭及び保育士に求められる音楽の基礎力を高める。音楽 に引き続き、 ピアノ及び子どものうたの弾き歌いレッスン(個別指導)と、 子どもの歌の歌唱指導(声楽専門教員による集団指導)を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 『ブルグミュラー25の練習曲』1番以上の曲を弾くことができる(『バイエルピアノ教則本』は終了する)。 2) 子どものうた・生活のうたの弾き歌いができる。 3) 保育実習・教育実習に必要な、基本的な歌唱法を身につけ、『子どものうた』を大きな声で表情豊かに歌うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (音楽的能力)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 (演奏能力)				
テ キ ス ト	『バイエルピアノ教則本』バイエル著(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学発行)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回練習してきた曲について個別指導を行う。								
留 意 事 項	『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』は、レッスンのステップ表(音楽 で配布)に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップをすべて(全15ステップ)終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を希望する学生は、必ず1回生のうちに音楽 を修了しなくてはならないので留意してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	音楽（ピアノと歌）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・『コンコーネ50番』よりNo.8・秋の歌「こおろぎ」「きくのはな」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]仏教聖歌・発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]仏教聖歌・『コンコーネ50番』よりNo.8・秋の歌「きのこ」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「コンコーネ50番」よりNo.11・秋の歌「まっかな秋」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]発声の発展・秋の歌	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]「コンコーネ50番」よりNo.11・秋の歌「やきいもグーチーパー」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 拍子
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズムの発展	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズムの発展「となりのトトロ」「小さな世界」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント シンコーペーション・アフタクト
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズムの発展	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズムの発展「さんぽ」「小さな世界」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 奏法
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズムの発展	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズムの発展「うたえバンバン」「思い出のアルバム」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 繰り返し記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム打ち	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム打ち「思い出のアルバム」「ぞうさん」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム打ち(小テスト)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム打ち「ぞうさん」(小テスト) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム遊び(小グループ活動)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム遊び(カスタネット・鈴・タンバリン)「あわてんぼうのサンタクロース」 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]リズム遊び(小グループ活動・発表)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]リズム遊び(カスタネット・鈴・タンバリン)「あわてんぼうのサンタクロース」発表 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]試験曲の発表と個人ボイスチェック	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]試験曲の発表と個人ボイスチェック (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]試験曲(個人ボイスチェック)	(学修内容)[ピアノ]各自指定されたレッスン曲の個別指導/[声楽]試験曲の練習(個人ボイスチェック) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いの個別レッスン [声楽]試験曲(個人ボイスチェック)	(学修内容)[ピアノ]各自指定された試験曲の個別指導/[声楽]試験曲の練習(個人ボイスチェック) (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける試験曲を練習する(1日20分～30分以上)
第15回	声楽のまとめ	(学修内容)「子どものうた」歌唱指導の総括と声楽小試験 (事前事後学修課題の内容)(140分) 声楽の試験曲を練習する(30分以上) ピアノの試験曲を練習する(1日20分～30分以上)

授 業 名	形象音楽			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1402
英 文 名	Figurative Music			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	東田 みすづ			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>形象音楽とは音楽を形に表す意味で、インドのラーガ思想を参考に命名した科目である。1回生で履修する音楽の基礎技能の上に立って子どものうたの歌唱を中心に、その内容の具象化即ち、折り紙・手あそび・壁面飾り・あやとり等をもって、歌の内容のイメージを具体的に表現させ、創意工夫させ、歌の心をより深く浸透させ、イメージを形作る能力の養成を目指す。又、グループワークを取り入れながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 子どものうたを正確に歌えることが出来る。 2) 手遊びのレポトリーや、折り紙の折り方を多く覚えることが出来る。 3) 子ども達に指導するスキルを高めることが出来る。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (イメージを形作る能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室編 プリント を使用する								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された制作物はその都度コメントを返します。								
留 意 事 項	課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレポトリーを増やせるように努力すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：保育士、主任保育士、所長として向日市公立保育所勤務。40年間の経験をもとに歌や手遊び、製作など子どもの発達を交えながら話をします。</p>								

授業名	形象音楽	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び	(学修内容) 授業についての説明 子どものうた・手あそび 自己紹介・グループ分け。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを確認しておくこと。
第2回	歌唱・手遊び・毛糸遊び	(学修内容) わらべ歌 毛糸で遊ぶ、くさり編み あやとり。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 次の授業の準備をする。
第3回	歌唱・手遊び・パクパク人形作り	(学修内容) パクパク人形を作って音楽に合わせて遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる
第4回	歌唱・手遊び・ペープサート作り。	(学修内容) 子どものうたを中心にペープサートを作って演じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる
第5回	歌唱・手遊び・わらべうた。	(学修内容) 昔から歌い継がれているわらべうたをうたう。 グループ解散。新グループ決め。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる
第6回	歌唱・手遊び・ペープサート作り。	(学修内容) 歌の中に出てくるものを作って動かす。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。
第7回	歌唱・手遊び・パッチンガエル作り。	(学修内容) 子どもの歌を中心にパッチンガエルを作って飛ばして遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 次の授業の準備をする
第8回	歌唱・手遊び・手作り楽器を作る。	(学修内容) 音のなるものを作り曲に合わせて鳴らして遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。次の授業の準備をする。
第9回	歌唱・手遊び・合奏	(学修内容) グループで家から持ってきた物と前回作った楽器で合奏する。 グループ解散。新グループ決め。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どものうたを一曲選び、理解を深めておく。
第10回	歌唱・手遊び・ペープサート作り。	(学修内容) 歌に登場するものを作り、曲に合わせて動かす。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。
第11回	歌唱・手遊び・あやしあそび、いないいないばあなど	(学修内容) 同じ遊びでも年齢によってやり方も意味も違ってくことを知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) あやしあそびとは何か調べておく。
第12回	歌唱・手遊び・今までのものを使って発表のための打ち合わせ。	(学修内容) 11回までの授業のものを使い、グループで企画し発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 意見を出し合い、課題に取り組む。
第13回	歌唱・手遊び・話し合ったものを製作する。	(学修内容) 発表のためのものを製作する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる
第14回	歌唱・手遊び・発表	(学修内容) 練習したものを発表する。ほかのグループのものを見て感想を言う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる
第15回	歌唱・手遊び・発表・総括	(学修内容) 練習したものを発表する。ほかのグループのものを見て感想を言う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 積極的に意見交換をする。

授 業 名	図画工作			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1403
英 文 名	Arts and Crafts			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	山部 泰司・藤本 裕紀・服部 正志			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもの発達にとって大切な絵を描いたり、物をつくったりする子どもの造形表現を指導・支援するための図画工作の基礎的な技能や知識について学ぶとともに、制作を楽しみ、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力を育てるための創作活動を実施する。また、その制作、制作物について記録できる力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 様々な表現の方法を、描いたり作ったりする体験を通して学ぶ。 2) 表現方法や材料を工夫して自分らしい作品をつくることできる。 3) 制作した作品やその表現技法、作品に考察を加え、美しく分かりやすくまとめることできる。 4) 秋学期の「新装開店 子どもデパート」についての導入を行う。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (造形力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林								
参 考 書	保育所保育指針、幼稚園教育要領の改訂についてなど、参考資料のプリントを授業時に配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	各課題の提出時、また、制作物をまとめたワークブックについて指導を行う。								
留 意 事 項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。 必携の画材、スケッチブックを購入すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。								

授業名	図画工作	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 鉛筆の表現、なぐりがき	(学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 鉛筆で描く (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通してまとめておく 必携教材を持参すること
第2回	水彩絵の具による表現 にじみ絵など	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法にじみ絵などの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所114, 120, 121頁を読んでまとめておく
第3回	水彩絵の具による表現 ドリッピングほか	(学修内容) 水彩絵の具の技法 ドリッピング、デカルコマニーなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所50, 51, 122, 123頁などを読んでまとめておく
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 学習した技法について調べてまとめておく
第5回	水彩絵の具による表現 スパッタリングなど	(学修内容) 水彩絵の具の技法 スパッタリング、スタンピングなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所23頁などを読んでまとめておく
第6回	水彩絵の具・パスによる表現	(学修内容) 水彩絵の具・パスによる技法 パチック、など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所54, 55, 56, 57頁などを読んでまとめておく
第7回	水彩絵の具・パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所に目を通してまとめておく
第8回	パスによる表現	(学修内容) パスによる技法 フロッタージュ、スクラッチなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所124, 125, 128, 129頁などを読んでまとめておく
第9回	パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 学習した技法について調べてまとめておく
第10回	フロッタージュ(表面の凹凸を写す) カラージュ(フロッタージュからの展開)	(学修内容) カラージュの技法による個人の表現 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書130, 131頁を読んでまとめておく
第11回	いろいろな版画表現	(学修内容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所150, 151頁などを読んでまとめておく
第12回	「新装開店 子どもデパート」の導入	(学修内容) 課題についての説明とグループ作り (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの造形活動について考えながら、教科書を読んでまとめておく 前回までの作品をまとめてスケッチブックを提出する
第13回	「新装開店 子どもデパート」のアイデアづくり	(学修内容) 課題についてのグループ、ディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の作品のアイデアを考えてまとめておく
第14回	「新装開店 子どもデパート」の製作計画	(学修内容) 「新装開店 子どもデパート」で必要な材料や技法について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の関連箇所を読んでまとめておく
第15回	まとめ・レポート	(学修内容) 授業全体の振り返り、造形表現の意味と大切さについて学ぶ。 作品、および、ワークブックの返却 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業で学んだ事を振り返ってまとめておく

授業名	図画工作			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1409
英文名	Arts and Crafts			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山部 泰司・藤本 裕紀・服部 正志			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	この授業では、さまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。又、子どもの生活環境や発達に応じた素材や課題の選択、用具の扱い方や環境の整備についての理解を深める。 「子どもデパート」の取り組みでは、グループワーク、ディスカッションを通して発表の方法を工夫し、子どもの意欲をひき出す動機付けや声かけなど主体的に学ぶ機会とする。また、後半の授業では保育の場でよく使われる造形材料などについて学ぶ。								
学修成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ちながら、図画工作についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容や気持ちを理解できる柔軟な感性を養う。 3) 子どもの発達と造形表現について理解して活動の方法や題材を計画する力を身につける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (造形力)	プレゼンテーション能力 (表現力)		課題発見・解決能力		
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林 (1回生春学期購入のものを使用)								
参考書	プリント等で配布する								
課題に対するフィードバックの方法	「子どもデパート」についてのまとめレポート、自己評価チェック票による学修内容の到達度を知る								
留意事項	第1回から7回の授業は、チームによるグループワーク、創作活動になります。 子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。 「子どもデパート」の発表において子どもとの関わりの機会を持ちます。								
オフィスアワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。								

授業名	図画工作	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもデパート	(学修内容) 子どもデパートのための課題の説明 春学期のディスカッションの内容を振り返り、グループにより計画する (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期のさまざまな技法の学習を復習してまとめておく 教科書24～29頁を読んでまとめておく。
第2回	子どもデパート	(学修内容) 課題についてのグループでの相談する 具体的な制作物やプランについて話し、工夫する (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめておく 教科書30～41頁を読んでまとめておく。
第3回	子どもデパート	(学修内容) 材料について理解し、制作の分担や行程について把握し、話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) さまざまな素材を探してまとめておく 教科書42～47頁を読んでまとめておく。
第4回	子どもデパート	(学修内容) 子どもを想定して展示の環境構成について工夫する (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの動きと活動について考えてまとめておく
第5回	子どもデパート	(学修内容) 華頂祭での作品の準備と展示の素材を完成させる (事前事後学修課題の内容)(30分) 展示作業などの予定を立てまとめておく
第6回	子どもデパートの発表	(学修内容) グループでの制作をもとに子どもと関わり、子どもを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの発達について調べまとめておく 教科書106～107頁を読んでまとめておく。
第7回	子どもデパートのまとめと考察	(学修内容) 課題が達成できたか。レポートと考察をおこなう (事前事後学修課題の内容)(30分) 自らの取り組みについて考えてまとめておく
第8回	指絵の具をつくる	(学修内容) 指絵の具について学び、指絵の具をつかって表現する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト112,151頁を読んでまとめておく
第9回	小麦粉粘土をつくる	(学修内容) 小麦粉粘土の制作と遊び 子どもと粘土の出会いについて考えて話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト158～163頁を読んでまとめておく
第10回	張り子の制作 1	(学修内容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (事前事後学修課題の内容)(30分) つくりたい作品のアイデアを考えてまとめておく
第11回	張り子の制作 2	(学修内容) 彩色とニス塗り はりこを完成させる (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の内容を完成させておく
第12回	マーブリング紙の制作	(学修内容) マーブリング紙をつくる 色彩の美しさや偶然にできるかたちの面白さに気づく (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト126,127頁を読んでまとめておく
第13回	マーブリング紙の活用	(学修内容) 制作したマーブリング紙で何かをつくる 作品を記録して提出する (事前事後学修課題の内容)(30分) アイデアを考えてまとめておく
第14回	スライムをつくる	(学修内容) スライムの制作と遊びへの展開 スライムと子どもの活動について考える (事前事後学修課題の内容)(30分) スライムについて調べその技法をまとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) 秋学期の授業を振り返り、レポートと講評において、自ら到達した内容 について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 自らの活動について考えてまとめておく 教科書207～213頁を読んでまとめておく。

授 業 名	子どもと運動b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE1410
英 文 名	Infant Physical Education			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	幼児教育1CD				
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積んでいく必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験しながら、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導方法や援助について学び、運動遊びの重要性を理解する。保育の現場で、子どもたちにどのように言葉かけをすれば、子どもたちのやる気を引き出せるかを考える授業でもある。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>(1)保育現場で運動遊びの指導をする時に、理解しておかなければならない理論と実践を学ぶこと によって運動遊びの指導ができる。 (2)子どもたちが楽しいと感じられる運動遊びの指導ができる。 (3)友達と一緒に体を動かすことの楽しさを、子どもに伝えることができる。 (4)子どもの発育・発達を理解し集団遊びの指導ができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『新・体育あそびアラカルト』 西村誠・山口孝治・榎岡義明編著								
参 考 書	<p>『幼児体育 基礎理論と指導の方法』 前橋明編著 樹村房 『幼児の運動遊び』 菊池秀範・石井美晴編著(相川書房) 『0~5歳児の運動遊び指導百科』 前橋明著(ひかりにくに株式会社)</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出されたレポートは、コメントを付けて返却する。 実技については、その都度コメントをする。</p>								
留 意 事 項	<p>保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。 毎回の学習内容をノートにまとめておく。課題で提示される内容について調べておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：復活幼稚園・向陽幼稚園・ひかり幼稚園・篠村幼稚園{運動遊び・リズム遊び指導}(講師) 奈良教育大学附属小学校(非常勤講師)京都文教短期大学{幼児体育}(非常勤講師) 佛光大学{表演運動}(非常勤講師) 大谷大学{保育内容健康}(非常勤講師)</p>								

授 業 名		子どもと運動b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明。 子どもの運動遊びの必要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容をノートにまとめる。	
第2回	基本の運動	(学修内容) 歩く・走るの違いについて知る。歩く・走る・跳ぶの動きからいろいろな遊びに発展させることを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 基本の運動にはどのような運動があるかを調べノートにまとめる。	
第3回	リズム運動	(学修内容) いろいろなリズムに反応して動いてみる。(反応遊び) 2拍子～4拍子のリズム遊び。 (事前事後学修課題の内容) (60分) どのようなリズムが有るのか考え、ノートにまとめる。	
第4回	リズムダンス	(学修内容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身につける。子どもが楽しめるリズムダンス。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 幼児の好きな曲を選曲し、簡単な動きを考えノートにまとめて提出する。	
第5回	ボール遊び	(学修内容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・ころがす・投げる・受ける・などの遊びを行う。ボール遊びを安全に行うための指導を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 少人数で行うボール遊びを考えノートにまとめる。	
第6回	ボールでゲーム遊び	(学修内容) 多人数でのボール遊び。いろいろなゲーム遊びを体験し、子ども達に楽しいゲーム遊びを提供出来るようにする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どものところに遊んだゲーム遊びを思い出し、ノートにまとめる。	
第7回	フープ遊び	(学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ遊びを行う。フープ遊びを安全に行うための指導を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろなフープ遊びを考えノートにまとめる。	
第8回	フープでゲーム遊び	(学修内容) グループでのフープ遊びを行う。グループで競争ゲームを行う。協力する事を経験する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろなゲーム遊びを考えノートにまとめる。	
第9回	マット遊び	(学修内容) 床を利用しているような動きを行う。(床となかよし這い這いで進む、動物遊び) 基本的技能をしっかり把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) いろいろな動物のうごきを考え、ノートにまとめる。	
第10回	マット遊びの補助	(学修内容) マット遊びの注意点について説明。前転・後転の補助の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 補助で大事な事は何かをノートにまとめる。	
第11回	体操をつくる	(学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操をつくる。幼児の年齢に合った体操を考える。グループディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの年齢に合った体操を考え、レポートにまとめて提出する。	
第12回	体操をつくる 曲を選択する	(学修内容) 子どもが動きたくなる曲と動きになっているかを見直し、より良い体操に仕上げる。グループディスカッション。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体操の動きを変えた部分を書き出し提出する。	
第13回	体操の発表	(学修内容) 各グループの体操の評価をする。評価表で各自責任を持って評価をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体操のグループの評価をノートにまとめる。	
第14回	パラバルーン遊び	(学修内容) パラバルーンの扱い方を知る。みんなと協力して行う遊びである事を知る。(協力遊び) 敏捷性・判断力・協調性等養う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パラバルーンの遊びを調べノートにまとめる。	
第15回	まとめ	(学修内容) 授業全体の振り返りを行い、学びや課題について話し合う。運動遊びの指導を行う時の保育者の役割について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 運動遊びの重要性を、レポートにまとめて提出する。	

授業名	子どもと運動 a・c			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1410
英文名	Infant Physical Education			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	眞崎 雅子			対象学生	幼児教育1AB・1EF				
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動経験を積む必要がある。運動遊びの実践を通して、遊びの中で体を動かす楽しさを体験し、それらの遊びの特性について理解を深める。子どもの発育・発達を視野に入れながら、多様な運動遊びの指導や援助について学習する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 様々な運動遊びを経験し、子どもの発育・発達に応じた遊びを工夫できる 2) 遊びの展開・発展に必要な着眼点や基本的な配慮点がわかる 3) 楽しく多様な動きを取り入れ、年齢に応じた子どもの体操を創作・指導できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する								
参考書	「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 「保育内容『表現』 からだで感じる・表す・伝える 」株式会社杏林書院								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、返却し解説します								
留意事項	積極的な受講姿勢を尊重する。自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。 次々と新しい教材を学ぶので、毎回各自で予習・復習をしっかりとすること。授業の進行具合により、学習項目が変更になる場合もある。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など： ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。以下活動実績； <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象としたダンス指導 ・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師 ・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師 								

授 業 名		子どもと運動 a・c
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。 幼児期の運動遊びの必要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第2回	幼児期の運動・リズム遊び	(学修内容) リズム遊びが子どもの心と体の成長にどのように寄与するのかを、手遊び歌やわらべ唄に合わせた体遊びの体験を通して考察する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: 手遊びやリズム遊びについて調べておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第3回	リズム遊び	(学修内容) 多様なリズムに反応して動いてみる。リズム表現から体全体を使った表現へと発展させ、身体機能を高める方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: 多様なリズムパターンについて考えておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第4回	リズムダンス	(学修内容) リズミカルな動きを習得し、リズムダンスの楽しさを体感すると同時に表現力を身につける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: 発達年齢に応じた動きについて調べておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第5回	36の動きとジェスチャーゲーム	(学修内容) 幼児期に身に付けておきたい動き(36の動きを中心に)を確認し、ジェスチャーを通して多様な動きの獲得について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: 幼児期に獲得すべき基本動作を調べておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第6回	フープ遊び・縄	(学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ等の様々な遊びを通して、個から集団へと遊びの展開方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: 色々なフープ遊びを考えておく。 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第7回	マット遊び	(学修内容) マットを利用した遊びを通して、動きのパリエーションについて学ぶ。 前転・後転・側転遊びの補助の方法を身に付ける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: マット遊びとして動物のなりきり遊びについて調べておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第8回	マット・跳び箱・平均台を使った遊び	(学修内容) マット・跳び箱・平均台の特性について理解し、それらを利用した遊びを通して、遊びのレパートリーを広げる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第9回	身近にあるモノを使った遊び サーキット遊びの計画	(学修内容) 身近にある新聞紙・袋などを使った遊びを通して、即興的に子どもが楽しめる遊びについて理解し、次週のサーキット遊びを計画する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: マット・跳び箱・平均台の特性と多様な遊びについて調べておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第10回	サーキット遊びの展開	(学修内容) グループで考案したサーキット遊びを実施し展開させ、保育者・子どもの視点から評価する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: グループで計画を練っておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第11回	パラバルーン遊び	(学修内容) パラバルーンの特性を知り、基本の動きから大技まで表現方法を学ぶ。 グループで協働的に作品を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: パラバルーンの特性や表現方法について調べておく 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第12回	子どもの体操創作(発達年齢に応じた動きの選択)	(学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操を創作する。幼児の年齢に合った体操を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: 人気のあるキッズダンスを参考に年齢に合わせた曲や動きを考える 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第13回	子どもの体操創作(曲に合った動きの選択)	(学修内容) 体操の動きを見直し、様々な動きを取り入れたリズミカルで効果的な体操に仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: 子ども達が楽しめる効果的な体操の流れについて確認し修正する 後: 授業内容と振り返りをクラスルームで提出する
第14回	創作体操の発表会(自己評価と他者評価)	(学修内容) 発表した体操の自己・他者評価をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前: グループ練習・自主練習をする 後: 創作した体操をお互いに評価しグループ・個人で改善点をまとめる
第15回	子どもと運動についての学びと振り返り	(学修内容) 授業での学びについて振り返りレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児の運動・表現遊びで大切なことをまとめておく

授業名	教育実習事前・事後指導 a			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1413
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	鈴木 えり子・浅田 瞳・東野 洋子・渋谷 郁子・伊原 安見子・柘植 誠子			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園教諭として責任ある行動がとれるように、教育実習の意義・目標・実際の計画や内容を学習し、望ましい教師になるための実践を積む。実習では講義や演習・実技で学んだ授業を総合的に実践することを確認する。								
学修成果到達目標	1) 幼稚園現場で実際に保育し幼児理解を学び身に付けたことが実践できるように、総合的な力を身につけることができる。 2) 幼稚園見学・保育の観察記録・指導計画案の理解などを通して、幼稚園教育実習への意識と責任をもつことができる。 3) 幼稚園現場研修に参加して現場体験から学ぶことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テキスト	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 京都教育大学附属幼稚園編「教育課程・指導計画」授業内でプリントを配布する								
参考書	授業内で紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	授業中に提出されたレポートに対して、コメントをつけて返却し授業内で解説を行う。								
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。 免許取得にかかわる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。								
オフィスアワー	各教員が授業内に伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 幼稚園実習の意義と目的	(学修内容) 授業の進め方、受講の心構えを理解する。幼稚園教育の意義、目的、方法について理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでくる。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第2回	幼稚園とは	(学修内容) 幼稚園教育の目的を理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (50分) 幼稚園教育要領の総則を読み、幼稚園教育の目的を考える。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第3回	幼稚園教育の実際 2回生から体験を聴く会	(学修内容) 実習の体験を聴き自分たちの実習に見通しをもつ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習体験を聞いてまとめるとともに、各自の課題を明確にする。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第4回	自己紹介の実践	(学修内容) 実習を想定した自己紹介を実践し省察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己紹介の発表準備を行う。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第5回	実技・教材研究 (制作と遊び)	(学修内容) 季節の行事に関連した制作と制作物を使った遊びを体験する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 制作に必要なものを確認して準備しておく。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第6回	幼稚園教諭の役割	(学修内容) 幼稚園の教師の役割について学ぶ。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をワークシートに書いておく。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第7回	実技・教材研究 (運動あそび)	(学修内容) 運動あそびの実践を通して、活動の導入・展開・まとめの指導計画の流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育活動において教師が活動前にしなければならない具体的なことをまとめてレポート提出する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第8回	実習記録の書き方	(学修内容) 幼稚園実習記録の書き方について理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習記録の書き方を見直しておく。前半に取り上げた幼児の歌の弾き歌いが2曲以上弾き歌いができるように練習する。	
第9回	幼稚園の見学について	(学修内容) 華頂幼稚園の概要 見学の注意事項の確認をする。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 幼稚園の見学の目的、注意事項を確認する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第10回	華頂短期大学附属幼稚園見学	(学修内容) 幼稚園へ見学に行き子どもを観察する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 華頂幼稚園のしおりを読む。見学に必要なものを準備する。見学後に観察実習記録をまとめて提出する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第11回	華頂幼稚園見学の振り返り	(学修内容) 幼稚園見学を振り返る。各クラスの保育の内容を知り理解を図る。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 見学・観察実習の内容を振り返り、華頂幼稚園の指導案を見直しておく。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第12回	実技・教材研究 (行事と保育)	(学修内容) 季節感を取り入れた制作を主とした保育の流れを体験する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 幼児が興味をもつ教材について調べる。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第13回	指導案とは(指導案を立てる際のポイント)	(学修内容) 指導案の構成、指導案を立てる際のポイントを理解する。幼児の歌から3曲程度、指導と解説をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内の実践活動を振り返り、実践を振り返って指導計画を立案し提出する。幼児の歌の弾き歌いを練習をする。	
第14回	歌唱指導の方法	(学修内容) 実習での歌唱指導の方法について実践を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内で取り上げた幼児の歌の弾き歌いをできるように練習しておく。実習場で歌う歌や現場で弾く歌を想定しておく。	
第15回	幼稚園現場研修のまとめ 履修カルテの記入	(学修内容) 各現場研修の状況と体験について共通理解し、2回生の教育実習に向けて各自の課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1年間を振り返り、配布プリントをファイルを綴じて内容を見直しておく。	

授 業 名	保育の心理学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1202
英 文 名	Child Care Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>幼児期を中心とした子どもの諸領域における発達および学習の様相を知り、人との相互的にかかわりの重要性を理解して、教育実践に応用する力を身につけることを目的とする。授業の中では、人間の生涯にわたる発達のメカニズムと変化のプロセスについて学ぶ。また、その基盤となる乳幼児期の重要性を理解する。身体、知覚、感情、思考、社会性などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える保育・教育実践について考察を行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 幼児期を中心とした子どもの発達および学習の過程について説明することができる。 2) 人との相互的関わりの重要性を理解し、保育・教育の実践に応用することができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香(編著)「あなたと生きる発達心理学 子どもの世界を発見する保育のおもしろさを求めて」(2019年)ナカニシヤ出版								
参 考 書	適宜、授業内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	講義内で実施する筆記試験や提出物を回収後、添削して返却するとともに解答を解説します。								
留 意 事 項	復習をしっかりと行い、基本的な心理用語や理論を覚えること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝える。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務								

授 業 名		保育の心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス：保育における発達心理学の意義と役割	<p>(学修内容) 子ども理解のために発達心理学の知識が必要であることを知る。生涯発達の観点、発達の原理について学ぶ。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 自分自身の幼少期の保育経験や子どもとかわった経験について思い出す。</p>	
第2回	発達の規定因	<p>(学修内容) 遺伝と環境が発達に及ぼす影響を理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。</p>	
第3回	身体的機能と運動機能の発達	<p>(学修内容) 新生児期～幼児期における発達のメカニズム(法則性・順序性)や、身体の成長、粗大・微細運動の発達過程を学ぶ。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。</p>	
第4回	知覚・認知の発達	<p>(学修内容) 乳幼児期の感覚・知覚機能の発達および感覚・知覚機能と認知過程の関連を理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 人間の思考の原点となる感覚・知覚機能について考えを整理する。</p>	
第5回	思考の発達	<p>(学修内容) ピアジェの発達理論について学び、発達とともに思考が深まる過程を理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 同化と調節について、具体例を考える。</p>	
第6回	言葉の発達	<p>(学修内容) 人間の言葉の機能や特徴を理解し、言葉の発達過程を概観する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の言葉の発達はどうか、家族から聞き取る。</p>	
第7回	社会情動的な発達	<p>(学修内容) 社会情動的発達を理解し、情動を制御する力について感情の発達と合わせて学ぶ。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の情動を制御する力はいつ頃から育ってきたか、自分の成長を振り返る。</p>	
第8回	仲間関係の発達	<p>(学修内容) 仲間関係の変化を、遊びの形態の変化と共に理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 仲間関係を支える保育者の役割について考える。</p>	
第9回	他者理解と自己理解	<p>(学修内容) 仲間関係の中で他者理解や自己理解が深まっていく過程を理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の友達との付き合い方を振り返る。</p>	
第10回	道徳性の発達	<p>(学修内容) 善悪の理解や道徳的判断の発達を学ぶ。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 思いやりのある子どもを育てるにはどうすればよいか、保育者の関わり方を考える。</p>	
第11回	社会性の発達	<p>(学修内容) 生涯にわたる人間の心理・社会的発達を概観する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の家族について年表を作成する。</p>	
第12回	学習と発達	<p>(学修内容) 条件づけや観察学習など、「学び」の基本的な原理を理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) さまざまな学習の具体例を考える。</p>	
第13回	動機づけと子どもの学び	<p>(学修内容) 学びの原動力になる「やる気」について、動機づけのメカニズムを理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) やる気の出るとき、出ないときについて、自分自身の行動を振り返る。</p>	
第14回	子どもの主体性と学び	<p>(学修内容) 子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 保育における足場作りの具体例を考える。</p>	
第15回	子ども理解に基づいた保育のあり方	<p>(学修内容) 保育における子ども理解のための方法(観察、記録など)について理解する。</p> <p>(事前事後学修課題の内容) (20分) 15回の授業を振り返り、自分の学びを評価する。</p>	

授 業 名	保育者論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE1209
英 文 名	Theory of Child Care Worker			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもを取り巻く環境が多様化するなかで、これからの時代に求められる保育者の役割や責務、保育者として守るべき倫理や制度的位置づけについて解説する。保育者の職務内容を具体的に理解することで、そのために必要な専門性を意識し、主体的に学ぶ姿勢を育むため学生自身が考え意見を述べる時間も多分に確保しながらすすめる。また、インシデントやエピソード（事例）なども取り入れ、実践を具体的に想像しながら学ぶ講義とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育者の役割を理解することができる。 2) 保育者の職務の全体像を理解することができる。 3) 保育者は専門性の向上が必要であることを理解することができる。 4) 事例検討などを通じて自主的に学ぶことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	上野恭裕・米谷光弘編著『コンパス保育者論』(2021)建帛社 『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』								
参 考 書	授業中に随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で筆記試験（数回実施）、提出課題回収後、採点して返却します。その際に解答の解説もします。								
留 意 事 項	子どもに関する時事問題や保育に関する動きなど新聞や保育雑誌などから常に理解しておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に対応する（変更の場合は、研究室に日時を貼付する。）								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大津市職員 保育士として勤務								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育者の役割 子どもにとっての保育者の存在	(学修内容) 保育者の役割 子どもにとっての保育者の存在の重要性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 序章を読んでくる	
第2回	保育者の倫理	(学修内容) 全国保育士会倫理綱領 保育者に必要な倫理(専門的倫理) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第7章を読んでくる	
第3回	保育者の資格と責務	(学修内容) 保育士の職務 幼稚園教諭の職務 保育教諭の要件 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章-2.3.4を読んでくる	
第4回	養護と教育の関係	(学修内容) 保育における養護 保育における教育 養護と教育が一体となった保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる	
第5回	保育者の資質と能力	(学修内容) 保育者として求められる資質と能力 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章-3.を読んでくる	
第6回	専門的な知識・技術と判断 (ICT活用)	(学修内容) 必要とされる専門的な知識や技術 事例から考える保育者の判断 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育士のキャリアアップ制度について調べてくる(30分) PCにてレポート作成	
第7回	保育者の省察と保育の評価	(学修内容) 保育記録の意味 保育におけるPDCAサイクル 保育者の自己評価と園の自己評価 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第8章-2.を読んでくる(30分)	
第8回	保育課程と保育の実際 (事例検討)	(学修内容) 全体的な計画、指導計画の編成 子どもの実態に即した保育(事例検討) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第9章を読んでくる(30分)	
第9回	指導計画の立案	(学修内容) 子どもの実態に即した指導計画の立案 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に配布した指導計画案を見ておく。	
第10回	保育者同士の連携・協働	(学修内容) 保育者連携、情報の共有、協働の実際 組織の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第5章を読んでくる	
第11回	専門機関との連携	(学修内容) 医療・保健・福祉・療育・教育機関など専門機関との連携 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第5章を読んでくる	
第12回	保護者との連携 (ポスター作成)	(学修内容) 子育て支援の必要性 地域社会との連携 保幼小の連携・接続 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保護者の現況を把握し、まとめてくる(800字程度) PCにて作成	
第13回	家庭的保育	(学修内容) 家庭的保育の特徴 家庭的保育の現状 安全対策と連携 教材研究(保育者の視点をもって) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第13講を読んでくる	
第14回	保育者の専門性の向上	(学修内容) 保育者の成長発達 保育者の専門性 保育者の研修 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第14講、第15講を読んでくる	
第15回	まとめ これからの保育者像	(学修内容) 授業の振り返り 保育者観の形成 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業で学んだことを振り返っておく	

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1406
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	高岡 理恵・林 静香・武田 康晴・日比野 桂子・安藤 正彦・野田 隆生			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	この授業は、保育を担う豊かな感性をもつ保育士資格を取得するための必修科目であるため、保育士に必要な知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。 具体的には、実習事前準備として、実習目標や記録の意義の理解、保育実習の意義・目的の理解、実習施設の概要、実習施設における子どもの人権とプライバシーへの配慮、援助職に求められるコミュニケーション等について学ぶ。 実習施設の生活の流れや保育士の職務について理解や、援助職に求められるコミュニケーションが必要とされることから、講義だけでなく視覚教材の使用、グループワークやディスカッションも取り入れる内容とする。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 保育実習の意義・目的・内容を理解できる。 2) 実習生としての心構えが身についている。 3) 学生間、教員とのコミュニケーションがとれる。 4) 約束事を守ることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)					プレゼンテーション	
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	「保育実習」阿部和子、増田まゆみ他、ミネルヴァ書房								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課題に対するフィードバックの方法	ワークを行ったあとに課されるレポートについては、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様。								
留 意 事 項	保育実習に関わる内容であるので、無断欠席及び遅刻は認めない。やむを得ず欠席せざるを得ないときには、修学支援課及び教員に連絡を行う必要がある。 学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)								
オ フ ィ ス ア ウ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	保育実習指導 a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 保育実習指導を学ぶにあたっての諸注意	(学修内容) 授業内容や受講に關しての諸注意を行う。シラバスを用いて、本授業における流れと留意事項の確認。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 テキストp3~4、わからない語句について調べる
第2回	保育士資格取得の位置付け 福祉職としての保育士	(学修内容) 福祉職としての保育士が理解しておくべき職務内容や法的根拠のもとに保育士の専門性について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp3~4、わからない語句について調べる 事後 テキストp5~8、わからない語句について調べる
第3回	保育実習の意義・目的 保育実習の概要	(学修内容) 保育士になるための学びや保育実習で学ぶ意義・目的・内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp5~8、わからない語句について調べる 事後 テキストp9~23、わからない語句について調べる
第4回	保育士の職務理解と 目指すべき保育士の明確化1 保育士の役割について	(学修内容) グループワークを通して、社会で求められる保育士、自分自身が目指すべき保育士像について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 保育士の法的根拠を調べておく 事後 目指すべき保育士像を考え言語化できるようにする
第5回	保育士の職務理解と 目指すべき保育士の明確化2 目指すべき保育士像	(学修内容) グループワークを参考にし、福祉職としての保育士の理解を行い、自身のめざすべき保育士像を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 目指すべき保育士像を考え言語化できるようにする 事後 目指すべき保育士像を言葉にする。レポート800字
第6回	実習に必要な基礎的な知識と技術1 レポートの書きかた	(学修内容) レポートの書き方を理解し、宿題のレポートの書き方について自身で添削し、レポートの書き方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 目指すべき保育士像を言葉にする。レポート800字 事後 テキスト「保育所」p17~を読み、わからない語句を調べる。
第7回	実習に必要な基礎的な知識と技術1 目標と目的の理解	(学修内容) 保育実習に必要な目標と目的について、グループワークを通して何を学びたいのか出し合い、自身の目標を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 テキスト「保育所」を読み、わからない語句を調べる。 事後 保育実習目標についてノートに書いてくる
第8回	実習に必要な基礎的な知識と技術2 目標と目的の明確化	(学修内容) 視覚教材で保育所で行う実習を理解し、そこで何を学びたいのか実習目標を明確にし実習目標を書く。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 保育実習目標についてノートに書いてくる 事後 保育実習目標を清書する
第9回	実習施設を理解する1 障害児(者)施設の理解	(学修内容) 実習施設の一つである「障がい児(者)施設」を理解し、そこで働く保育士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 保育実習目標を清書する 事後 障害児(者)施設の保育士の仕事(レポート800字)
第10回	実習施設を理解する2 児童養護施設・乳児院の理解	(学修内容) 実習施設の一つである「児童養護施設・乳児院」を理解し、そこで働く保育士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 障害児(者)施設の保育士の仕事(レポート800字) 事後 児童養護施設・乳児院の保育士の仕事(レポート800字)
第11回	実習施設を理解する3 母子生活支援施設、児童心理治療施設の理解	(学修内容) 実習施設の一つである「母子生活支援施設等」を理解し、そこで働く保育士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 児童養護施設・乳児院の保育士の仕事(レポート800字) 事後 母子生活支援施設等の保育士の仕事(レポート800字)
第12回	保育実習の心構えと準備1 保育所実習自己開拓に関する手続き	(学修内容) 実習方法、保育所選択についての説明を受け、自分の実習圏を選定する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 母子生活支援施設等の保育士の仕事(レポート800字) 事後 実習したい保育所の情報を調べておく
第13回	保育実習の心構えと準備2 保育所への依頼について	(学修内容) 実習生としての心得と留意事項について理解し、保育所へ依頼する際のポイントの取り方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 実習したい保育所の情報を調べておく 事後 実習生カードに必要な情報を調べておく
第14回	保育実習の心構えと準備3 保育所で使える保育技術	(学修内容) 保育所で使える保育技術を行い、実践できるように人前で行う。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 実習生カードに必要な情報を調べておく 事後 春学期授業到達目標を確認してくる
第15回	春学期のまとめ(学びの振り返り) 秋学期に向けての課題	(学修内容) 春学期の到達目標を知見直し、学びの振り返りを行うとともに、夏期休暇中の課題の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 春学期授業到達目標を確認してくる 事後 資料をファイルをまとめる

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1406
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	高岡 理恵・林 静香・武田 康晴・日比野 桂子・安藤 正彦・野田 隆生			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授 業 の 概 要	<p>本授業は、春学期「保育実習指導」の引き続きの授業です。 保育現場で、保育を担う豊かな感性、人間性を有することのできるよう、保育所実習・施設実習におけるそれぞれの目的意識を高め、学生自身が実習目標を明確にもって自立的に取り組めるように準備を行います。 実習を円滑にするための記録の方法、指導計画の考え方と立案等、保育施設実習がイメージできるようにグループワークや演習を通して授業を進めます。 実習へ行く準備が進んでいきますので、その時々に必要なものの準備について期限を守って提出していけるよう自身の管理をおこなってください。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 自分自身の実習先の施設の概要、機能について理解ができる 2) 保育所実習と施設実習の違いが理解でき、実習課題に取り組むことができる 3) 実習生としての心構えが体得できる。 4) 実習の事前準備を行うことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	阿部和子、増田まゆみ他「保育実習」ミネルヴァ書房								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	ワークを行った後に課せられるレポートや課題物については、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様								
留 意 事 項	保育実習の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)								
オ フ ィ ス ア ウ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育実習指導 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	秋学期授業ガイダンス 健康管理について	(学修内容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期課題の点検を行う。実習に向けて自身の健康管理についての視点や方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 シラバスを読み理解しておく 事後 テキストP158～168を読みわからない語句の整理をする
第2回	実習に必要な基礎的な知識と技術1 実習記録の意義と方法	(学修内容) 実習記録を書く意味と記録する視点、方法を学ぶ。記録をするときに必要な観察や主観と客観について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキストP158～168を読みわからない語句の整理をする 事後 観察した内容を記録用紙に書き込む
第3回	実習に必要な基礎的な知識と技術2 実習記録の書き方	(学修内容) 事後学修した記録をグループワークを行いながら、主観と客観を分類し、観察ポイントを確認しあう。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 観察した内容を記録用紙に書き込む 事後 記録用紙を清書する
第4回	実習に必要な基礎的な知識と技術3 指導実習(部分・責任実習)の理解	(学修内容) 保育実習で行う保育計画と指導案について理解し、指導計画を立案方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 記録用紙を清書する(提出) 事後 模擬部分実習を視聴して指導案を作成する
第5回	実習に必要な基礎的な知識と技術4 指導実習案の作成	(学修内容) 事後学修した指導案をもとにグループワークを行いながら、指導案の書き方の留意点について確認しあう。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 模擬部分実習を視聴して指導案を作成する 事後 自身が行く実習施設の概要を調べてくる
第6回	実習施設を理解する1 実習目標の設定(施設)	(学修内容) 実習施設種別を把握し、春学期に学んだ施設を復習し、施設の役割や対象者について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 自身が行く実習施設の概要を調べてくる 事後 施設の実習目標を設定する
第7回	実習目標指導1 実習目標のたてかた	(学修内容) 春学期に行った実習目標のたてかたを復習し、施設実習目標を設定する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 施設の実習目標を設定する 事後 施設の実習目標をチェック項目に沿って見直す
第8回	実習目標指導2 実習目標の清書	(学修内容) 事後学修の実習目標を題材にグループで披露し評価しあい、実習目標を仕上げる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 施設の実習目標をチェック項目に沿って見直す 事後 施設の実習目標を清書する
第9回	実習事前準備1 実習手続き	(学修内容) 実習へいくための実習手続きを行う(健康診断・検便等)。学生カードの清書を行う。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 施設の実習目標を清書する 事後 指導された箇所を直し再提出する
第10回	実習事前準備2 実習記録の確認と書き方	(学修内容) 保育所・施設実習記録をみながら記録に書かれている内容を理解し書き方のポイントについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 指導された箇所を直し再提出する 事後 保育士倫理綱領について調べてくる
第11回	実習事前準備3 保育士倫理綱領と誓約書の理解	(学修内容) 実習へ行くための誓約書を読み誓約書の意味を理解し、保育士倫理綱領との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 保育士倫理綱領について調べてくる 事後 在学生へ聞きたいことや質問を考えまとめておく
第12回	実習事前準備4 実習をイメージする	(学修内容) 在学生から実習について話を聞く、質問をする機会をもち、実習へのイメージを膨らませ不安を取り除く。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 在宅生へ聞きたいことや質問を考えまとめておく 事後 テキストp133～142を読み整理してくる
第13回	実習事前準備5 事前オリエンテーション	(学修内容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーションへの臨み方、手続きの説明と書類提出を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp133～142を読み整理してくる 事後 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく
第14回	実習直前指導 お礼状の書き方	(学修内容) 実習課題の個別添削を返却し指導及び実習記録への記載をし、実習準備を行う。お礼状の書き方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく 事後 秋学期の到達目標を確認する
第15回	学内オリエンテーション及び訪問担当者との個別 面談	(学修内容) 実習評における評価の意義や方法について学び、評価視点を養う。実習訪問担当者との個別面談を実施し、相互連絡の確認と質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 秋学期の到達目標を確認する 事後 実習園とのオリエンテーション報告書を作成しておく

授 業 名	社会的養護			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1211
英 文 名	Principles of Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	芹澤 出			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>子どもは家庭で養育されることが望ましいが、事情により家庭だけで子育てを行うことが出来ない場合があり、家庭を離れて施設で生活をしたり、家庭から通園して養護を受けることがある。本科目では、社会的養護施設の目的と機能を理解し、児童の正常な成長・発達を保证するために必要な知識、技術について学ぶと共に、問題発生の予防的側面や家族の再統合的機能についても学習する。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>社会的養護において、一人ひとりの児童の権利が守られ、その正常な成長・発達を保証し、援助することのできる知識、技術の理解と児童観、施設養護観の醸成を図るとともに、児童福祉施設の運営・管理、児童養護における今後の課題について理解する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	<p>テキスト 新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児 新 保育士養成講座編纂委員会 / 編 全国社会福祉協議会 プリントを配布して授業を行う</p>								
参 考 書	<p>社会的養護の課題と将来像の実現に向けて http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakai/teki_yougo/dl/yougo_genjou_02.pdf 新しい社会的養育ビジョン http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-KoyoukintoujidoKateikyoku-Soumuka/0000173206.pdf 児童福祉法、児童虐待防止法</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>授業内で実施する練習問題は解答と解説を実施する。</p>								
留 意 事 項	<p>授業で話す事例や視聴するDVD素材の内容も試験の範囲となる。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：社会的養護施設である母子生活支援施設に30年以上勤務する現役施設長</p>								

授業名	社会的養護	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の理解	(学修内容) 授業概要とシラバスの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読んでおくこと
第2回	第1章 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷	(学修内容) 社会の変化と社会的養護の関係の理解 社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子ども関連のニュースなどを関心をもって見る 教科書P9～P20
第3回	第2章 社会的養護の基本	(学修内容) 子どもの権利と社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの権利条約を確認しておく 教科書P23～P37
第4回	第3章 社会的養護の基本原則 1. 社会的養護の制度と法体系	(学修内容) 児童福祉法と児童虐待防止法の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童福祉法と児童虐待防止法を確認しておく 教科書P41～P44
第5回	第3章 社会的養護の基本原則 2. 社会的養護の仕組みと実施体系	(学修内容) 児童相談所や福祉事務所等の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童相談所や福祉事務所機能について確認しておく 教科書P46～P50
第6回	第3章 社会的養護の基本原則 3. 社会的養護の対象 4. 家庭養護と施設養護	(学修内容) 児童虐待やDVが発生する背景と子どもへの影響の理解 家庭養護と施設養護(家庭的養護)の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童虐待やDVと家庭養護と家庭的養護について調べておく 教科書P54～P64
第7回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (里親制度)	(学修内容) 里親制度の理解 教科書P54～P64 (事前事後学修課題の内容) (30分) 里親制度について調べておく 教科書P54～P64
第8回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (乳児院)	(学修内容) 乳児院の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児院についてしらべておく 教科書P54～P64
第9回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (母子生活支援施設)	(学修内容) 母子生活支援施設の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 母子生活支援施設について調べておく 教科書P54～P64
第10回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (児童養護施設・地域小規模児童養護施設)	(学修内容) 児童養護施設と地域小規模児童養護施設の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童養護施設と地域小規模児童養護施設について調べておく 教科書P54～P64
第11回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (児童心理治療施設)	(学修内容) 児童心理治療施設の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童心理治療施設について調べておく 教科書P54～P64
第12回	第3章 社会的養護の基本原則 4. 家庭養護と施設養護 (児童自立支援施設、自立援助ホーム)	(学修内容) 児童自立支援施設と自立援助ホームの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童自立支援施設と自立援助ホームについて調べておく 教科書P54～P64
第13回	第4章 社会的養護の内容 社会的養護における子どもの理解	(学修内容) 様々な課題を抱えた子どもと支援の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常生活支援、治療的支援、自立支援について調べておく 教科書P67～P82
第14回	第5章 社会的養護の実際 社会的養護の子どもの理解 第6章 社会的養護の現状と課題 障害児保育の基本的内容	(学修内容) アセスメントと自立支援計画についての理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 支援記録、アセスメント、支援計画について調べておく 教科書P89～P116
第15回	授業の振り返り	(学修内容) テスト範囲の説明と復習 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまで授業内容を復習しておく

授業名	教育心理学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2212
英文名	Educational Psychology			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	渋谷 郁子			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>幼児教育における学びとは、生活や遊びを通じた学びである。本講義では、心理学的側面から教育に関わる問題について学ぶことで、生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達を把握する観察力を培い、適切な発達援助を行う実践力を培うことを目的とする。また、保育者間の協働、保護者との連携、保幼小連携など、現代の保育課題についても理解を深めていく。テーマによってグループ討議等も行っているので実践力を養ってほしい。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎的知識を習得し、教育現場で応用できる力を身につける。 2. 主に乳幼児期の各時期における精神活動の発達過程と発達特性について理解する。 3. 子どもの発達や保育の中での人間関係などを心理学的に理解し、気持ちに沿った援助を考えることができる。 4. 学習を支える教師の役割や意義を理解する。 								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。								
参考書	藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香(編著)「あなたと生きる発達心理学 子どもの世界を発見する保育のおもしろさを求めて」(2019年)ナカニシヤ出版								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留意事項	積極的にグループ討議を取り入れる。メンバー全員の学びが促進されるよう意識して参加してほしい。								
オフィスアワー	初回授業時に伝える。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：教育・福祉機関でカウンセラーとして勤務、教員や保育者研修の講師								

授 業 名		教育心理学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	心理学による子ども理解	(学修内容) 保育実践において、心理学的観点から子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでの心理学の学びがどの程度身につけているのか、1回生の授業を振り返って復習する。
第2回	発達に影響を与える個人内要因と環境要因	(学修内容) 発達における個人内要因(例: 遺伝)と環境要因(例: 親の関わり)の影響を学び、環境としての教師のあり方を考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習で見た保育者の関わりを振り返る。
第3回	発達をとらえる視点(主要な発達理論の復習:ピアジェ、ヴィゴツキー、エリクソン)	(学修内容) 発達とはどのような現象なのか、主要な発達理論を振り返り、人間という種の特徴について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 人間の子育ての特徴を考えて書く。
第4回	子どもに対する共感的理解	(学修内容) 子どもの気持ちを受容的に受け止め、肯定的配慮を行って自己実現を促す関わりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 子どもに相対するとき、具体的にどんな点に気を付ければよいかを考える。
第5回	子どもの生活と学び	(学修内容) 子どもの生活を支える重要性を理解する。また、基本的生活習慣が発達に及ぼす影響を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 子どもと大人の間を生じる葛藤を、場面の切り替えに着目して考える。
第6回	子どもの遊びと学び	(学修内容) 子どもたちの遊びの発達について理解する。また、遊びを通した学びの意義と遊びの環境について考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 子どもの遊びを支える保育者のかかわりについて考える。
第7回	子ども集団と仲間の発達	(学修内容) 仲間関係や自己主張と自己抑制の発達について理解する。仲間関係を育む環境調整や保育的関わりについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 仲間とはどんな存在か、これまでの経験を振り返って考える。
第8回	子どもの主体性を引き出す教育のあり方	(学修内容) 子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。また、教師が子どもに与える影響を知り、子どもの糧になる関わりを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) やる気を引き出す方法について具体的に考えて書く。
第9回	観察と記録を通した子ども理解	(学修内容) 子どもを観察する視点を整理し、要点を書きとる方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習で出会ったエピソードを思い出し、記録する。
第10回	パーソナリティの理解	(学修内容) 子どものパーソナリティを理解するため、パーソナリティについての理論やパーソナリティを把握する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分のパーソナリティについて考える。
第11回	葛藤やつまづきを乗り越える力	(学修内容) 子どものストレスの生じ方やストレス反応について理解する。また、レジリエンスを高める関わりを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分自身の日頃のストレスマネジメントを振り返る。
第12回	発達に課題のある子どもの理解と支援	(学修内容) 発達に課題があるとはどういうことか、発達に課題のある子どもをどのように理解するのかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習での経験を振り返り、発達に課題のある子どもの実際の姿をイメージする。
第13回	個人差や発達課題に応じた援助	(学修内容) 発達の個人差について理解する。また、個別のニーズに応じた支援を考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習先で出会った事例などを用い、具体的な支援方法を考える。
第14回	発達援助における協働(1)	(学修内容) 保護者や教師間での情報共有の実際を知り、協働の重要性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 保護者と関係を構築する方法について考える。
第15回	発達援助における協働(1)	(学修内容) 他職種、他機関との連携の実際を知り、協働の受容性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 新聞などで保幼小連携に関する取り組みを調べる。

授 業 名	子育て支援の心理学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2213
英 文 名	Psychology of Child Rearing Support			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	子育て家庭をとりまく社会的変化や多様な価値観を把握し、子どもの育ちへの新しい支援の視点を養う。乳幼児期から高齢期までの生涯発達に関する心理学の基本的な知識を学び各時期の発達課題について理解する。家庭での子育てを支援し健やかな親子関係の構築に寄与できるように、子どもと家族への多面的な理解を深める。保育者・教員として子育て家庭の心理的な健康が向上するような援助が実践できるように知識と実践力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1、生涯発達の視点から乳幼児期から高齢期までの心理的発達と発達課題について基本的知識を学んでいる。 2、家庭の意義や機能を理解し、子育て家庭の現状や課題について理解している。 3、特別な配慮を必要とする家庭について理解し、保育者・教員として適切な支援を行うことができる。 4、子どもの心の健康について学び、精神保健が向上するように成長を支援する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	プリント配布、資料配布を行う								
参 考 書	「子ども家庭福祉専門職のための子育て支援入門」才村純ほか編著、ミネルヴァ書房 「子育て支援の心理学 家庭・園・地域で育てる」無藤隆、有斐閣 「子育ての発達心理学」藤永保編著、大修館書店								
課題に対するフィードバックの方法	理解度の確認の後、解説を行う。								
留 意 事 項	事前・事後学習を行い知識を自分のものにすること。 私語や迷惑行為はしないこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業の後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー・スーパーバイザー。学校教職員研修の講師。								

授 業 名	子育て支援の心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講義を受講する目的、到達目標、方法を知り、学習計画を立てる (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの確認、ファイルやノートの準備
第2回	生涯発達に関する心理学の基本的知識、発達課題 (1)乳幼児期・学童期	(学修内容)乳幼児期・学童期における心理的発達と発達の特徴および発達課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第3回	生涯発達に関する心理学の基本的知識、発達課題 (2)思春期・青年期	(学修内容)思春期・青年期における心理的発達と発達の特徴および発達課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第4回	生涯発達に関する心理学の基本的知識、発達課題 (3)成人期・高齢期	(学修内容)成人期・高齢期における心理的発達と発達の特徴および発達課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第5回	家族・家庭の意義と機能、親子関係、	(学修内容)家族の意義、機能、構造について学び、ライフサイクルの中で子どもを育てることの意味および親としての成長について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第6回	育児不安や育児ストレスの軽減	(学修内容)育児不安や育児ストレスの原因や状況を学び、育児不安を軽減するための支援や方法について学ぶ。育児不安を包括的にとらえる視点を養う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第7回	子育て家庭の現状と課題(1)社会の変化と子育て家庭をめぐる問題	(学修内容)現代社会の変化や多様性の中で子どもに関する問題とその支援、成長を促す方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第8回	子育て家庭の現状と課題(2)多様な家庭とその理解	(学修内容)さまざまな家庭や家族に対する理解を深め、具体的な支援について実践的に学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第9回	子育て家庭の現状と課題(3)特別な配慮を必要とする家庭	(学修内容)孤立しがちな家庭、個別の配慮を必要とする家庭を把握し、保育者・教員として適切な支援を実施する方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第10回	子育て家庭の現状と課題(4)子どもの心の健康に関する問題	(学修内容)子どもの心理や行動上の問題を把握し、早期に支援や指導を実施する方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第11回	子育て家庭への支援(1)おもな法律や制度	(学修内容)子ども・子育て家庭に関する法的整備、制度、事業について基本的な知識を習得し、実施体制や仕組みについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第12回	子育て家庭への支援(2)保育者・教員が行う支援の意義、目的、方法	(学修内容)子どもや子育て家庭に適切な支援が行うことができるように面接の計画や方法、展開、評価について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第13回	子育て家庭への支援(3)保育者・教員が行う支援の実際	(学修内容)子どもや子育て家庭への心理学的支援について実際の事例を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第14回	子育て家庭への支援(4)家族の精神的健康を支える	(学修内容)家族の精神的健康が阻害される要因について学び、レジリエンスを高めて心の健康が向上するために大事なことについて理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料の該当部分を読み学習内容をまとめる
第15回	子ども家庭支援の心理学のまとめ、学習の確認	(学修内容)講義全体を通して学んだことを見直し不十分なところを補う。積極的に質問をして家庭支援の心理学の理論と実践が身についたことを確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料が整っているか確認する

授 業 名	レクリエーション理論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2214
英 文 名	Recreation Theory			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	レクリエーションという言葉の趣旨を理解し、手段であるレクリエーション活動を有効に活用するための理論と方法を理解する。そのためレクリエーションの概論、楽しさと心の元気づくりの理論、レクリエーション支援の理論などさまざまな角度から総合的にレクリエーション理論を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) レクリエーションの意味やレクリエーションインストラクターの役割について理解し説明することができる。 2) 達成感や良好なコミュニケーションなど楽しさを感じる心の仕組みとレクリエーション支援について理解する。 3) 対象者のライフステージに即した心の元気づくりの課題を理解し、適切な実践につなぐことができる。 4) レクリエーション活動を用いることで良好な集団が形成されること、信頼関係が構築される人の心の仕組みに基づいて対象者と関わることを理解し実践に結び付けることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」 公益財団法人 日本レクリエーション協会								
参 考 書	適宜授業において紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	課題レポートや適宜行う発表に関してその内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留 意 事 項	レクリエーション実習での実践を意識しながら理論の理解に努める。あわせて、この授業で学んだレクリエーション理論や実践方法などを整理して、実習で活かせるようにする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 12:20～13:00								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の業務経験など：1988年～18年間、ボランティア・市民活動支援組織において、その後2008年から13年間青少年を対象にしたボランティア学習プログラムを通じたレクリエーションプログラムを実践するとともに、ファシリテーターとしてのインストラクターの在り方について実践と研究を進めてきた。								

授業名	レクリエーション理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の枠組みや授業評価など全体像の説明 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを確認するとともに、自分が考えるレクリエーション像を整理しまとめておく
第2回	レクリエーション支援の目的と方法	(学修内容) レクリエーションという言葉の主旨、目的、インストラクターの役割などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP10～を読みレクリエーションの意味を整理してまとめておく
第3回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者のこころの元気の理解 1	(学修内容) レクリエーション活動の楽しさやその楽しさを感じる心の仕組みなどをグループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP20～を読み「楽しさと楽しさを感じる仕組み」を整理してまとめておく
第4回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者のこころの元気の理解 2	(学修内容) 活動を心の元気づくりに生かす2つの視点、ライフステージに応じた心の元気づくりなどについて、ディスカッションを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP26～を読み「心の元気づくり」について整理してまとめておく
第5回	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者のこころの元気の理解 3	(学修内容) こころの元気と地域のきずなづくりとレクリエーションについて、グループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP33～を読み「地域でのきずなづくり」について整理してまとめておく
第6回	レクリエーション支援の理論 1	(学修内容) コミュニケーションと信頼関係づくりの理論について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP38～を読んで「コミュニケーションや信頼関係」について整理してまとめておく
第7回	レクリエーション支援の理論 2	(学修内容) 良好な集団づくりの理論について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP44～を読んで「集団づくりやコミュニケーション」について整理してまとめておく
第8回	レクリエーション支援の理論 3	(学修内容) 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP50～を読んで「主体的にレクリエーション活動を楽しむ力」について整理してまとめておく
第9回	レクリエーション支援の理論 4	(学修内容) やる気の変化とやる気が生じる心の仕組みや対象者の関りについて、ディスカッションを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP54～を読み「変化するやる気」や「自己効力感」について整理してまとめておく
第10回	レクリエーション支援の方法 1	(学修内容) 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティについて、グループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP58～を読み「もてなす意識と配慮」について整理してまとめておく
第11回	レクリエーション支援の方法 2	(学修内容) 良好な集団づくりの方法について、グループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP66～を読み「アイスブレイクの支援技術など」について整理してまとめておく
第12回	レクリエーション支援の方法 3	(学修内容) 自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法について、ディスカッションを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP70～を読み「楽しむ力を高める目標設定の方法や目標設定の原則」について整理してまとめておく
第13回	レクリエーション支援の方法 4	(学修内容) レクリエーション活動のアレンジについて、グループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP74～を読み「基本のアレンジや段階的なアレンジの応用」について整理してまとめておく
第14回	レクリエーション支援のプログラム	(学修内容) レクリエーション活動におけるリスクマネジメントの方法やプログラム立案方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) レクリエーション活動にあるリスクについて整理してまとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの学びを整理するとともにプログラムの実施と評価及び改善について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) ここまでの学びを整理しておく

授 業 名	教育の方法と技術			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2305
英 文 名	Educational Methods and Technique			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>保育は先生方の思い付きでされるものではありません。子どもたちの発達の様子や、クラスでの生活、まわりの子どもや先生との関係を踏まえながら、1年間の計画をもとに日々の保育が計画されています。そこには「子どもたちにこんなことを知ってほしい」「お友達と協力する楽しさを味わってほしい」という保育者の願いや思いが込められているのです。この授業では、保育に関する教育の方法と技術について、実際の活動を想定しながら講義を行います。実際に指導案を作成し、子どもの環境を想定しながら、どのように保育を進めるのか、グループワークなどを通して実践的に学ぶことを目的としています。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢や時期を考慮した指導案を作成できる 2. 作成した指導案をもとに模擬活動を発表することができる 3. グループで協力して指導案を作成することができる 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (保育を計画・実践する力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	戸江茂博監修『幼児教育方法論』学文社								
参 考 書	稲垣忠編著『教育の方法と技術』北大路書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業ごとの小レポートについては、次の授業に口頭にてフィードバックを行う								
留 意 事 項	授業後半はグループワークを行いますので、出席していない・グループワークに参加していない人は評価の対象となりません。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で告知します								
実践的教育									

授業名	教育の方法と技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) 授業の方針・出席や事前事後学習について説明を聞く (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習でやった設定保育について発表できるようにしておく (実施者のみ)
第2回	保育の基本と保育内容・方法	(学修内容) 保育の基本である遊びや生活との関連について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 遊びが子どもに与える影響についてまとめる
第3回	我が国における保育の歴史(1)戦前	(学修内容) 戦前の保育の状況について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 戦前の幼稚園や保育所のエピソードを検索し、まとめる
第4回	我が国における保育の歴史(2)戦後	(学修内容) 戦後の保育の状況について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 2017年の幼稚園教育要領や保育所保育指針で養成すべき力についてまとめる
第5回	3法から教育・保育方法を考える	(学修内容) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領から保育方法を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 3法の違いについてまとめる
第6回	幼児理解と発達	(学修内容) 年齢による子どもたちの発達の違いについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 2歳児の子どもの指導案を考える(60分程度)
第7回	環境を通して行う保育	(学修内容) 子どもたちにふさわしい環境について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育室を環境構成として、どのようなものがあげられるかまとめる
第8回	保育計画について考える	(学修内容) 保育計画の必要性や種類、考え方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育計画でもっとも大切なことは何かまとめる
第9回	指導案の作成(1)グループ作成、年齢と時期	(学修内容) 発表に向けて、グループを作成し、対象年齢と時期を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) グループでの役割分担を考える
第10回	指導案の作成(2)活動内容と方法	(学修内容) 発表に向け、指導案の内容と方法を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 指導案の計画を各自で考えておく
第11回	教材作成(1)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに教材を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) グループの役割で担当する仕事を行う
第12回	教材作成(2)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに教材を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) グループの役割で担当する仕事を行う
第13回	グループ発表(1)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表した班のなかでもっともよかった班のいいところをまとめる
第14回	グループ発表(2)	(学修内容) グループで作成した指導案をもとに模擬保育を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表した班のなかでもっともよかった班のいいところをまとめる
第15回	まとめ 保育計画をおこなうために	(学修内容) 保育計画を行うためには何が必要か考える (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ活動を振り返り、自分ががんばったことと課題をまとめる

授 業 名	特別支援教育			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2306
英 文 名	Special Needs Education			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	・特別支援の必要な子どもの基礎理解・援助・指導方法を学ぶとともに、教育・療育現場での事例をもとに、支援方法および配慮すべき留意点などを学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる 2)発達障害（疑いを含む）や、知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなど、支援を必要とする子どもの特性および心身の発達を理解することができる 3)現状と課題に理解を深め、支援の必要な子どもたちをとりまく環境（家族。きょうだい）への支援や関係機関との深まりについて学び、理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	前田泰弘編著『実践に生かす 障害児保育・特別支援教育』萌文書林 2019年								
参 考 書	玉村久二彦『新版 キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識』（2019）クリエイツかもがわ								
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題を添削して返却する。 なお、全体的に気になった部分や再度確認が必要な部分については講義内で解説する。								
留 意 事 項	授業内で出される課題は、必ず期日までに提出すること（期日後の提出は減点、未提出は欠席）。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 に受け付けます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：障害児通園施設にて勤務（保育士）								

授 業 名		特別支援教育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	(学修内容) 保育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ 障害者差別解消法・合理的配慮について理解を深める (事前事後学修課題の内容)(20分) 障害のイメージについて発表してもらおうので、自身の考える障害者像をまとめておく
第2回	発達の法則(発達段階) 障害の早期発見	(学修内容) 発達の法則(発達段階)について理解する 障害の早期発見のために実施されている乳幼児健診について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの保育・教育形態 (手帳のしくみ・個別支援計画)	(学修内容) 支援の必要な子どもたちの支援方法(保育・教育形態、個別支援計画) があるかを理解する。手帳(身体・療育・精神)の仕組みについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを 考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第3章を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともに どのような特性を持っているのかを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第5章を読んでおく
第6回	発達障害について	(学修内容) 発達障害の分類、特徴、支援体制などを理解する (発達障害者支援法) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第5章を読んでおく
第7回	自閉症スペクトラム障害(ASD)への理解と援助、 配慮すべき留意点	(学修内容) 自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助が のぞましいか考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第6章を読んでおく
第8回	学習障害(LD)児、注意欠如・多動性障害児への 理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 学習障害、注意・欠如多動性障害の特性を理解するとともに、どのよう な援助がのぞましいか考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前)テキスト第 部第6章を読んでおく 事後)今までの講義内容を復習しておく
第9回	小テスト ふりかえり	(学修内容) 講義内容をどれだけ理解できているかの確認 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前)今までの講義内容を復習しておく 事後)テスト終了後、解答の困難だった部分について復習する
第10回	視覚障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 視覚障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考 え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第4章-2.3.4を読んでおく
第11回	聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮す べき留意点	(学修内容) 聴覚障害・言語障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞ ましいか考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第4章-1を読んでおく
第12回	身体に障害のある子ども(肢体不自由児・脳性ま ひ・医療ケア児)への理解と援助、配慮すべき留 意点	(学修内容) 身体に障害をもつ子どもたちの分類および各々の特性を理解し、どのよ うな援助、配慮、外部機関との連携について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第4章-1を読んでおく
第13回	特別に支援の必要な子どもたちをとりまく環境の 理解(家庭との協力、関係機関との連携)	(学修内容) 特別な支援の必要な子どもたちをとりまく環境について理解を深め、個 別の指導計画について学ぶ(外国籍家庭・貧困家庭など) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第8章を読んでおく
第14回	ユニバーサルデザインについて	(学修内容) ユニバーサルデザインや障害者マークなどについて学び、支援の必要な 子どもたちを取り巻く時事問題について理解を深める (事前事後学修課題の内容)(20分) 身近にあるユニバーサルデザインや障害者マークなどについて調べてお く
第15回	まとめ	(学修内容) 今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題につい て理解を深める (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部を読んでおく

授業名	国語教育			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2314
英文名	Japanese Language Education			開講時期	春・秋学期		必修選択	選択	
担当者	水谷 隆			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>国語とは、日常生活を円滑に送るための道具であると同時に、私たちが暮らしている社会の文化そのものをかたちづくるものでもあります。この授業では、子どもの育ちにおける国語教育の意義について確認した上で、重要な国語教材でもある児童文学と社会・文化との関わりについて理解することを目指して、解説をします。しかるのちに、具体的な作品読解作業をすることで、理解力と説明力を高めていきます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育と国語の関係について基本的な説明ができる。 2) 児童文学の歴史と現状・意義について概略を把握し、わかりやすく説明できる。 3) さまざまな児童文学作品についての的確な読解を提示できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テキスト	プリントを配布します。								
参考書	授業中、適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認小テストの実施後に解説を行います。								
留意事項	国語辞典(スマホの辞書アプリ等でもよるしい)を携帯してください。 授業の進行状況により、各回の内容を変更することがあります。なおその際には随時お知らせします								
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：帝塚山学院高等学校非常勤講師 公益財団法人日本漢字能力検定協会アドバイザー</p>								

授業名	国語教育	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション / 「国語」とは何か	(学修内容) 授業の目的と内容等についての解説 / 教育における「国語」の位置づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、幼稚園教育要領に目を通し、大切なポイントを記憶しておく
第2回	児童文学の歴史 / 児童文学の誕生と産業革命	(学修内容) 児童文学誕生の経緯の概説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、産業革命を中心とする世界史を振り返り、大切と思われる事項をメモしておく。
第3回	児童文学の歴史 / 日本における児童文学の導入	(学修内容) 明治社会と学校制度の整備および児童文学の導入について (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、明治維新を中心とする日本史を振り返り、大切と思われる事項をメモしておく。
第4回	児童文学の歴史 / 「童心主義」の時代	(学修内容) 鈴木三重吉と雑誌「赤い鳥」についての解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、大正デモクラシーを中心とする日本史を振り返り、大切と思われる事項をメモしておく。
第5回	児童文学の歴史 / 軍国主義の時代と「復興現象」	(学修内容) プロレタリア児童文学とリアリズム・「赤い鳥」の復刊についての解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、昭和初期の日本史について振り返り、大切と思われる事項をメモしておく。
第6回	児童文学の歴史 / 戦後の思潮と児童文学	(学修内容) 戦争への反省と児童文学の変化、児童文学を取り巻く現代の状況についての解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、戦後の日本史について振り返り、大切と思われる事項をメモしておく。
第7回	児童文学の歴史 / まとめ	(学修内容) 児童文学史に関する確認小テスト および児童文学を取り巻く現代的課題の解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、2～6回目の授業内容を振り返り、要点をまとめたノートを作成しておく。
第8回	児童文学作品の読解 / 子どもの歌の探求	(学修内容) 子どもの歌の歌詞を読解する グループディスカッション作業 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指定された曲の歌詞について自分なりに調べて、発表できる形にまとめる。
第9回	児童文学作品の読解 / 成果発表	(学修内容) 読解作業の結果をグループごとに発表する(前半) (事前事後学修課題の内容) (60分) 指定された曲の発表ができるように準備する。
第10回	児童文学作品の読解 / 成果発表	(学修内容) 読解作業の結果をグループごとに発表する(後半) (事前事後学修課題の内容) (60分) 指定された曲の発表ができるように準備する。
第11回	児童文学の読解 / 『おおきなかぶ』	(学修内容) 2種類の『おおきなかぶ』を比較しながら精読する (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、2種類の『おおきなかぶ』を読んで、両者の違いをノートに書き出しておく。
第12回	児童文学の読解 / 『スイミー』	(学修内容) 『スイミー』の主題について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『スイミー』を読んで、自分なりの感想をできるだけ多く考え、ノートに記録しておく。
第13回	児童文学の読解 / 『モチモチの木』	(学修内容) 『モチモチの木』を立場を変えて読んでみる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『モチモチの木』を読んで、自分なりの感想をできるだけ多く考え、ノートに記録しておく。
第14回	児童文学の読解 / 『ごんぎつね』	(学修内容) 『ごんぎつね』の享受と教育の影響についての概説 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、『ごんぎつね』を読んで、自分なりの感想をできるだけ多く考え、ノートに記録しておく。
第15回	まとめ	(学修内容) 多様化する社会における国語教育の役割についての考察 (事前事後学修課題の内容) (90分) 予習として、授業全体をふり振り返り、疑問点について質問ができるようにノート整理しておく。

授 業 名	保育の計画と評価			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2307
英 文 名	Child Care Planning and Assessment			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	1) 保育所・幼稚園・認定こども園における保育課程・教育課程について理解する 2) 各々の指針、要領に基づいて保育の計画を作成する上での留意点を踏まえ、子どもの発達過程に即した指導計画が作成できるよう主体的に取り組む内容とする 3) 幼児教育現場で求められる保育の質の向上に必要なスキル（PDCAサイクルを用いた指導計画）を学び、保育の実践力の基礎を学ぶ								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育所・幼稚園・認定こども園における保育の目的と目標、計画と評価の意義を理解することができる 2) カリキュラムマネジメントについて学び、子どもたちの発達、成長に即した指導計画の立て方を理解する 3) 乳児、3歳未満児、3歳以上児の長期的・短期的指導計画について学び、見通しをもって指導案を作成することができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	松本峰雄監修 『よくわかる保育士エクスサイズ6 保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房 2019年								
参 考 書	『保育所保育指針』（最新版） 『幼稚園教育要領』（最新版） 『認定こども園 保育教育要領』（最新版）								
課題に対するフィードバックの方法	定期的に指導案や指導計画を作成します。 その都度、添削します。 また全体的に共通な助言が必要な場合、講義内で説明します。								
留 意 事 項	課題については期日を厳守すること 毎回、講義終了時に振り返りを実施するので必ず毎回の学びを振り返ることができるよう主体的に受講すること								
オ フ ィ ス ア ウ ー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 に受け付けます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：公立保育士として勤務								

授 業 名		保育の計画と評価
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育の目標と計画の考え方	(学修内容)「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」・「認定こども園 保育教育要領」の概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第1章1コマ目を読んでおく。
第2回	保育におけるカリキュラムについて	(学修内容)保育におけるカリキュラムの考え方を理解し、全体的な計画と指導計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第1章2コマ目を読んでおく。
第3回	保育の計画	(学修内容)保育所の指導計画と幼稚園の教育課程の共通性と違いを学び、全体的な計画と指導計画について理解を深める。さまざまな計画内容を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章4コマ目を読んでおく。
第4回	長期的な指導計画の作成(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の長期的な指導計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章6コマ目を読んでおく。
第5回	短期的な指導計画の作成(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の短期的な指導計画について学ぶ。 (週案、日案、部分指導計画などに) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章8コマ目を読んでおく。
第6回	指導計画作成上の留意事項(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の指導計画の作成の留意点をおさえながら計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章10コマ目を読んでおく。
第7回	指導作成上の留意事項(異年齢)	(学修内容)異年齢保育(縦割り保育)について理解を深め、指導計画の作成の留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章11コマ目を読んでおく。
第8回	子ども理解に基づくPDCAサイクルについて	(学修内容)保育の計画の際に必要なPDCAサイクルについて理解を深め、個別の支援計画にどのように活用していくのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第1章3コマ目を読んでおく。
第9回	長期的な指導計画の作成(0.1.2歳児)	(学修内容)0,1,2歳児の長期的な指導計画について学ぶ 乳児保育に必要な指導計画(保健・食育など)について理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章5コマ目を読んでおく。
第10回	短期的な指導計画の作成(0.1.2歳児)	(学修内容)0,1,2歳児の短期的な指導計画について学ぶ。 (個別の指導計画・週案・日案・部分指導計画など) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章7コマ目を読んでおく。
第11回	指導作成上の留意事項(0.1.2歳児)	(学修内容)3歳未満児の指導計画の作成の留意点を学ぶ。 ・個人差の理解 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章9コマ目を読んでおく。
第12回	指導計画に基づく保育の柔軟な展開の必要性	(学修内容)指導計画作成時に保育を柔軟に展開できるために見通しをもつ必要性などを視聴覚教材から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第2章12コマ目を読んでおく。
第13回	保育の記録と省察	(学修内容)保育におけるさまざまな記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第3章13コマ目を読んでおく。
第14回	保育所児童保育要録	(学修内容)小学校との円滑な引継ぎに必要な保育所児童保育要録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第3章15コマ目を読んでおく。
第15回	保育の評価と改善	(学修内容)保育内容に加えて、保育所など施設全体における評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第3章14コマ目を読んでおく。

授 業 名	乳児保育			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2309
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	安藤 正彦			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>保育所における乳児（0～2歳児）の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用（実践）、探究（応用）できる力を身につける。</p> <p>1）保育所で乳児（0～2歳児）が気持ちよく生活するとはどういうことか、理論と実際（写真や動画）を照らし合わせながらイメージし、保育園、保育士のあり方を学ぶ。</p> <p>2）保育所での乳児のあそびの重要性を理解し、受講生同士で主体的に意見交流しながら、あそび（手あそび、歌あそびなど）づくりにつなげていく。（プレゼンテーション）</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1）乳児期（0～2歳児）の理論、知識、技術を理解し実践できる。</p> <p>2）各年令（0～2歳児）の保育での生活とあそびについて理解している。</p> <p>3）実際の保育場面で活かせる、乳児との関わりに適応したあそびを習得する。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	乳児保育研究会編『改訂5版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』								
参 考 書	授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	受講生は「ふり返り用紙」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は適宜、助言等をする。								
留 意 事 項	シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味関心、理解等により柔軟に対応することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：西七条保育園 保育士として勤務								

授 業 名	乳児保育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児保育の基本	(学修内容) 子どもと保育士の関係とあり方を理解する。子どもの主体性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 第6章を読んでくる。
第2回	乳児保育の基本	(学修内容) 乳児の発達の特徴と大切にしたいことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章を読んでくる。
第3回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 乳児保育の目標とねらいを理解する。保育園での子どもの姿を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章1, 2を読んでくる。
第4回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 保育園での生活環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章3を読んでくる。
第5回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児のかかりやすい病気、ケガなどを事前に調べてみる。
第6回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 集団での生活において、環境の変化や移行に対する配慮等を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児の生活環境で大切なことをまとめておく。
第7回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(大人とあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでおく。対大人とあそびあそびをいくつか調べておく。
第8回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(物とあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでおく。物を使ったあそびをいくつか調べておく。
第9回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(友だちとあそび) (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3章1の を読んでおく。友だち同士でするごっこあそびを調べておく。
第10回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびとその環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章2を読んでおく。
第11回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびにおける保育士の役割とあそび文化(絵本・紙芝居等)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章3, 4を読んでおく。
第12回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 実践的なあそびを学び、乳児の気持ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ふれあいあそびの大切さを調べておく。
第13回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 年令の発達を踏まえた上で、あそび(ふれあい、歌、手あそび等)をグループで考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のあそびを復習し、自分であそびを考えてみる。
第14回	プレゼンテーション(グループ)	(学修内容) 各グループで考えたあそびを発表し、意見を交換し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもにも(理解)大人にも(説明)伝わるように所定用紙に記入する。
第15回	乳児保育における計画の実際	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる。

授業名	社会的養護			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2310
英文名	Social Corporate Parenting			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	箱田 成司			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	社会的養護では、児童の環境についてを中心に勉強を行い、児童虐待の親の心理、また、児童養護施設の入所児童の4割が何かしらの障がいがあると言われていた時代に突入している。そういった、障がいについての理解も含めながら、社会的養護の理解を深めていきたい。また、授業は、毎回レポート方式として行う予定である。								
学修成果到達目標	児童を取り巻く、環境の理解や、障がいのある子どもの理解から、里親や自立援助ホームなど社会的養護の今の現状を理解し、社会的養護が必要な児童の理解を深めることを目標とする。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	社会的養護演習								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	講義の時にその都度、対応する。								
留意事項	視聴する映像素材などもすべて試験の範囲となる。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	社会的養護	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会的養護の課題	(学修内容) 社会的養護の課題と施設実習を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を振り返っておく
第2回	社会的養護を必要とする子どもの理解	(学修内容) 社会的養護が必要な子どもが存在する理由について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を振り返ったり、また、児童養護施設や乳児院に行っていない方は、入った人に聞く。
第3回	児童養護施設の入所理由について1	(学修内容) 虐待が起こる原因を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 虐待について学んでおく
第4回	社会的養護の入所理由について2	(学修内容) 親の精神疾患について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 精神疾患について学んでおく。
第5回	家庭支援のソーシャルワーク	(学修内容) 親子関係のプログラムについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の第12章を読んでおく。
第6回	障がいがある児童の社会的養護	(学修内容) 障がい児福祉サービスについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 障がい児の福祉サービスについて学んでおく
第7回	障がいがある児童の特徴と対応について1	(学修内容) 知的障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 知的障がいについて調べておく
第8回	障がいがある児童の特徴と対応について2	(学修内容) 発達障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発達障がいについて調べおく。
第9回	障がいがある児童の特徴と対応について3	(学修内容) 身体障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 身体障がいについて理解する。
第10回	障がい児の個別支援計画について	(学修内容) 個別支援計画の作成について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書5章を読んでおく。
第11回	児童の生活に支援について	(学修内容) 入所児童のライフサイクルについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活について考えておく。
第12回	児童の自立支援について	(学修内容) 自立に向けた支援について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高校生の時のライフサイクルを考える。
第13回	児童養護施設以外の社会的養護について	(学修内容) 里親や自立援助ホームについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 里親制度について理解しておく。
第14回	児童相談所について	(学修内容) 児童相談所の業務の理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童相談所について学んでおく
第15回	これからの社会と児童について	(学修内容) 子どもに関わる社会問題について理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心を持っているニュースを見る。

授 業 名	保育内容・言葉			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2310
英 文 名	Child Care : Language			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆・柿本 真代			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>「保育内容・言葉」とは、子どもの教育に関わる内容を5つの側面からとらえた「5領域」のひとつであり、子どもたちが豊かな言葉を獲得していくための援助のありかたについて考えるものです。</p> <p>この授業では、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等に示された乳児保育の3つの視点、および領域「言葉」のねらい・内容について学びます。また、子どもの言葉の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な指導場面を想定した保育が構想できるよう、事例研究や子どもとのコミュニケーションを意識した模擬保育的プレゼンテーションを行ってまいります。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 乳児保育の3つの視点、および領域「言葉」のねらいおよび内容について分かりやすく説明することができる。</p> <p>2) 子どもの言葉の発達の過程と、発達に応じた援助の基本を把握し、説明できる。</p> <p>3) 子どもとの言語コミュニケーションの基本を知り、保育の実践に活かすことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	プリントを配布します。								
参 考 書	<p>『幼稚園教育要領』（平成29年3月公示、文部科学省）</p> <p>『保育所保育指針』（平成29年3月公示、厚生労働省）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月公示、内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストの実施後に解説を行います。 口述については、その都度コメントをします。								
留 意 事 項	受講生全員に個人でのプレゼンテーションをしてもらいます。 授業の進度、受講生の興味関心、社会情勢の変化等に応じて各回の授業内容を変更することがあります。なお、その場合は随時お知らせします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育内容・言葉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「保育内容・言葉」とは何か	(学修内容) 授業の目的と内容等の確認。 「要領」「指針」および小学校教育との接続についての解説。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、シラバスの内容を確認しておく。
第2回	言葉の役割	(学修内容) 言葉と人格の形成、文化について。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習として、言葉をどのような場面で用いているか考え、メモを作成しておく。
第3回	言葉の発達と援助の基本 新生児の言語獲得能力	(学修内容) 新生児期の言語獲得過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した0歳児の言葉と保育者の対応について ふり返り、ノートに書き出しておく。
第4回	言葉の発達と援助の基本 初語の発現まで	(学修内容) 乳児の言語獲得過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した1歳児の言葉と保育者の対応について ふり返り、ノートに書き出しておく。
第5回	言葉の発達と援助の基本 語彙増加の過程	(学修内容) 乳児の語彙獲得の過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した2～3歳児の言葉と保育者の対応について ふり返り、ノートに書き出しておく。
第6回	言葉の発達と援助の基本 文法の獲得	(学修内容) 統語の獲得過程と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した3歳児の言葉のありようについて ふり返り、ノートに書き出しておく。
第7回	言葉の発達と援助の基本 発話の先行	(学修内容) 発話の先行する発達段階と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した3歳児の言動と保育者の対応について ふり返り、ノートに書き出しておく。
第8回	言葉の発達と援助の基本 統語およびコミュニケーションの高度化	(学修内容) 統語の高度化と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した4～5歳児の言葉と保育者の対応について ふり返り、ノートに書き出しておく。
第9回	言葉の発達と援助の基本 コミュニケーションの高度化	(学修内容) 統語およびコミュニケーションの高度化と援助の基本についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した5～6歳児の言葉と保育者の対応について ふり返り、ノートに書き出しておく。
第10回	言葉の発達に関わる現代的課題 言葉を育む文化財	(学修内容) 情報機器および児童文化財の活用について。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で経験した児童文化財について ふり返り、ノートに書き出しておく。
第11回	指導案から保育実践へ	(学修内容) 言葉を育む児童文化財を用いた指導案を作成、模擬保育を行い評価をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、実習時等で書いた指導案を見直し、改善した指導案を準備しておく。
第12回	言葉の発達に関わる現代的課題 ジェンダーを中心に	(学修内容) 位相語とジェンダーの問題等についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、ジェンダーに関する最近の話題について調べてメモを作成しておく。
第13回	言葉の発達に関わる現代的課題 障害とノーマライゼーションを中心に	(学修内容) 障害と社会のありかたに関わる問題についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、ノーマライゼーションについて調べ、興味深い事項をノートにまとめておく。
第14回	言葉の発達に関わる現代的課題 グローバル化と多文化共生を中心に	(学修内容) 多文化共生に関わる問題についての解説。 学生によるプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、グローバル化に関する最近の話題について調べ、興味深い事項をノートにまとめておく。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業全体の振り返り、重要事項の再確認など。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 予習として、授業全体をふり返り、疑問点については質問できる形でノート整理しておく。

授業名	保育内容・表現（造形）			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	CE2313
英文名	Child Care: Formative Art			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山部 泰司			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>感性と創造力を育てる領域「表現」の理解を深めるために、毎回、さまざまな演習を行い、仲間と表現を伝えあうことの大切さを学ぶ。その表現体験のレポートによって記録し考察する力を養う。また、子どもの前で表現豊かに発表できる力を養う。</p> <p>また、保育現場での環境づくりについて表現の領域からの可能性について考える機会を持つ。</p> <p>学習項目は、学生の個性や進度、提案などによって変更することがある。</p>								
学修成果到達目標	1) 子どもの表現を理解し、表現の意欲を育てる指導法について理解できる。2) 自ら表現する楽しさ、お互いの「表現」から学ぶことの楽しさを感じ、その豊かさを実感できる。3) お互いの個性を理解し、協力して活動できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林（1回生春学期購入のものを使います）								
参考書	参考プリントを配布								
課題に対するフィードバックの方法	課題の発表、プレゼンテーションについて改善点など指導し、学生同士で評価し合う機会を持つ。								
留意事項	普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。								
オフィスアワー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など： 実践的教育教員の実務経験などについて、子どもの絵画教室、幼児教育、小学校、美術館等での指導や表現ワークショップの指導経験をもとに表現領域について話します。</p>								

授 業 名		保育内容・表現（造形）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入	（学修内容）（学修内容）「表現」領域について概要を知る （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト208から211頁を読んで考えをまとめておく
第2回	教室全体を使って落書きする	（学修内容）身体スケールを超えた空間を感じ表現する活動を行う 自らの活動についてレポートをまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト212から213頁を読んで考えをまとめておく
第3回	手のフォルムからの見立てによる表現	（学修内容）手に描く活動からイメージを豊かにする 自らの活動についてレポートをまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） 手の動きや形を観察してアイデア、考えをまとめておく
第4回	大きなこいのぼりをつくる	（学修内容）身近な素材（新聞紙等）による集団での造形、季節の行事に関心を持つ クラスで制作するこいのぼりをつかって遊ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト178から179頁を読んで考えをまとめておく
第5回	クモの巣をつくる	（学修内容）身近な素材（ロープ、紐等）による空間造形 生活の空間を表現の場に活用する工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト119から120頁を読んで考えをまとめておく
第6回	ケント紙で高さ比べ	（学修内容）チームでアイデアを出し合い紙を使った背の高いものをつくる （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト144から145頁を読んで考えをまとめておく
第7回	個性的な帽子をつくる	（学修内容）身近な素材で帽子などを制作し変身して遊ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト136から137頁を読んで考えをまとめておく いろいろな帽子の形を調べてメモしておく
第8回	リレー童話をつくる	（学修内容）グループで創作童話を作る遊び （事前事後学修課題の内容）（30分） 創作童話について調べてまとめておく
第9回	リレー童話の音読	（学修内容）チームでつくった創作童話をチームで発表する （事前事後学修課題の内容）（30分） 童話の読み方について考えをまとめておく
第10回	新聞紙で造形する	（学修内容）クラスを二つのチームに分けて新聞紙で大きなものを作る （事前事後学修課題の内容）（30分） 新聞紙を使った造形について調べ考えをまとめておく
第11回	折りたたみシアターをつくる	（学修内容）一枚の紙でつくるかんたんシアターの制作 （事前事後学修課題の内容）（30分） 素話について調べ、アイデアをまとめておく
第12回	折りたたみシアターの発表	（学修内容）折りたたみシアターを発表する 保育者が子どもたちに読み聞かせる工夫について （事前事後学修課題の内容）（30分） 子どもに伝える方法について考えをまとめておく
第13回	遊ぶ子どもの絵1	（学修内容）子どもの活動や遊びを描く （事前事後学修課題の内容）（30分） 保育実習、教育実習での子どものあそびについてふりかえってまとめておく
第14回	遊ぶ子どもの絵2	（学修内容）子どもが遊ぶ環境や季節感を考えて絵を完成させる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 園の環境や季節について調べてまとめておく
第15回	まとめ	（学修内容）表現活動の意味について振り返りまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） いままでの活動をふりかえり、教科書の該当ページを読んでおく

授 業 名	音楽（弾き歌い）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	CE2415
英 文 名	Music（singing while playing）			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	小川 隆昭・後藤 由美子・水谷 佳代子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どものうた」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。また、人前での弾き歌いが緊張せずに行えるように弾く機会を増やし、最後まで止まらずに弾くことを習得する。								
学 修 成 果 達 到 目 標	1) 「子どものうた」のレパートリーを拡げることができる。 2) 初見・伴奏付けの力をつけることができる。 3) 人前で弾き歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即、役立つ技術を身に付けることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 (初見力)		
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	練習してきた曲は授業の中でレッスンします。（幼児の曲に限る）								
留 意 事 項	積極的に練習し、実習や幼・保の就職試験を目指して、弾き歌いのできる曲を増やすことが大事。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。小川以外の教員のクラスも小川のオフィスアワーの可。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当。								

授業名	音楽（弾き歌い）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス、初見・歌唱1	（学修内容）春学期授業計画・注意事項・初見・歌唱 （事前事後学修課題の内容）（20分） 「子どものうた」を数曲練習する
第2回	教育実習（幼稚園実習）準備1、初見・歌唱2 コードネーム・伴奏付け	（学修内容）多くの幼稚園で歌われている「こどものうた」などの伴奏 初見・歌唱、コードネーム説明 伴奏付け基本練習 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする
第3回	教育実習（幼稚園実習）準備2、初見・歌唱3 コードネーム・伴奏付け・手遊び	（学修内容）（幼稚園実習準備）継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 手遊びの確認・習得を目指す （事前事後学修課題の内容）（90分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする。手遊びの練習をする
第4回	教育実習（幼稚園実習）準備3、初見・歌唱4 コードネーム・伴奏付け	（学修内容）（幼稚園実習準備）継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 手遊びの確認・習得を目指す （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする。手遊びの練習をする
第5回	春学期前半まとめ、初見・歌唱5	（学修内容）初見・歌唱、個人チェック曲練習 （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をする
第6回	第1回個人チェック 歌唱指導1	（学修内容）グループ別に課題曲を一人ずつチェック。教育実習事前事後指導で作成した各自の指導案に基づいて、実施に歌唱指導を行う （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をする ペープサート等準備、作成した指導案を確認する
第7回	歌唱指導2	（学修内容）歌唱指導を一人ずつ行う。教育実習事前事後指導で作成した各自の指導案に基づいて、実施に歌唱指導を行う （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をする ペープサート等準備、作成した指導案を確認する
第8回	歌唱指導3	（学修内容）歌唱指導を一人ずつ行う。教育実習事前事後指導で作成した各自の指導案に基づいて、実施に歌唱指導を行う （事前事後学修課題の内容）（120分） 「子どものうた」の練習をする ペープサート等準備、作成した指導案を確認する
第9回	初見。伴奏付け補充練習1	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をする
第10回	初見。伴奏付け補充練習2	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をする
第11回	初見。伴奏付け補充練習3	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をする
第12回	初見。伴奏付け補充練習4	（学修内容）幼・保の就職試験に向けての実践練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」の練習をする
第13回	春学期後半まとめ	（学修内容）初見・歌唱、伴奏付け （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」を練習し、指示した曲、直しておく箇所を弾けるようにする
第14回	初見・伴奏付けテスト	（学修内容）幼・保就職で出題される曲を中心に初見伴奏付けテストを行う （事前事後学修課題の内容）（60分） 伴奏付けの練習をする。個人チェックの課題曲を練習する
第15回	第2回個人チェック	（学修内容）課題曲を一人ずつ聴く （事前事後学修課題の内容）（120分） 個人チェックの課題曲を練習する

授 業 名	音楽 (弾き歌い・合奏)			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE2423
英 文 名	Music IV (singing whild playing・ensemble)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	千田 浩美・後藤 由美子・水谷 佳代子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即、対応する能力と、幼稚園・保育園に就職した場合は、現場で役立つ実践的な能力を養う。また、同時に「子どもの歌」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身に付ける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を身に付け、演奏できる。 2) 現場で役立つピアノの実践的な能力を身に付けることができる。 3) ピアノ弾き歌いで表現力豊かに演奏できる。 4) 初見で簡単な楽譜に編曲でき、演奏できる。 5) 「子どものうた」のレパートリーを増やすことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 (初見力)	()			
テ キ ス ト	「子どものうた」華頂短大音楽研究室 編								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	練習してきた曲は授業の中でレッスンします。								
留 意 事 項	幼・保の就職試験に対応するため、個人指導を増やし、時間外にもレッスンをします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に実施。 小川のオフィシアワーも可。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	音楽（弾き歌い・合奏）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業内容の説明、歌唱、初見 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どものうた」を数曲練習しておく
第2回	初見・伴奏付けテスト	（学修内容）就職試験のリハーサル （事前事後学修課題の内容）（60分） 初見、伴奏の練習をしておく
第3回	初見・伴奏付け補充練習	（学修内容）歌唱・初見伴奏付け （事前事後学修課題の内容）（60分） 初見、伴奏の練習をしておく
第4回	初見・伴奏付け補充練習	（学修内容）歌唱・初見伴奏付け （事前事後学修課題の内容）（60分） 初見、伴奏の練習をしておく
第5回	第1回個人チェック ピアノ練習曲	（学修内容）前半課題曲の小テスト 就職試験でのピアノ曲を練習 （事前事後学修課題の内容）（120分） 個人チェック曲練習しておく 就職試験で弾く曲を練習しておく
第6回	リズム変奏 ピアノ練習曲	（学修内容）マーチ・スキップ・かけ足・ワルツに変奏 就職試験でのピアノ曲を練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） ピアノの練習しておく 就職試験で弾く曲を練習しておく
第7回	初見・伴奏付け補充練習 ピアノ練習曲	（学修内容）歌唱・初見伴奏付け 就職試験でのピアノ曲を練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 初見、伴奏の練習しておく 就職試験で弾く曲を練習しておく
第8回	初見・伴奏付け補充練習 ピアノ練習曲	（学修内容）歌唱・初見伴奏付け 就職試験でのピアノ曲を練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 初見、伴奏の練習しておく 就職試験で弾く曲を練習しておく
第9回	初見・伴奏付け補充練習 ピアノ練習曲	（学修内容）歌唱・初見伴奏付け 就職試験でのピアノ曲を練習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 初見、伴奏の練習しておく 就職試験で弾く曲を練習しておく
第10回	保育者としての音楽練習1（生活の歌1）	（学修内容）保育を想定しての音楽教育全般の練習 生活の歌を中心に模擬練習 （事前事後学修課題の内容）（30分） 生活の歌を中心に練習しておく
第11回	保育者としての音楽練習2（生活の歌2）	（学修内容）保育を想定しての音楽教育全般の練習 生活の歌を中心に模擬練習 （事前事後学修課題の内容）（30分） 生活の歌を中心に練習しておく
第12回	保育者としての音楽練習3（季節の歌1）	（学修内容）保育を想定しての音楽教育全般の練習 季節の歌を中心に模擬練習 （事前事後学修課題の内容）（30分） 季節の歌を中心に練習しておく
第13回	保育者としての音楽練習4（季節の歌2）	（学修内容）保育を想定しての音楽教育全般の練習 季節の歌を中心に模擬練習 （事前事後学修課題の内容）（30分） 季節の歌を中心に練習しておく
第14回	保育者としての音楽練習5（合唱）	（学修内容）保育を想定しての音楽教育全般の練習 合唱曲を中心にグループワークを行う （事前事後学修課題の内容）（120分） 合唱曲を準備する 個人チェック曲の練習をしておく
第15回	第2回個人チェック	（学修内容）後半課題曲の小テスト （事前事後学修課題の内容）（120分） 個人チェック曲の練習をしておく

授 業 名	教育実習事前・事後指導 b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE1413
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子・水谷 隆・浅田 瞳・小川 隆昭・渋谷 郁子・東野 洋子・伊原 安見子・柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	教育実習を行うために必要な事前の事項について具体的に学ぶ。 幼稚園教育の概要を学び現場の教育の全体が理解できるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 実習の意義、目的を理解することができる。 2) 実習に臨むための心構えや教員の倫理観が理解できる。 3) 日常の態度や言動を振り返り、幼児のモデルとなるよう見直すことができる。 4) 実習直前の準備として、幼児とのかかわり(指導)、指導計画案の理解、実習ノート記入などの重要な意義を確認することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 京都教育大学附属幼稚園編「教育課程・指導計画」								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に提出したレポートに対して授業内で解説を行う。								
留 意 事 項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。 免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習を実施できないこともある。 授業時間外で評価面談を行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	各教員が授業内で伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導 b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育実習事前・事後指導の授業について	(学修内容) 実習関係調査表を記入し意識を確定する。授業の進め方や内容、目的を理解する。春休み休暇課題を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回生の授業ファイルを見直しておく。春休み休暇課題を見直して準備しておく。
第2回	幼稚園実習に向けての準備(6月教育実習)	(学修内容) 教師としての意識をたかめる。2週間の実習内容を想定する。実習生カードを記入する。春休み休暇課題を発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習生カードへ記入内容及び配布した書類等は不備がないように見直しておく。春休み休暇課題の発表準備をする。
第3回	幼稚園の生活の流れ 6月実習目標の設定	(学修内容) 幼稚園の一日の流れを理解する。 6月の実習目標の設定する。春休み休暇課題を発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 6月の実習目標を作成し提出する。春休み休暇課題の発表準備しておく。
第4回	幼稚園指導計画書の作成 教材研究を通して 6月の指導計画を立案する	(学修内容) 指導計画の目的と書き方を理解する。6月の活動を実践する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 授業で実践した活動を主として、指導計画を作成し提出する。
第5回	実習の心構え 個人情報保護誓約書の説明 実習目標の下書き 返却	(学修内容) 実習の心構えの確認。教育実習記録の必要性を理解し、記録の記入方法を把握する。個人情報保護の重要性と社会人としての責任を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布された6月実習記録の概要部分、目標、実習予定表を記入しておく。実習目標の下書き添削を見直して記入しておく。
第6回	実習園とのオリエンテーションの説明 実習の振り返り報告書について説明	(学修内容) 諸届けの記入の仕方と必要性を理解する。実習の振り返りの必要性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布された実習ノートを見直し授業内で指示した項目を記入し提出する。
第7回	実習評価の観点について	(学修内容) 実習評価項目について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児の姿と保育の記録を作成し提出する。
第8回	実習ノート記入の実際 幼稚園指導計画書の作成 (返却・アドバイス)	(学修内容) 実習記録の書き方を理解する。作成提出した指導案を見直し、指導計画作成について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートの実習園の概要、教育方針など必要事項を記入する。返却された指導案を見直す。
第9回	9月の実習オリエンテーションについて 実習訪問担当教員との顔合わせ	(学修内容) 9月実習の諸手続きを理解する。実習訪問担当者と面談し、実習に向けての意欲を高める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 返却された指導案を見直し、修正する。
第10回	幼稚園教育実習期間	(学修内容) 実習 (事前事後学修課題の内容) (180分) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などを行う。
第11回	幼稚園教育実習期間	(学修内容) 実習 (事前事後学修課題の内容) (180分) 各自の実習に応じて、設定保育・部分実習の計画や準備、ピアノ練習などを行う。
第12回	6月実習の振り返り 9月実習の目標設定	(学修内容) 振り返りシートを記入し提出する。(6月実習の振り返り、自己課題を明確する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習振り返りシートの項目について考えまとめてくる。9月の実習目標(下書き)を作成する。七夕の行事について調べる。
第13回	幼稚園指導計画書の作成 9月の指導計画(一日実習を想定して作成する)	(学修内容) 9月の幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「教育課程・指導計画」の各学年9月の内容を予習する。
第14回	幼稚園指導計画書の作成 相互添削の方法について説明する	(学修内容) 指導案の添削方法について理解する。 自分の作成した指導案を学生相互に交換し、添削し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指導計画の考え方、記入方法を復習しておく。
第15回	9月実習に向けての心構えと準備 9月実習記録の点検・確認 定期試験について 実習評価面談について	(学修内容) 9月実習ノートの配布。9月実習に向けて心構えや準備の再確認をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 9月の保育を予想して心構えややるべきことを確認する。9月の実習記録の必要部分を記入しておく。

実習名	保育実習 a (CE1414)	対象学生	幼児教育1回生
担当者	高岡 理恵・安藤 正彦・武田 康晴・名賀 亨・野田 隆生・鈴木 えり子・眞崎 雅子・山部 泰司・日比野 桂子・林 静香・浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき・福井 百合子・水谷 隆・渋谷 郁子・柘植 誠子		
実習の概要	<p>「保育実習」は「保育所実習」と「施設実習」があり、どちらの実習も実施しなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目標・目的 実習では、授業で習得した基礎知識や技能を実際の職務に応用しながらその経験を通して乳幼児（利用者）に対する理解を深めること、保育士の職務内容を理解し保育・養護技術を習得すること、保育士としての自覚を高めることを目標にします。 2. 実習内容及び実習形態 <ul style="list-style-type: none"> 保育所実習 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上（10日間以上） 通勤による実習 実習先は近畿2府4県と福井県内とし、その選定方法は「保育実習指導」において説明します。 施設実習 児童福祉法に定められる児童福祉施設等で保育所以外の居住型福祉施設で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上（10日間以上） 原則宿泊による（一部のみ通勤）による実習 実習先の種別：乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・知的障害者支援施設等 実習先は学校で割り振り配属します。（個人的な事情等については事前に申し出ること配慮します） 3. 実習生に対する指導法 実習中は、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。教員は、原則的に実習中に1回訪問し、指導を行う。 4. 事前事後指導等の内容について 実習先で事前にオリエンテーションを受け、事前オリエンテーション報告に記入します。 その際、実習先で指導された内容について詳細に記載するとともに、教員に伝える必要性のある事項については、必ず連絡すること。指導は個別に行うこともあるため、Gメールを利用し、教員としっかり連絡をとるように心がけてください。 5. 実習受講条件 「保育実習指導」を受講していること 6. 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。社会とのかかわりの第一歩であるため、積極的に実習に臨んでください。 また、子どもとかわることを意識した、表情や態度を示してください。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の単位認定されるには、「保育実習指導」を履修する必要があります。「保育実習」と「保育実習指導」は個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。 ・保育実習指導（1回生春学期・秋学期）を必ず履修していること。 ・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。 ・実習記録は毎日提出すること。 		

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE2421
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	野田 隆生・高岡 理恵・林 静香・日比野 桂子・安藤 正彦・日永 よし子・友本 喜代子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	「保育実習（保育所）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習の経験を踏まえて、ふりかえり、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（保育所）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	随時資料を配布します。								
参 考 書	下記の冊子は毎時携行することが望ましい。（出版社はフレーベル館） 1) 『保育所保育指針』厚生労働省 2) 『保育所保育指針解説』厚生労働省 3) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 4) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省								
課題に対する フィードバック の方法	個別面談を通じて、各課題に対するコメントを行います。								
留 意 事 項	「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、実習を開始できないので注意すること。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。（事前に予約を入れることが望ましい。）								
実 践 的 教 育									

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習 についての実習概要・講義の進め方等について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所・施設) に関する実習ノート等を準備し、記載事項の不備がないことを確認しておく。
第2回	保育実習 の目的・意義	(学修内容) 保育実習 との相違点や段階性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所) の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。
第3回	保育実習 のふりかえりレポートの作成	(学修内容) 保育実習 (保育所・施設) の内容について整理する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (施設) の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。
第4回	保育実習 のふりかえり	(学修内容) 保育実習 (保育所実習) のふりかえりをプレゼンテーションすることで、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習記録ならびに指導案を読み返し、ワークシートに記入しておく。
第5回	保育実習 の評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習) の個別評価面談を通して、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 評価面談終了後、これからの課題についてまとめておくこと。
第6回	保育実習 のふりかえりと評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習) ふりかえりや個別評価面談を通して、保育実習 に向けた課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回までのふりかえりと個別評価面談の内容についてまとめておくこと。
第7回	実習生カードの作成・提出	(学修内容) 実習生カードの作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習生カード作成に必要なものを用意し、保育実習 に向けた動機を整理しておくこと。
第8回	保育士の倫理綱領について理解する	(学修内容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育専門職としての倫理について、ワークシートにまとめておくこと。
第9回	保育実習 実習目標・課題の作成	(学修内容) 保育実習 の新たな目標・課題を設定する (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標を3つ考え、それぞれに課題を設定し、説明ができるようにしておくこと。
第10回	実習目標・課題の添削・指導	(学修内容) 実習課題の添削指導を個別相談にて行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標と課題を清書用シートに記入しておくこと。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の説明	(学修内容) 保育実習 の実習記録ノートの配布、記録の書き方について説明 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 の記録ノートを読み返し、書きにくかったことをまとめておくこと。
第12回	8月の保育内容 ～水遊びの指導・注意事項・指導計画の立案～	(学修内容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画を立案し実践に向けての準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 夏の保育活動をイメージし、指導案の内容について考えておくこと。
第13回	実習事前指導 ～実習の心得などの説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、実習園の特徴や保育内容に関する情報を収集しておくこと。
第14回	実習事前指導 ～必要書類の説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、目標と課題について理解した上で、個別面談に臨めるようにしておくこと。
第15回	実習訪問担当者との面談	(学修内容) 実習訪問担当者との面談にて個別指導 (事前事後学修課題の内容) (45分) 報告書等に必要事項を記入し、面談時に提出すること。

実 習 名	保育実習 a (CE2420)	対 象 学 生	幼児教育2回生
担 当 者	野田 隆生・鈴木 えり子・名賀 亨・友本 喜代子・安藤 正彦・日永 よし子・高岡 理恵・山部 泰司・日比野 桂子・林 静香・浅田 瞳・小川 隆昭・坂口 みゆき・水谷 隆・渋谷 郁子・福井 百合子・眞崎 雅子・柘植 誠子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習（保育所）の内容 乳幼児の成長・発達を理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、指導計画を立案し研究実習（部分、半日、全日のいずれか）を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行い、原則「保育実習」の保育所実習先と同様とする。 期間は、2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、保育所の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>【留意事項】 COVID-19感染症について 平素より自身の健康・体調管理を徹底し、現場での実習に臨むことができるよう取り組みましょう。</p> <p>1. 実習受講の条件 = ○「保育実習」の実習を終了していること。○「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。○「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されますが、連動しているもので個別に単位認定されることはありません。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲 = ○プライバシー保護に基づいて、実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。○子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理を徹底して行う。</p>		

授 業 名	保育実習指導 a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE2421
英 文 名	Guidance of Child Care Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>「保育実習（施設）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の施設実習の経験を踏まえて、振り返り、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（施設）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。実践力を身につけることを目的に学生同士の意見交換、グループ作業を取り入れて授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 保育士としての社会的責任を説明することができる。 4) 実習課題を明確にし、実習目標を達成する。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ()		プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	保育実習指導 で使用したテキストを引き続き使用する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	個別面談を通じて口頭で行うほか、必要に応じて提出物にコメントを記入して返却する。								
留 意 事 項	<p>「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、準備ができていないという理由で実習開始できないので注意すること。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示し、口頭でも伝える。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		授 業 計 画
保育実習指導 a		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習指導、保育実習 について、実習概要、授業の進め方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスに目を通しておく。保育実習指導 のノートを確認し、不備がないものを準備する。
第2回	保育実習 の目的・意義	(学修内容) 保育実習 との関連また相違点や段階的学習について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 の実習ノートの該当箇所を復習し、課題を抽出しておく。
第3回	保育実習 の振り返りレポートの作成	(学修内容) 保育実習 の内容について振り返りを行い、個別面談を経て保育実習 へ向かう課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習に関するファイル情報を作成し提出する。
第4回	保育実習 の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第5回	保育実習 の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第6回	保育実習 の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習 の振り返りと個別面談を通じて保育実習 の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第7回	実習生カードの作成と提出	(学修内容) 実習生カードその他、保育実習 に必要な書類について準備する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 写真等実習生カードその他の作成に必要なものを準備してくる。
第8回	保育士として持つべき価値観・倫理観	(学修内容) 全国保育士会の倫理綱領等を活用し、保育士として、また実習生としての倫理、義務、責任について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 倫理綱領に目を通しておく。また事後には、保育士の倫理についてレポートを作成する。
第9回	実習目標と課題の作成	(学修内容) 保育実習 の積み残し課題を踏まえ、保育実習 としての目標と課題を検討、所定の用紙を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 目標と課題の用紙を作成し、提出する。
第10回	実習目標と課題の添削指導	(学修内容) 前回の授業を通じて作成、提出した実習課題と目標の用紙を使い、グループ作業も取り入れながら相互添削、教員による添削を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の内容を踏まえ、目標と課題の用紙を清書して提出する。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の解説	(学修内容) 実習記録の書き方を学ぶ。また、保育実習 (施設) の実習ノートを持参し、自己添削するワークショップも用いて記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 実習ノートを使って1日の記録を記入して提出する。
第12回	保育実習 に関するグループ指導	(学修内容) 保育実習 (施設) という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容に関するレポートを作成する。
第13回	保育実習 に関するグループ指導	(学修内容) 保育実習 (施設) という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容に関するレポートを作成する。
第14回	書類の作成指導	(学修内容) 保育実習 に必要な書類について、活用方法、必要性を十分に理解しながら作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 書類作成に必要なものを準備する。
第15回	保育実習 に向けた最終確認・指導と訪問教員との顔合わせ	(学修内容) 保育実習 に向けた最終的な諸注意事項を理解する。また、訪問担当教員と面談し、実習中の指導方法について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 実習に向けて総括的なレポートを作成する。

授 業 名	教育課程総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1302
英 文 名	Outline of Curriculum			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における教育課程や全体的な計画の意義や目的、役割を理解し、年齢や発達の様態、保育の連続性を踏まえた教育課程や全体的な計画の編成方法を学びます。また、教育課程からつながる指導計画の作成方法を理解し、実際に短期の指導計画を作成することや、発表、グループワーク等を通してさらに学びを深めます。また、教育課程や全体的な計画の編成から、保育の質の向上へと繋がるカリキュラム・マネジメントを行う意義や重要性を理解し、評価の基本を学びます。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義や、基本原理に即した教育課程・全体的な計画の編成方法を理解できる。 2) カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の基本的な考えを理解できる。 3) 子ども理解を踏まえた指導計画の作成方法を理解し、自ら作成することができる。 4) 指導計画の理解や作成を通して、自己の課題を省察・評価・改善することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (計画・立案力)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	神長美津子他3名著 『教育課程論』光生館 2018年 文部科学省編 『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年、厚生労働省編 『保育所保育指針』フレーベル館 2017年、内閣府、文部科学省、厚生労働省編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年								
参 考 書	岩崎淳子他2名 『教育課程・保育の計画とその評価』萌文書林 2018年								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、次の授業内で適宜コメントします。 発表についてはその場で指導・助言を行います。								
留 意 事 項	要領・指針(3冊)は、主要テキストに合わせて使用するため、毎回必ず持参すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で告知します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：亀山市公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として勤務								

授 業 名	教育課程総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育におけるカリキュラム	(学修内容) 授業概要の説明、学校教育における教育課程の意義及び現在の日本の学校教育におけるカリキュラム改革について (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習: 幼稚園と小学校の教育課程を比較し、何が異なっているのかレポートにまとめて提出する。
第2回	保育の基本と計画の考え方	(学修内容) 保育における計画、幼児教育の教育課程の意義について「幼稚園、小学校教育課程の比較」におけるディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習: 「幼児期に育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についてまとめておく。
第3回	幼児教育の特質 幼稚園における教育課程の役割と編成	(学修内容) 「幼児期に育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性、幼稚園における教育課程について (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習: 具体的な子どもの遊びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目に沿って考え、レポートにまとめて提出する。
第4回	保育所における全体的な計画 幼保連携型認定こども園における全体的な計画	(学修内容) 保育所や幼保連携型認定こども園の全体的な計画の意義や役割について (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習: 幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の全体的な計画について、共通点や相違点をレポートにまとめて提出する。
第5回	長期の指導計画の実際	(学修内容) 全体的な計画の比較、長期の指導計画の基本的な考え方と内容について (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習: いくつかの園の長期の指導計画(同年齢、同時期)を比較検討し、相違点・共通点を発表できるようにしておく。
第6回	短期の指導計画の実際	(学修内容) 各園、各年齢における短期の指導計画について (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習: いくつかの園の日案の形式を比較検討し、相違点・共通点を発表できるようにしておく。
第7回	指導計画作成の基本とその方法	(学修内容) 指導計画の形式、作成手順、作成方法について (事前事後学修課題の内容) (120分) 予習: 読み聞かせに使用したい絵本を2冊選択し、ねらい・内容を理解しておく。
第8回	指導計画の作成 (ねらい、内容、準備物等)	(学修内容) グループ内での絵本の読み聞かせ 絵本の読み聞かせにおける指導計画のねらい、内容等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習: ねらいについて、要領・指針を参考に、「3つの柱」「10の姿」「5領域のねらい」が反映されているか見直しておく。
第9回	指導計画の作成 (環境構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・配慮等)	(学修内容) 絵本の読み聞かせにおける指導計画の環境構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・配慮等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習: 作成した「保育者の援助・配慮」に意図が書かれているか見直しておく。
第10回	指導計画の作成 (製作活動のDVD視聴)	(学修内容) 製作活動におけるDVD視聴とディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導計画で取り上げる製作物の教材研究をしておく。
第11回	指導計画の作成 (製作活動)	(学修内容) 製作活動における指導計画作成の留意点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導計画を完成させ、発表できるようにしておく。
第12回	指導計画、製作物の発表	(学修内容) 指導計画、製作物の紹介、他者の発表からの学びについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導計画に、他者の発表からの学びを反映させ、修正しておく。
第13回	カリキュラム・マネジメントの意義と実際	(学修内容) カリキュラム・マネジメントの意味や必要性、指導計画の評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 作成した指導計画の評価を行い、提出できるようにしておく。
第14回	幼児教育と小学校教育の円滑な接続	(学修内容) カリキュラムからみる幼児教育と小学校教育の違い、スタートカリキュラムの考え方について (事前事後学修課題の内容) (60分) 各市町村の保幼小の連携活動を調べ、発表できるようにしておく。
第15回	世界の乳幼児教育改革	(学修内容) 諸外国の乳幼児期の教育に関する考え方とカリキュラムガイドラインについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 各国の保育改革の動向の中で、日本との共通点や相違点を整理し、表にまとめておく。

授業名	保育内容総論			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	CE1301
英文名	Outline of Child Care			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	鈴木 えり子			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」を踏まえながら、保育内容について総合的に理解する。保育内容の5領域である「健康」「人間関係」「言葉」「環境」「表現」について、各年齢別の保育実践の背景となる理論を理解する。理解を深めるために保育実践を行い、体験を通して指導上の留意点や指導計画・方法・援助が理解できるようにする。								
学修成果到達目標	1) 保育内容5領域について理解できる。 2) 各年齢に応じた保育内容のねらいが理解できる。 3) 具体的な保育内容について実践と理論を関係づけることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『保育内容総論-子どもと社会の未来を拓く-第3版』 近藤幹夫編著 青踏社								
参考書	文部科学省編『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表については授業内で評価コメントを行います。 小テストについては採点して返却します。								
留意事項	保育内容を実践する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくる。								
オフィスアワー	研究室に掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	保育内容総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 保育の基本と保育内容	(学修内容)「保育内容」のことばの意味や意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの頃の生活や遊び活動を思い出しておく。
第2回	幼稚園・保育所・認定こども園の一日 DVD視聴	(学修内容)幼稚園・保育所・認定こども園の生活の流れを学ぶ。 日本における保育施設を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分自身の就学前までの生活環境や保育環境を振り返ってみる。
第3回	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較検討	(学修内容)幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容を比較しその相違を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 比較検討した内容を見直して配布プリントを完成させておく。
第4回	生活や遊びを通じた総合的な保育活動 1 ～グループの話し合い～	(学修内容)実践事例(生活・遊び)をもとにグループ活動を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) グループで発表準備を行う。
第5回	生活や遊びを通じた総合的な保育活動 2 ～グループ発表～	(学修内容)グループ発表を行う。活動としての遊びの重要性を理解する体験をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 5領域のねらいをワークシートを完成させて次回提出する。
第6回	保育内容 1 領域「環境」	(学修内容)領域「環境」のねらい・内容を理解する。領域「環境」と「環境構成」のことばの違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 身近なモノを使った保育実践事例をポスターにして提出する。
第7回	保育内容 2 領域「言葉」	(学修内容)保育内容「言葉」の領域と活動についてねらいを理解する。 絵本の読み聞かせをグループで実践する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 絵本の読み聞かせに適した絵本を選び素読をしてくる。読み聞かせ実践の後、気づきをレポートにまとめて提出する。
第8回	保育内容 3 領域「表現」	(学修内容)保育内容「表現」の領域と活動についてねらい・内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 小テストの準備をする(5領域/ねらい)。保育内容のねらい・内容について振り返りまとめておく。
第9回	子どもの発達に応じた保育の展開 ～牛乳パック制作～	(学修内容)牛乳パック制作を通して、保育活動のねらい・内容、活動展開、保育者のかかわりを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 牛乳パックなど廃材を使った保育教材を考えてみる。制作に必要なものを準備する。
第10回	保育内容の歴史の変遷 小テスト	(学修内容)日本の保育の戦前・戦後の保育内容の歴史の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 小テストの準備をする。
第11回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域・活動とのつながり	(学修内容)幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域および活動とのつながりを事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業内の事例をノートにまとめておく。
第12回	保育内容 4 領域「人間関係」	(学修内容)領域「人間関係」のねらい・内容を理解する。子どもの発達と保育内容について、触れ合い遊びの実践から理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 知っている手遊びを書き出してくる。
第13回	保育内容 5 領域「健康」	(学修内容)子どもの発達と領域「健康」について理解する。特に基本的な生活習慣、食育の重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「早寝早起きあさごはん」運動について調べておく。
第14回	環境構成と保育活動	(学修内容)子どもの活動において環境構成の果たす役割を事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「環境構成」「環境整備」「環境を通して」ということばの意味について調べてくる。
第15回	子どもを主体としたカリキュラム・デザイン	(学修内容)子どもの主体性に応じた指導計画の展開について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育記録・評価について意味を調べてくる。

授 業 名	子どもの食と栄養			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2308
英 文 名	Children's Food and Nutrition			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 明美・佐藤 愛			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体の成長や生活リズムの形成、健全な心を育み、さらに将来の健康の基礎を築くうえで大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、現代の子どもたちが抱える食に関する問題点について学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する等の目標を達成するために、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を習得する。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	坂本裕子編 『子どもの食と栄養』 (シリーズ名 子どもと社会の未来を拓く) 青踏社 2020年								
参 考 書	資料を配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	実際の保育における食の問題点を見つけ、現状分析ができるように、新聞等からの情報を調査、収集しておく。 授業内で子どもと食に関しての問題点や解決策などについて発表する時間を設ける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回にアナウンスします。								
実 践 的 教 育									

授業名	子どもの食と栄養	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代の子どもたちの健康と食生活	(学修内容) 子どもの食生活の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.12～18を読んでおく 朝食の重要性など子どもたちを取り巻く諸問題を調べておく
第2回	食に関する基礎的な知識	(学修内容) 栄養素の種類と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.20～28を読んでおく 炭水化物や脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルについて調べておく
第3回	体内での栄養素の代謝と役割	(学修内容) 栄養素の体内での消化と吸収の仕組み、代謝について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.28～34を読んでおく 栄養素の体内での働きを調べておく
第4回	食品の基礎知識、食品の分類・食品の表示制度	(学修内容) 食品成分表や食品表示について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 P.34～37を読んでおく 日常使用する食品の栄養成分を調べ、自分の食生活を点検しておく
第5回	バランスの良い食事と献立作成・調理の基本	(学修内容) 食事摂取基準や食事バランスガイド等について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.37～42を読んでおく バランスの良い健康的な食事について調べておく
第6回	小児期の発育・発達	(学修内容) 子どもの発育・発達の特徴と評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.44～52を読んでおく カウプ指数やローレル指数などの発育指数について調べておく
第7回	胎児期(妊娠期)の栄養	(学修内容) 胎児期の栄養の意義と食生活 妊産婦のための食生活指針 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.54～57を読んでおく 妊娠期に必要な栄養について調べておく
第8回	乳児期の栄養: 乳汁	(学修内容) 乳汁栄養(母乳、人工乳、混合栄養)の特徴と意義 調製粉乳の種類と調乳 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.57～68を読んでおく 無菌操作法による調乳の手順を理解しておく
第9回	乳児期の栄養: 離乳	(学修内容) 離乳の意義と離乳食の進め方 授乳・離乳の支援ガイド (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.69～80を読んでおく 離乳の進め方を調べておく
第10回	乳汁と離乳食の実習	(学修内容) 乳汁と離乳食を試食・試飲し特徴をまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.57～80を読んでおく スプーン、タオル(小)を持参すること
第11回	幼児期の栄養	(学修内容) 幼児期の食生活の特徴と食事の援助について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.82～92を読んでおく 子どもの間食の重要性について調べておく
第12回	学童期・思春期の栄養と食生活	(学修内容) 学童期・思春期の特徴、学校給食について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.93～102を読んでおく 学童期・思春期の食生活上の問題点を調べておく
第13回	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養	(学修内容) 保育所での食物アレルギー対応や障害のある子どもへの対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.104～118を読んでおく 子どもの食物アレルギーの原因となる食品を調べておく
第14回	家庭や児童福祉施設の食事と栄養	(学修内容) 家庭での食事の重要性、児童福祉施設での栄養と食生活 保育所や幼稚園での給食 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.120～129を読んでおく 保育所における和食給食の実践について調べておく
第15回	子どもの食育 まとめ	(学修内容) 食育の必要性と進め方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.132～167を読んでおく 食育計画を考えて発表する

授 業 名	保育内容・健康			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2316
英 文 名	Child Care : Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	子どもにとって健康は、健全な成長・発達に必要なものである。心身の健康に関する領域「健康」の意義を理解し、子どもの健康増進と健やかな育ちを支援するための保育と教育のあり様を学ぶ。就学後(小学校入学後)の教育へつなげる乳幼児保育・教育を意識できるよう観点について学習する。また家庭や地域における子どもの現状、乳幼児の生活行動や生活習慣の確立と健康教育について学習する。学びを深めるために、適宜、グループワークやディスカッションを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	乳幼児の健康の概念と心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容が言える。 乳幼児の成長・発達に関する基礎的な知識をふまえ、運動遊びや生活習慣の指導など子どもの健康を保障するための具体的方法を学ぶ。 子どもの発達にとって遊びが持つ意義と果たす役割について説明できる。 現代の子どもの健康を取り巻く諸問題を知る。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (積極的な調査の実施)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	谷田貝公昭 監修「 新版 実践 保育内容シリーズ1 健康」一藝社								
参 考 書	秋田喜代美・三宅茂夫 監、國土将平・上田恵子 編「シリーズ知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・健康」株式会社みらい その他は授業中に指示する								
課題に対する フィードバック の方法	授業後の小テストは解答後に答えと解説を表示する。								
留 意 事 項	教科書とノート持参で受講してください。子どもの健康や育ちに関心を持ち、健康増進と健やかな育ちを支援するための保育・幼児教育の中で求められる観点を身につける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回授業オリエンテーションで知らせる。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	保育内容・健康		
第1回	授業オリエンテーション 子どもの健康とは	(学修内容) 授業の目的・内容・評価等についての説明(しっかりメモを取って控えておくこと)。健康の定義と子どもの健康、現状と課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P11~20を読んでおくこと。 健康な状態とはどのような状態か考えておくこと。	
第2回	領域「健康」とは	(学修内容) 領域「健康」の目標、ねらい、内容についてと他領域との連携、就学後(小学校)教育との連携について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P21~34、授業資料(後日提示)を読んでおくこと。	
第3回	子どもの身体発育と健康	(学修内容) 年齢区分、身体的・生理的機能の発達と影響を及ぼす要因、園生活での留意点について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P35~45を読んでおくこと。	
第4回	子どもの心の発達と健康	(学修内容) 情緒の発達、社会性の発達について学ぶ。健康と身体的・社会的発達との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P46~57、授業資料(後日提示)を読んでおくこと。	
第5回	子どもの生活と健康	(学修内容) 保育場面での子どもの様子、家庭での生活について学ぶ。子どもの生活の現状と問題について知り、家庭や地域と連携した支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P58~68を読んでおくこと。	
第6回	基本的生活習慣の獲得 (食事・排泄・睡眠)	(学修内容) 基本的生活習慣の獲得(自立)の過程について学ぶ。(食事・排泄・睡眠)現代の基本的生活習慣の問題と課題について知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P69~80を読んでおくこと。	
第7回	基本的生活習慣の指導と援助	(学修内容) 基本的生活習慣の指導・援助の実際と環境づくりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P81~91を読んでおくこと。子どもが健康的な習慣を身につけていくために必要な関わりや働きかけを考え、挙げておく。	
第8回	0~2歳の発育を促す運動遊び	(学修内容) 0~2歳の運動機能の発達と運動遊びの配慮や注意について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P92~101を読んでおくこと。	
第9回	3~6歳の発育を促す運動遊び	(学修内容) 3~6歳の運動機能の発達と運動遊びの配慮や注意について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P102~111を読んでおくこと。	
第10回	食育と子どもの健康	(学修内容) 食育の意義と食育基本法、現代の子どもの健康の課題、園と家庭の食育と連携について学ぶ。食の安全について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業資料(後日提示)と教科書P112~125を読んでおくこと。各自、食品表示や食品添加物の種類を調べておく。	
第11回	子どもの病気	(学修内容) 子どもに多い感染症の対応、アレルギーの対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P126~135、授業資料(後日提示)を読んでおくこと。アナフィラキシーショックの症状と対応について調べておくこと。	
第12回	子どものケガ	(学修内容) 子どもの特徴、ケガや事故とその対処方法を学ぶ。ワーク: 幼児視野体験と気づきの共有(ディスカッション)を行い、発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P136~147を読んでおくこと。幼児視野体験メガネ(前回授業時に配布)を作成し持参すること。	
第13回	安全に対する意識	(学修内容) 安全保育、安全教育、保育環境の調整、危機管理について学ぶ。安全管理と衛生管理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P148~160を読んでおくこと。	
第14回	健康指導の計画・評価	(学修内容) 子どもの保健活動・健康活動の実際と評価の視点について学ぶ。(長期計画と短期計画、PTCAサイクル) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P161~171を読んでおくこと。	
第15回	就学前までに育むこと 定期試験についてオリエンテーション	(学修内容) 小学校就学前までにめざしたい子どもの姿と、働きかけや環境づくりについて学ぶ。定期試験に関しての方法や注意点などを説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P172~183を読んでおくこと。 授業全体の復習とまとめをしておくこと。	

授 業 名	保育内容・人間関係			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE1304
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	乳幼児の心身は周囲の人との出会いやかかわりを基盤として発達していくことを理解する。子どもを取り巻く人々との相互関係のなかで「人とかがわる力」をどのように形成していくかを理解し、そのうえで、保育者がどのような役割を果たさなければならないかについて、具体的な事例を取り上げ検討していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育内容「人間関係」のねらい・内容が理解できる。 2) 人とかがわる力の発達過程が理解できる。 3) 領域「人間関係」を主とした活動を通して保育者の援助が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	『子どもと社会の未来を拓く 保育内容 人間関係』徳安敦・阪上節子編著 青踏社								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』 フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 幼年教育研究所編著 「遊びの指導 乳幼児編」同文書院								
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートやグループ発表に対しては授業内でコメントを返します。								
留 意 事 項	グループ発表があるので、自分自身が人とかがわる力を身につけることを意識して、積極的に授業に臨むこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業時に連絡します。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 自分自身の人間関係を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までの人間関係の変遷を振り返っておく。	
第2回	保育の基本と領域「人間関係」	(学修内容) 社会的環境の変化と子どもの育ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの頃のことを保護者に聞きとりレポートにまとめて提出する。	
第3回	領域「人間関係」のねらいと内容	(学修内容) 領域「人間関係」の意義及びねらい・内容を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第3章読み返しておく。授業時の配布ワークシートを仕上げしておく。	
第4回	人とかかわる力の発達 (0歳児)	(学修内容) 0歳児の発達と人間関係の育ちを理解する。手作りおもちゃを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭にあった乳児おもちゃについて思い出しておく。手作りおもちゃに必要なものを準備しておく。	
第5回	人とかかわる力の発達 (1歳以上3歳未満児)	(学修内容) 1歳以上3歳未満児の発達と人間関係の育ちを理解する。手作りおもちゃを使った実践発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備をする。発表後人とモノとの関わりについてレポートをまとめて提出する。	
第6回	人とかかわる力の発達 (3歳児)	(学修内容) 3歳児の発達と人間関係の育ちを理解する。遊びの中での人とかかわりの事例について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第5章を読み返して事例について自分の考えをまとめておく。	
第7回	人とかかわる力の発達 (4歳児)	(学修内容) 4歳児の発達と人間関係の育ちを理解する。遊びを通して思いやりを育てることについて話し合いを通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第6章を読み返しておく。事例について自分の考えをまとめておく。復習として配布プリントを完成させておく。	
第8回	人とかかわる力の発達 (5歳児)	(学修内容) 5歳児の発達と人間関係の育ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第7章の事例に対して自分の考えをまとめておく。	
第9回	個の育ちと集団の育ち、保育者の役割	(学修内容) 保育における個の育ちと集団の育ちを理解する。遊びの意義と人とかかわる力を育てる保育者の役割について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時に紹介した保育活動についてレポートにまとめて提出する。	
第10回	昔遊び・なかよし遊び	(学修内容) 昔遊びを相互に話し合う。地域による違いや現在と昔の遊びの違いについて理解する。昔遊びを伝承していくことについて意義を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として話し合いでの気づきをレポートにまとめて提出する。	
第11回	グループ発表(1班～4班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。	
第12回	グループ発表(5班～8班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。	
第13回	グループ発表(9班～12班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。	
第14回	グループ発表(13班～16班)と実践	(学修内容) 人とかかわりを育てる遊びを受講生を対象に実践発表する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) グループで「人間関係」のねらいを主とした活動を考えレポートを作成し提出する。発表へのコメント・評価、振り返りをまとめて提出する。	
第15回	指導計画の実際 まとめ	(学修内容) 指導計画を立案する時の考え方や留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内で実践発表した活動内容を指導計画を想定してまとめておく。	

授 業 名	保育内容・環境			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CE2311
英 文 名	Child Care : Environment			開 講 時 期	春・秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>他の校種に先駆け、幼稚園では平成30年度より新幼稚園教育要領が施行され、「幼児期の終わりに育みたい10の力」を育てるための「環境」をどのように構成するのか、保育者一人ひとりの力量が問われている。保育内容・環境は5領域のひとつであり、自然や数量、標識など日常生活にあるさまざまなものと子どもの生活につなげ、子どもたちの生活をよりよいものにするためにはどのような指導・援助が必要なのかを考える領域である。</p> <p>たとえば、指導案を考える時の「環境構成」であったり、子どもたちが十分に遊びに没頭できるために、保育者はどのような配慮が必要なのか、保育者に求められる資質能力は年々高くなっている。</p> <p>この授業では、幼稚園および保育所で活動する上で必要な保育内容環境のねらい及び内容を踏まえ、幼児の活動を支える上で必要な知識および技術を習得し、活動上の留意点などを理解できることを目的としている。</p>								
学 修 成 果 対 達 目 標	<p>1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。</p> <p>2) 1を踏まえ、子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて調べ、それらのまとめを発表することができる。</p> <p>3) 保育内容環境のねらい及び内容を踏まえた活動指導案を作成することができる。</p> <p>4) みずから作成した指導案にもとづき、それらの活動を実践することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編 『生活事例からはじめる保育内容環境』(青踏社)								
参 考 書	文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館)、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(フレーベル館)								
課題に対する フィードバック の方法	個別に提出された小レポートについては内容について授業の中で解説を行い、フィードバックをする。 グループで作成したレジュメについてはその都度個別に助言・指導する。								
留 意 事 項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。 授業の後半ではグループごとに環境を前提とした指導案を作成し、ほとんどのグループに5分程度の活動を実践発表してもらう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業にて告知。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	保育内容・環境	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・「環境」とは	(学修内容) 授業の進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p.12-14に目を通し、環境についての小レポートをまとめる(事後)
第2回	幼児教育において育みたい資質・能力として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「環境」	(学修内容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における改訂の趣旨と領域「環境」について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p.34-39を参考に教育要領と保育指針の改訂の特徴をまとめる
第3回	子どもの環境と保育者	(学修内容) 環境への積極的なかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 環境領域の発表の準備及び話し合いをする
第4回	子どもの活動や生活と「環境」	(学修内容) 乳幼児の発達と環境のかかわりについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の「環境」の該当部分を読み、特徴をまとめておく
第5回	乳幼児の主體的な生活と「環境」	(学修内容) 乳幼児の主體的な生活と領域「環境」とのかかわりについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p.21-26を読み、環境を通して行う保育の重要性についてまとめる
第6回	園外活動によって育つもの	(学修内容) 散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p.118-129を参考に園外保育の重要性についてまとめる
第7回	季節による保育活動	(学修内容) 身近な植物と保育活動でのかかわり (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p.129-134を参考に季節を取り入れた保育について考える
第8回	身近な動物と保育活動	(学修内容) 身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p.111-116をもとに動物とのかかわりについて考える
第9回	環境を前提とした指導案の作成 指導案の作成	(学修内容) グループで環境を前提とした指導案を作成する (事前事後学修課題の内容)(60分) 季節や動植物など、子どもたちの発達や園の環境を前提とした指導案についてICT機器を用いてグループで考える
第10回	環境を前提とした指導案の作成 指導案のチェック	(学修内容) グループで提出された指導案の添削を行い、指導案を修正する (事前事後学修課題の内容)(60分) ICT機器から提出され、修正された指導案の内容を考える
第11回	環境を前提とした指導案の作成 教材を考える	(学修内容) 指導案で考えた教材を実際に作成し、保育現場で利用可能か検証する (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案で想定される制作物を作成する
第12回	環境を前提とした指導案の作成 教材チェック	(学修内容) 作成した教材を提出し、子どもたちの発達状況や季節に沿ったものかどうか検証する (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導を受けた教材の工夫を増やし、指導案をICT機器を用いて提出する
第13回	環境を前提とした模擬保育の実践	(学修内容) これまでの指導案および教材をもとに1グループ5分程度の模擬保育を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 模擬保育での課題をまとめる
第14回	環境を前提とした模擬保育の実践	(学修内容) これまでの指導案および教材をもとに1グループ5分程度の模擬保育を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 模擬保育での課題をまとめる
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	(学修内容) 領域「環境」と保育の関係性について振り返る (事前事後学修課題の内容)(60分) 15回の授業を振り返る小レポートを作成する

授 業 名	保育教材の研究			開 講 学 年	2回生	単 位 数		科 目 コ ー ド	CE2417
英 文 名	Study of Child Care Teaching Materials			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>幼児教育における保育活動において教材は幼児の興味や関心を引き出す有効な手段であること理解する。保育現場において必要な保育教材について理解を深め、その方法及び教育目的に適した技術に関する基礎的な考え方について学ぶ。様々な保育教材の特性を探求しながら、実際に製作や実演を通して、教材研究の重要性について理解を深める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>教材の製作や実践を通して、その方法や技術を身につけることができる。 教材研究を通して様々な素材・用具の特性を理解する。 子どもの発達や興味に応じた活用方法を多角的に考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で適宜コメントを返します。								
留 意 事 項	意欲的に取り組むことを期待します。受講人数によっては別途費用が派生する場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業内で伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		授 業 計 画
保育教材の研究		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 幼児教育の方法・技術の意義と重要性	(学修内容) 教育方法の基礎的理論と教材研究の必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 主体性・最善の利益のキーワードを調べてくる。
第2回	教材研究 1 (身近な素材)	(学修内容) 幼児に適した素材について実践する。 例/新聞紙を使って遊ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの身近な素材をリストアップしてくる。授業での実践を振り返りをレポートにまとめて提出する。
第3回	教材研究 2 (身近な素材・実践発表)	(学修内容) 身近な素材を使った実践について発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践発表の準備をする。
第4回	季節に応じた保育教材の研究(春) ーペープサートで自己紹介ー	(学修内容) 春の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/ ペープサート・カード作り (事前事後学修課題の内容) (30分) 春の季節に応じた保育教材について考えてくる。
第5回	季節に応じた保育教材の研究(夏) ー染め紙・水遊び・シャボン玉ー	(学修内容) 夏の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/ 染め紙・水遊び・シャボン玉 (事前事後学修課題の内容) (30分) 夏の季節に応じた保育教材について考えてくる。
第6回	季節に応じた保育教材の研究(秋) ー双眼鏡・メガネー	(学修内容) 秋の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/双眼鏡・メガネ (事前事後学修課題の内容) (30分) 秋の季節に応じた保育教材について考えてくる。
第7回	季節に応じた保育教材の研究(冬) ーたこあげー	(学修内容) 冬の季節に応じた保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/たこあげ、クリスマスの飾り (事前事後学修課題の内容) (30分) 冬の季節に応じた保育教材について考えてくる。
第8回	パネルシアター 1 作り方・演じ方の説明	(学修内容) パネルシアターの作り方、活用法を説明する。 パネルシアターの製作に関する準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パネルシアターについて調べておく。具体的な制作教材を考えてくる。
第9回	パネルシアター 2 下書き	(学修内容) パネルシアターの下書き、色塗りをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時間内でできなかった箇所を事後学修で行う。
第10回	パネルシアター 3 色塗り	(学修内容) パネルシアターの色塗りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 色塗りを完成させる。
第11回	パネルシアター 4 切り取り・発表準備	(学修内容) パネルシアターの切り取り、ふちどりを完了し発表準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パネルボードに貼り、演じ方を確認しておく。発表準備、練習をしておく。
第12回	パネルシアター 5 実践発表・評価	(学修内容) パネルシアターの実践発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パネルシアターの演じ方、セリフなど発表の練習をしておく。
第13回	パネルシアター 6 実践発表・評価	(学修内容) パネルシアターの実践発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の発表について改善点を考えてレポートにまとめてくる。
第14回	パネルシアター 7 発表後の振り返り	(学修内容) 発表についてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パネルシアターの意義を発表を通して考え、レポートにまとめてくる。
第15回	まとめ	(学修内容) 保育教材研究を振り返り、保育方法や技術等、保育教材の研究の意義や役割についてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 育みたい資質能力に照らし合わせて授業の実践例(教材)を考えてまとめる。

授 業 名	教職実践演習（幼稚園）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CE2425
英 文 名	Teaching Practice (Kindergarten)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	鈴木 えり子・水谷 隆・浅田 瞳・東野 洋子・中道 昌宏・柘植 誠子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>教職課程の各授業が実践と結びついていることを確認できる機会をもち、学生が自己の課題を自覚する。幼稚園教育の基本をしっかりと身につけ、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための保育実践力を高め、専門性や資質の向上を図る。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 幼稚園教員として必要な資質について説明することができる。 2) 履修カルテを参照し、自らの課題が認識できる。 3) 領域を基盤とした生活発表会の行事をグループで企画、実践発表することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	京都教育大学附属幼稚園編 『指導計画・教育課程』 文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表についてはその都度コメントを返します。								
留 意 事 項	教職課程を履修し確実に身につけることができたか確認すること。特にグループ発表は現場での「協働」を意識して積極的に参加、発言すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示して知らせます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：元幼稚園園長 東野洋子 外部講師 現京都市指導主事 中西昌子（予定）								

授 業 名		教職実践演習（幼稚園）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	教育実習の振り返り 教職実践演習の授業について	（学修内容）教育実習について振り返り、学びの成果と課題について省察する。教職実践演習の意義と内容について説明する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 9月実習振り返りシートを記入してくる。履修カルテを書き、各自の課題を明確にしておく。	
第2回	行事を通して育むもの 1 -生活発表（劇発表）について-	（学修内容）劇発表（生活発表）会の取り組みの意義について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 幼児期に体験した生活発表会を振り返っておく。	
第3回	行事を通して育むもの 2 -運動会の行事について- 華頂幼稚園 主任 勝谷先生	（学修内容）運動会の目的、幼児の発達に応じた内容、日頃の遊びや生活とのつながりを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（180分） 実習先の運動会の日程を把握しておく。実習先の運動会行事に参加しレポートを作成提出する。	
第4回	グループ活動 1	（学修内容）グループで話し合い、保育活動（劇発表）の教材を共有する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇発表の題材について考えてくる。	
第5回	グループ活動 2	（学修内容）グループで話し合い、保育活動（劇発表）の教材を共有し、計画書を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇発表にとりあげる教材（絵本）を選んでもってくる。	
第6回	グループ活動 3	（学修内容）発表に必要な役割分担、あらすじ、全体構成など準備を行う。各グループで準備を進める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習としてグループ内で決まった各自の分担役割の内容を完成させておく。	
第7回	グループ活動 4	（学修内容）各グループで話し合い準備をすすめる。（衣装・大道具・小道具を作成） （事前事後学修課題の内容）（90分） 発表に向けてグループで準備を行う。	
第8回	幼小連携について - 小学校への滑らかな接続を考える - 外部講師 京都市指導主事 中西昌子先生	（学修内容）幼児教育と小学校教育の接続について学び、子どもが安心して小学校生活をおくるための保育者の役割について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として講義内容をまとめ、レポートを提出する。	
第9回	学生によるグループ発表準備	（学修内容）グループ発表の最終調整を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各グループで流れを把握しリハサルを行っておく。	
第10回	学生によるグループ発表 1	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。	
第11回	学生によるグループ発表 2	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。	
第12回	学生によるグループ発表 3	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する 復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。	
第13回	学生によるグループ発表 4	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをレポートにまとめ提出する。	
第14回	学生によるグループ発表 5	（学修内容）グループ発表をしたり、他のグループ発表を見たりして、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習としてグループ発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをまとめ提出する。	
第15回	学級経営の視点 履修カルテをもとに自己課題を明確にする	（学修内容）幼児理解を大切にされた日常の保育から生活発表会へつなぐ保育の実践について学ぶ。履修カルテを提出する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテの作成を通して自己課題についてレポートを作成する。	

実 習 名	教育実習（CE2418）	対 象 学 生	幼児教育2回生
担 当 者	鈴木 えり子・武田 康晴・浅田 瞳・渋谷 郁子・名賀 亨・坂口 みゆき・福井 百合子・東野 洋子・高岡 理恵・野田 隆生・眞崎 雅子・山部 泰司・林 静香・小川 隆昭・水谷 隆・伊原 安見子・柘植 誠子		
実習の概要	<p>幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。</p> <p>実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。</p> <p>実習は教師として人間として成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。</p> <p>華頂短期大学附属幼稚園や各都道府県市町村の公立・私立の幼稚園および認定こども園で、2年次に4週間、教育実習を行う。6月に2週間、9月に2週間の合計4週間の実習を行う。原則、同一園で実習を行うものとする。</p> <p>教育実習の期間中に実習園を訪問し巡回指導を実施する。但し、訪問による巡回指導が難しい場合は同等の手段を用いて実施する。教育実習は、限られた期間内で効果的な体験が得られるよう、次の段階を踏まえて実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前オリエンテーション 実習園でオリエンテーションを受け、実習園の沿革、人的・物的環境、学級編成、幼児の実態、教師の役割などを総合的に把握し、幼稚園の全体像を知る。 参加実習 担任の助手的な立場で保育活動に参加し、幼児とのかかわりを実習体験し、幼児のすがた、教師の対応を体験しながら学ぶ。 部分実習・指導実習（研究実習） 実習生が主体となって指導計画案を立案し、実際に指導を担当する。この指導実習を通して自ら反省し指導を振り返る。さらに、担当教員から講評・指導を受けて、次への指導の向上を図る。 		
備 考	<p>「教育実習事前事後指導」（1回生秋学期、2回生春学期）を必ず履修していること。</p> <p>「教育実習事前事後指導」の出席状況、受講態度および各種レポート等の提出がない場合には、実習を中止することがあるので気をつけること。</p> <p>実習に伴う各書類の提出に不備がある場合は実習開始できないこともあるので気をつけること。教育実習開始までに教職課程関係の授業の履修状況に不十分だと判断した場合は実習開始できない。</p>		

授 業 名	保育内容・表現（リズム・ダンス）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE2317
英 文 名	Child Care: Rhythm and Dance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	眞崎 雅子・山本 満佐子			対 象 学 生	幼児教育2A・2B・2C・2D				
授業の概要	<p>本授業は、子どもの心と体の発育発達を支えるために、保育者に必要な専門知識・技能の習得を目的とする。授業内容は、次の2つの表現領域をオムニバス形式で学習する。保育現場で行われる器楽合奏において幼児に使用される打楽器の奏法を習得する。子どもの年齢に応じたリズム表現あそびや運動あそびを中心とした身体的活動の指導法を身につける。以上の2つの表現領域について、創造的に表現することの楽しさをグループワークやプレゼンテーションを通して学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場（家庭や地域を含む）で子どもの心身の成長を促すために、自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こり得る様々な問題に対し柔軟な対応力を身に付ける。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『乳幼児の音楽表現』小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井康子（編）中央法規出版								
参 考 書	『幼児の音楽教育』森田百合子 他 教育芸術社 『子ども・からだ・表現：豊かな保育内容のための理論と演習』西洋子 市村出版 『豊かな感性を育む身体表現遊び』青木理子・井上勝子 ぎょうせい								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート・課題に対し、その都度コメント・次へのアドバイスをする。 実技に対し、その都合コメント・次へのアドバイスをする。								
留 意 事 項	1) 保育者を目指す学生として何事にも楽しく積極的に取り組む態度で臨むこと。 2) 課題に対し配布プリントの項目に沿って課題達成に向けて内容を確認しておくこと。 特に合奏や小編成のアンサンブルなどの練習を要する時は、担当のパート練習をしておくこと。 3) 適宜、運動服やシューズを着用し、衛生面・安全性に考慮すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など： 【山本満佐子】音楽教育、音楽療法、マーチングバンド、合奏、合唱の指導に携わる。京都府立鴨沂高等学校、宇治市立宇治小学校、宇治市立横島小学校、宇治市立南部小学校、宇治市立菟道第二小学校、幼児教室こどもの城、京都やまなし学園で活動。【眞崎雅子】幼児から大人を対象にダンス指導に携わる。コミュニティーセンター、幼稚園、小学校、教育委員会主催体育研究会で活動。								

授 業 名		保育内容・表現（リズム・ダンス）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス： 授業内容説明・幼児教育の基本と領域「表現」の ねらい及び内容について	（学修内容）授業の進め方・評価の方法などの説明 幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容 （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト・保育の5領域の1つ「表現」の内容を読み理解しておく	
第2回	保育現場における器楽合奏についての教材研究	（学修内容）保育現場で使われる幼児向けの打楽器の奏法を知ろう （事前事後学修課題の内容）（30分） 打楽器の正しい持ち方・演奏の仕方・名称を覚える	
第3回	器楽合奏（1）保育現場で使われる楽器について	（学修内容）手の小さな幼児が演奏する場合の打楽器の奏法の確認 （事前事後学修課題の内容）（30分） 打楽器の名称を正確に覚え、正しい奏法を習得する	
第4回	小編成アンサンブル（1）奏法、リズムなど体得 のための手順	（学修内容）曲とグループを決めて自分の担当する楽器を決める 決めた曲で使用する打楽器の奏法の確認 （事前事後学修課題の内容）（30分） 担当する楽器の奏法を習得する	
第5回	小編成アンサンブル（2）曲の構成・アーティ キュレーション	（学修内容）楽譜を正確に読もう （事前事後学修課題の内容）（30分） 音やリズムの間違いがないか確認する	
第6回	小編成アンサンブル（3）グループでの取り組み	（学修内容）他の楽器の音を聞いてリズムに合わせよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分のパートを練習する	
第7回	小編成アンサンブル（4）グループでの取り組み	（学修内容）音楽の構成を考えてp・f・dim・cresc.などの表現を考えて、曲のはじ めや終わり方を発表に向けて練習しよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 正確に演奏できるように練習する	
第8回	小編成アンサンブル（5）各グループの発表会	（学修内容）保育現場での発表会形式で発表し評価 （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表のための練習と発表後の評価	
第9回	リズムダンスと身体表現	（学修内容）リズムに合わせて動く楽しさを体感しよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 多様なリズムパターンを刻めるように練習しておく	
第10回	歌と動きのリズム表現	（学修内容）手遊びやわらべ唄に合わせてリズムカルな動きを習得した上で、アレン ジしてみよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 手遊びを覚えて発表できるようにしておく	
第11回	言葉と動きのリズム表現	（学修内容）オノマトペから動きへと多様な表現を通して、友達に共感し、表現の広 がり共有しよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 多種多様なオノマトペを挙げ、オノマトペによって引き出される動きに ついて確認し、運動・表現として発展させる方法について考えておく	
第12回	ペア・グループの即興表現	（学修内容）ペアやグループの即興表現で体験する同調や共振を確認し、身体を通し て交流を深めよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 保育現場では、身体の動きを通じた同調や共振がどのような場面で見受 けられるか書き出しておく	
第13回	リズムダンス創作（1）グループでの取り組み	（学修内容）作品のテーマを決めて創作活動を開始しよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 踊りたいテーマや使用曲について考えておく	
第14回	リズムダンス創作（2）グループでの取り組み	（学修内容）作品の振付と構成を決めて大きく動けるように練習しよう （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマに沿った振付やフォーメーションを考える	
第15回	リズムダンス創作（3）各グループの発表会	（学修内容）ダンスを踊り、鑑賞し、自他ともに評価をしてみよう （事前事後学修課題の内容）（30分） 自己の課題を見付け自主練習をしておく	

授 業 名	ピアノ実技			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE2423
英 文 名	Piano			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂口 みゆき・山中 信子・高科 絵美代・権田 志帆 子・阿久津 啓・服部 さやか・永峯 翠子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	初級者（バイエルが終わっていない）学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。音楽（ピアノと歌）で配布したステップ表を終了する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 楽譜を正確に読むことができる。 2) 基礎的なピアノ演奏技術を習得し、ステップ表（音楽 にて配布）を1つでも多く進むことができる。 3) 『子どものうた』の弾き歌いができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (演奏技術)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 (読譜力)				
テ キ ス ト	『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室発行）								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、練習してきた曲ついて、個別指導を行う。								
留 意 事 項	1) ステップ表（音楽 で配布）を終了していない学生を対象としています。ただし、音楽（ピアノと歌）を再履修する学生は履修することはできません。 2) 音楽療法士（2種）資格の取得を希望する学生は資格必修のため、1)に関わらず必ず履修してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口。山中（週1回 曜日と時間は研究室前に掲示）高科・権田・阿久津・服部・永峯（担当授業終了後に実施） * 高科・権田・阿久津・服部・永峯のレッスンを受ける学生は、坂口のオフィスアワーも利用してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、オルガニスト、ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当								

授 業 名	ピアノ実技	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) レッソンの進め方と注意事項等の説明・レッスン曲の決定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 基本的な音楽理論について復習をしておく(口頭で理解度を確認する)
第2回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第3回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第4回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第5回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第6回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第7回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第8回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第9回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第10回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第11回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第12回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第13回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第14回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第15回	教則本と弾き歌いの個別レッスン	(学修内容) 各自指定された試験曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定された試験曲を練習し(1日20分~30分以上), 完成させておく

授 業 名	ピアノ実技			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CE2424
英 文 名	Piano			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂口 みゆき・高科 絵美代			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。ピアノ曲だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲も練習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 『バイエル教則本』・『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』など、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 音符だけでなく記号等も含め、楽譜を正確に読むことができる。 3) 感情を込めた演奏をすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (演奏技術)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 (詳細な読譜力)				
テ キ ス ト	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』等、受講生個々の進度に合わせて、随時指定する。								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、練習してきた曲について個別指導を行う。								
留 意 事 項	ピアノレッスンのため、90分でレッスンできる人数に限りがあります。そのため、履修希望者が多い場合は、バイエル未修了者の履修を優先しますのでご了承ください。ただし、音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は、資格必修のため、必ず履修してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 高科(担当授業終了後に実施 坂口のオフィスパワーも利用してよい)								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、オルガニスト等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	教育相談（幼児理解を含む。）			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2315
英文名	Educational Counseling (Understanding Infanats)			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武田 康晴			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>保育現場における「相談」の必要性は高まっている。この授業では、保育現場における保育相談の意義と理論、保育相談の前提となる幼児の特性（幼児理解）、保育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識も含む）を理解した上で、保育相談の具体的な進め方、ポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携について理解を深める。現場実践においては、理論を知っているだけでなく、実際に相談に応じることが求められるため、ワークシートの記入、考えの表明、ディスカッション等によって「自分自身の対応」を常に意識しながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼児の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や発達課題を適切にとらえることができるようになる。 2) 保育現場における保育相談の意義と役割について理解できる。 3) 幼児の不適応や葛藤の意味および幼児に見られるさまざまな問題行動の兆候に気づき把握する方法を理解している。 4) 保育相談に関わる基礎的な理論・概念（カウンセリングや相談支援に関する基礎知識を含む）を理解している。 5) 保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携の必要性を理解する。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	必要に応じてプリントまたはデータで配布する。								
参考書	杉崎雅子『スギ先生と学ぶ 教育相談の基本』萌文書林,2018、その他にも必要に応じて紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	質問事項や全体に関連する事項は授業中に口頭で説明するほか、レポートについては必要に応じてコメントを記入して返却する。								
留意事項	事例検討については、自分の考えをワークシートやノートに記入し、プレゼンテーションとディスカッションを行うので、聴講だけでなく積極的に授業に参加すること。								
オフィスアワー	研究室前に掲示し、授業時にも口頭で伝える。								
実践的教育									

授 業 名		教育相談（幼児理解を含む。）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	<p>（学修内容）保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第2回	保育相談の基本的知識	<p>（学修内容）保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 保育所保育指針を確認しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第3回	カウンセリングと相談支援の基本的知識 （1）カウンセリングと相談支援の基礎	<p>（学修内容）全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、保育士の視点について学ぶ。カウンセリングと相談支援の基礎について学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第4回	カウンセリングと相談支援の基本的知識（事例の検討と発表を含む） （2）保護者との信頼関係の構築	<p>（学修内容）保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点、保護者との信頼関係の構築の方法について学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第5回	カウンセリングと相談支援の基本的知識（事例の検討と発表を含む） （3）傾聴・共感・受容	<p>（学修内容）カウンセリングと相談支援の基礎として、傾聴、共感的理解、受容について理解する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第6回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （1）基本的生活習慣に関すること	<p>（学修内容）基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方を学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第7回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （2）言葉の遅れが見られる場合	<p>（学修内容）言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第8回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （3）発達の偏りが見られる場合	<p>（学修内容）発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第9回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （4）問題行動（登園しぶり、過度の乱暴）が見られる場合	<p>（学修内容）子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第10回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （5）育児不安や育児ストレスの見られる保護者への支援	<p>（学修内容）養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援に理解を深める。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第11回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （6）虐待や不適切な養育の見られる保護者への支援	<p>（学修内容）虐待や放任、不適切な養育の見られる保護者の状況を理解し、適切な子どもとの関わりについて支援し、助言する方法を学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第12回	保育相談の評価、省察、PDCAサイクル（事例の検討と発表を含む）	<p>（学修内容）保育相談におけるPDCAサイクルを理解し、計画的な保育相談が進められるように方法や技術を習得する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第13回	保護相談に必要な組織的な取り組みと園内の体制整備（事例の検討と発表を含む）	<p>（学修内容）保育相談を効果的に進めるための園内の体制の整備を図り、役割分担やチームワークの在り方について学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第14回	地域の関係機関、専門機関との連携や協働（事例の検討と発表を含む）	<p>（学修内容）地域の関係機関、専門機関の役割や機能を学び、必要に応じて連携・協働が取れるように実践的に学ぶ。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。</p>	
第15回	全体の振り返り	<p>（学修内容）これまでの授業内容を順に振り返り、質疑応答を通じて不明な部分を解消する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（90分） これまでのプリントやノートを確認し質問事項を考えてくる。全体を総括してレポートをまとめる。</p>	

授業名	音楽療法の器楽			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CL2708
英文名	Instruments for Music Therapy			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	小川 隆昭			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>本授業では、音楽療法の実践の基礎となる音楽技術を身につけることを目的とする。授業では、ギター、リコーダー、木琴、鉄琴などの演奏を行う。具体的には、初心者でも、簡単な演奏ができるように次のように授業を進める。まず、ギター、リコーダーの、音階やコードの押さえ方を習得し、また、木琴、鉄琴など、鍵盤打楽器の練習も行う。授業後半は各パートごとに分かれて合奏を行う。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) ピアノ以外（ギター・リコーダー）の旋律楽器の音階、コードを弾くことができる。 2) 打楽器（木琴・鉄琴等）の基礎的な演奏ができる。 3) ピアノ以外の旋律楽器で合奏ができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (音楽的演奏能力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	プリント								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	練習してきたパートは授業の中で個々に指導する。								
留意事項	受講生は、授業以外でも、担当楽器を必ず練習することが必要。								
オフィスアワー	後日研究室前に掲示。								
実践的教育									

授業名	音楽療法の器楽	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ギター	(学修内容) 授業についての説明 ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターのチューニングが一人でできるようにする
第2回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターの練習 リコーダーの練習
第3回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第4回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第5回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第6回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第7回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第8回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (90分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第9回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第10回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第11回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第12回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第13回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第14回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第15回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習

授 業 名	音楽療法各論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL1704
英 文 名	Advanced Music Therapy			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽療法概論を踏まえて、心理療法としての音楽療法についてさらに理解を深める。クライアント（対象者）のニーズをさらに詳しく学び、音楽療法がクライアントをどのように援助するのか考察する。音楽療法概論に引き続き、音楽療法の「音楽」について、ワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して体験的に理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 対象者の抱える様々なニーズを説明することができる 2) 様々なニーズを抱える対象者に対する音楽療法の概要を説明することができる。 3) 芸術的手段を通して創造的かつ自由に自己表現をすることができ、同時に表現中の自分自身の内的反応を素直に感じることができるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜プリントを配布する。								
参 考 書	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留 意 事 項	配布プリントの次回の講義に関連する部分を読んだ上で授業に臨んでください。ワークショップでは特に、積極的・主体的な取り組みを評価します。また、学生からの積極的な発言は歓迎します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップを行う。								

授業名	音楽療法各論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション：音楽療法士に求められるもの	(学修内容) 秋学期の授業計画について説明を受け理解する/音楽療法士(2種)資格について確認する/音楽療法士に求められるものについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、配布資料を読み感想を小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法士の仕事を概観する	(学修内容) 音楽療法士の仕事の実際について、配布資料を読みながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ(実技とディスカッション): コラージュを演奏する	(学修内容) コラージュを制作し、作ったコラージュを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第4回	発達の援助と音楽療法: 発達障害と知的障害の概観	(学修内容) 発達障害と知的障害について概観し、これらの障害を持つ子どものニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第5回	発達の援助と音楽療法: ニーズのある子どもの発達を援助する音楽療法	(学修内容) 様々なニーズを持つ子どもの発達を援助する音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み、内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ(実技とディスカッション): 音楽を目に見える形で表現する	(学修内容) 音楽を鑑賞しながら、様々な素材を用いて自由に描画・制作をする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第7回	知的障害と音楽療法: 知的障害者の心のニーズ	(学修内容) 知的障害者の心のニーズについて、特にシナソンのセカンダリー・ハンディキャップの概念を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第8回	知的障害と音楽療法: 知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ(実技とディスカッション): 制作したものを音楽で表す	(学修内容) 前回のワークショップで制作したものを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第10回	精神疾患と音楽療法: 精神疾患の概要	(学修内容) 精神疾患の概要を学び、精神障害を患う人びとの心のニーズや社会的ニーズについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第11回	精神疾患と音楽療法: 精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法とニーズに応じた実践形態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第12回	ワークショップ(実技とディスカッション): 言葉を音楽で表す	(学修内容) 形容詞と名詞を組み合わせる言葉をつくり、その言葉を即興的に音楽で表す。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第13回	高齢者と音楽療法: 高齢者が患う病と心のニーズ	(学修内容) 高齢者が患う病の概要を学び、高齢者の心のニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第14回	高齢者と音楽療法: 高齢者のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 高齢者のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	秋学期のまとめとワークショップ(実技とディスカッション): 年度終わりの即興演奏	(学修内容) 秋学期に学んだことのまとめと、グループ即興を行う。ワークショップを通して感じたことなどを感想を話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。

授 業 名	音楽療法概論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CL1701
英 文 名	Introduction to Music Therapy			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽療法の歴史を踏まえながら、現在行われている音楽療法の実践・理論の概要と、臨床場面で音楽を活用する意義について、特に音楽療法の先進国である欧米の現状から学ぶ。また、音楽療法がクライアント（対象者）のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。さらに、楽器を用いたワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して、音楽療法における「音楽」と一般的な「音楽」の相違点と類似点を体験的に学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 音楽療法の歴史・実践・理論の概要を説明することができる。 2) 音楽療法の実践領域と音楽療法が取り扱うニーズを説明することができる。 3) 音楽療法における「音楽」の意義について説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜プリントを配布する。								
参 考 書	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 申崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留 意 事 項	毎回、配布プリントの次回の講義に関連する部分を読んだ上で授業に臨んでください。ワークショップでは、特に積極的・主体的な取り組みを評価します。学生からの積極的な発言も歓迎します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。								

授 業 名		音楽療法概論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) 春学期の授業計画について/音楽療法士(2種)資格について/音楽療法とは何か、その理解のための導入 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法の歴史と発展	(学修内容) 音楽療法の誕生から現在までの発展について学ぶ。音楽療法とは何か、国際的な共通認識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ (実技とディスカッション): 音楽療法で使う楽器に触れる・気持ちを音で表してみる	(学修内容) 音楽療法で使用する楽器に触れる。いろいろな気持ちや感情を様々な楽器を使って即興的に表す体験をする。感じたことを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第4回	心理療法としての音楽療法 : 行動学的アプローチ	(学修内容) 行動理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶと同時に音楽療法が基本的な何を取り扱っているのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第5回	心理療法としての音楽療法 : 人間性心理学的アプローチ	(学修内容) 人間性心理学に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。人間性心理学から他のアプローチにも通底する「セラピストの在り方」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ (実技とディスカッション): 図形楽譜を使って即興する	(学修内容) 図形楽譜を用いて、即興的な音楽づくりを体験的に学ぶ。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第7回	心理療法としての音楽療法 : 精神分析的アプローチ	(学修内容) 精神分析理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第8回	音楽療法の対象者と実践形態	(学修内容) 音楽療法が対象者のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。またニーズに応じた実践形態を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ (実技とディスカッション): 絵を演奏する	(学修内容) 絵を見ながら、即興的な音楽づくりを行う。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第10回	音楽療法の「音楽」について	(学修内容) 音楽療法における「音楽」について学ぶ。「即興的な音楽づくり」が音楽療法の臨床に用いられる意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第11回	心理療法と芸術の意義	(学修内容) ここまで学んできたことを踏まえて、改めて「心理療法」とは何かを考察し、心理療法における芸術の意義を検討する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、この授業で学んだ「心理療法における芸術の意義」を小レポートのまとめ提出する。
第12回	ワークショップ (実技とディスカッション): 物語を演奏する	(学修内容) 絵本などの物語を読み、即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第13回	近年の音楽療法の動向 : 音楽中心音楽療法	(学修内容) 「音楽中心音楽療法」について学ぶ中で、即興的な音楽づくりの本質を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第14回	近年の音楽療法の動向 : 文化中心音楽療法	(学修内容) 「文化中心音楽療法」について学ぶ中で、人と文化の関係と、クライアントの抱えるニーズについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	ワークショップ (実技とディスカッション): 「今」を演奏する	(学修内容) 「今」思いつくままに、即興で音を奏で、音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。

授 業 名	音楽療法演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2709
英 文 名	Seminar on Music Therapy			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂口 みゆき			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	即興的かつ創造的な音楽活動を学生自ら展開し、体験的な学びをさらに深める（ワークショップ）。また、音楽療法実習（保育実習 又は ）に向けて子どもの発達を促す音楽活動を考え発表し（プレゼンテーション）、クラスメイトを対象者に見立てて実践する（ワークショップ）。ディスカッションやレポート作業を通して、体験的な学びを言語化し考察する力や、考え・感じたことを他者と共有する力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 即興的な音楽活動を考案し、活動を主導・調整することができる 2) 子どもの発達を踏まえた音楽活動を考案することができる 3) 2)の音楽活動を発表し、ワークショップを展開することができる 4) 上記の体験的な学びをレポートにまとめ考察することができる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配布する								
参 考 書	稲田雅美著『ここをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留 意 事 項	本演習は音楽療法実習の事前指導的な性格を持つため、本科目未履修の場合、また提出物の未提出や無断欠席等により単位を取得できなかった場合、実習ができなくなることがあります。積極的な取り組みと努力を特に必要とします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて実践的なワークショップなどを行う。								

授業名	音楽療法演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・イントロダクション ・ワークショップ：音楽的な再会	(学修内容) 春学期の授業計画と音楽活動の発表について説明を受け理解する/クラスメイトと即興的な音楽づくりを通して再会する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめ提出する。
第2回	子どもの発達と援助：音楽療法と保育の共通点と相違点	(学修内容) 子どもの発達とその援助について学ぶ中で、音楽療法と保育の共通点と相違点を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み、内容を小レポートにまとめ提出する。
第3回	子どもの発達と援助：子どもの音楽発達	(学修内容) 子どもの音楽発達について概観し、音楽を介した発達の援助にどのように生かすことができるか考える。発表について説明を受け理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として、配布資料を読み、内容を小レポートにまとめ提出する。
第4回	即興的な音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。WSのレポートの書き方について説明を受け理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。
第5回	即興的な音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。
第6回	即興的な音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。
第7回	即興的な音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。 事後学修として、ワークショップのレポートを作成し提出する。
第8回	即興的な音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。
第9回	個別指導：子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。
第10回	個別指導：子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける(前回からの続き)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。
第11回	子どもの発達に即した音楽活動：0歳児/1歳児	(学修内容) 0歳児/1歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。
第12回	子どもの発達に即した音楽活動：1歳児/2歳児	(学修内容) 1歳児/2歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。
第13回	子どもの発達に即した音楽活動：3歳児/4歳児	(学修内容) 3歳児/4歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。
第14回	子どもの発達に即した音楽活動：4歳児/5歳児	(学修内容) 4歳児/5歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。
第15回	子どもの発達に即した音楽活動：保育所以外の現場 ワークショップ：学期終わりのグループ即興	(学修内容) 保育所以外の現場のニーズを踏まえた音楽活動について発表担当者が発表する。考案した音楽活動を実施し、ディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後学修として、今回の発表についてレポートにまとめ提出する。

授業名	音楽療法総合演習			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CL2717
英文名	Integrated Seminar of Music Therapy			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	坂口 みゆき			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	音楽療法の実際について事例を通して学ぶことを中心とする。必要な理論や対象者のニーズを学び、ディスカッション・ワークショップを通して考察を深める。また、即興的音楽づくりのワークショップを行い、即興的・創造的に自己表現し他者とコミュニケーションすることを学ぶ。自分自身を理解することを通して対象者への理解を深めることを経験する。								
学修成果到達目標	1) 音楽療法の対象者のニーズを理解・考察することができる 2) 事例を通して音楽療法の臨床を学び、その在り方や介入について考察することができる 3) 講義・ディスカッション・ワークショップを通して学んだ内容をレポートにまとめ考察することができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	適宜資料を配布する								
参考書	稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房								
課題に対するフィードバックの方法	ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留意事項	ディスカッションやワークショップを通して学びを深めます。積極的・自主的にクラスに貢献する姿勢を評価します。								
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。								

授業名	音楽療法総合演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション 実習の振り返り	(学修内容) 秋学期の授業計画について説明を受け理解する。夏休み中の実習で実際に行った音楽活動についてそれぞれ発表しディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習で行った音楽活動の内容や感想・反省点を発表する準備をしておく。
第2回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 自閉スペクトラム障害を持つ子どものニーズ 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 一例として自閉スペクトラム障害を取り上げ、障害の特性やニーズの理解を深めつつ、音楽療法がどのように援助をしていくのかを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、内容を小レポートにまとめて提出する。
第3回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 音楽療法の在り方 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。
第4回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッションの続き) (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。
第5回	心の発達を援助する音楽療法の実際 : 体験的学び	(学修内容) 前回までの学びを踏まえ、ワークショップを行い体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第3回と第4回のグループワーク・ディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	心の発達を援助する音楽療法の実際 : 体験的学び(続き)	(学修内容) 前回に引き続き、ワークショップを行い体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回のワークショップを踏まえ、今回のワークショップの準備をしておく。
第7回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、さらに事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。
第8回	〔前半〕心の発達を援助する音楽療法の実際 : 介入の実際 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 引き続き自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。
第9回	ワークショップ: 他者を音楽的に伴走(伴奏)する	(学修内容) 音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのかワークを通して体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7回と第8回のグループワークとディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。
第10回	ワークショップ: 音楽的に「共にいる」こと	(学修内容) 前回に引き続き音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのか体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回のワークショップを踏まえて、今回のワークショップの準備をしておく。
第11回	〔前半〕グループ形態の音楽療法 : グループが形成されるプロセス 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。
第12回	〔前半〕グループ形態の音楽療法 : 相手を受けとめることから音楽的体験へ 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。
第13回	〔前半〕グループ形態の音楽療法 : グループで「音楽すること」 〔後半〕即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。
第14回	「音楽療法の終結」と学びの終わりに向けて~即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 音楽療法の終結について学び、その重要性を理解・考察する。2年間の音楽療法の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第11回~第13回のグループワークとディスカッションの内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	「音楽療法の終結」と学びのまとめ~即興的音楽づくりのワークショップ	(学修内容) 前回に引き続き2年間の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする中で、「終結」の重要性にさらに思いを巡らせる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 2年間の音楽療法の学びを振り返り、学んだことや感想を発表できるように準備をしておく。

授 業 名	音楽史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2716
英 文 名	History of Music			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	古代から現代までの西洋音楽史を概観し、その音楽の特徴を把握する。また、日本音楽の史的展開との比較・検討を通して、それぞれの様式発展の特徴を知る。このため、講義だけでなく、音楽史上の人物・および作品について研究発表を行い、ディスカッションやグループワーク等を通して授業を進めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 西洋音楽の史的展開を把握するとともに各々の時代の作曲家の特徴的手法を聞き取り、理解することができる。 2) 日本音楽の史的展開を概観するとともにその音楽の特徴を理解することができる。 3) 西洋および日本音楽の史的展開の特徴を比較・検討することにより、各々の様式変遷の道程を幅広い視点から理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学习支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『いちばんやさしい音楽史』北村英明著 メトロポリタンプレス								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートは回収後、コメントを付けて返却する。 また、発表に関しては履修者全員がコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。また、コメントシートは教員が回収した後、意見をピックアップし、授業で履修者全員と共有した後に返却する。								
留 意 事 項	発表に関する相談(作品の選定・音や映像資料などの検索方法を含む)は個別に受け付ける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実 践 的 教 育									

授業名	音楽史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代の音楽(偶然性の音楽)	(学修内容)偶然性の音楽(ジョン・ケージ)の音楽について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、ジョン・ケージの音楽について、授業で取り上げた作品以外の作品を一つ取り上げて小レポートを作成し、提出すること。
第2回	現代の音楽(サウンドスケープ・ミニマルミュージック)	(学修内容)サウンドスケープ(マリー・シェーファー)、ミニマル・ミュージック(スティーヴ・ライヒ等)について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、サウンドスケープ・ミニマルミュージックいずれかを選んで小レポートを作成し、提出すること。
第3回	ジャズ	(学修内容)ガーシュウィンとジャズについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、ガーシュウィンとジャズとの関係について小レポートを作成し、提出すること。
第4回	12音技法	(学修内容)シェーンベルクの12音技法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、シェーンベルクの作品について小レポートを作成し、提出すること。
第5回	近代	(学修内容)パリ博覧会と近代の音楽に関するグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 近代の音楽に関する発表準備をしておくこと。
第6回	ロマン派	(学修内容)前・後期ロマン派の音楽についてのグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 前・後期ロマン派の音楽に関する発表準備をしておくこと。
第7回	古典派	(学修内容)ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン等の音楽についてのグループ発表・ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 古典派の音楽に関する発表準備をしておくこと。
第8回	前古典派	(学修内容)シンフォニーとソナタ形式について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、マンハイム楽派とベルリン楽派の功績に関する小レポートを作成して提出すること。
第9回	バロック(様式)	(学修内容)コンチェルトとオペラの誕生について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、バロック音楽の様式に関する小レポートを作成して提出すること。
第10回	バロック(作曲家とその功績)	(学修内容)J.S.バッハの音楽と調性について(メンデルスゾーンによるバッハ復活の経緯含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、J.S.バッハの音楽作品と調性に関する小レポートを作成して提出すること。
第11回	中世・ルネサンス	(学修内容)グレゴリオ聖歌、単声から多声音楽への変遷、ヒルデガルド・フォン・ピンゲンの音楽について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、グレゴリオ聖歌かヒルデガルド・フォン・ピンゲンの音楽のいずれかをテーマに選定し、小レポートを作成して提出すること。
第12回	雅楽	(学修内容)雅楽とその楽器のルーツ、伝播について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、雅楽の伝播について小レポートを作成して提出すること。
第13回	雅楽以外の日本の音楽の諸相	(学修内容)浄瑠璃・能、その他の日本の芸能とその発展について (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、日本の芸能とその音楽の特徴について小レポートを作成して提出すること。
第14回	日本音楽史・西洋音楽史の発展とその比較	(学修内容)日本と西洋音楽の通史的比較 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、日本と西洋の音楽通史比較について小レポートを作成して提出すること。
第15回	小泉文夫の功績・授業のまとめ	(学修内容)小泉文夫の日本音楽史への視点とその功績について・授業のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後に小泉文夫の功績についてまとめ、小レポートを作成して提出すること。

授 業 名	レクリエーション実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CL2710
英 文 名	Recreation Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	名賀 亨			対 象 学 生	幼児教育2回生				
授業の概要	地域で展開されているレクリエーション事業についての情報収集を行い、事業に参加することを通して実際の活動について理解する。都道府県および市区町村のレクリエーション協会が実施する行事やイベントを理解するとともに、スタッフやインストラクターがどのような役割を果たしているのか学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 外部のレクリエーション活動への参加を通してレクリエーション活動を身近な実戦として理解することができる。 2) レクリエーション活動の基礎的技能を身につけ、円滑な実践展開ができるようになる。 3) ルールや運営方法などを理解し、運営能力を身につけることができる。 4) 全体を通じてレクリエーションに対する理解を深め、レクリエーション実践の意識を高めることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない 適宜プリントを配布								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	現場実習に関して必要な相談に応じ支援する								
留 意 事 項	レクリエーション協会が主宰する事業での実習（事業参加・スタッフ参加）、保育実習、教育実習、学内での主催事業などの組み合わせに十分留意して実習を計画し適切に参加すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日 12:20～13:00								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：1988年～18年間、ボランティア・市民活動支援組織において、その後2008年から13年間青少年を対象にしたボランティア学習プログラムを通じたレクリエーションプログラムを実践するとともに、ファシリテーターとしてのインストラクターの在り方について実践と研究を進めてきた。								

授業名	レクリエーション実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の枠組みや実習への取り組み方法などについての説明 (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを確認するとともに、資格取得の意識を再確認しておく。
第2回	レクリエーション実習計画の策定	(学修内容) 必要な実習の内容と実習計画を策定する (事前事後学修課題の内容) (60分) レクリエーション協会実施の事業プログラムの情報を収集しておく
第3回	レクリエーション実習計画の策定	(学修内容) 必要な実習の内容と実習計画を策定する (事前事後学修課題の内容) (60分) レクリエーション協会実施の事業プログラムの情報を収集しておく
第4回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第5回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第6回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第7回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第8回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第9回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第10回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第11回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第12回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第13回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第14回	事業参加	(学修内容) 計画に基づいて学外実習に参加する (事前事後学修課題の内容) (60分) 参加する事業内容について情報を収集し実践の準備をしておく
第15回	授業のまとめ	(学修内容) 実習の内容を整理しまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) ここまでの実習を整理しておく

実 習 名	保育実習 a (CE2422)	対 象 学 生	幼児教育2回生
担 当 者	武田 康晴		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習（施設）の内容 利用者の成長・発達、またニーズを理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもや利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、必要に応じて指導計画を立案し研究実習を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 学校の幹旋した児童福祉施設（児童館を含む）または障害者施設で実習を行う。 期間は、原則2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、準備ができていないという理由で実習を行えないことがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導での着実な準備が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、実習先の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など ・原則「保育実習」の実習を終了していること。 ・「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。 「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されるが、それぞれが連動している科目のため片方のみ単位認定されることは原則としてない。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など 以下に関し誓約書の提出を求め、それに反した場合は実習中止となる。 ・実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。実習に関する一切をSNSに挙げることを禁止する。 ・子どもと保護者（利用者や家族）の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</p>		

授 業 名	健康と食の文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC1202
英 文 名	Health and Food Culture			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	佐藤 愛			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>日本は世界に誇る長寿の国で平均寿命は年々延びているものの、国民医療費は総額40兆円を超え増加の一途をたどっている。今後の目標は平均寿命ではなく、健康寿命の延伸にシフトしており一次予防が重要視されている。私たちがこれから健康で長生きするためには、健康な食生活や栄養学を理解し、自身の健康に関心をもつことが重要となる。</p> <p>本授業では、さまざまな栄養素と食品、健康の維持・増進のために必要な食生活の基礎知識、日本の伝統的食文化を学び、次世代にどのように継承していくかを考える。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素と食品に関する基礎知識を習得する。 ・ ライフステージ別の健康的な食生活を理解する。 ・ 日本の伝統的食文化を理解し、次世代へどのように継承したいかを説明できる。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 『大学で学ぶ食生活と健康のきほん』 2020								
参 考 書	必要に応じて、授業中に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたものをチェック後、必要な部分については次週以降に解説する。								
留 意 事 項	自身の食生活について振り返り、評価できる力を養ってほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業でお伝えします。								
実践的教育									

授業名	健康と食の文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	私たちの食生活と健康	(学修内容) 私たちの食生活と健康について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.1~6を読んでおく 健康になるための食生活について考えてくる
第2回	炭水化物	(学修内容) 炭水化物の体内での働きについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.7~13を読んでおく 炭水化物が豊富な食品と働きを調べておく
第3回	たんぱく質	(学修内容) たんぱく質の体内での働きについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.15~22を読んでおく たんぱく質が豊富な食品と働きを調べておく
第4回	脂質	(学修内容) 脂質の体内での働きについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.23~30を読んでおく 脂質が豊富な食品と働きを調べておく
第5回	ビタミンとミネラル	(学修内容) ビタミンとミネラルの体内での働きについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.31~40を読んでおく ビタミン・ミネラルの種類と豊富な食品を調べておく
第6回	おいしさと健康のための調理	(学修内容) 調理の基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.41~51を読んでおく 減塩の工夫について考えてくる
第7回	食品の機能性	(学修内容) 病気の予防や健康の増進にかかわる食品の機能性を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.53~68を読んでおく 日頃使用する食品の表示制度について調べておく
第8回	妊娠期・授乳期の食生活と健康	(学修内容) 妊娠期、授乳期の食生活と健康について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.69~78を読んでおく 妊娠期に必要な栄養素について調べておく
第9回	乳児期・幼児期の食生活と健康	(学修内容) 乳児期・幼児期の食生活と健康について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.79~85を読んでおく 市販されているベビーフードの特徴を調べておく
第10回	学童期・思春期の食生活と健康	(学修内容) 学童期・思春期の食生活と健康について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.87~92を読んでおく 学童期の食生活上の問題点を調べておく
第11回	成人期・更年期の食生活と健康	(学修内容) 成人期・更年期の食生活と健康について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.93~98を読んでおく 生活習慣病について調べておく
第12回	高齢期の食生活と健康	(学修内容) 高齢期の食生活と健康について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.99~103を読んでおく 高齢期の食生活上の問題点を調べておく
第13回	健康づくりと食生活	(学修内容) 各個人の健康づくりのための食生活について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.105~116を読んでおく 食事バランスガイドについて調べてくる
第14回	食生活と安全	(学修内容) 身近な食生活の中で安全性が懸念される食べ物や課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.117~132を読んでおく 食中毒予防の方法を調べておく
第15回	日本の伝統的食文化「和食」	(学修内容) 日本の伝統的な食文化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.133~142を読んでおく 自身の出身地域の郷土料理を調べておく

授 業 名	日本文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1201
英 文 名	Japanese Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	日本の文化や思想は、いずれの時代においても、また貴族の文化であれ、庶民の文化であれ、仏教の影響を受けている。本授業では、日本文化や思想のありようを、仏教との関わりという観点から概観し、その歴史的背景を学ぶことによって、その基礎的な知識を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本文化や思想の特徴を説明することができる。 2) 時代や身分階層による文化の変遷を説明することができる。 3) 自国の文化と異文化を公平にみる視点を養うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業内にて資料を配付する。								
参 考 書	授業内にて紹介する。 史料を読むこともあるので、辞典類はそろえておくことがのぞましい。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	高等学校の日本史教科書や資料集を一読すること。 大学の授業は難しいものであるから、それが当たり前だと思って取り組むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので各自で確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		日本文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	日本文化および思想学の成立	(学修内容) 日本文化や思想とは何かについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内のまとめをしておく。
第2回	古代の文化と思想 遣隋使と仏教伝来	(学修内容) 遣隋使と仏教伝来がもたらした日本への影響について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 授業内のまとめをしておくこと。
第3回	古代の文化と思想 『日本書紀』に描かれる聖徳太子	(学修内容) 『日本書紀』と聖徳太子について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に『日本書紀』や聖徳太子について調べる。事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第4回	古代の文化と思想 聖徳太子と『十七条憲法』	(学修内容) 『十七条憲法』にみる儒教と仏教について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第5回	古代の文化と思想 聖徳太子信仰の展開	(学修内容) 古代以降の聖徳太子信仰とその影響について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第6回	文人貴族と仏教 菅原道真と仏教	(学修内容) 平安時代の文化を支えた文人貴族の菅原道真と仏教の関わりを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第7回	文人貴族と仏教 菅原道真と願文	(学修内容) 菅原道真作の願文を読み解き、平安時代の仏教文化と思想について知る。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第8回	文人貴族と仏教 菅原道真と託宣	(学修内容) 道真死後に下された託宣と御霊との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第9回	北野天満宮と天神縁起	(学修内容) 天神信仰について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第10回	王権と仏教 奈良・平安時代の天皇と仏教	(学修内容) 天皇と仏教との関係について奈良時代と平安時代の史料を読解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第11回	王権と仏教 院政と仏教	(学修内容) 院政期の王権と仏教文化との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第12回	年中行事の文化と思想 花まつり	(学修内容) 年中行事「花まつり」と仏教文化の関係について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第13回	年中行事の文化と思想 七夕行事と仏教	(学修内容) 七夕行事と仏教文化について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめること。
第14回	年中行事の文化と思想 お盆と仏教	(学修内容) お盆と仏教文化について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に配布する資料を読み、事後、授業内容を各自ノートにまとめること。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 授業のまとめをする。

授業名	日本の歴史			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1203
英文名	Japanese History			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	工藤 美和子			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	現在までに明らかになっている歴史的知見が、こういったプロセスで見出されてきたのかを理解することで、今後、主体的に知識を獲得していくための指標を得ることができるだろう。本授業では、日本史における基礎的知識を資史料をもとに確認しつつ、幾つかの事象を掘り下げること、歴史的に物事を考えるための視座を養う。								
学修成果到達目標	1) 「歴史学」という学問分野の基本的な考え方を理解することができる。 2) 日本の各時代における社会の特性を理解し、説明できる。 3) 歴史的に物事を考えるための視座を得ることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	毎回の授業でレジユメを配布する。								
参考書	五味文彦・他著『再訂版 詳説日本史料集』(山川出版社、2014年) 詳説日本史図録編集委員会編『詳説日本史図録 第8版』(山川出版社、2020年)などが参考となる。 その他、授業内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留意事項	日本の歴史に関する参考図書や高校時代に日本史を専攻した学生は教科書を一読しておくこと。 史料を読むために必要な辞典類はなるべくそろえておくこと(国語事典・漢和辞典等)。								
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので各自で確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		日本の歴史
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	歴史学とは何か	(学修内容)「歴史学」の誕生について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを一通り読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第2回	資史料とは何か	(学修内容)資史料を理解する。教科書や概説書に書かれる歴史的事象がどのようにして明らかになったのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1回授業で提示した課題について再考しておく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第3回	飛鳥時代 大化改新と律令	(学修内容)大化改新と律令に関する史料を読解し、歴史的事象を拾い上げるプロセスを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「飛鳥時代」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第4回	奈良時代と大仏造立	(学修内容)東大寺大仏造立と仏教国家を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「奈良時代」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第5回	平安時代 平安遷都	(学修内容)平安京遷都の史料を読解し、古代社会の移り代わりとその影響について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「平安時代」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第6回	平安時代 摂関政治と貴族社会	(学修内容)摂関政治と貴族社会の関わりを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「摂関政治」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第7回	平安時代 院政の開始	(学修内容)院政とは何かを学び、武家社会の台頭について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「院政」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第8回	鎌倉時代 源平合戦と鎌倉幕府	(学修内容)源平合戦と鎌倉幕府の成立および武家社会を読み解く。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「鎌倉時代」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第9回	南北朝・室町時代 室町幕府の成立	(学修内容)室町幕府の成立とその崩壊による地域社会の発展について、史料や絵図から理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「南北朝・室町時代」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第10回	戦国時代 応仁・文明の乱	(学修内容)戦国時代の様相を応仁・文明の乱を中心に理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「戦国時代」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第11回	織豊期 織田信長の治世と豊臣秀吉の天下統一	(学修内容)近世社会の成立と京都における都市構造の変化について読み解く。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「安土桃山時代」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第12回	江戸時代前期 「文治政治」と徳川幕府綱吉の治世	(学修内容)江戸時代の治世と政争を複数の文献史料から読み解く。 会の変容と近代への過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「江戸前期」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第13回	江戸時代後期 明治維新への過程	(学修内容)江戸時代後期社会の変容と近代への過程を理解する。 近代社会の成立とその政策による景観変化について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「江戸時代後期」の部分を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第14回	明治時代と大正時代 廃仏毀釈と寺社景観の変貌	(学修内容)近代社会の成立と変容とその政策による景観の変化について、京都をフィールドとして理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校教科書・参考書の「明治・大正～戦前」を読んでおく。 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。
第15回	昭和前期 世界大戦 授業の総括	(学修内容)世界大戦がおこした人間への課題と、歴史的に物事を考える視座について確認する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習 1～14回の授業を復習し、疑問点等が無いが確認しておく。 事後学習 授業で配布したレジュメの内容を確認しておく。

授 業 名	京都の風土と文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1209
英 文 名	Climate and Culture in Kyoto			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	人は自然と共生し、人々との関わりのなかで文化を築きあげてきた。本講義では、京都を事例に、自然と人間との関わり、人々との交流のなかで育まれてきた文化について学習する。都市景観の変遷にも着目する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自然と生活との関わりについて理解を深める 2) 京都で培われてきた文化の歴史的、文化的背景を理解できる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業内で資料を配付する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートにはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	京都に関連する新聞記事や文献に目を通す、ガイドブックや地図を見るなど様々な事柄に関心をもつように心がけてほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので確認すること。								
実践的教育									

授業名	京都の風土と文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	京都と風土	(学修内容)「風土」とは何かについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 「風土」という言葉を辞書で調べてくること。
第2回	京都の路地	(学修内容)住所表記 両側町 辻子と路地 メインストリートの変遷。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第3回	京都の花街	(学修内容)花街や祇園界隈の景観形成について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第4回	京都のさまざまな建築	(学修内容)京都で見られる様々な建築物について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第5回	学外授業	(学修内容)学外授業を行う(近代建築)。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第6回	東山の景観 上知令と東山	(学修内容)上知令について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第7回	上知令の与えた影響 寺社仏閣において	(学修内容)上知令が京都の寺社仏閣に与えた影響を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第8回	琵琶湖疏水と京都	(学修内容)琵琶湖疏水事業を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第9回	学外授業	(学修内容)琵琶湖疏水事業の痕跡を探る。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第10回	計画された園地 円山公園	(学修内容)京都の近代化と公園の関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第11回	学外授業 円山公園	(学修内容)学外授業 円山公園をめぐる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第12回	京都の河川 鴨川河原	(学修内容)鴨川の変遷と人々の関わりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第13回	京都の同業者町	(学修内容)同業者町(地名 西陣 仏具店 清水焼団地等)を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第14回	京都と映画撮影所	(学修内容)京都撮影所の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする
第15回	古都「京都」と小京都	(学修内容)京都と小京都との関係を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、前回のノート、配布したプリントをみて、講義内容をおさらいする

授業名	京都理解			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1204
英文名	Understanding Kyoto			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	工藤 美和子			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	古代から近現代の日本において、政治・文化・宗教の中心に位置したといわれる京都について、その歴史と文化をたどる。								
学修成果到達目標	1) 京都の歴史と文化の理解を深めることができる。 2) 京都の歴史と文化について説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	授業内で資料を配付する。								
参考書	授業内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却する。								
留意事項	興味関心を抱いて自分の足で京都を散策してほしい。								
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので確認すること。								
実践的教育									

授業名	京都理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	創られた京都のイメージ	(学修内容) 京都に対するイメージについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自がイメージする京都について小レポートを作成し提出する。
第2回	長岡京から平安京へ	(学修内容) 長岡京と平安京が都に選ばれた理由を探る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料へ目を通し、授業内容や史料をもとに各自ノートをまとめる。
第3回	平安京から京都へ	(学修内容) 古代から近世の京都の都市変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第4回	学外授業 京都市平安京創生館	(学修内容) 京都市平安京創生館の見学。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学後、小レポートを作成し提出する。
第5回	宗教空間都市の京都	(学修内容) 宗教空間という性格をもつ京都について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第6回	京都のガイド本変遷 『都名所図会』より	(学修内容) 江戸時代の京都の名所を案内した書籍『都名所図会』にみる京都の姿を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第7回	京都のガイド本変遷 『花洛名勝図会』より	(学修内容) 『花洛名勝図会』にみる京都の姿を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第8回	首都"東京"の誕生 京都大打撃	(学修内容) 明治時代に首都が遷都したことで京都はどのような影響を受けたのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第9回	産業都市から観光都市へ	(学修内容) 近代以降の京都の都市機能の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第10回	京美人の変遷 美人の条件は移り変わる	(学修内容) 京美人について古代から近世の史料をもとに理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自小レポートを提出する。
第11回	京都の祭礼 1年365日祭礼三昧	(学修内容) 京都で年中行われている祭礼について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第12回	京都三大祭の誕生	(学修内容) 京都三大祭といわれる葵祭・祇園祭・時代祭について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第13回	御霊会 怨霊から御霊へ	(学修内容) 怨霊とは何か、また御霊会について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第14回	祇園御霊会から祇園祭へ	(学修内容) 祇園御霊会と現代の祇園祭の現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートをまとめる。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをする。

授 業 名	伝統芸能と工芸			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1401
英 文 名	Traditional Performance Art and Industrial Art			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	古代より日本にはさまざまな伝統芸能がアジア諸国より伝来した。それら伝統芸能のいくつかを紹介し理解するとともに、それら芸能と密接に結びついている工芸との関係について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 伝統芸能の歴史の変遷について知識を得ることができる。 2) 伝統芸能と工芸について理解を深め説明することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業内で資料を配付する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	博物館や資料館、伝統産業会館、伝統芸能の催しを随時紹介する。各自、興味関心を持って可能な限り足を運んで欲しい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室日時を貼付するので各自確認すること。								
実践的教育									

授業名	伝統芸能と工芸	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。
第2回	伝統芸能とは何か	(学修内容) 「伝統」と「芸能」という言葉について辞書を用いて調べる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「伝統」および「芸能」の意味を辞典等を用いて調べ、小レポートを作成し提出する。
第3回	大陸から伝来した芸能	(学修内容) 大陸から伝来した芸能について知識を得て理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第4回	宮中と雅楽寮	(学修内容) 宮廷社会と雅楽寮の仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第5回	散楽について	(学修内容) 散楽の伝来と歴史の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第6回	猿楽と仏教	(学修内容) 猿楽の歴史と仏教との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌舞伎に関する教材を視聴し、授業で学んだ歌舞伎の内容を小レポートを作成し提出する。
第7回	猿楽から能・狂言 能楽	(学修内容) 能楽の誕生と歴史の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第8回	観阿弥・世阿弥の世界	(学修内容) 観阿弥・世阿弥と『風姿花伝』について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第9回	学外授業	(学修内容) 能楽堂の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学外授業で学んだことを小レポートを作成し提出する。
第10回	能楽・狂言 狂言	(学修内容) 狂言とは何かについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配付資料へ目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第11回	能楽・狂言と工芸 西陣織	(学修内容) 「工芸」という言葉の意味を辞書等を用いて調べる。能装束に用いられる西陣織について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第12回	京の寺院と仏具	(学修内容) 京仏具や仏像制作の宗教的意味について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第13回	京の寺院と僧衣	(学修内容) 京の仏教関係の工芸として僧衣について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第14回	学外授業 京都伝統産業会館の見学	(学修内容) 京都伝統産業会館で伝統芸能と工芸との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 体験授業で学んだことを小レポートを作成し提出する。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。

授 業 名	日本の歳時と年中行事			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1402
英 文 名	Seasonal and Annual Events			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	日本は四季があり、様々な行事がある。季節を感じ、伝統ある日本の行事を学ぶことを目的とする。正月、雛祭り、お盆、彼岸とあるように、各行事の意義を概説し、フィールドワークでは、その一端を体験する。また適宜グループワークを実施して相互に理解を深め、新たな知見を得る場としたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 四季にまつわる日本の諸行事を理解する 2) 地域における習慣の相違を学び、地域文化を尊重することを目指す 3) 様々な文献を駆使して積極的に調べる方法を身につける								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	必要資料をこちらで配布します。								
参 考 書	ありません。参考資料を配付します。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートを回収後、コメントをして返却します。								
留 意 事 項	関連する本、例えば祭り、暦、日本の習俗についての本を積極的に読んでください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日、研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	日本の歳時と年中行事	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、本講義で学ぶ内容を説明します。桜見学。	(学修内容) 講義の内容を説明します。また、近辺の桜の見学に行きます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスをじっくりと読んでください。
第2回	京都東山の春行事 - 知恩院の御忌	(学修内容) 京都の春の行事ともいえる知恩院の御忌について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートをしっかりとまとめてください。配布プリントを参照してください。
第3回	知恩院御忌の参拝 - フィールドワーク	(学修内容) 衣装比べと呼ばれる知恩院の御忌を参拝して、行事を拝観してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノートを参照すること。授業後、感想文を書くこと。
第4回	元号について	(学修内容) 日本の元号について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートをまとめてください。配布プリントを参照してください。
第5回	日本の暦について	(学修内容) 日本の暦について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめる。配布プリントを参照する。
第6回	フィールドワーク - 京都御所	(学修内容) 京都御所を拝観します。 (事前事後学修課題の内容) (50分) フィールドワークで発見したことや感じたことをまとめてもらいます。
第7回	日本の年中行事	(学修内容) 日本古来からの行事。また近年はやりだした行事などをグループワークで探ります。内容を検討し皆でディスカッションします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 皆さんが関心を持つ近年の行事や地元の祭りを探りましょう。
第8回	疫病について	(学修内容) 人々を苦しめてきた疫病について。歴史的に概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容をまとめ、整理してもらいます。
第9回	疫病と闘う文化	(学修内容) 疫病に勝つために行う祈りの行事について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都や地方の疫病退散行事を調べる。
第10回	発表方法とレジュメの作成	(学修内容) 関心を持った日本の行事(祭り)について、その魅力を発表してもらいます。レジュメの作成と発表方法を講義します。 (事前事後学修課題の内容) (90分) レジュメの作成
第11回	発表 - 第一グループ	(学修内容) 調べた内容を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 発表した内容を提出。また、他人の発表の評価をしてください。
第12回	発表 - 第二グループ	(学修内容) 調べた内容を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 発表した内容を提出。また、他人の発表の評価をしてください。
第13回	討論会	(学修内容) それぞれの発表の良い点・悪い点を検討します。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 検討した内容をまとめて提出してください。
第14回	フィールドワーク - 祇園祭りゆかりの場所	(学修内容) 祇園祭りのゆかりの場所にフィールドワークに行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークについて感想や発見したことをまとめてもらいます。
第15回	講義のまとめ	(学修内容) これまでの内容をふり返りまとめます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートやプリントを整理し、関心のあったところをまとめてレポート提出してください。

授 業 名	伝統産業に学ぶ			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1404
英 文 名	Traditional Industry			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	現在の京都は、18世紀末の天明の大火以後の姿であり、京都の伝統産業は何度も途切れているのが現状である。さらに、明治維新以降、首都機能が東京に移ったことで、京都の伝統産業界は様々な形で近代化の波に直面する。以上の点から、今日、京都の伝統産業が中断と継続を繰り返すなかで、どのような変化をしてきたのかについて考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 主要な京都の伝統産業の知識を得ることができる。 2) 京都の伝統産業の文化的背景、製造工程、今日的課題を知り、語るることができる。 3) 伝統産業の近代化に尽力した人物や組織の知識を得ることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業内で資料を配付する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	取り上げる伝統産業について、自ら予習をすること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の日時を貼付するので確認すること。								
実 践 的 教 育									

授業名	伝統産業に学ぶ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業のまとめをしておく。
第2回	創造された京都	(学修内容) 天明の大火後の京都の景観を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第3回	京都の近代化 琵琶湖疏水事業	(学修内容) 琵琶湖疏水事業について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 琵琶湖疏水について、事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第4回	京都の近代化ー疏水事業と電力産業	(学修内容) 京都で行われた電力産業について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第5回	学外授業 琵琶湖疏水をめぐる	(学修内容) 琵琶湖疏水記念館の見学、他。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第6回	京焼・清水焼 誕生と変遷	(学修内容) 京焼・清水焼の誕生と歴史の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京焼・清水焼について事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第7回	京焼・清水焼 逆輸入された京焼・清水焼	(学修内容) 海外で評価された京焼・清水焼について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第8回	京焼・清水焼 軍事と窯業	(学修内容) 戦時中(第2次世界大戦)の京焼・清水焼の実態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第9回	京都の茶産業 茶の伝来	(学修内容) 茶の伝来と歴史の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都と茶について事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第10回	京都の茶産業 喫茶文化	(学修内容) 京都の喫茶文化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第11回	京都の茶産業 宇治茶の栽培	(学修内容) 宇治茶と栽培法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。課題を出すので小レポートを作成する。
第12回	京都の茶産業 現代の茶文化	(学修内容) 現代の抹茶ブームを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。課題の小レポートを提出する。
第13回	京都と菓子産業 菓子の伝来	(学修内容) 菓子の歴史と京菓子の誕生について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 和菓子について、事前に配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第14回	京都の菓子産業 現代の京菓子	(学修内容) 近年の京都の和菓子文化の展開について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前、配布した資料に目を通し、事後、授業内容や配付資料をもとに各自ノートにまとめる。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業全体の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをしておく。

授 業 名	日本の文学と心			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2213
英 文 名	Japanese Literature and Mind			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	水谷 隆			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	現代日本文化の形成に大きな影響を与えた文学作品である古今和歌集から、代表的な和歌をいくつか取り上げ精読する。またその過程で、現代日本人の一員たる私たちの心のありようについて省察をしていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 日本文化の源泉について、いくつかを具体的に語ることができる。 2. 自らのもつ文化とは異なるところのある文化を理解し、他者を肯定的に捉えることができる。 3. グローバル化の進む社会において、自らの文化や心について積極的に発信できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	中島輝賢編『古今和歌集』 角川ソフィア文庫ビギナーズクラシックス日本の古典 2007年								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	日常のレポートについて、随時コメントを加える。								
留 意 事 項	授業時に小グループでディスカッションや発言を求める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	日本の文学と心	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンスおよび古今和歌集概説	(学修内容) 授業の概要と進め方について説明する。 古今和歌集が日本文化に与えた影響について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの「解説」を読んで、わかりにくい点があればメモしておく。
第2回	季節を愛でる心 その1 春の歌を読む。	(学修内容) 季節の到来をよこび、春の風物を心待ちにする歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト19～42頁を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。
第3回	季節を愛でる心 その2 夏の歌を読む	(学修内容) ほととぎすを愛し、闇夜に美を見いだす歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト43～51頁を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。
第4回	季節を愛でる心 その3 秋の歌を読む	(学修内容) 七夕に思いを馳せ、紅葉の光景を賛嘆する歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト52～71頁を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。
第5回	季節を愛でる心 その4 冬の歌を読む	(学修内容) 雪中にいて春を待ち望む歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト72～85頁を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。
第6回	喜びや悲しみを受け止め、表現する心 賀、離別、羈旅の歌を読む	(学修内容) 長寿を言祝ぎ、あるいは別れを惜しむ歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト86～96頁を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。
第7回	人を思う心 その1 初恋の歌を読む	(学修内容) 恋の始めのときめきを表現した歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト97～104を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。また、予告した歌について調べ、その要点をノートにまとめる。
第8回	人を思う心 その2 通じぬ思いを嘆く歌を読む	(学修内容) 相手が自分を思ってくれないもどかしさを嘆いた歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト105～117を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。また、予告した歌について調べ、その要点をノートにまとめる。
第9回	人を思う心 その3 逢瀬の後の悲しみの歌を読む	(学修内容) 逢瀬の後に一層深まる悲しみにくれる歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト118～126を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。また、予告した歌について調べ、その要点をノートにまとめる。
第10回	人を思う心 その4 倦怠期の歌を読む	(学修内容) 次第に遠ざかる人の心を悲しむ歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト127～135を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。また、予告した歌について調べ、その要点をノートにまとめる。
第11回	人を思う心 その5 恋の終わりの歌を読む	(学修内容) 二人の仲が冷めていき、ついには恋が終わる様相を描いた歌を読み、現代人のそれと比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト136～147を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。
第12回	死別の悲しみ 哀傷の歌を詠む	(学修内容) 人の死を悼む歌を読み、現代人のそれと比較する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト148～149を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。また、予告した歌について調べ、その要点をノートにまとめる。
第13回	言葉遊びについて 雑の歌、および物名の歌を読む	(学修内容) 言葉の遊びを主眼とした歌を読み、現代人の言語感覚と比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト94～96 / 150～151を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。
第14回	人生の悲しみ 老いや無常の世をはかなむ歌を読む	(学修内容) 世間の無常を主題とした歌を読み、現代人の人生観と比較・考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト152～161を読み、関心を抱いた事項を箇条書きで記しておく。また、予告した歌について調べ、その要点をノートにまとめる。
第15回	まとめとディスカッション	(学修内容) 古今和歌集の生み出した感性の、その後の展開をたどり、また、今後の日本文化のありようについて討議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業を振り返り、印象に残った事項を箇条書きでノートしておく。

授 業 名	華道・茶道・香道体験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2411
英 文 名	Japanese Flower Arrangement, Tea Ceremony, and Incense Ceremony			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	仏教伝来とともに華道・茶道・香道は日本に伝わり日本の風土や文化と習合しながら時代とともに展開していった。本講義では、華道・茶道・香道の歴史の変遷と仏教との関係について学ぶことで、華道・茶道・香道への理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	華道・茶道・香道の伝統文化について見識を深めるとともに、感性を育むことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	体験授業を2回程予定しています。真摯な態度でのぞんでください。また、授業の内容に関する展覧会や体験会なども紹介します。興味関心のある方は積極的に参加してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		華道・茶道・香道体験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業のすすめ方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第2回	華道の歴史 仏前供花	(学修内容) 仏教と花との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第3回	華道の歴史 六角堂	(学修内容) 六角堂と華道の関わりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第4回	立花とは何か	(学修内容) 立花について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第5回	生花の成立と展開	(学修内容) 生花の成立と展開について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第6回	茶の伝来と仏教	(学修内容) 茶の伝来と仏教の関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第7回	茶道の歴史 平安・鎌倉時代	(学修内容) 平安時代から鎌倉時代の茶の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第8回	茶道の歴史 室町時代と闘茶	(学修内容) 室町時代に流行した闘茶を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第9回	茶の湯の発展 村田珠光から千利休へ	(学修内容) 村田珠光・千利休が弘めた茶の湯を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第10回	学外授業	(学修内容) 茶道資料館もしくは宇治市での茶香体験を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 学外授業について小レポートを作成し担当教員に提出すること。	
第11回	香と宗教	(学修内容) 香が仏教・キリスト教・イスラム教など様々な宗教で必要とされる理由について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第12回	香の伝来	(学修内容) 日本に伝来した香と仏教の関係について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第13回	香の種類と効能	(学修内容) 香木や香料の知識とその効能について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第14回	古典文学にみる香	(学修内容) 『枕草子』や『源氏物語』に登場する香の表現や意味について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料に目を通し、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。	
第15回	学外授業 香道体験	(学修内容) 香道体験を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 学外授業について小レポートを作成し担当教員に提出すること。	

授 業 名	和食文化体験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2410
英 文 名	Washoku Experience (Japanese Food Culture)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	猿渡 綾子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	平成25年、「和食；日本人の伝統的な食文化」は、ユネスコの人類の無形文化遺産に登録された。その「和食」とは、料理そのものではなく、「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」を文化と位置付けることで登録されている。本授業では、ビデオや資料を見たり、実物に触れることで「和食文化」を体感してもらいたい。また、理解を深めることを目的として、適宜、グループワークも行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・和食文化の特徴を理解し、説明できる。 ・自分の地元の郷土料理を知り、人に伝えることができる。 ・和食文化に興味を持ち、守り、次世代へつなげていこうと思える。 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	特に使用しない。適宜プリントを配布する。								
参 考 書	授業中に例示する。								
課題に対する フィードバック の方法	添削後返却する。								
留 意 事 項	受講人数や時間割によっては内容を変更します。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	初回の授業で連絡します。 研究室前にも掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		和食文化体験
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方、「健康と食の文化」の復習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「健康と食の文化」の授業内容を振り返っておく
第2回	和食文化と水	(学修内容) 和食文化に大きく影響を及ぼす水について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 水が食文化とどう関係するか考えておく
第3回	お茶について	(学修内容) お茶の種類や歴史、淹れ方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) お茶にはどんな種類があるか調べてくる
第4回	京の食文化ミュージアム：あじわい館 見学	(学修内容) 京の食文化ミュージアム：あじわい館を見学し、京都の食文化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) あじわい館について調べておく
第5回	行事食 1 (亥の子餅)	(学修内容) 亥の子餅について、そのいわれや作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 行事食にはどんなものがあるか調べてみる
第6回	伝統野菜について	(学修内容) 京の伝統野菜について、その種類や栄養価、利用例を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の出身地の伝統野菜について調べてみる
第7回	漬物について	(学修内容) 京の三大漬物を中心に、その種類と製法、栄養学的価値等について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 京の三大漬物とは何か調べてくる
第8回	おばんざいについて	(学修内容) 京のおばんざいとはどのようなものかその優れた点等を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 京のおばんざいとして思いつくものをいくつか考えておく
第9回	調味料について 1 (塩・砂糖)	(学修内容) 和食を支える調味料についてその種類や製法を学ぶ 1回目は塩・砂糖を中心に (事前事後学修課題の内容) (30分) 砂糖の種類を調べてくる
第10回	調味料について 2 (発酵調味料)	(学修内容) 和食を支える調味料についてその種類や製法を学ぶ 2回目は発酵を利用した調味料について (事前事後学修課題の内容) (30分) 発酵を利用して得られる調味料にはどのようなものがあるか調べてくる
第11回	だしについて	(学修内容) だし汁の種類や特徴、そのとり方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回生時の科目「健康と食の文化」の「だしの文化」を復習しておくこと
第12回	郷土料理 1 (調べてみよう)	(学修内容) 自分の出身地の郷土料理について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の出身地にどのような伝統食品があるか調べてくる
第13回	行事食 2 (正月料理)	(学修内容) 雑煮、三種肴を中心に、その意味や作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の家での正月の食事についてまとめておく
第14回	郷土料理 2 (発表)	(学修内容) それぞれ自分の出身地の伝統食品や郷土料理について発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) できれば写真などの資料を集めるなど発表の準備をしておく
第15回	まとめ	(学修内容) 和食文化継承の課題について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 今、なぜ、和食文化の継承に危機感がもたれているのか考えておく

授 業 名	英語で学ぶ日本文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2407
英 文 名	Japanese Culture in English			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	海外から日本を訪れる人々が増える中、英語の需要もますます高まっています。日本を訪れる人々に日本の文化を紹介して理解してもらえよう、日本の慣習や文化、日本食、スポーツや歴史など幅広いトピックを英語で取り上げ、理解を深めます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本を訪れる外国人がよくする質問に、英語で5つ以上答えられる。 2) 興味のあるトピックを1つ選び、英語で簡単に説明することができる。 3) 指定された進出単語を半分以上理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	ロッキリー・トーマス著 『英語で読む外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史』 東京書籍 1,440円＋税								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行う。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。 ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	英語で学ぶ日本文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 効果的な学習プランを立てる。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 事前：シラバスを読む。
第2回	1 世界都市への発展：江戸から東京へ	(学修内容) 第1章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：1の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：1の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第3回	2 誉れ高い日本の武士：侍	(学修内容) 第2章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：2の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：2の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第4回	3 日本の雅な象徴：着物	(学修内容) 第3章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：3の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：3の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第5回	4 かつてのポップカルチャー：歌舞伎	(学修内容) 第4章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：4の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：4の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第6回	5 思いスポーツ：相撲	(学修内容) 第5章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：5の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：5の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第7回	6 弾丸列車：新幹線	(学修内容) 第6章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：6の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：6の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第8回	7 日本初の世界の物語：漫画	(学修内容) 第7章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：7の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：7の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第9回	8 日本を世界に知らしめた：美術と工芸	(学修内容) 第8章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：8の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：8の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第10回	9 動く芸術：映画	(学修内容) 第9章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：9の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：9の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第11回	10 コスプレの聖地：秋葉原	(学修内容) 第10章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：10の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：10の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第12回	プレゼンテーション	(学修内容) テキストから一つテーマを選びプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前：プレゼンテーションの準備 事後：振り返り
第13回	17 日本の鼓動：京都	(学修内容) 第17章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：17の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：17の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第14回	20 丼ぶり一杯の幸せ：日本の麺文化：麺類	(学修内容) 第20章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：20の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：20の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)
第15回	29 タイで王となった日本人：山田長政	(学修内容) 第29章の内容理解と練習 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前：29の予習(勉強方法は授業での説明に準ずる) 事後：29の復習(復習方法は授業での説明に準ずる)

授業名	装いの文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2221
英文名	Clothing Culture			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	馬場 まみ			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	人々の装いは、時代により、また地域により多様に変化してきた。本講義では、日本と西洋の女性の装いの変化と現代の服飾文化をみていく。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞し、ディスカッションを行う。								
学修成果到達目標	1. 日本の服飾文化の変化を理解することができる。 2. 西洋の服飾文化を理解することができる。 3. 現代の装いの文化について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	適宜資料を配付する。								
参考書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		装いの文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	平安時代の装い：貴族の装い	(学修内容) 平安時代の身分階級と貴族の装いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	平安時代の装い：文様と色彩	(学修内容) 平安時代時代の装いと文様・色彩について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	江戸時代の装い：女性の装い	(学修内容) 衣装比べと奢侈禁止令について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	江戸時代の装い：きものの文様と色彩	(学修内容) 女性の装いときものの文様と色彩について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	江戸時代の装い：きもの・帯・化粧	(学修内容) 女性の装いときもの・帯・化粧について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	近代の装い：洋服と和服	(学修内容) 洋服の導入と和服について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	近代の装い：和服文様の近代化	(学修内容) 近代的な和服文様について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	西洋のファッション：近代までの歴史	(学修内容) 近代までの西洋ファッションの歴史 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	西洋のファッション：近代的洋服の成立	(学修内容) 社会の変化と近代的洋服の成立について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	西洋のファッション：シャネル	(学修内容) シャネルの生涯とファッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	西洋のファッション：戦後の装いとディオール	(学修内容) ディオールのファッション 映像を鑑賞してディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第13回	戦後日本のファッション	(学修内容) 戦後ファッションの変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第14回	日本人デザイナー	(学修内容) 日本人デザイナーの活動 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第15回	現代の装いの文化	(学修内容) 現代の装いの文化について (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの講義内容を振り返る

授 業 名	ものづくりの文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2215
英 文 名	Manufacturing Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義では「ものづくり」を生活においてしようされる道具類のうち、材料・技巧・意匠によって美的効果を備えた物品・およびその製作として定義し、18世紀の産業革命から21世紀の現代にいたるまで、ものづくりへの思想や活動、実際に製作された製品の様式美や生産者の想いについて学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	「ものづくり」という言葉の意味を考えることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートにはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	博物館や資料館など、授業に関する内容の展示会などが開催されたならば、各自興味関心をもってできるだけ足を運んでください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を貼付するので確認してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	ものづくりの文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「ものづくり」とは何か	(学修内容)「ものづくり」の定義について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第2回	中世ヨーロッパの職業意識と仕事	(学修内容)今村仁司『仕事』より、産業革命以前の職業観や生産された製品(工芸品)に対する中世の思想を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第3回	産業革命と資本主義	(学修内容)産業革命誕生の背景と資本主義とは何かを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第4回	資本主義下におけるものづくり	(学修内容)資本主義経済のもとに行われる生産活動のメリットとデメリットについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第5回	ルナ・ソサエティの活動	(学修内容)ルナ・ソサエティの誕生とその活動を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第6回	人間性の細分化	(学修内容)ジョン・ラスキンが提唱した資本主義による労働と製品(工芸)生産への弊害を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第7回	アーツ・アンド・クラフト運動の誕生	(学修内容)アーツ・アンド・クラフト運動が結成された背景を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第8回	アーツ・アンド・クラフト運動とウィリアム・モリス	(学修内容)アーツ・アンド・クラフト運動の提唱者のウィリアム・モリスの工芸と美術観を学ぶとともに、ヨーロッパに広がる運動の様相を探る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第9回	アーツ・アンド・クラフト運動の影響 アール・ヌーヴォーの誕生とその造形	(学修内容)アール・ヌーヴォー(新しい芸術)の誕生と特徴を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第10回	パウハウス その誕生と背景	(学修内容)パウハウスが誕生した背景を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第11回	パウハウス 合理主義かつ機能主義への挑戦	(学修内容)パウハウスとモダンについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第12回	パウハウスの影響	(学修内容)パウハウスが現代社会に与えた影響について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第13回	柳宗悦と民藝運動	(学修内容)ウィリアム・モリスの思想に共鳴した柳宗悦の民藝運動思想を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第14回	現代工業製品にみる「用の美」	(学修内容)「用の美」について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。
第15回	授業の総括	(学修内容)授業の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容や資料をもとに各自ノートをまとめる。

授 業 名	アジアの文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2220
英 文 名	Asian Culture			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	アジアの文化を学びます。私たちの日本は、東アジアに位置しています。まわりが海に囲まれた島国日本も、アジア各国の様々な文化が伝来しています。アジアの文化を学びます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) アジアの文化の意義を考える。 2) 文化交流史を理解する。 3) アジア文化における日本の地位を理解する。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	必要に応じてプリントで配布します。								
参 考 書	必要に応じてプリントを配布します。								
課題に対するフィードバックの方法	作成したレジュメにコメントや訂正を加える。また、フィールドワークでは適宜補足や説明を行う								
留 意 事 項	わからない事は積極的に質問してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	後日研究室の扉に掲示します。								
実践的教育									

授業名	アジアの文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（アジアの文化とは何か？）	（学修内容）アジアの文化とは何かを概説します。また今後の学習のあり方を説明します。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 講義の内容をまとめてください。
第2回	正倉院を学ぶ	（学修内容）正倉院は、聖武天皇や光明皇后の遺品が多くおさめられているのですが、ここにはアジア各地の文物がみえます。正倉院について概説します。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業の内容を整理し、関心のある分野を探してください。
第3回	正倉院の宝物	（学修内容）正倉院には、アジア各国の文物が伝来しています。具体的にどのようなものが残っているのが学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容をまとめてください。
第4回	フィールドワーク（事前授業）	（学修内容）次週フィールドワークを行うにあたって、正倉院を自分で調べてもらいます。関心のあるところを探し出し、発表してもらいます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表した内容をまとめて提出してもらいます。
第5回	フィールドワーク	（学修内容）正倉院展に行きます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） フィールドワークで発見したことや感じたことをまとめてください。
第6回	フィールドワーク（事後学習）	（学修内容）正倉院展を見学して、発見したことや関心の持ったことをあらためて発表してもらいます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表した内容を確認し、レポートで提出してもらいます。
第7回	シルクロードを学ぶ	（学修内容）シルクロードを通り中国へは様々な文化が伝来しました。シルクロードを通じた文化交流史を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容を整理してもらいます。
第8回	シルクロードを学ぶ	（学修内容）シルクロードを通り、中国へは様々な文化が伝来しました。宗教文化も重要なものです。シルクロードを通じた宗教文化を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義で関心のあるところをまとめて調べて下さい。
第9回	フィールドワーク	（学修内容）シルクロード文化に関連する施設へフィールドワークに行きます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） フィールドワークで発見したことや、感じたことをまとめてください。
第10回	冊封体制について	（学修内容）中国を中心とした古代の東アジア文化を概説します。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容をまとめてください。
第11回	冊封体制について	（学修内容）中国を中心とした東アジア。特に古代日本のあり方を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容をまとめてください。
第12回	フィールドワーク	（学修内容）東アジア交流史からみる中国文化の伝来。アジアの文化が色濃くみえる場所へフィールドワーク行きます。 （事前事後学修課題の内容）（60分） フィールドワークで発見したことや、感じたことをまとめてください。
第13回	唐滅亡後の東アジア文化	（学修内容）東アジアに広まる文化。文化交流史の観点から唐滅亡後を中心に学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容をまとめてください。
第14回	国風文化	（学修内容）894年の遣唐使廃止後、日本は独自の文化を発達させていきます。国風文化を学びます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 講義の内容をまとめてください。
第15回	まとめ	（学修内容）アジア文化を総合的に考え、まとめてもらいます。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 関心のあることをまとめてレポートで提出してもらいます。

授 業 名	日本の伝統芸能と大衆文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2214
英 文 名	Traditional Performance Art and Popular Culture in Japan			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	工藤 美和子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	日本の伝統芸能について、説教・念仏踊り・祝福芸能・落語など仏教芸能を中心に取りあげる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	(1) 日本の芸能の歴史をたどりながらその特質を考察することができる。 (2) 仏教が生み出した様々な芸能の歴史的流れを理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業内で資料を配付します。								
参 考 書	授業内で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートにはコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	伝統芸能に興味関心のある方は自ら足を運んで見聞してください。 外部講師による講演は、講師の諸事情によって変更等が生じる場合があります、ご了承ください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を貼付ので確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		日本の伝統芸能と大衆文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方や成績評価について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第2回	説教の歴史	(学修内容) 説教の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第3回	節談説教	(学修内容) 節談説教と仏教との関わりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第4回	節談説教 演目を観る	(学修内容) 節談説教を鑑賞する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第5回	念仏踊り	(学修内容) 念仏踊りの成立について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第6回	京都と六斎念仏	(学修内容) 京都に伝わる六斎念仏について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第7回	祝福芸能	(学修内容) 祝福芸能とは何かを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第8回	祝福芸能 傀儡子と『傀儡子記』	(学修内容) 平安時代に書かれた『傀儡子記』を資料に傀儡子の役割を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第9回	外部講師による授業	(学修内容) 外部講師を招き講演および実演。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第10回	仏教と講談 「太平記読み」	(学修内容) 講談の誕生と「太平記読み」について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第11回	仏教と落語	(学修内容) 仏教から誕生した落語について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第12回	安楽庵策伝と『醒睡笑』	(学修内容) 落語の祖・安楽庵策伝の生涯と著作『醒睡笑』から現在でも演じられている落語の元となった話を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第13回	落語『真景累ヶ淵』を読む	(学修内容) 三遊亭円朝が創作した怪談噺とその1つ『真景累ヶ淵』の内容を知り、なぜ怪談噺が生まれたのかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第14回	『真景累ヶ淵』にみる人々の願い	(学修内容) 怪談噺『真景累ヶ淵』の幽霊の姿にみる因果の教えと当時の人々が受容した仏教思想を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。
第15回	授業の総括	(学修内容) 授業の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布した資料に目を通し、事後、授業内容を各自ノートにまとめる。

授 業 名	人物史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2219
英 文 名	History of Great People			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義では、主として人物の思想について考えたい。彼らは、どのように時代と格闘したのかについて、その思想から、その人物の目指した理想や理念を考え、また現代社会に生きる我々が何を学ぶのかについても、常に考えていきたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代に生きるわれわれにとって、取り上げた人物から彼らの時代的な意義を掴むことができる 2) 時代と人物との関係を把握することができる 3) 人物と思想を考える								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。史料を配布する								
参 考 書	講義中に指摘する								
課題に対する フィードバック の方法	配布史料に関する解説、学生への考えにコメントを加える								
留 意 事 項	わからない箇所は、講義後に聞くこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授業名	人物史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 人物史とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 自身の好きな歴史的人物について調べておく
第2回	人物史の方法	(学修内容) 人物から歴史、社会を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) どのような人物が主として取り上げられているのかを高校の教科書から調べておく
第3回	足利義教ーくじ引き將軍	(学修内容) くじ引き將軍の目指したもの (事前事後学修課題の内容) (30分) 義教についての基礎的な理解をしておく
第4回	足利義教ー恐怖政治の思想	(学修内容) 恐怖政治の思想 (事前事後学修課題の内容) (60分) 歴史的な恐怖政治の共通項について考えておく
第5回	織田信長の思想	(学修内容) 信長の目指したもの (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布史料を読み、信長の人物像を自身で描く
第6回	明智光秀と本能寺の変ー黒幕の存在	(学修内容) 信長を殺しを巡る疑わしい人々 (事前事後学修課題の内容) (30分) 信長と明智光秀の関係の基礎的な理解をしておく
第7回	フィールドワーカー講義で関係のある人物についての	(学修内容) フィールドワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身で、行先の何を注目するのか、その注目した点について調べる
第8回	フィールドワークについての発表	(学修内容) フィールドワーク事後報告 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が設定したテーマについてレジュメを用意
第9回	新撰組の思想	(学修内容) 芹沢鴨は本当に乱暴者なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 意幕末水戸藩についての理解しておく
第10回	残念さんー歴史の犠牲者	(学修内容) 水井精一と山本誠一郎 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を解読しておく
第11回	夏目漱石の『こころ』の思想	(学修内容) DVD鑑賞 (事前事後学修課題の内容) (30分) 漱石について理解しておく
第12回	『こころ』についてのグループワーク	(学修内容) 『こころ』をみんなで考える (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートに記入しておく
第13回	夏目漱石と近代社会	(学修内容) 漱石は近代日本をどのように見ていたのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく
第14回	夏目漱石と個人主義	(学修内容) 個人主義は可能か (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく
第15回	夏目漱石と現代	(学修内容) 現代社会と漱石 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく

授 業 名	情報メディアの活用			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC1211
英 文 名	Practical Use of Information and Media			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>私たちの生活にいまや欠かすことができない携帯電話やスマートフォン。仕事や暮らしに関わる情報をいつでもどこでもインターネットを介して収集することが可能となりました。企業や自治体も、消費者や住民が求める情報、また周知が必要な情報を的確に伝えるために、ホームページやSNSを活用した広報活動に力を入れています。就職先として企業や自治体職員等を目指す上で、配属された部署での事業PRなどを周知するために、ホームページやSNSを使って広報する力は必須のものとなるでしょう。そこで本授業では、就職先で基本的な広報活動が担える力を育成することを目指します。具体的に、PCやスマートフォンを活用し、華頂生やオープンキャンパス参加者を対象に「総合文化学科での学び」を説明する資料の作成など具体的な課題に取り組みます。また授業中に、完成した課題を発表する機会を作ります。発表を通してプレゼンテーション力を伸ばします。以上を通して、受講生一人ひとりそれぞれの情報メディアの「活用」力を高めていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1)情報メディアの特徴を説明することができる (2)情報メディアを活用したチラシや簡易新聞等を作成できる (3)仲間と協力して一つの目標に向かって活動できる (4)情報発信する際のルールやマナーが説明できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	テキストはありません。各回に印刷資料の配布または必要事項を板書します。								
参 考 書	授業中に適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出を求めるコメントカードについては、後日、授業の際に講評したり、必要に応じてコメントを添えて返却します。グループワークで作成する各課題については適宜アドバイスを行います。事前に評価指標を伝え、その指標に則り、プレゼンテーションの回にチェックし、指導を行います。								
留 意 事 項	授業中盤から課題制作のためにグループワークを実施します。課題制作上、学校備え付けのPCとは別に、各自の所持しているスマートフォンやタブレットPCを使用する場合があります。配慮事項のある学生は事前に相談してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育	実践的教育 教員の業務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、E-Learninシステムの設計および運用に携わる。								

授業名	情報メディアの活用	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)「情報メディアの活用」の15回を通した目標と内容を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 授業の感想や要望をコメントカードに記入して次回に提出
第2回	情報メディアの特徴	(学修内容)情報の送信側と受信側、それぞれの立場から情報メディアの特徴を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 「情報メディア」の意味を辞書などで調べてくる 事後 情報の送受信の特徴をコメントカードにまとめ次回提出
第3回	情報リテラシー	(学修内容)情報メディアを活用する際に求められるリテラシーを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 情報リテラシーについて調べてくる 事後 自身が今後伸ばす必要がある情報リテラシーを整理する
第4回	企業や自治体のホームページでの広報の特徴	(学修内容)企業や自治体の広報用ホームページの現在のおおよその構成を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体のホームページを閲覧し比較してくる 事後 広報用ホームページの特徴をコメントカードにまとめ次回提出
第5回	企業や自治体のSNS上での広報の特徴	(学修内容)現在、企業や自治体によるSNSを活用した広報の在り方を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体が行うSNS上の広報活動を調べてくる 事後 各SNSの特徴を生かした広報の在り方をコメントカードにまとめ次回提出
第6回	情報メディアのユーザビリティとアクセシビリティ	(学修内容)情報メディアのユーザビリティとアクセシビリティについて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 スマホなどのデバイスでだれでも利用できるような工夫を調べてくる 事後 授業で取り上げたキーワードとその意味を復習する
第7回	「炎上」等トラブルを防ぐために	(学修内容)著作権への抵触、不適切な画像・動画の拡散、攻撃的な記事のアップなど「炎上」の実際と防ぐためのチェック体制について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 企業や自治体のネット上での広報における「炎上」事例を調べる 事後 「炎上」回避する要点をコメントカードにまとめ次回
第8回	広報業務の実際	(学修内容)職場で広報に携わるゲストスピーカーの話の要点をまとめることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 広報業務について調べてくる 事後 ゲストスピーカーの話への感想をまとめ提出
第9回	広報活動にチャレンジ	(学修内容)【グループワーク】本学の入試広報等を想定し、届けたい受信者の興味関心を意識して、記事作りのテーマを考え決めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 記事にするテーマを考えてくる 事後 グループワークで出した意見をもとに更に記事内容を検討してくる
第10回	広報用記事の材料収集	(学修内容)【フィールドワーク】広報記事に掲載する材料を探すために大学近隣でフィールドワークに参加し成果を挙げることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 記事作成のため必要な材料を事前にピックアップしておく 事後 フィールドワークを実施した反省をコメントカードにまとめ次回提出
第11回	広報用記事の作成	(学修内容)【グループワーク】広報記事をグループ内で分担して作成することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 グループ内で担当を割り振り、事前準備を進める 事後 プレゼンテーションに向けて、記事を完成させて発表の段取りを整える
第12回	完成した広報用記事の共有	(学修内容)【プレゼンテーション】グループごとに作成した広報用記事と工夫した点を紹介することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 限られた時間の中でプレゼンするため、プレゼンの練習を前日までにを行う 事後 プレゼンの反省をコメントカードにまとめ次回提出
第13回	広報用動画の素材作成	(学修内容)【グループワーク】広報用動画の素材を作成することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 総合文化学科を紹介する動画のストーリーを考えてくる 事後 作成した素材をどのように編集するのが工程を考える
第14回	広報用動画の編集	(学修内容)【グループワーク】フィールドワークで撮影した画像データをPCソフトやスマホアプリを活用しつなげ動画にすることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 動画に掲載する画像を整理しておく 事後 次回の発表に向けて動画を完成させる
第15回	制作した広報用動画の発表	(学修内容)【プレゼンテーション】制作した広報用動画をグループごとにプレゼンすることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 前日までに動画を完成、メンバーとプレゼンの練習をおこなう 事後 他のグループからのコメントを記録し最終レポートに反映させる

授業名	情報ビジネス演習 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1106
英文名	Information Business Practice a・b			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	佐藤 愛			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報利活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版(オーム社)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	・情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードが分かる状態で授業に参加してください。 ・2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。 容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 ・毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業初回にアナウンスします。 研究室前にも掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	情報ビジネス演習 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明, 情報処理室の使用法, Gメールの送受信 アカウントの追加, 情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章、入学時に配布されたポータルサイトの冊子を読み持参 事後: メール送信
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意, Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け, ページ設定, 書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: USBメモリを購入し持参, 教科書第1章1-3、第3章3-1~2を読む 事後: 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をClassroomから提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換, ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章3-3、3-4を読む 事後: 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をClassroomから提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入, テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章3-5を読む 事後: 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をClassroomから提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章3-5を読む 事後: 第5回課題 (Word・表) を印刷し提出。文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章を復習 事後: 第6回課題 (Word・レジメ) をClassroomから提出
第7回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更, スライドマスターの編集, 箇条書き インデント、Tabキーの使い方, 画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 事後: 第7回課題 (PowerPoint・画像加工) をClassroomから提出
第8回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成, ノートの記入, 印刷設定 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第5章5-7を読む 事後: 第8回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第9回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 次回プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読み、発表テーマを考えてくる 事後: 発表用スライドを完成させ、Classroomから提出
第10回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 発表用原稿を作成する 事後: プレゼンテーションの振り返りを行う
第11回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明, データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 事後: 第11回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をClassroomから提出
第12回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章4-2を読む 事後: 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をClassroomから提出
第13回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 棒、折線、円、複合などのグラフ, 印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 事後: 第13回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第14回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる 事後: 選んだ統計データの分析を行う
第15回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 選んだ統計データの分析とレポート案の作成 事後: 第14、15回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をClassroomから提出

授業名	現代文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1205
英文名	Contemporary Culture			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	新矢 昌昭			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	本授業では、現代文化の特徴について、様々な領域の具体的な事例を通して学ぶ授業では、講義に加えてグループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表を実施し、現代文化に対する理解を深める								
学修成果到達目標	1) 講義やフィールドワークをして、文化の特徴について理解する 2) 自身と現代文化との関わり方を意識して考えられるようになる 3) グループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表などに主体的に取り組むことができるようになる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	使用しない								
参考書	授業中に適宜指摘する								
課題に対するフィードバックの方法	グループワーク・ディスカッション・発表などについて、講評する								
留意事項	グループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表などに主体的に取り組むこと。講義中に質問をするので、自身の意見や考えを持つこと								
オフィスアワー	研究室の扉に掲示								
実践的教育									

授 業 名		現代文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要、学修成果・到達目標、評価方法、授業計画等について (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前にシラバスの内容を確認しておく
第2回	文化とは何か	(学修内容) 文化概念の歴史を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 文化とは何かを調べ、理解しておく
第3回	日本文化論は可能か	(学修内容) 日本とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本とは何か、日本人とは何かを調べておく
第4回	日本文化論を考える	(学修内容) 日本+文化 = ? 日本文化論の疑い (事前事後学修課題の内容) (60分) 代表的な日本文化論についての配布プリントを読んでおく
第5回	オリエンタリズム	(学修内容) 西欧の東洋を見る視線 (事前事後学修課題の内容) (60分) オリエンタリズムについての配布プリントを読んでおく
第6回	現代文化としての都市	(学修内容) 現代文化と都市の関係 (事前事後学修課題の内容) (60分) 都市とは何かを調べ、説明できるようにしておく
第7回	現代文化としてのメディア	(学修内容) メディアとつながり (事前事後学修課題の内容) (60分) メディアの利用頻度についてまとめておく
第8回	現代文化としての消費	(学修内容) 消費と欲望 (事前事後学修課題の内容) (60分) 何を何故欲しいのか、を考えておくこと
第9回	現代文化の中の恋愛	(学修内容) 恋愛は可能か (事前事後学修課題の内容) (60分) 恋愛についての配布データを読んでおく
第10回	現代文化の中の「わたし」	(学修内容) 現代文化での「わたし」の行方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「わたし」自身とは何かをまとめておく
第11回	フィールドワークの準備	(学修内容) 個人、グループでフィールドワークの準備。フィールドワークのスケジュール等をグループでディスカッションして検討。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現地の情報等を各自で調べておいてください。
第12回	フィールドワーク 1 施設の見学等 1回目	(学修内容) フィールドワーク。施設の見学等。1回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 1回目
第13回	フィールドワーク 2 施設の見学等 2回目	(学修内容) フィールドワーク。施設の見学等。2回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 2回目
第14回	フィールドワークの振り返り	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておく
第15回	現代文化 振り返りとまとめ	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておく

授業名	表現文化			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1206
英文名	Representation Culture			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	全 炳昊			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	現代文化は、独自のテーマや領域において様々な表現の「ツール」を介して現象する。多様な担い手によって拡散する現代文化の特徴を知るため、授業では多様なジャンルで展開する総合コンテンツとしての「韓流」という文化現象に注目する。韓流の歴史や展開過程、担い手間の相互関係から韓流が如何にグローバル化へ乗り出したのか、またその過程に内在している問題は何かを考察することで、現在進行形である韓流の「イマ」を探る。授業の導入としては、現代文化に対する理解とともに理論的考察を進め、続けて韓流の歴史や各ジャンル別の展開過程について見ていきたい。後半には、韓流をめぐる問題とともに、日韓両国の関係において韓流がどのような役割や機能を担うことができるのか、その可能性を図るため、韓国社会における日本文化（「日流」）の様子とその特徴についての考察を行う。								
学修成果到達目標	日常的で身近な文化現象の社会的背景や意味を知ることができる。 韓流の歴史と展開過程を通して、特定の文化現象が社会の中でどのような役割と機能を持っているのか、把握することができる。 韓流という文化現象の理解から、日韓関係の今後について考えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	特に指定しません。								
参考書	井上俊 編（2014）『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社 クォン・ヨンソク（2010）『「韓流」と「日流」？文化から読み解く日韓新時代』NHKブックス								
課題に対するフィードバックの方法	メールにてコメントを行います。 postjeon@gmail.com								
留意事項	毎回の講義時に出されるワークシートは自分の言葉で作成し、必ず提出すること。								
オフィスアワー	講義時間前後に限って、控え室などに在室します。 他には、メールにて授業関連の相談などを行います。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：映画配給会社にて、日本語と韓国語の翻訳・通訳に関する企画および運用の統括として勤務。 企業と行政の現場における通訳業務に携わる。								

授業名	表現文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・「みせもの」としての文化	(学修内容) 講義概要と進行の流れ なぜ、「韓流」に焦点を合わせているのか。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第2回	現代文化を考える - 「都市的」生活様式としての文化	(学修内容) 都市的な生活様式における現代文化の特徴 「都市的」であることの意味を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第3回	現代文化を考える - 「消費する(される)」ものとしての文化	(学修内容) 「消費」の担い手は誰なのかを知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第4回	現代文化を考える - 「情報」を共有する手段としての文化	(学修内容) 私たちが求めているものとは何か。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第5回	文化研究の視点と方法 - いくつかの理論的アプローチ	(学修内容) 「カルチュラル・スタディーズ」と「言説分析」 「ジェンダー・スタディーズ」と「文化的再生産」 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第6回	何が「表現」されるのか - 「韓流」の歴史と現状	(学修内容) 文化現象としての「韓流」の歴史と現状 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第7回	何が「表現」されるのか - 戦略としての「韓流」と担い手	(学修内容) 商業戦略としての韓流から文化戦略へ ダイナミック・コリアの正体 / (GWの成果をプレゼンする) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第8回	どのように「表現」されるのか - ドラマシーンにおける「韓流」	(学修内容) 「冬ソナ」から韓流「時代劇」ブームまで 韓流トレンド・ドラマ (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第9回	どのように「表現」されるのか - 映画シーンにおける「韓流」	(学修内容) 韓国映画産業の歴史と戦略 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第10回	どのように「表現」されるのか - 音楽シーンにおける「韓流」	(学修内容) K-popの過去と現在 音楽が国境を越える時 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第11回	どのように「表現」されるのか - 文学シーンにおける「韓流」	(学修内容) 韓国版「ハルキスト」たち 大型書店における「日本文学コーナー」の意味 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第12回	今までの総括 - 「韓流」という文化現象の実像と虚像	(学修内容) 問題と今後を考える。 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第13回	相反する「表現」のカタチ - 韓国社会における「日流」	(学修内容) 文学、アニメを中心とする「日流」の実像 (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第14回	相反する「表現」のカタチ - 「韓流」と「日流」の狭間で日韓関係を考える	(学修内容) それぞれの文化現象から「みえる」もの (グループワークで韓流を自由に語る) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自で興味を持っている「韓流シーン(音楽・ドラマ・映画・文学など)」について、コメントできるように、毎回準備しておくこと。
第15回	成果発表および総括	(学修内容) 身近な韓流との関わりから思うこと。 課題設定および報告会 / (GWの成果をプレゼンする) (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告の準備をしておくこと。

授 業 名	現代スポーツ文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1207
英 文 名	Contemporary Sport Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	スポーツは、身体、物質、精神など文化と密接な関係にあります。この講義では、スポーツがどのように文化に影響を与えたのかをスポーツの歴史を通して考えていきます。特に、オリンピックや近代スポーツに注目し現代文化との関係や問題を考えていきます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 講義やフィールドワークを通して、文化としてのスポーツを理解することができる 2) 講義を通して、オリンピックの歴史や問題点を理解することができる 3) 現代社会でのスポーツの意義を考えることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	配布資料についての解説、グループワーク発表などにコメントを加える								
留 意 事 項	配布資料は必ずよみ、自身でまとめておくこと。講義中に考えを求める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授 業 名		現代スポーツ文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容)この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく	
第2回	スポーツとは何か	(学修内容)スポーツの定義 (事前事後学修課題の内容)(60分) スポーツに対するイメージを考えて、まとめておく	
第3回	近代スポーツの誕生	(学修内容)近代スポーツとは何か (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第4回	オリンピックとは	(学修内容)オリンピックの歴史 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第5回	近代オリンピックとは	(学修内容)近代オリンピックの光と影 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第6回	ベルリンオリンピック	(学修内容)ヒトラーとオリンピック (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第7回	ベルリンオリンピックを見る	(学修内容)ベルリンオリンピックのDVD鑑賞 (事前事後学修課題の内容)(60分) 感想文を書く	
第8回	オリンピックとナショナリズム	(学修内容)国家とスポーツの関係 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第9回	オリンピックとナショナリズムについてのグループワーク	(学修内容)グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回で学んだことについて自分の問題点としてまとめておく	
第10回	現代社会の中のスポーツとプロ	(学修内容)現代社会の中のスポーツの位置づけと職業としてのスポーツ (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第11回	スポーツとジェンダー	(学修内容)スポーツの中の男女 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第12回	プロ野球の歴史	(学修内容)電鉄会社とプロ野球 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読んでおく	
第13回	プロ野球とファン	(学修内容)ファンはどのようにできるのか (事前事後学修課題の内容)(60分) スポーツ新聞を読んでおく	
第14回	スポーツ関連施設見学	(学修内容)スポーツ関連ミュージアムでスポーツについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 当該スポーツ関連施設のHPを読んでおく	
第15回	まとめ	(学修内容)全体のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) スポーツ関連ミュージアムの感想文の提出	

授業名	メディア文化史			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1210
英文名	History of Media Culture			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	富川 拓			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>本授業では、様々なメディア・メディア文化の歴史や現状、課題について、具体的な事例を通して学び、自身とメディアとの関わり方を意識して考えられるようになることを目標としています。</p> <p>授業では、講義に加えてグループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表を実施し、メディア・メディア文化に対する理解を深めます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 様々なメディア・メディア文化の特徴、現状と課題について学び、メディアリテラシーを身につける。</p> <p>2) 自身とメディアとの関わり方を意識して考えられるようになる。</p> <p>3) グループワーク、ディスカッション、発表、フィールドワークなどに主体的に取り組むことができるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	特に指定しません。								
参考書	授業中に適宜指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	グループワーク・ディスカッション・発表・授業中に課すレポートに対しては、講評を行います。								
留意事項	日頃からメディアに関心を持つようにしてください。 グループワーク・ディスカッション・フィールドワーク・発表などに主体的に取り組んでください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	メディア文化史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要、学修成果・到達目標、評価方法、授業計画等について (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前にシラバスの内容を確認しておいてください。
第2回	メディア文化	(学修内容) メディア、社会、文化、メディア文化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第3回	メディアの歴史 1 声、文字、印刷と書籍	(学修内容) 声、文字、印刷と書籍について。記号、コミュニケーションについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第4回	メディアの歴史 2 新聞、電話、ラジオ、テレビ、インターネット、SNS、携帯電話、スマホ	(学修内容) 新聞、電話、ラジオ、テレビ、インターネット、SNS、携帯電話、スマホについて。メディアリテラシー、情報リテラシーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第5回	日本文化とメディア 1 マンガ、アニメ等	(学修内容) マンガ・アニメ・映画・ゲームについて。アニメ、映画等の聖地巡礼について (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本のマンガ・アニメ・映画・ゲームについて事前に各自で調べてきてください。
第6回	日本文化とメディア 2 グループディスカッション	(学修内容) 日本文化とメディアについて、グループでディスカッションし、発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自でディスカッション、発表の振り返りをしてください。
第7回	ジェンダーとメディア 1 性別役割分業、異性愛主義等	(学修内容) ジェンダー、性別役割分業、異性愛主義、男女共同参画について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第8回	ジェンダーとメディア 2 ジェンダー表象	(学修内容) メディアにおけるジェンダー表象について (事前事後学修課題の内容) (60分) 普段から接しているメディアにおけるジェンダー表象について、各自で調べ、分析してください。
第9回	子育て・教育とメディア	(学修内容) 子育て・教育とメディアとの関連、絵本や教科書について (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習内容を復習し、用語等を覚えるようにしてください。
第10回	フィールドワークの準備	(学修内容) 個人、グループでフィールドワークの準備。フィールドワークのスケジュール等をグループでディスカッションして検討。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現地の情報等を各自で調べておいてください。
第11回	フィールドワーク 1 施設の見学等 1回目	(学修内容) フィールドワーク。施設の見学等。1回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 1回目
第12回	フィールドワーク 2 施設の見学等 2回目	(学修内容) 引き続き、フィールドワーク。施設の見学等。2回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 2回目
第13回	フィールドワーク 3 施設の見学等 3回目	(学修内容) 引き続き、フィールドワーク。施設の見学等。3回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドノートの整理 3回目
第14回	フィールドワークの振り返り	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。
第15回	メディア文化史 振り返りとまとめ	(学修内容) グループワークと発表 (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自で振り返り(グループワークと発表)の準備をしておいてください。

授 業 名	情報サービス			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC1208
英 文 名	Information Service			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業にて指示する。								
参 考 書	『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道、樹村房、2012年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	・ 図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 ・ 本講義において学習するレファレンスサービス理論及び情報検索理論は、「情報サービス演習」において発展的にレファレンス演習課題として取り組む際に必要となる理論である。本講義中に基礎的な理論はしっかりと理解し、「情報サービス演習」の学習に繋げてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。								

授業名	情報サービス	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	(学修内容)図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際 直接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際 間接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	(学修内容)レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	レファレンスプロセス	(学修内容)レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム 種類と内容	(学修内容)情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム 検索過程	(学修内容)情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	(学修内容)個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	(学修内容)著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	(学修内容)オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	(学修内容)電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について(プレゼンテーション)	(学修内容)レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容)今後の情報サービスあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授業名	サブカルチャー			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1212
英文名	Subculture			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	全 炳昊			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>「サブカルチャー」という言葉は、それが使われる国や地域、集団、時代に応じて指し示す意味内容が違って来る、多義的な概念である。こうしたサブカルチャーの多義性について理解してもらうために、授業では、在日コリアンの歴史と文化、そして現在を中心テーマに設定している。日本社会におけるサブ(マイノリティーor非主流or周辺人)としての生活を余儀なくされた在日コリアンの歴史を通して、彼ら独自の生活様式や文化が如何にしてサブカルチャーとして定着したのか、その展開過程に注目する。授業の流れとしては、導入としてのサブカルチャーに対する理解を図るための理論的背景から、在日コリアンの歴史と文化、そして彼らの生活様式がどのように維持・変化してきたかについて考察する。合わせて後半に至っては、様々な在日(ブラジル・中国・ベトナム)の様相を比較・考察することで、日本社会における「多文化共生」の可能性について考えてみたい。</p>								
学修成果到達目標	<p>サブカルチャーの多義性について理解することができる。 在日コリアンの歴史と文化、生活様式について理解することができる。 多文化共生の可能性に対する自分なりの見解を示すことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	特に指定しません。								
参考書	伊奈正人(1999)『サブカルチャーの社会学』世界思想社 ディック・ヘブディジ(1986)『サブカルチャー-スタイルの意味するもの』未来社 尹健次(2015)『「在日」の精神史1・2・3』岩波書店								
課題に対するフィードバックの方法	メールにて対応いたします。 postjeon@gmail.com								
留意事項	事前学習は必要ありませんが、毎回の講義時に出されるワークシートは自分の言葉で作成し、必ず提出すること。								
オフィスアワー	授業時間前後に限って、控え室などに在室します。 その他、授業関連の相談などには、メールにて対応いたします。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：映画配給会社にて、日本語と韓国語の翻訳・通訳に関する企画および運用の統括として勤務。 企業と行政の現場における通訳業務に携わる。								

授業名	サブカルチャー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・「サブ」が意味するもの：講義概要と進行の流れ	(学修内容) なぜ、「在日コリアン」に注目するのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第2回	サブカルチャーとは何か - サブカルチャーの正体	(学修内容) 様々なサブカルチャーの様相 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第3回	サブカルチャーとは何か - 理論的アプローチ	(学修内容) 「イデオロギー」としてのサブカルチャー 「ポスト・モダン」なサブカルチャー (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第4回	サブカルチャーとは何か - 実態としてのサブカルチャー	(学修内容) サブカルチャーの担い手は誰なのか。 地域と集団、そして時代から考えるサブカルチャーの実像 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第5回	「在日」を生きる - オールドカマーとニューカマー	(学修内容) 在日コリアンの歴史を考える。 (グループワークで思いを共有する) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第6回	「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(1) : 映画の中の在日「表象」	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第7回	「在日」を生きる - 映画解説および分析	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度)
第8回	「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(2) : 映画の中の在日、家族、そして日本社会	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第9回	「在日」を生きる - 映画解説および分析	(学修内容) 映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度)
第10回	「在日」を生きる - 在日コリアンの文化と生活様式	(学修内容) 地域文化としての「在日」 民族教育はいかに継続するのか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第11回	「在日」を生きる - 日本人と韓国・朝鮮人と在日	(学修内容) 在日コリアンにとって、「アイデンティティ」とは何か。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第12回	「在日」の様相 - 在日ブラジル人の場合	(学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第13回	「在日」の様相 - 在日中国人の場合	(学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第14回	「在日」の様相 - 在日ベトナム人の場合	(学修内容) 地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常的な「サブカルチャー」との関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第15回	成果報告および総括	(学修内容) 「在日」との出会いから見えるもの(課題および報告会) (GWの成果としてプレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の準備をしておくこと。

授 業 名	先端的京都体験			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	IC1405
英 文 名	Ultramodern Kyoto Experience			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>京都は「古都」というイメージがあるが、明治以降、近代化と「古都」の両輪で形成された都市であった。この講義では、この近代化と「古都」の両方に注目し、現代における京都を考え、先端的京都の意義をフィールドワークを通して考えていく。また、京都を比較的な観点から見るために、中心だけではなく外からも眺めてみる。そのためには事前発表として探訪先の史跡に関する予備知識をグループで発表し、次いで実地調査を行う。結果、予備知識と実地調査の差異はどうかであったのかを確認し、新たに明らかになったことなどをグループで事後学習で発表報告する形態をとる。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 近代化と「古都」を考えることができる 2) 講義やフィールドワークを通して、先端的京都の意義を理解することができる 3) 「京都らしさ」を考えることができる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない、プリントを配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	作成したレジュメにコメントや訂正を加える。また、フィールドワークでは適宜補足説明を行う。								
留 意 事 項	日常的に京都をどんな町か考えてほしい								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示								
実践的教育									

授業名	先端的京都体験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	近代化する京都	(学修内容) 京都の近代化事業について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおくこと
第3回	京都のグローバル企業	(学修内容) 先端技術を有する企業の特徴と歴史 (事前事後学修課題の内容) (30分) グローバルな視野に立つ京都の企業を調べておく
第4回	レジユメの作成方法と発表の仕方	(学修内容) 発表の仕方とグループ分け、行先の選定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自、どこに行きたいのか、それは何故かをまとめておく
第5回	第1グループ。事前発表と討論	(学修内容) 第1グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1グループはレジユメを作成しておく
第6回	フィールドワーク1回目	(学修内容) 第1グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1グループによるガイドの作成、経路確認
第7回	第1グループの事後学習、討論 第2グループの事前学習、討論	(学修内容) 第1グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第2グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第1、第2グループごとにレジユメを作成しておく
第8回	フィールドワーク2回目	(学修内容) 第2グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2グループによるガイドの作成、経路確認
第9回	第2グループの事後学習、討論 第3グループの事前学習、討論	(学修内容) 第2グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第3グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2、第3グループごとにレジユメを作成しておく
第10回	フィールドワーク3回目	(学修内容) 第3グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3グループによるガイドの作成、経路確認
第11回	第3グループの事後学習、討論 第4グループの事前学習、討論	(学修内容) 第3グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第4グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第3、第4グループごとにレジユメを作成しておく
第12回	フィールドワーク4回目	(学修内容) 第4グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4グループによるガイドの作成、経路確認
第13回	第4グループの事後学習、討論 第5グループの事前学習、討論	(学修内容) 第4グループによる調査内容、反省点のレジユメ 第5グループによる事前学習発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第4、第5グループごとにレジユメを作成しておく
第14回	フィールドワーク5回目	(学修内容) 第5グループによる現地調査と案内 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5グループによるガイドの作成、経路確認
第15回	第5グループの事後学習、討論 全体のまとめ	(学修内容) 第5グループによる調査内容、反省点のレジユメ (事前事後学修課題の内容) (60分) 第5グループはレジユメを作成しておく

授業名	観光英会話			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	IC2414
英文名	Tourism Orientated English Conversation			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	松尾 章子			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	リスニングとスピーキング、観光や旅行の際に必要なとされる初歩的な語彙や表現に重点をおいて学習する。ネイティブの英語話者が普段使用している表現も学ぶ。旅行実務英語に関する英語については、希望者が多ければ授業に取り入れる。観光英会話の習得を目標とするため、授業中はグループワークやプレゼンテーションを取り入れ、英語でのコミュニケーション力を高める活動も多く実施する。								
学修成果到達目標	1) 身近な場で出会う外国人とのコミュニケーションに慣れ、スモールトークを行うことができる。 2) ファストフード店やレストランの簡単な対応を英語で行うことができる。 3) 観光に関連するシチュエーションで、必要とされる事柄を平易な英語で伝えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	工藤多恵著『すぐに使える!ニッポン案内』センゲージラーニング株式会社 2,000円+税								
参考書	観光英検センター編『新・観光英検3級の過去問題』三修社 2,000円+税 英語応対能力検定関連ワークブック他								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、定期試験返却期間中に希望者に返却する。 授業内試験・小テストは、返却時または実施後に解説を行う。								
留意事項	テキストの会話表現を授業外で何度も声に出して読み練習してください。 演習授業のため、積極的な授業参加と授業外練習を期待します。 30分以内の遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。								
オフィスアワー	研究室前に掲示しますので、確認してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 英会話講師								

授 業 名		観光英会話
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction Unit 1: ファストフード店での注文対応	(学修内容) 授業の進め方、事前・事後学修方法について説明する。ファストフード店での注文に関する内容を学ぶ。Special Activity: Rice Ball (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.15のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit1内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第2回	Unit 2: レストランでの来客対応 Review Quiz 1	(学修内容) レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Ramen (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.23のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit2内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第3回	Unit 3: レストランでの接客サービス Review Quiz 2	(学修内容) レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。 Special Activity: Chopsticks (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.31のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit3内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第4回	Unit 4: コンビニやスーパーでの接客サービス Review Quiz 3	(学修内容) コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。 Special Activity: Oden (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.39のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit4内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第5回	Unit 5: 買い物や飲食の会計 Review Quiz 4	(学修内容) 買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Sign (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.47のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit5内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第6回	Unit 6: 商品やサービスへの苦情対応 Review Quiz 5	(学修内容) 商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Apology (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.55のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit6内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第7回	Review 1: Units 1-6 Review Quiz 6	(学修内容) Unit 1 からUnit 6 の表現を復習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前)pp.57, 58, 60の問題を解く。 (事後)p.60の英文を声に出して5回以上読む。
第8回	Unit 7: ホテルや旅館での宿泊客受付	(学修内容) ホテルや旅館での宿泊客受付に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Japanese Inn (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.67のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit7内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第9回	Unit 8: 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内 Review Quiz 7	(学修内容) 客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Souvenir (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.75のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit8内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第10回	Unit 9: 旅行者への観光案内 Review Quiz 8	(学修内容) 旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Culture (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.83のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit9内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第11回	Unit 10: 道案内 Review Quiz 9	(学修内容) 道案内に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Map Symbol (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.91のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit10内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第12回	Interview Challenge (天候・その他の理由により、日程が多少前後することがある)	(学修内容) フィールドワーク：学外に出て、外国人に英語でインタビューを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前)インタビューで話したい内容・英文を10個書き出し、インタビュー日までに教員からのオッケーをもらう。
第13回	Unit 11: 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供 Review Quiz 10	(学修内容) 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Transportation (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.99のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit11内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第14回	Unit 12: 券売機や電化製品の使用方法の説明 Review Quiz 11	(学修内容) 券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。 Special Activity: Contoller (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)p.107のReadingのあらすじと問題の答えを書き次回の授業開始時に提出。Unit12内の会話を声に出して5回以上ずつ読む。テスト勉強。
第15回	Review Quiz 12 Review 2: Units 7-12	(学修内容) Unit 7 からUnit 12 の表現を復習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)pp.109, 110, 112の問題を解く。

授業名	プログラミング演習			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	IC2412
英文名	Programming Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉岡 史樹			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>社会の情報化によってコンピュータやスマートフォンの利用者が増え、教育の必修化も始まり、今後ますますコンピュータを扱うためのプログラミングの必要性が高まってくることが予想される。しかしながら、プログラミングには何ができて、何ができないのか、その本質的な性質と役割を理解することも重要である。</p> <p>このような背景を踏まえ、本授業ではプログラミングのまったくの初習者が「プログラミングとはなにか」を言葉で説明できるようになることを目的とし、実際に自らがプログラミング体験し、失敗や苦労を積み重ねながら、上記の問いに答えられるようになることを目指す。</p>								
学修成果到達目標	<p>(1) コンピュータやスマートフォンで動くプログラムを、自分自身の作業によって作ることができる</p> <p>(2) プログラムを作るための知識や方法を、自分で調べて解決に導くことができるようになる</p> <p>(3) インタラクティブやゲームなど、プログラムならではの内容を自分たちで企画し、人と協力しながら成果物を作ることができる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解		汎用的技能		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力		
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	授業内で紹介する(主にウェブサイトやデジタル資料となる)								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	授業中のプログラミング製作課題は、提出後受講者間に共有し、レビューができるようにします。								
留意事項	<p>日々の生活の中で、プログラムがいつ、どこで、何のために用いられているのか、家庭だけでなく屋外においても観察することを意識すること。</p> <p>また、小さな子供に「プログラミングって何?」と聞かれたら、自分ならどう答えるだろうかという問いを持って臨むこと。</p>								
オフィスアワー	非常勤のため質問などには授業時に伝えるメールアドレスまで連絡すること								
実践的教育									

授業名	プログラミング演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる
第2回	プログラミングの前準備	(学修内容) コンピュータの操作について プログラムの種類と役割 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる
第3回	プログラムの作り方(1) 描く	(学修内容) 図形をつくってみる 色をあつかう (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる 自分のコンピュータ等で実践してみる
第4回	プログラムの作り方(2) 動かす	(学修内容) 動きのあるプログラムをつくる プログラムのなかに流れる時間について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる 自分のコンピュータ等で実践してみる
第5回	プログラムの作り方(3) つくる	(学修内容) 課題製作 (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる 授業中に完成しなかった部分のフォロー
第6回	すでにあるプログラムを「分解」してみる(1) 読む	(学修内容) 動作しているプログラムを「読む」 プログラムを「部品」に分けて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる
第7回	すでにあるプログラムを「分解」してみる(2) 分ける	(学修内容) プログラムを入れ替えたり、取り外したりして、 コードと動きの関係を発見する (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考サイトを調べる
第8回	すでにあるプログラムを「分解」してみる(3) 考察する	(学修内容) プログラムがどのような考えで作られているのかを 自分なりに分析し、方法を理解する (事前事後学修課題の内容)
第9回	プログラムの共同制作(1) 企画する	(学修内容) 個人作業だけではなく、複数の人で手分けしてプログラムをつくる アイデアを作り、実現方法を立案する (事前事後学修課題の内容) (30分) 制作を一緒に行うグループ内で、知識共有をする
第10回	プログラムの共同制作(2) 一緒に作る	(学修内容) グループ内でそれぞれの制作作業を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 制作を一緒に行うグループ内で、知識共有をする
第11回	プログラムの共同制作(3) Do It With Others	(学修内容) 共同制作プログラムを完成させる (事前事後学修課題の内容) (30分) 制作を一緒に行うグループ内で、知識共有をする
第12回	最終成果物の企画 企画	(学修内容) 最終成果物としてつくる内容を検討する (事前事後学修課題の内容) (30分) どのようなプログラムを作りたいかを、事前に考えておく
第13回	最終成果物の制作 制作	(学修内容) 制作作業 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時間内にできなかった作業のフォロー
第14回	最終成果物の制作 完成	(学修内容) 最終成果物を提出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業時間内にできなかった作業のフォロー
第15回	まとめ	(学修内容) 最終成果物をレビューする 学習した内容のまとめを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 提出され共有されたプログラムを各自で事前に見ておく

授 業 名	WEBコミュニケーション演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2408
英 文 名	Web Communication Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>SNSは交友関係、趣味、ビジネス、暮らしに欠かせないものとなっています。特に、一個人が自らの楽しみを情報発信するなかで、大きな共感を生み、新しい商品やサービスの開発、さらには起業につながっています。</p> <p>本授業では、SNSの基本的な仕組みを理解するとともに、実際にSNSで情報発信を行うなかでその発信力を磨き、卒業後の社会生活で役立つ知識やスキルの習得を目指します。その一方で、SNSの影の部分、モラルの問題やセキュリティの問題を取り上げ、トラブルに巻き込まれない活用方法を検討します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) SNSの基本的な仕組みを説明できる。</p> <p>2) SNSを活用した情報発信のノウハウを説明できる。</p> <p>3) SNSを利用する際の注意点を説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業担当者が作成した資料を配布します。								
参 考 書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートなど提出をもとめた課題に対してはプリントへの書き込みやメールなどなんらかの形でフィードバックのコメントします。								
留 意 事 項	実際に既存のSNSを用いて演習を行います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所において、e-learningによる大学生、中小企業などのエンジニアの学習環境の開発と運用に携わった</p>								

授業名	WEBコミュニケーション演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の目的と15回の流れを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 日々のSNSの付き合い方を振り返ってまとめてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第2回	SNSの基本的な仕組み	(学修内容) SNSで何ができるのか、その基本的な機能を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: Instagramの機能について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第3回	SNSが開発、普及した経緯	(学修内容) 2000年代から現在にかけて爆発的に普及したSNSの特徴について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNSがなぜ浸透したのかその背景を調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第4回	リアルなつながりとSNS	(学修内容) 共通の趣味や志向性が合う者同士で現実世界では面識がなくともSNS上のつながりだけで意気投合することができる心理的背景を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNSとのやりとりで人間関係が好転した事例を書き出してくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第5回	バーチャルなつながりとSNS	(学修内容) 共通の趣味や志向性が合う者同士で現実世界では面識がなくともSNS上のつながりだけで意気投合することができる心理的背景を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: バーチャルなつながりが人びとに与える効果を書き出してくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第6回	SNSとインフルエンサー	(学修内容) インフルエンサーの影響について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 自分にとってのインフルエンサーを書き出してくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第7回	インフルエンサーから学ぶ情報を伝える方法	(学修内容) SNSで発信することで日常生活を送る気持ちや生活が向上した事例を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: マスメディアに登場する有名人以外でSNSで活躍するアカウントを書き出す 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第8回	SNSと起業	(学修内容) 起業する場合の費用を抑えた広報の在り方を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 起業について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第9回	SNSで映える撮影技法	(学修内容) SNSで写真を投稿する際の撮影技法を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: これまで投稿したSNSのなかで最も気に入っている画像を選択する 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第10回	SNSで映える画像加工	(学修内容) SNSに投稿する画像を加工する技法を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 画像を加工する技法について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第11回	SNSで注目を惹くメッセージ	(学修内容) SNSに投稿する効果的な文章について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNS上でフォローしているアカウントのお気に入りのメッセージを選択する 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第12回	フォロワーを増やす各種戦略	(学修内容) フォロワーを増やすための工夫を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: フォロワーを獲得する工夫を調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第13回	SNSの負の側面 現実とフェイク	(学修内容) 偽りのフォロワーとフェイクニュースについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: SNSの負の側面について調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第14回	SNSの負の側面 セキュリティ	(学修内容) SNSとセキュリティの問題について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 情報流失などトラブル事例を調べてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む
第15回	SNSと私たちの暮らし	(学修内容) 15回の授業を振り返ってSNSによるコミュニケーションの可能性と危険性を説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 日々のSNSの付き合い方を振り返ってまとめてくる 事後: 授業後にコメントカードへ感想を書き込む

授業名	現代の音楽			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2218
英文名	Contemporary Music			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	小川 隆昭			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	人間はなぜ音楽を必要とするのだろうか。その疑問を解くために歴史をさかのぼり過去から音楽を見つめなおすことにより、時代とともに変化していった音楽、また宗教と密接な関係を持ちつつ、どのように展開していったことを学ぶ。また、現代の音楽とはどのような音楽かを考察する。								
学修成果到達目標	1) 音楽の歴史を知ることができる。 2) 日本の音楽の推移が理解できる。 3) 流行の音楽の傾向について学ぶことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	プリントを配布								
参考書	なし								
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションの後に講評する								
留意事項	分からないことはまずは自分で調べてみる								
オフィスアワー	後日研究室前に掲示する								
実践的教育									

授 業 名		現代の音楽
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	この授業の説明。音楽の説明 現代とは？	(学修内容) ガイダンス。音楽とは。「現代」の概念。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今日の復習
第2回	紀元前の音階	(学修内容) ピタゴラス音階 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第3回	宗教音楽とカトリック	(学修内容) ネウマ譜 (事前事後学修課題の内容) (60分) 西洋史を復習
第4回	宗教音楽とカトリック	(学修内容) グレゴリオ聖歌 (事前事後学修課題の内容) (60分) 西洋史を復習
第5回	宗教音楽とイスラム	(学修内容) イスラム教とコーラン (事前事後学修課題の内容) (60分) コーランを読む
第6回	宗教音楽とイスラム	(学修内容) イスラム教とコーラン (事前事後学修課題の内容) (60分) コーランを読む
第7回	宗教音楽と仏教	(学修内容) インド仏教 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分からないところを調べておく
第8回	宗教音楽と仏教	(学修内容) ヒンドゥー教 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分からないところを調べておく
第9回	宗教音楽と仏教	(学修内容) チベットラマ教 (事前事後学修課題の内容) (60分) 分からないところを調べておく
第10回	日本音楽	(学修内容) 仏教伝来以前、後の日本の音楽 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第11回	日本音楽	(学修内容) 仏教伝来以前、後の日本の音楽 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第12回	日本音楽	(学修内容) 明治以降の音楽 (事前事後学修課題の内容) (30分) 分からないところを調べておく
第13回	グループワーク	(学修内容) 二人一組で自分の好きな音楽を調べる (事前事後学修課題の内容) (120分) テーマをきめて調べる
第14回	グループワーク	(学修内容) 二人一組で自分の好きな音楽を調べる (事前事後学修課題の内容) (120分) テーマをきめて調べる
第15回	発表	(学修内容) プレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの準備

授業名	マンガ・アニメ・ゲーム文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2217
英文名	Manga, Anime, and Game Culture			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	渡邊 秀司			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	1980年代よりアニメやゲームに耽溺する人たちが現れました。アニメやゲームは時代を経て、特定の人たちによって嗜まれるものではなく、より多くの人たちが日常的に楽しむものに変化しつつあります。その流れの中で、アニメやゲームの背景もより複雑なものになってきています。この講義では現代日本の文化としてのアニメとゲームについて考えてみたいと思います。								
学修成果到達目標	(1)アニメ・ゲームが、現在の考えかたにどのような影響を与えているのかを知る。 (2)アニメ・ゲームが、現在の考えかたからどのように影響を受けているのかを知る。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	土居伸彰、2017年『21世紀のアニメーションがわかる本』フィルムアート社								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	授業終了後、疑問点・感想などを聞くために用紙を配り、疑問点などがその用紙に書かれていた場合、次回の授業でできる限り答えます。								
留意事項	授業中に指示されたアニメ作品は、できる限り視聴をしてください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	マンガ・アニメ・ゲーム文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 授業の流れ	(学修内容) 以後の授業の流れについての説明。 注意事項。アナログゲームの体験会。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2回の予習として、ファンタジー作品と呼ばれる小説を1冊読み感想をまとめて次回に提出。
第2回	ファンタジーについて	(学修内容) ゲームやアニメを考える前提としての、ファンタジー作品について物語を楽しむという視点から講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、ファンタジー作品を読む意味を、授業の内容をふまえた上でまとめて次回に提出。
第3回	「オタク」とされるひと	(学修内容) アニメ・ゲームの受容者・消費者としての「オタク」層について、「オタク」の社会性という視点から講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業の中で述べられた内容をふまえて自らの考えを整理し、レポートにして次回に提出。
第4回	ゲームの始まり 「アナログゲーム」と呼ばれるゲームについて	(学修内容) 現在のコンピュータゲームに影響を与えた「アナログゲーム」と称されるボードゲーム、会話型ロールプレイングゲームについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第5回	コンピュータゲームの黎明期	(学修内容) コンピュータゲームの初期において重要な作品とされる『ポン』など、初期のコンピュータゲームについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第6回	コンピュータRPGについて	(学修内容) 『ドラゴンクエスト』など日本製のコンピュータRPGについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第7回	2000年代以降のゲーム状況 eスポーツについて	(学修内容) 2000年代以降のゲーム状況について講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第8回	ゲーム研究について ゲームを文化として考えること	(学修内容) 物語としてのゲーム、ゲームはなぜ楽しいのかなど、ゲームに関する議論を講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第9回の予習として、アニメ映画の『君の名は』もしくは『この世界の片隅に』を視聴し、感想をまとめて次回に提出。
第9回	アニメの中の「わたし」	(学修内容) アニメにおける「わたし」の描き方の変化について講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、今回の授業の内容をふまえて『君の名は』もしくは『この世界の片隅に』についてレポートをまとめて次回に提出。
第10回	アニメキャラクターの「わたし」	(学修内容) 宮崎駿の『もののけ姫』と新海誠の『ほしのこえ』を視聴し、登場キャラクターの「わたし」について講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、『もののけ姫』のキャラクターと『ほしのこえ』のキャラクターを比較、考察したレポートをまとめて次回に提出。
第11回	「わたし」から「わたしたち」へ	(学修内容) アニメ作品における「わたし」の描き方を考えるための前提となる議論を講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第12回	人間関係からアニメの背景を考える	(学修内容) いったんアニメそのものの議論から離れて、日常的な人間関係について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業の中で述べられた内容をふまえて、自分の感想をまとめて次回に提出。
第13回	アニメにおける表現の変化	(学修内容) アニメ作品の表現が変化しているとする議論もある。デジタル・テクノロジーがアニメーションに何をもたらしたのかについて講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、授業で配布された資料を参考にしながら内容を整理したうえで自らの考えを整理して、レポートにして次回に提出。
第14回	2017年のアニメ『夜明け告げるルーのうた』	(学修内容) 『夜明け告げるルーのうた』を視聴して、今までの講義内容を振り返りながら、「わたし」の描き方の変化について講義する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、『夜明け告げるルーのうた』の視聴した感想を次回に提出。
第15回	個人作家のアニメーション 結び	(学修内容) 今までの講義の内容を総括しながら、個人作家のアニメーションを実際に視聴してもらう。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 授業の最後に、今までの授業内容をふまえながら自らの考えを整理し、レポートとして提出する。

授 業 名	エコ文化と世界遺産			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2222
英 文 名	Eco Culture and World Heritage			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	世界遺産とは、自然環境や歴史を伝える建造物など、人類共通の財産として未来へ残していくものとされる。この世界遺産の制度がどのようにして制定されたのか、どのような場所が世界遺産として認定されているのか、なぜ守っていく必要があるのか、どのような課題に直面しているかを国内外の事例を取り上げながら学習する。また、地域振興の材料として世界遺産が活用され、保護されている点にも注目してみたい。なお、この授業は、パワーポイントをを用いながら、講義の形式をとる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 世界遺産についての基本的な知識を習得する 2) 世界遺産がどのような経緯で生まれたのか、なぜ守る必要があるのかを説明できる 3) 世界遺産を活用した地元の様々な活動について、具体例をあげながら解説できる 4) 世界遺産が直面している課題を、具体的な事例をとりあげて、説明することができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	なし。講義内でプリントを配布する。								
参 考 書	講義内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市文化財審議会委員								

授 業 名		エコ文化と世界遺産
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	世界遺産とは何か	(学修内容)世界遺産の概要について (事前事後学修課題の内容)(20分) 国内外にはどのような世界遺産があるのか調べておく
第2回	世界遺産条約	(学修内容)世界遺産条約が制定された経緯、世界遺産条約の目的 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第3回	世界遺産の登録条件	(学修内容)世界遺産の登録基準とその実例 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第4回	世界遺産の登録の手続き	(学修内容)世界遺産の登録の手続きとその実例 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第5回	普遍的な価値	(学修内容)世界遺産に求められる「顕著で普遍的な価値」について 各国の見解 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第6回	世界遺産登録に向けた動向	(学修内容)世界遺産登録を目指す政府や地元住民らによる活動とその実例 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第7回	自然と生物の多様性	(学修内容)自然遺産にみる自然環境とそこに生息する固有種について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第8回	自然と文化との調和	(学修内容)人と自然の共生、その実例 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第9回	文化の維持と継承	(学修内容)自然環境への適応と、文化の維持・継承について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第10回	負の遺産	(学修内容)人類の歴史において負の要素をもつ遺産について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第11回	地域の開発と保全活動	(学修内容)地域発展のための開発と、それに相反する保護活動について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第12回	危機遺産	(学修内容)危機にさらされている世界遺産と地元の社会活動について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第13回	危機遺産の保護活動	(学修内容)遺産の保護活動と国際協力について (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第14回	保全活動とそのあり方	(学修内容)保全をめぐる現状と課題 (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第15回	これからの世界遺産と地域活動	(学修内容)これからの世界遺産に求められていること (事前事後学修課題の内容)(20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする

授業名	情報科学と文化			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2216
英文名	Information Science and Culture			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>車の自動運転の実現、遠隔操作によって家の中の家事を進める「スマート家電」など、IoT(Internet of Things),人工知能(AI;Artificial Intelligence)といった技術革新によって私たちの生活は大きく変わりつつあります。また、SNSや動画投稿サイトなどスマートフォン・アプリによって国内外を問わずひととひととのつながりが広がり、新しい文化が生まれています。携帯電話の所持率の低年齢化または所持する年代の高年齢化、今後更にスマートフォンを中心としたインターネット上の各種メディアを老若男女が使用しそれぞれの生活をより善くしていこうとする傾向が強まると予想されます。一方で、日々のニュースで取り上げられるようにインターネット上のトラブルが絶えません。大学や若者の被害もみられます。そこで、本授業を通して、わたしの「生活とメディア」の現状を捉え、見つめ直す中で、最終的にメディアを介したコミュニケーション上で被害者にも加害者にもならない情報倫理を学修し、実践できる力の習得をめざします。ルールやマナーを理解するためには、自己理解と他者理解が欠かせないプロセスのため、グループワークを授業内で実施します。また、授業内容の理解を深めるために、自らの言葉で発表する、書くといった方法を取り入れます。</p>								
学修成果到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの生活を支えるメディアの特徴を説明できる ・メールや各SNSの特徴を把握した上で適切な情報発信ができる ・情報セキュリティの基本的な知識・技術を説明し、また実践できる ・ネットトラブルの具体例と解決方法を説明できる ・Society 5.0が目指す社会像を説明できる 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	noa出版『情報倫理ハンドブック』								
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者庁ホームページ「インターネットをめぐる消費者トラブル」 https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/categorization/internet/ ・警察庁ホームページ「サイバー犯罪対策プロジェクト」 https://www.npa.go.jp/cyber/ ・内閣府ホームページ「Society5.0 科学技術政策」 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html ・そのほか授業中に適宜指示します。 								
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回提出を求めるコメントカードを後日チェックし全体的あるいは個別にコメントを返す プレゼンテーションを行う場面では、評価項目を事前に伝え、プレゼンテーション終了後に、講評を行う</p>								
留意事項	<p>テキストでの学習をおこなうため必ず購入すること グループワークやプレゼンテーション等には積極的に参加すること 配慮事項がある場合は、事前に相談にくること (授業を欠席する場合も事前連絡を)</p>								
オフィスアワー	授業期間中の毎週水曜日お昼休み								
実践的教育									

授業名	情報科学と文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) シラバス、テキストpp.1-3を読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: シラバスを読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく 事後学修: シラバスを読み返す
第2回	インターネット上の著作権、肖像権	(学修内容) インターネット上の著作権と肖像権について事例を挙げて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学習: テキストpp.4-10を読む。事後学修: 著作権、肖像権の侵害に関する事例を一つ調べ配布するコメントカードにまとめる
第3回	さまざまなSNSの特徴	(学修内容) 生活を送る上でSNSを使用する際のメリットとデメリットを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.11-17を読む 事後学修: 授業中に取り上げるSNSを一つ選ぶ、実際の利用者のトラブル事例をコメントカードにまとめる
第4回	情報を発信する際に意識すること	(学修内容) インターネット上で情報発信する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.18-19を読む 事後学修: To, Bcc, Ccの使い分け方法をコメントカードにまとめる
第5回	1対1、1対特定多数、1対不特定多数の情報送受信	(学修内容) メールやSNS上の情報の送受信の範囲を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.20-22を読む 事後学修: 1対特定多数、1対不特定多数のSNS上のトラブル事例を調べコメントカードにまとめる
第6回	情報セキュリティの3つの観点	(学修内容) パスワード管理、バックアップ、データ整理によるセキュリティ強化の方法を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.23-28を読む 事後学修: 情報セキュリティについてできているものとできていないものをコメントカードにまとめる
第7回	データの安全を脅かすもの	(学修内容) マルウェア、不正アクセス、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.29-33まで読む 事後学修: データの脅威となる4つのうち1つを選び具体的な事例をコメントカードにまとめる
第8回	データの安全性を守る技術的対策	(学修内容) 情報を守るセキュリティソフト等の機能を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.34-40まで読む 事後学修: 自身が使用しているセキュリティソフト等の情報を守る技術の特徴をコメントカードにまとめる
第9回	ネットワーク上のトラブル事例	(学修内容) 【グループワーク】大学生や若者に被害が与えているネットトラブルについて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.41-44まで読む 事後学修: 授業で取り上げたトラブル事例から1つ選び、それを回避する方法を考え、コメントカードにまとめる
第10回	ネットトラブルを避けるための注意点	(学修内容) 【プレゼンテーション】大学や若者がネットトラブルに遭わないための注意点を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.45-52までを読む 事後学修: 授業で学修した注意点を広く学生や若者に周知理解させる方法を考えコメントカードにまとめる
第11回	ネット依存と情報文化	(学修内容) ネット依存の特徴と対策を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 日本のネット依存の現状を調べてくる 事後学修: ネット依存のスクリーニングを行い、結果を考察し、コメントカードにまとめる
第12回	5Gと情報文化	(学修内容) 第5世代移動通信システムの特徴と情報文化の変化を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 5Gについて調べてくる 事後学修: 授業の感想をコメントにまとめる
第13回	Society5.0と情報文化	(学修内容) Society5.0が目指す社会像について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 内閣府のソサエティ5.0のホームページを検索し、予習してくる 事後学修: 授業の感想をコメントカードにまとめる
第14回	AI予測と情報文化	(学修内容) AIによる気象、犯罪、寿命予測データをどのように活用するのか、考え、自分の意見を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: AIによる解析が実社会で活用される事例を調べる 事後学修: 授業の感想をコメントカードにまとめる
第15回	これからの情報社会と文化	(学修内容) 【グループワーク・発表】授業11~14回を振り返って、これからの私の暮らしとメディアについて話し合い発表できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 授業11~14回を振り返って興味もった箇所を調べる 事後学修: グループワークで話し合った内容をコメントカードにまとめる

授 業 名	現代ファッションとメイク			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC2413
英 文 名	Fashion and Makeup			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	永田 美江子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	現代のファッションとメイクは、コーディネートによって個性を引き出す傾向にある。服装、メイク、小物それぞれに数ある商品をいかに組み合わせ、どのような個性を出していくか。そして、それは自身の個性を最大限に発揮するかが大切である。自身の個性を出し、コーディネートをしていく際には、自身の印象を理解した上で、色、自分にふさわしい素材、形など基本的な項目の組み合わせを考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 現代ファッションの成立をと課題を理解することができる。 2. メイクの基礎知識を理解できる。 3. 各人の個性にあったファッションやメイクをすることが理解できる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	資料を適宜配布する。								
参 考 書	授業中に随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートについては、コメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	新聞や雑誌、書籍などからだけでなく、日常生活でもファッションやメイクについて関心を寄せてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：ホテルコンシェルジェ、マナー講師経験者やプロのメイクアップアーティストが実務経験をもとにファッションやメイクに関する話と実践をおこないます。								

授 業 名		現代ファッションとメイク	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 現代の日本女性にとってのファッションとメイクとは何か	(学修内容) 授業概要の説明 (事前事後学修課題の内容) (20分) 習として、自分にとってのファッションとメイクの意味を考え、レポートにまとめて提出	
第2回	戦後ファッションの変遷	(学修内容) 第2次世界大戦後から現代までのファッションとメイクの概要を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として1945年から2020年までに日本で起こった大きな出来事を調べてくる。	
第3回	現代ファッションをけん引したデザイナーたち	(学修内容) シャネルやディオール、高田賢三など現在のファッションに影響を与えたデザイナーの特徴と、具体的な影響を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、教員が提示するデザイナーの洋服を雑誌などからピックアップし、持参する。	
第4回	日本が世界に誇る“かわいい”文化	(学修内容) アムラーから裏原宿系、ゴスロリ、きゃりーぱみゅぱみゅ、ゆめかわいいなど、女の子が関心を寄せる“かわいい”ファッションを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、事前に配布する資料を読み、レポートにまとめて提出する。	
第5回	流行色と世界のトレンドカラー	(学修内容) 経済や社会背景によって色の流行が変化することを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、配布資料を読み、自分なりの考えをまとめる。	
第6回	ファッションと色の関係(色が人間の印象にあたる影響)	(学修内容) 色の持つ意味と組み合わせを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分が好きな色や似合う色の特徴をまとめる。	
第7回	イメージとコーディネート	(学修内容) クラシックやエレガント、キュート、スポーティなど、個人のイメージとコーディネートには関連があることを知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分のもっているイメージと、どのタイプなのかを考える	
第8回	ライフステージによるコーディネート	(学修内容) ビジネス、フォーマル、スポーツ、遊びなど場面による装いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、配布資料を読み、自身の過ごす場面をイメージしてどのような装いがふさわしいかを考える。	
第9回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) メイクの基本となる基礎化粧品について、その種類や使い方を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、普段の自分はどんな基礎化粧品を使っているか確認してくる。	
第10回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) ベースメイクの種類とその使い方を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する。	
第11回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) アイシャドウ、アイブロウなどのアイメイク種類を知り、自分に似合う色や眉の形などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する。	
第12回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) チークとリップの種類や色を知り、自分に似合うものを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する。	
第13回	自分の魅力を引き出すためのヘアスタイリング	(学修内容) 髪型や髪色の種類を知り、自分に似合うものを見つける。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する	
第14回	自身のファーストインプレッションをあげるために	(学修内容) 感じのいいファッションやメイクとはどんなものか、どこに注意すればいいのを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、配布資料を読み、自分なりに感じのいいメイクやファッションを考え、レポートをまとめる。	
第15回	ファッションと健康の関係	(学修内容) ファッションと健康、また近年の話題である美容整形についてその課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、美容整形の商業をピックアップし、その商業がどんなメッセージを発しているのかを自分なりにまとめる。	

授 業 名	ことばと文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1301
英 文 名	Words and Expressions			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	ことばと文化は不可分な関係にあり、文化が違えばことばも異なる。本授業では主に絵本の絵とことばの役割を分析したり、外国の昔話の日本における受容を比較検討したりすることによって、日本語による語りと日本文化の特質を考察する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 絵本の絵とことばの関係について説明することができる。 2) 昔話の語りと絵本のことばの違いについて説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜、プリント等を配布します。								
参 考 書	小澤俊夫『グリム童話考：「白雪姫」をめぐって』講談社学術文庫、1999年 松岡享子『昔話絵本を考える 新装版』日本エディタースクール出版部、2002年 藤本朝巳『昔話と昔話絵本の世界 新装版』日本エディタースクール出版部、2005年								
課題に対する フィードバック の方法	発表については適宜コメントをします。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で説明します。								
実 践 的 教 育									

授業名	ことばと文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容や目的の説明 (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) シラバスを確認しておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第2回	ことばと文化	(学修内容) ことばの役割についてこれまでの経験をもとに考えて話し合う (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第3回	ことばの育ち	(学修内容) 子どもがことばを獲得する過程を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第4回	絵本の絵とことば	(学修内容) 絵本の構造を学び絵とことばの役割について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第5回	絵本の絵とことば	(学修内容) 絵本の「絵」を読むことで絵とことばの役割を考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第6回	おべんとう絵本	(学修内容) おべんとう絵本の制作方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 絵本の制作の続きをする
第7回	おべんとう絵本	(学修内容) 制作したおべんとう絵本を発表する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 発表の準備を行う (事後) コメントシートをもとにミニレポートにまとめる
第8回	昔話とことば	(学修内容) 昔話の語りのことばの特徴について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 知っている昔話をまとめる (事後) 配布したプリントを読み返す
第9回	昔話の映像化	(学修内容) ディズニー映画と昔話の変容について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) ディズニー映画ともなった昔話をまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第10回	昔話とテキスト	(学修内容) グリム童話の日本における受容について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第11回	昔話の絵本化	(学修内容) 昔話の語りと絵本化の問題について考える (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第12回	昔話法廷	(学修内容) 映像をもとにディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す
第13回	昔話絵本の発表	(学修内容) 各自おすすめしたい昔話絵本を選び理由とともに発表する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 絵本を探し発表の準備をする (事後) コメントシートを読み自己課題をまとめる
第14回	昔話絵本の発表	(学修内容) 各自おすすめしたい昔話絵本を選び理由とともに発表する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) 絵本を探し発表の準備をする (事後) コメントシートを読み自己課題をまとめる
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業の内容を整理する (事前事後学修課題の内容) (120分) (事前) プリントを整理しまとめておく (事後) これまでの学びをレポートにまとめる

授 業 名	芸術と文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1303
英 文 名	Art and Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>芸術とは、人間の生活に潤いをもたらします。芸術には様々な分野があります。それぞれ先人の苦悩や努力があらわされており、学ぶことがたくさんあります。本講義では、そのような芸術と文化の関連を学んでゆく事を目的とします。具体的には、京都（特に東山区）の中にある様々な芸術的な事象（たとえば仏像、庭園、建築物）、または、舞台芸術等について学び、フィールドワークを通して何かの知見を得、その内容をプレゼンテーションしてもらいます。文化的な意義に踏みこみ、深く学んでゆきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 芸術が私たちの生活にもたらす意義は何か。具体的に指摘出来る。 2) 正確な知識をもって鑑賞出来る。 3) 鑑賞の際、これまでの研究と比較し、自らの見解を持つことが出来る。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	必要な資料を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義中に指示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	芸術と文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講義で講義する内容を説明します。日本文化における芸術の意義を概説します。 (事前事後学修課題の内容)(20分) まずは、シラバスをよく読んでください。講義の内容をしっかりと把握すること。
第2回	仏像について(1)起源と意義	(学修内容)仏像とは何か。仏像の起源や意義を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントをよく読み返してください。内容をまとめること。
第3回	仏像について(2)作製技法と種類	(学修内容)仏像作製における技法や像の種類を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントやノートをよく見返しておくこと。
第4回	仏師について(1)定朝を中心に	(学修内容)仏像を作製する仏師について学びます。特に定朝を中心とします。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布プリントを整理し、ノートをよく見返しておくこと。
第5回	仏師について(2)運慶を中心に	(学修内容)仏像を制作する仏師について学びます。特に運慶を中心とします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを整理し、ノートをよく見返しておくこと。
第6回	仏師について(3)快慶を中心に	(学修内容)仏像を制作する仏師について学びます。特に快慶を中心とします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表内容を整理してまとめてください。
第7回	フィールドワーク	(学修内容)華頂学園周辺の名刹寺院を参拝し仏像を拝観します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワークで発見した内容や感想をまとめること。
第8回	フィールドワーク事後学習	(学修内容)フィールドワークで得た知見を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表内容を整理しまとめて提出してください。
第9回	寺院建築について学ぶ(1)意義	(学修内容)寺院建築の意義について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートをしっかりとまとめてください。配布プリントを見直すこと。
第10回	寺院建築について学ぶ(2)種類と建築方法	(学修内容)寺院における建造物(本堂、門、塔...)の種類や建築方法を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 身近な知恩院の建築を調べてください。
第11回	フィールドワーク - 知恩院 -	(学修内容)これまで学んだ知識を駆使して、知恩院を参拝します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワークで発見した内容や感想をまとめること。
第12回	フィールドワーク事後学習	(学修内容)フィールドワーク(知恩院)で得た知見を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) レポートを作製します。
第13回	舞台芸術について	(学修内容)落語、歌舞伎等の舞台芸術を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントとノートを整理してください。
第14回	フィールドワーク - 歌舞伎・落語の関連施設	(学修内容)京都内における歌舞伎や落語に関連のある施設にフィールドワークに行きます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発見・感想をまとめてください。
第15回	舞台芸術の鑑賞	(学修内容)DVDで歌舞伎・落語等を鑑賞します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 内容をまとめてください。講義のあとレポートにすること。

授 業 名	比較文化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC1305
英 文 名	Comperative Culture			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	文化の定義を概観したのち、いくつかのトピックを通してそれらがいかに多様であるかを示す。 学生どうしでのディスカッションを通して多様性への理解を深め、自身の視点を相対化・客体化できるようになることを目指す。 文化について包括的に考察し、その多様性を尊重することができるようになるための材料を提示したい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 価値観の多様性や文化的偏見について理解を深めることができる。 2) 文化を比較することで得られる知見にどのような意義があるかを見出すことができる。 3) 多様な物差しがあることを意識したうえで価値判断ができるようになる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	なし 毎回プリントを配布する。								
参 考 書	電通総研 日本リサーチセンター(編)『世界主要国価値観データブック』2008年 同友館								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする								
留 意 事 項	小グループでのディスカッションを重視しますので積極的に発言してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は3号館4階学生演習室にて掲示。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	比較文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 文化とは何か	(学修内容) 講義スケジュール、文化の定義 (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスを読んでくる
第2回	小さな比較の実践	(学修内容) 小グループでディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 比較するテーマを考えておく
第3回	名付けの文化 1	(学修内容) ブッシュマンの名付け、諸外国の名付け (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の名前の由来を確認しておく
第4回	名付けの文化 2	(学修内容) 名付けのバリエーションと変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の子にどんな名を付けたいか考えておく
第5回	混ざり合う文化 1	(学修内容) 明治期の日本文化にみられる諸外国の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第6回	混ざり合う文化 2	(学修内容) 現代日本文化<から/>の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第7回	植民地主義と文化侵略	(学修内容) アフリカにおける植民地主義の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第8回	文化の画一化	(学修内容) アメリカニゼーション (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第9回	日本における文化交流・文化発信の現在	(学修内容) 現代日本文化の海外展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第10回	海外文化とステレオタイプ	(学修内容) 文化的偏見 (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第11回	価値観の多国間比較 1	(学修内容) 生活における重要度の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第12回	価値観の多国間比較 2	(学修内容) 信頼度の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第13回	価値観の多国間比較 3	(学修内容) 幸福度・満足度・家庭教育の多国間比較(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第14回	比較文化を行うために	(学修内容) 定量データと定性データ (事前事後学修課題の内容) (30分) キーワード予習
第15回	多国間比較の実践	(学修内容) 定性データによる多国間比較(グループワークとプレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (60分) 比較するテーマを考えて下調べをしておく

授業名	現代社会の動き			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1306
英文名	Social Movement in Today's World			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	新矢 昌昭			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	社会学を通して考えると、さまざまな社会に起こっている現象はどのように見えてくるのだろうか。この講義では、わたしたちの身近なできごとから現代社会の特徴を考えるとともに、わたしたちがいかに社会に左右される存在なのか、について考えていく。主として、現代社会における家族を見て行くが、現代社会に対する複眼的な目を養って欲しい。								
学修成果到達目標	1) 現代社会を理解することができる 2) 複眼的な視野を養うことができる 3) 社会と人間の関係を考えることができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	使用しない。プリントを配布する								
参考書	講義中に適宜指摘する								
課題に対するフィードバックの方法	配布資料についての解説、グループワーク発表などにコメントを加える								
留意事項	わからないことは講義後に聞くように								
オフィスアワー	研究室の扉に掲示								
実践的教育									

授 業 名		現代社会の動き
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	近代家族の誕生ー西欧	(学修内容) 西欧近代家族の形成過程 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第3回	近代家族の誕生ー日本	(学修内容) 日本の家族史 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第4回	現代家族の行方	(学修内容) 現代家族の特徴、家族の未来 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第5回	恋愛結婚	(学修内容) 恋愛結婚の可能性と行方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第6回	ジェンダー	(学修内容) 現代社会とジェンダー (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第7回	「見えない貧困」	(学修内容) 現代社会における貧困問題について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第8回	若者論	(学修内容) 現代社会における若者の生きづらさ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第9回	グループワーク	(学修内容) 若者論を疑う (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークで使用するプリントを予め読んでおくこと
第10回	「わたし」とは何か	(学修内容) アイデンティティの確立は可能か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第11回	「世間」とは何か	(学修内容) 日本は社会ではなく、「世間」では (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第12回	「空気」とは何か	(学修内容) 「空気」に敏感なわたしたち (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第13回	閉塞感を感じる社会	(学修内容) 何故、わたしたちは閉塞感を感じてしまうのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第14回	実施見学	(学修内容) 授業に関連する博物館などの見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講義に関連する博物館などを見学する。行先は、講義中で決める。その博物館などの施設について事前学習しておくこと
第15回	全体のまとめ	(学修内容) 学期間のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 博物館などの施設見学について感想文の提出

授 業 名	コミュニケーション演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	IC1302
英 文 名	Communication Practice			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	コミュニケーションには、意思や情報のやり取りのことで、大きく分けて言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがある。また、相手や場面、状況によってコミュニケーションの内容は変化する。例えば「挨拶をする」という行為について、笑顔なのか無表情なのか、親しい相手なのか初対面の相手なのか、部屋の中なのか道路なのか、朝なのか夜なのか...、仕方や状況によってコミュニケーションは大きく異なり、伝わる意思や情報も変化してくる。この授業では、様々な角度からコミュニケーションを取り上げ、実際に学生がコミュニケーションを体験することを通じて、コミュニケーションの意味を学び、社会生活の中で意識してコミュニケーションを活用できる力を身につけることを目的とする。授業は、ほぼ全ての回でワークショップ、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習を実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) コミュニケーションとはなにか自分の言葉で説明できる 2) 仲間と協力して授業の内容を踏まえてコミュニケーション・ゲームを開発できる 3) 他の受講生の発表等に対してフィードバックすることができる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要に応じて資料を配布する。								
参 考 書	南山短期大学人間関係科監修『人間関係トレーニング第2版 私を育てる教育への人間学的アプローチ』ナカニシヤ出版、2005 吉澤克彦編著『構成的グループエンカウンターミニエクササイズ50選中学校版』明治図書、2001								
課題に対する フィードバック の方法	課題や振り返りシートについては必ず目を通し、必要に応じて口頭やコメントの記入で対応する。								
留 意 事 項	演習ですので「参加」が前提となります。積極的な発言ばかりが参加ではありませんが、「参加している」ということを強く意識して授業に参加して下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示し、授業中に口頭でも伝達する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		コミュニケーション演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の内容と進め方を理解し学修計画を立てることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 コミュニケーションをとる意味を説明できるように書き出す 事後 授業の感想を書き提出する
第2回	構成的グループエンカウンターとは	(学修内容) 構成的グループエンカウンターについて説明することができる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 構成的グループエンカウンターについて調べてくる 事後 授業の感想を書き提出する
第3回	実践：リレーションのエンカウンター	(学修内容) 人と人との出会いを楽しくするためのエンカウンターの技法を実演できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 初対面のひとと仲良くなる方法や環境を考え書き出す 事後 授業の感想を書き提出する
第4回	実践：コミュニケーションのエンカウンター	(学修内容) 対人コミュニケーションを円滑にするためのエンカウンターの技法を実演できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 親友と友だちを区別する基準を書き出してくる 事後 授業の感想を書き提出する
第5回	実践：組織マネジメントのエンカウンター	(学修内容) 集団をより楽しくするためのエンカウンターの技法を実演できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 友人関係など良好に維持する工夫を書き出してくる 事後 授業の感想を書き提出する
第6回	実演：リスクマネジメントのエンカウンター	(学修内容) 人間関係の危機を乗り越えるエンカウンターの技法を実演できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 友人関係などで起こった葛藤とそれを乗り越えた経験を振り返る 事後 授業の感想を書き提出する
第7回	実演：セルフディスカバリーのエンカウンター	(学修内容) 新たな自分発見を目指したエンカウンターの技法を実演できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自分の強みと弱みを書き出してくる 事後 授業の感想を書き提出する
第8回	言語・非言語コミュニケーション	(学修内容) 言語と非言語のコミュニケーションについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 非言語のコミュニケーションについて調べてくる 事後 授業の感想を書き提出する
第9回	効果的なコミュニケーションの要素	(学修内容) 効果的にコミュニケーションを進める5つの要素を説明できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 コミュニケーション力があると思う人の特徴を書き出す 事後 授業の感想を書き提出する
第10回	場づくりのプロにインタビュー	(学修内容) まちづくりなど場づくりを仕事とするデザイナーのゲストスピーカーの話の要点を整理することができる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 「ファシリテーション」について調べてくる 事後 授業の感想を書き提出する
第11回	コミュニケーション・ゲームの企画	(学修内容) 【グループワーク】これまでの思考整理術を参考にし、どんなコミュニケーション・ゲームにするかアイデアを共有できる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 グループメンバーへの自己紹介を考えてくる 事後 授業の感想を書き提出する
第12回	コミュニケーション・ゲームの開発	(学修内容) 【グループワーク】コミュニケーション・ゲームを仲間と協力して作ることができる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 コミュニケーション・ゲームの構成を検討する 事後 授業の感想を書き提出する
第13回	開発したコミュニケーション・ゲームの発表(実演)	(学修内容) 【プレゼンテーション】グループで開発したコミュニケーション・ゲームを他の受講生を対象に実演し、評価を受けることができる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 グループで協力しコミュニケーション・ゲームを完成させる 事後 授業の感想を書き提出する
第14回	コミュニケーション・ゲームの振り返り	(学修内容) 【グループワーク】グループ内で実演した成果と反省をまとめることができる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実演したコミュニケーション・ゲームの反省点を書き出す 事後 授業の感想を書き提出する
第15回	(あなたにとっての)コミュニケーションとは	(学修内容) 授業を振り返り、コミュニケーションをとる意味を説明することができる (事前事後学修課題の内容) (120分) 事前 コミュニケーションをとる意味を説明できるように書き出す 事後 授業の感想を書き提出する

授業名	情報サービス演習			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1304
英文名	Information Service Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、図書館での蔵書検索、冊子体の文献情報の読み方、データベースの利用法等をテキストに記載されている演習課題を通じて実践的に身につけていく。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3) パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () () ()			
テキスト	原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ7）、樹村房、2016年								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	・レファレンスサービス及び情報検索に関する基礎的な理論を活用し、テキスト記載の演習課題に取り組む中で図書館における情報サービスを実践的に理解していくため、「情報サービス論」で学習した基本的な理論はしっかりと復習しておくこと。 ・講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法をしっかりと復習すること。								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。								

授業名	情報サービス演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	(学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	(学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	(学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	(学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	(学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	(学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	(学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	(学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例、特許の探し方	(学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。
第12回	発信型情報サービス	(学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	(学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	レファレンスコレクションの整備	(学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表まとめ	(学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。

授業名	ビジネス文書表現			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CS1114
英文名	Business Writing			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	水谷 隆			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>ビジネスの現場で用いる文書は、特定の相手に対して、必要な事項を過不足なく、誤解の生じないように伝達することを目的としたものです。その目的にかなう文書を作成するためには、伝えるべき内容にふさわしい形式で、受け手を明確に意識し、簡潔に表現することが必要です。この授業では、ビジネスの現場にふさわしい形式（フォーマット）と言語表現のポイントを説明した上で、実際に文書を作成することで、その体得を図ります。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) ビジネスで用いられる各種の書式を目的に応じて使い分けができる。 2) 目的に適う簡潔な文章表現ができる。 3) 敬語を中心とした待遇表現が適切に使い分けられる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () ()			
テキスト	プリントを配布します。（電子媒体による提示も含まれます）								
参考書	キャリアハンドブック 他、授業中適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、学生相互の批評をするとともに、随時コメントを付します。								
留意事項	<p>授業時に作成する文書は、学生相互の添削の対象とします。 授業の進行等の事情に応じて各回の内容を変更することがあります。なお、その際には事前事後学習課題と併せて、前もって連絡します。 国語辞典あるいはそれに類するもの（スマホのアプリ等）を持参してください。</p>								
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	ビジネス文書表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ビジネス文書の文体について	(学修内容) 授業の運営方針の確認 ビジネスで用いる文書の特徴についての解説および作文 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、シラバスを読んでおく。
第2回	報告文の基本 いわゆる5W1Hについて	(学修内容) 批評の観点提示と学生相互の批評 批評と説明を受けての作文 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、添削された作文を書き直しておく。
第3回	前回課題の講評と相互批評	(学修内容) 前回の課題を講評し、また学生相互による批評を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作文に対する批評への自分なりの意見(同意・反論等)をメモしておく。
第4回	前回授業での批評を踏まえての再作文	(学修内容) 前回作成文書を、相互添削等の作業を経て完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した文書を推敲し、書き直す。
第5回	報告文の基本についての振り返り	(学修内容) 完成作として提出された作文の講評を行い、より読みやすい文書の作成を目指す。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、類似テーマによる作文を各自が実践する。
第6回	敬語の基本と練習	(学修内容) 日本語の待遇表現のシステムを学び、基本的な用語を身につける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、日本語の敬語について振り返り、疑問に思ふ点をメモしておく。
第7回	敬語の応用練習	(学修内容) 前回の授業で得た知識を元に、ロールプレイング等の応用練習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業中の練習課題を振り返り、記憶する。
第8回	書簡文の基本	(学修内容) 縦書き書簡文の基本的な形式を、歴史的経緯を含めて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、縦書き書簡文の書き方について自分なりに調べて要点をメモしておく。
第9回	書簡文の実際	(学修内容) 様々な書簡文の例を学び、作成練習をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作成した書簡文の修正をしておく。
第10回	書簡文の講評と相互批評	(学修内容) 前回作成した書簡文の相互批評および講評を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、講評を受けた自分の書簡文を完成させる。
第11回	ビジネスレターの基本と作成 付、MSワードの基本操作の確認	(学修内容) ビジネスレターの基本的形式を解説し、作文する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、MSワードの操作を復習し、分からないことがあればメモをしておく
第12回	ビジネスレターの講評と相互批評	(学修内容) 前回作成したものを講評し、相互批評する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、自分の作品を推敲し、完成させる。
第13回	電子メールの基本	(学修内容) 電子メールの基本的マナーと書式について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、社会人としてのマナーにかなったメールを送る。
第14回	電子メールの講評と相互批評	(学修内容) 前回作成した電子メールの講評および相互批評を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、再度作成した電子メールを送付する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りと自己評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、授業全体を振り返り、自己の課題と、それに対応する今後の学修を箇条書きでまとめておく。

授業名	情報文化と倫理			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CS2121
英文名	Information Culture and Ethics			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	湯川 宗紀			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>PC、ネット、スマホ等々が日常に欠かせなくなり、意識さえしなくなった世界、それはどのような世界で我々にどんな恩恵をもたらし、どのような不幸をもたらすのか。</p> <p>現代に至るまでのメディアの歴史、それによる社会変容、理論的研究を紹介し、現代における情報文化の問題点と倫理について資料・映像を使い、事例を交えながら考えていきます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1.メディアの変化を歴史的に学ぶことにより現状の情報文化を把握することができる。</p> <p>2.これまでのメディア研究から情報に対する倫理を理解することができる。</p> <p>3.現在のネット環境と自身との関わり方を考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	必要に応じて資料を配付する								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートにコメントを付けて返却								
留意事項									
オフィスアワー	講義前後に対応します								
実践的教育									

授 業 名		情報文化と倫理
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義計画 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	聞くことから観ること	(学修内容) 語りから文字への変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第3回	書物	(学修内容) グーテンベルクの活版印について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第4回	書物が誕生する社会的背景	(学修内容) 社会状況と印刷技術について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第5回	書物がもたらした社会変容	(学修内容) 技術による社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第6回	出版メディアの誕生	(学修内容) マス・メディア、新聞の誕生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第7回	電子メディア・ラジオの誕生	(学修内容) ラジオと聴衆についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第8回	電子メディア・テレビの誕生	(学修内容) テレビと視聴者についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第9回	コンピューターの歴史	(学修内容) コンピューターの発展とその背景について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第10回	インターネットの歴史	(学修内容) インターネットの歴史、特に日本国内での歴史について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第11回	「検索」が世界を創る	(学修内容) 検索システムによる社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第12回	新しい『1984』 SNSで楽しみ進める監視・管理社会	(学修内容) SNSの問題点、倫理点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第13回	IoTとビッグデータ	(学修内容) 現状のIT技術の紹介と問題点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第14回	意識すら出来ないIT化社会での倫理	(学修内容) 現代社会でのITリテラシーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく

授業名	国際理解			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2307
英文名	International Understanding			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	松尾 章子			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	国籍、人種、宗教などにおいて、それぞれ人は異なる背景を持つ。互いを認め合い、「地球市民」として生きる私たちにとって、国際理解はますます重要な資質になってきている。本授業では、宗教（とその歴史）を中心に世界を知り、領土問題を中心に双方の立場・主張を理解することを目指す。グループディスカッションを行い、理解を深める。								
学修成果到達目標	1) ユダヤ教、イスラム教、ゾロアスター教について簡単に説明できる。 2) 日中関係の構造について、簡単に説明できる。 3) 日本が抱える領土問題のうち1つについて、詳しく説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	高橋和夫著 『改訂版 国際理解のために』一般財団法人放送大学教育振興会 2019年 2,400円+税								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付して返却します。								
留意事項	自身で調べ学習を行いレポートを提出するときには、コピペをしないように気を付けてください。 授業の進み具合によって、予定内容は多少前後します。								
オフィスアワー	研究室前に掲示しますので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	国際理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 1 ユダヤ教、キリスト教、イスラム教	(学修内容)ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本について (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第2回	2 ユダヤ教	(学修内容)安息日、食事の戒律、ユダヤ人について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第3回	3 イスラム教	(学修内容)イスラム教の広がり、ハラームとハラールについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第4回	4 光と闇の戦い/ゾロアスター教	(学修内容)宗教の二要素、善思、善言、善行について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第5回	5 ペルシア帝国とユダヤ教徒	(学修内容)バビロン、キュロス「革命」について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第6回	6 「三博士」の贈り物	(学修内容)旧約聖書の成立、マルクス主義について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第7回	7 ゾロアスター教的世界の広がり	(学修内容)ゾロアスター教のユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教への広がりについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第8回	8 東アジアの国際情勢/日中関係の構造	(学修内容)パワー・バランスの変化、日中関係の構造について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第9回	9 領土問題とは何か?	(学修内容)領土問題とテクノロジーの進歩、民族主義について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第10回	10 なぜ領土問題が起こるのか?	(学修内容)国境線と民族不一致について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第11回	11 日本の領土問題	(学修内容)領土問題、領海、排他的経済水域について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第12回	12 北方領土問題	(学修内容)北方四島の歴史、ロシアとの交渉の経緯について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第13回	13 竹島領土問題	(学修内容)竹島における日本の認識と韓国の認識について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第14回	14 尖閣諸島	(学修内容)尖閣諸島における日本と中国の主張について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。
第15回	15 沖ノ鳥島	(学修内容)沖ノ鳥島に関する国際法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:学修項目箇所を読む。 事後:授業の内容から疑問点を探し、さらに深く調べる。

授 業 名	人間関係の心理学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2312
英 文 名	Psychology of Human Relations			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	人はさまざまな人間関係を経験する中で、自己のアイデンティティを形成していく。本講義では、臨床心理学やカウンセリングなどの観点から、現代社会における人間関係の問題を探求し、人間関係の多様性と複雑さを学ぶ。各回のテーマに沿ったグループワークを行い、さまざまな人間関係の問題に柔軟に対処できる実践力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 自己とは何か、他者とは何か、自己と他者との関係性はどのようなものかを説明できる。 2. カウンセリングの考え方を説明できる。 3. 臨床心理学的視点から対人関係を説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートにはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝える。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務。								

授 業 名	人間関係の心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	人生におけるさまざまな人間関係	(学修内容) 一生の中で出会うさまざまな人間関係を、発達段階に沿って概観していく。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分を取り囲む人間関係を図で表す。
第2回	自己と他者の成り立ち	(学修内容) 自己と他者の成り立ちについて、発達の観点から理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 思い出せる一番古い記憶をたどり、自分の成り立ちについて考える。
第3回	他者理解(1) 対人認知	(学修内容) 他者理解はどのような要因によってなされているのか、対人認知のプロセスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 他者を理解する上で、自分が重点を置くポイントは何かを考える。
第4回	他者理解(2) 対人魅力	(学修内容) 他者に心ひかれるのはどのような要因によるものなのか、対人魅力について学ぶ。また、恋愛関係のプロセスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 他者に好意をもつときの心の動きについて考える。
第5回	自己理解(1) パーソナリティとは何か	(学修内容) パーソナリティとは何か、どのようにすれば把握することができるのかを学ぶ。また、自分のパーソナリティを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 質問紙法を用いて自分のパーソナリティを把握する。
第6回	自己理解(2) 無意識的な側面のパーソナリティ	(学修内容) 無意識的な側面のパーソナリティについての理論や、それを把握する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 描画法や投影法を用いて自分のパーソナリティを把握する。
第7回	自己理解(3) 自己概念	(学修内容) 生涯のテーマとなるアイデンティティの形成について、様々な角度から考察する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでの授業を振り返り、自分についての自分のイメージを整理する。
第8回	自己理解(4) 人間関係のあり方	(学修内容) 人間関係の築き方における個人差について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分の人間関係の特徴を把握する。
第9回	対人援助のコミュニケーション(1) カウンセリングにおける受容的態度	(学修内容) クライアント中心のカウンセリングの考え方を学び、受容的態度に必要な繰り返しの技法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業で行ったロールプレイを振り返る。
第10回	対人援助のコミュニケーション(2) カウンセリングにおける共感的態度	(学修内容) クライアント中心のカウンセリングの考え方を学び、共感的態度に必要な質問の技法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業で行ったロールプレイを振り返る。
第11回	対人援助のコミュニケーション(3) コミュニケーションを促進する質問	(学修内容) オープンエンドな質問を繰り返し、コミュニケーションを促進する技法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業で行ったロールプレイを振り返る。
第12回	対人援助のコミュニケーション(4) 問題解決を導く質問	(学修内容) クローズドな質問を繰り返しながら、問題解決に導くメタファシリテーションの考え方と技法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 授業で行ったロールプレイを振り返る。
第13回	ストレスへの反応と対処	(学修内容) ストレスやストレス反応について学び、ストレスコーピングの種類を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分のストレス対処法を振り返り、改善点を考える。
第14回	メンタルヘルス	(学修内容) 罹患率の高い精神疾患(うつ病や神経症など)の主症状と支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 身近な人が精神疾患に罹った場合にどんな対応・支援ができるかを考える。
第15回	個と集団	(学修内容) いじめやハラスメントなど、集団の中で生じる人間関係の問題について学び、どのように理解すればよいかについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) いじめやハラスメントがなぜ起こるのかについて考える。

授 業 名	地域文化と観光			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2308
英 文 名	Local Culture and Tourism			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義は、京都、大阪、神戸の「三都物語」のそれぞれの地域の特色ある文化と観光について学ぶことが目的である。まずは、歴史的な三都を学習し、そしてJ R西日本「三都物語」のキャンペーンから、地域観光の特徴と「売り」を考えてみたい。また、実際にそれぞれの地域を訪れ、どのような文化と観光の特徴がみられるのかを体感する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 三都について学ぶ 2) 「三都物語」を理解する 3) それぞれの地域の文化と観光を考えてみる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	配布資料についての解説、発表、レジュメなどにコメントを加える								
留 意 事 項	講義やフィールドワークを通して「売り」を疑う。発見や課題を深めて欲しい								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授業名	地域文化と観光	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方と注意 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	三都とは何か	(学修内容) 三都の歴史的考察 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく
第3回	京	(学修内容) 名所図会にみる京 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおく
第4回	大坂	(学修内容) 名所図会にみる大坂 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布史料を読んでおく
第5回	名所図会の地と現代	(学修内容) フィールドワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) 行先の名所図会と現代の案内プリントを読んでおく
第6回	「三都物語」	(学修内容) 「三都物語」とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) JR西日本の該当HPを読んでおく
第7回	神戸の文化と観光	(学修内容) 神戸の文化的特徴、観光資源 (事前事後学修課題の内容) (60分) 旅行者のパンフレットを入手し、読んでおく
第8回	京都の文化と観光	(学修内容) 京都の文化的特徴、観光資源 (事前事後学修課題の内容) (60分) 旅行者のパンフレットを入手し、読んでおく
第9回	大阪の文化と観光	(学修内容) 大阪の文化的特徴、観光資源 (事前事後学修課題の内容) (60分) 旅行者のパンフレットを入手し、読んでおく
第10回	神戸フィールドワーク	(学修内容) 神戸グループによるガイドと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジユメの用意、経路確認をしておく
第11回	神戸フィールドワーク事後学習	(学修内容) 神戸グループによる発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 神戸グループは、設定したテーマのレジユメを用意
第12回	京都フィールドワーク	(学修内容) 京都グループによるガイドと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジユメの用意、経路確認をしておく
第13回	京都フィールドワーク事後学習	(学修内容) 京都グループによる発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都グループは、設定したテーマのレジユメを用意
第14回	大阪フィールドワーク	(学修内容) 大阪グループによるガイドと解説 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジユメの用意、経路確認をしておく
第15回	大阪フィールドワーク事後学習	(学修内容) 大阪グループによる発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大阪グループは、設定したテーマのレジユメを用意

授 業 名	女性史			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2309
英 文 名	History of Women			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	近世から近代にいたる女性の生活と社会的位置づけの変遷について講義する。さらに、戦後の社会環境の変化と女性の社会的位置づけについて概観し、現代社会における女性に関わる課題を考える。理解を深めるために、適宜ディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 近世から近代における女性の社会的位置づけを説明することができる。 2. 戦後における、女性を取り巻く社会の変化と女性の状況を説明することができる。 3. 現代社会における女性に関わる課題を指摘することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜資料を配付する。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	女性史	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 女性史の研究史と女性史を学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み、これまでに学んだ女性の生活の歴史について振り返る
第2回	近世社会と女性：近世前期の女性	(学修内容) 東福門院を事例に江戸時代前期の女性の生涯を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 東福門院について調べておく
第3回	近世社会と女性：近世後期の女性	(学修内容) 和宮・天璋院を事例に江戸時代後期の女性の生涯を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 和宮・天璋院について調べておく
第4回	近世社会と女性：女訓書とは	(学修内容) 女訓書の成立と特徴 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	近世社会と女性：女訓書を読む	(学修内容) 女訓書の記述内容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読んでおく
第6回	近世社会と女性：女訓書にみる女性像	(学修内容) 女訓書にみる女性の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	近代社会と女性：家政書にみる女性像	(学修内容) 家政書にみる女性について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第8回	近代社会と女性：良妻賢母教育	(学修内容) 近代社会と女性の役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	近代社会と女性：明治民法と女性	(学修内容) 明治民法における女性の位置づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	近代社会と女性：近代の女性観	(学修内容) 近世と近代の女性観の違いについて ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 女性観の違いについて考えてくる
第11回	現代社会と女性：女性と労働	(学修内容) 戦後の女性の労働について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	現代社会と女性：女性と教育	(学修内容) 戦後から現代までの女性に対する教育の変遷について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第13回	現代社会と女性：女性差別撤廃条約	(学修内容) 女性差別撤廃条約の内容と批准 (事前事後学修課題の内容) (60分) 女性差別撤廃条約について調べておく
第14回	現代社会と女性：男女共同参画社会	(学修内容) 男女共同参画社会基本法の内容 (事前事後学修課題の内容) (60分) 男女共同参画社会基本法について調べておく
第15回	現代の課題と今後の展望	(学修内容) 現代の課題と今後の展望についてディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容を振り返る

授業名	ホスピタリティ			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	IC2310
英文名	Hospitality			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	藤田 恵美子			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	将来、ホスピタリティ産業(ホテル・旅行・航空・プライダル)に就職を考えている学生の皆さんへ、ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心)とホスピタリティ産業で求められる基礎能力を育成する。ホスピタリティ各業界の現状とその仕事を紹介し、グループワークで応対実践事例を考察する。								
学修成果到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしやホスピタリティ産業(ホテル・旅行・航空・プライダル)で求められる基礎能力を育成できる。 ・ホスピタリティ産業の現状を理解することができる。 ・ホスピタリティ産業へのキャリアデザインを考えるスタートとなる。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	プリント配布								
参考書	『サービスを超越する瞬間』高野登(著)かんき出版								
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出される理解度テストと気づきや質問には、コメントを付けて返却します。実技や口述については、その都度コメントをします。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を考える場として積極的に参加し、学んだことを日常生活で実行できるよう心掛ける。 ・おもてなしの仕事のため出席・時間・言葉遣い・課題・マナーに厳しくします。その覚悟を持って受講のこと。 ・ホスピタリティ産業のニュースだけでなく新聞等で社会の動きに関心を持つようにする。 								
オフィスアワー	担当授業前後に実施する								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 その後、接遇インストラクターとして新入社員・秘書・ホテル等各種企業研修を担当。 それらの経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学・短期大学部准教授として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務とインターンシップの教育指導。</p>								

授 業 名		ホスピタリティ
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ホスピタリティとホスピタリティ産業について	(学修内容) 授業概要説明 ホスピタリティの語源とホスピタリティ産業の構造について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) シラバスの内容確認とサービスとホスピタリティ(おもてなし)の違いについて考えておく
第2回	ホテル業界について	(学修内容) リッツカールトンのクレド(信条)からホテルでのホスピタリティ・マイルドについてとホテルの仕事内容、求められる人材について (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味のあるホテル・旅館について調べる
第3回	観光・旅行業界について	(学修内容) 旅行会社の業務範囲での分類と仕事内容、求められる人材について (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 日本の世界遺産について調べておく (事後) 授業内容を復習し、興味のある旅行会社について調べる
第4回	ブライダル業界について	(学修内容) ブライダルプランナーの仕事の特性と仕事内容、求められる人材 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味のあるブライダル会社について調べる
第5回	航空業界について	(学修内容) 航空業界の仕事の特性と各仕事内容、求められる人材 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味のある航空会社と仕事について調べる
第6回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -1 (表情・アイコンタクト)	(学修内容) 第一印象の大切さ、メラビアンの法則、表情&アイコンタクト (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、目・表情訓練を実行する
第7回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -2 (身嗜み・色)	(学修内容) 身嗜みとおしゃれの違い、色彩心理、パーソナルカラーについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、身の回りの色を調べる
第8回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -3 (挨拶・態度)	(学修内容) 挨拶・態度(姿勢・お辞儀・歩き方)・マナーの大切さ (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、日常生活でも実行する
第9回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -4 (声と言葉遣い)	(学修内容) 発声練習と言葉遣い(配慮表現と敬語)について (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、発声練習と言葉遣いを日常生活でも実行する
第10回	ホスピタリティ産業で求められる基本能力の育成 -5 (話し方・聴き方)	(学修内容) 正しく伝え、良い聴き手になる(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、日常生活でも実行する
第11回	顧客満足実践事例-1 (顧客心理)	(学修内容) 顧客心理を理解してCS(顧客満足)実践(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、アルバイト等日常生活でも活用する
第12回	顧客満足実践事例-2 (タイプ別)	(学修内容) お客様のタイプを知り、対応を考える(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、アルバイト等日常生活でも活用する
第13回	顧客満足実践事例-3 (交流分析)	(学修内容) 交流分析から対応を考える(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、アルバイト等日常生活でも活用する
第14回	ホスピタリティマネジメント	(学修内容) ホスピタリティマネジメントについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を復習し、興味ある企業と仕事を絞り込む
第15回	まとめ	(学修内容) 振り返りとホスピタリティ産業へのキャリアデザインについて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味を持ったホスピタリティ産業の企業研究の準備をする

授 業 名	生涯学習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	IC2311
英 文 名	Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。ビデオを見たり、グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 生涯学習社会の望ましい学習機会や環境について説明することができる。 2) 生涯学習支援者の支援のあり方について説明することができる。 3) 生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業中に出示された課題に対して主体的に取り組むこと。地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名	生涯学習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法などを確認しておく。
第2回	生涯学習とは何か	(学修内容)生涯学習の理念について基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 予習として身近なところで生涯学習に関わることがどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	人間形成と生涯学習	(学修内容)自らが考えるライフコースの中で「学ぶこと」の意味について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として自ら生涯にわたって学習することの意味について箇条書きにまとめる。
第4回	生涯発達と発達課題	(学修内容)人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について具体的に考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自らの今後の人生を見通し、学ぶことの意味・必要性について考えてくる。
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(学修内容)生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントの要点を箇条書きにする。
第6回	ラングランの生涯教育論	(学修内容)ラングランの提唱した生涯教育の理念について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んでラングランの考え方の要点をまとめる。
第7回	日本における生涯教育の理念	(学修内容)日本における生涯教育、生涯学習についての基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、日本の生涯教育・生涯学習の歴史的経緯について要点を箇条書きにまとめる。
第8回	諸外国の生涯学習論にみる学習観	(学修内容)諸外国の生涯学習論にみる歴史的経緯と学習観、人間観について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第9回	OECDのリカレント教育	(学修内容)OECDのリカレント教育について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第10回	日本における生涯教育論の展開	(学修内容)日本における生涯教育論から生涯学習論への歴史の変遷について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、生涯学習社会の制度的変遷の要点を箇条書きにまとめる。
第11回	日本における生涯学習の必要性と各種審議会答申について	(学修内容)社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯教育の理念と具体案について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読んで、生涯学習の考え方の歴史の変遷の要点をまとめる。
第12回	生涯学習振興策の立案と推進について	(学修内容)地方自治体が立案する生涯学習振興策の内容を調べ、生涯学習の推進の実際と関連させた上で、整理した内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第13回	生涯学習の実施状況 生涯学習世論調査	(学修内容)生涯学習世論調査から生涯学習の実施状況を確認し、グループ討議を通して望ましい生涯学習の在り方について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習実施状況を調べてまとめる。
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(学修内容)生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、社会教育の具体的内容について要点をまとめる。
第15回	生涯学習の事例発表	(学修内容)自分が住む地方自治体の生涯学習の取り組みについて、調べた内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体の生涯学習振興策及び実施状況を調べて、発表用資料にまとめる。

授 業 名	地域ブランド			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2313
英 文 名	Local Brand			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	地域ブランドとは、地域活性化のための取り組みのことである。この講義では、様々な事例から地域ブランドを検討し、自らの地域ブランドの課題や方策を考察していく。特に、本校が位置する京都は全国でも有数の「京都ブランド」を持っている。フィールドワークや見学を通して、「京都ブランド」の強みや将来性も考察したい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 地域ブランドを理解する 2) 「京都ブランド」を理解する 3) 自らが住む地域ブランドを考えてみる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	使用しない								
参 考 書	プリントを配布する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワーク、発表へのコメントを加える								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に貼付する								
実 践 的 教 育									

授 業 名		地域ブランド
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)この講義の進め方と諸注意 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおく
第2回	地域ブランドとは何か	(学修内容)地域ブランドの概要 (事前事後学修課題の内容)(60分) どのような地域ブランドがあるのかを調べ、HPなどをコピーしておく
第3回	地域ブランドの背景	(学修内容)何故、地域ブランドなのか (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味のある地域ブランドの取り組みを調べておく
第4回	食の地域ブランド	(学修内容)食の地域ブランドの事例 (事前事後学修課題の内容)(60分) 食の地域ブランドについて、どのようなものがあるのかを調べておく
第5回	事例発表 1回目	(学修内容)地域ブランドの発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの講義や自己が調べたことをまとめ、レジュメを作成しておく
第6回	事例発表 2回目	(学修内容)地域ブランドの発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの講義や自己が調べたことをまとめ、レジュメを作成しておく
第7回	事例発表 3回目	(学修内容)地域ブランドの発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの講義や自己が調べたことをまとめ、レジュメを作成しておく
第8回	アートによる地域ブランド	(学修内容)アートと地域ブランド、その事例 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例について、自ら確認しておく
第9回	景観地域	(学修内容)景観と地域ブランド、その事例 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事例について、自ら確認しておく
第10回	京都ブランド	(学修内容)京都ブランドの強み (事前事後学修課題の内容)(60分) 京都ブランドについて、どのようなものがあるのかを調べておく
第11回	京都ブランドの歴史	(学修内容)どのようにして、京都ブランドは形成されたのか (事前事後学修課題の内容)(30分) 「古都」京都に関する配布プリントを読んでおく
第12回	地域ブランドについての事前発表	(学修内容)グループごとの発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) 行先についてのレジュメを用意
第13回	地域ブランドを歩く 1回目	(学修内容)担当グループによる案内と解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) レジュメ作成と行程の提示
第14回	地域ブランドを歩く 2回目	(学修内容)担当グループによる案内と解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) レジュメ作成と行程の提示
第15回	地域ブランドの事後発表	(学修内容)グループごとの発表、討議 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワーク先のレジュメを用意

授 業 名	多文化共生を考える			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2314
英 文 名	Multicultural Coexistence			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	今日の急速な技術の発展と国家の枠を超えた経済の結びつきの強まりにより、人・物・情報の流れは、地球的規模に拡大され、国民一人ひとりの身近な問題となっている。地域レベルの交流は、異文化の理解等諸外国との相互理解を一層推進するとともに、多文化共生を推進していくためには、日本人住民も外国人住民も共に地域社会を支える主体であるという認識をもつことが大切であるため、多文化共生の実現のために必要な視点や考え方、多文化共生社会の意義を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 多文化共生・異文化コミュニケーションの基礎概念について簡単に説明できる。 2) カルチャーショックと適応のプロセスについて簡単に説明できる。 3) 多文化共生を目指す地域社会のあり方や課題について意見を述べるができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	石井敏他著 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣選書 2013年 2,000円＋税								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、コメントを付して返却します。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		多文化共生を考える	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 異文化コミュニケーションを学ぶということ	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 異文化コミュニケーションについての説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 授業内容を振り返る。	
第2回	異文化コミュニケーションの基礎概念	(学修内容) 文化・コミュニケーションの定義、自民族中心主義、文化相対主義、多文化主義について学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第1章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第3回	自己とアイデンティティ	(学修内容) 自己、社会・文化的アイデンティティ、多文化社会と多面的アイデンティティについて学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第2章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第4回	異文化コミュニケーションの障壁	(学修内容) 障壁の種類、偏見・ステレオタイプについて学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第3章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第5回	深層文化の探求	(学修内容) 価値観や思考パターンについて学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第4章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第6回	言語コミュニケーション	(学修内容) コミュニケーション・スタイルや文化差・個人差・コンテキストの諸要因について学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第5章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第7回	留学生との交流1(日時変更有)	(学修内容) 京都在住の外国人と交流し、多文化共生社会について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 授業内容を振り返る。	
第8回	非言語コミュニケーション	(学修内容) 非言語コミュニケーションの特徴や種類について学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第6章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第9回	バーンガ体験	(学修内容) 異文化を疑似的に経験し、包括的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 授業内容を振り返る。	
第10回	カルチャーショックと適応のプロセス	(学修内容) 異文化適応曲線や異文化適応に影響を及ぼす要因について学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第7章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第11回	対人コミュニケーション	(学修内容) 異文化の友人や恋人との関係構築について学び考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第8章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第12回	留学生との交流2(日時変更有)	(学修内容) 京都在住の外国人と交流し、多文化共生社会について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 授業内容を振り返る。	
第13回	異文化コミュニケーションの教育・訓練	(学修内容) 教育と訓練の背景理論とファシリテーターの役割等について考える。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前: テキスト第9章を読む。 事後: 授業内容を振り返る。	
第14回	バファバファ体験(受講人数によっては内容変更有)	(学修内容) 異文化を疑似的に経験し、包括的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 授業内容を振り返る。	
第15回	まとめ	(学修内容) 全ての復習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: レポート提出に向けて準備する。	

授 業 名	多文化交流体験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	IC2315
英 文 名	Multicultural Exchange Experience			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会を理解するには、基礎的・専門的な知識を身につけるだけでなく、それらを活用し応用する能力が必要となる。グローバル化の進む現在、様々な背景や文化を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとるスキルが求められ、異文化に対する理解や協調性・柔軟性が不可欠となるため、異文化交流を体験し現代社会で必要とされるスキルを身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) やさしい日本語で話すことができる。 2) 文化的背景が異なる人々と交流し、話を続けることができる。 3) 非言語コミュニケーションやアサーティブ・コミュニケーションについて説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	なし								
参 考 書	原沢伊都夫著 『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』 研究社 2013年 2,200円+税								
課題に対する フィードバック の方法	提出物についてはコメントを付して返却します。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育									

授業名	多文化交流体験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 異文化理解	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：シラバスを読む。 事後：授業内容をまとめる。
第2回	文化の冰山モデル トータルカルチャーとサブカルチャー	(学修内容) 文化の基本について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第3回	交流準備1：自国文化	(学修内容) 日本についてや学生自身の生活について質問されることを想定し、何気なく過ごしている日常を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第4回	多文化交流1(調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験1 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する
第5回	交流振り返り：交流後の意見・感想の共有 バーンガ体験	(学修内容) 交流体験の振り返りとバーンガを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第6回	交流準備2：やさしい日本語	(学修内容) やさしい日本語について学び考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第7回	多文化交流2(調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験1 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する
第8回	交流振り返り2：交流後の意見・感想の共有 ステレオタイプ	(学修内容) 交流体験の振り返りとステレオタイプについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第9回	交流準備3：非言語コミュニケーション	(学修内容) 非言語コミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第10回	多文化交流3(調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験3 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する
第11回	交流振り返り3：交流後の意見・感想の共有 世界の価値観	(学修内容) 交流体験の振り返りと世界の価値観について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第12回	交流準備4：アサーティブ・コミュニケーション	(学修内容) アサーティブ・コミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第13回	多文化交流4(調整により、日程は多少前後する)	(学修内容) 多文化交流体験4 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：交流についての意見・感想をA41枚にまとめてgmailで提出する
第14回	交流振り返り4：交流後の意見・感想の共有 異文化受容のプロセス	(学修内容) 交流体験の振り返りと異文化授業のプロセスについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) 1学期間の総復習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：レポート提出の準備をする。

授 業 名	図書館概論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	CL1705
英 文 名	Introduction to Library			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日的課題についての理解を深めるために、実際の事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2) 図書館と知的自由に関する今日的課題を解決するために、「図書館の自由に関する宣言」について理解し、自己の見解をプレゼンテーションすることができる。 3) 公立図書館の管理運営に関して、現状と課題を把握し、自己の見解をプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 1)、塩見昇、日本図書館協会、2018年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館について話をします。								

授 業 名		図書館概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館とは	(学修内容)図書館の定義、種類について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.13~P.20をよく読んでまとめておくこと。	
第3回	図書館の理念:図書館の自由など	(学修内容)「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.57~P.64をよく読んでまとめておくこと。	
第4回	図書館の自由について考える	(学修内容)図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65~P.67)を読んでおくこと。	
第5回	図書館法規と行政	(学修内容)公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。	
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(学修内容)欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.225~P.228をよく読んでまとめておくこと。	
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(学修内容)日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.229~P.232をよく読んでまとめておくこと。	
第8回	公共図書館の制度と機能	(学修内容)「図書館法」の構成と性格を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。	
第9回	公共図書館のサービス	(学修内容)公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.146~P.150をよく読んでまとめておくこと。	
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(学修内容)公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。	
第11回	学校図書館の制度と機能	(学修内容)学校図書館の役割と機能について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.161~P.168をよく読んでまとめておくこと。	
第12回	大学図書館の制度と機能	(学修内容)大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.177~P.183をよく読んでまとめておくこと。	
第13回	専門図書館の制度と機能	(学修内容)専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.190~P.193をよく読んでまとめておくこと。	
第14回	国立図書館の制度と機能	(学修内容)国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.203~211をよく読んでまとめておくこと。	
第15回	出版文化と図書館	(学修内容)出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.45~P.48をよく読んでまとめておくこと。	

授 業 名	図書館情報資源概論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL1702
英 文 名	Introduction to Library Information Resource			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料)の種類と特性について理解し、説明できる。 2) 図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3) ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8),学文社 2016年								
参 考 書	今まど子編『図書館情報学基礎資料』樹村房,2016年 馬場俊明編『図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ 8』日本図書館協会,2012								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館資料について解説します。								

授 業 名		図書館情報資源概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館情報資源の経緯	(学修内容) 図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。	
第3回	印刷資料・非印刷資料の類型と特質	(学修内容) 資料の類型、図書、逐次刊行物、小冊子、視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴、などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.18-25 を読んでまとめておくこと	
第4回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	(学修内容) 電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。	
第5回	地域資料、行政資料、灰色文献	(学修内容) 地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト5章p32-37を読んでまとめておくこと。	
第6回	情報資源の生産(出版)と流通	(学修内容) 出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト6章p. 38-43を読んでまとめておくこと。	
第7回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	(学修内容) 図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。	
第8回	コレクション形成の理論	(学修内容) コレクション形成における資源、コレクション形成理論の史的展開について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト8章p. 50-57を読んでまとめておくこと。	
第9回	コレクション形成の方法	(学修内容) 蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト9章p. 58-63を読んでまとめておくこと。	
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	(学修内容) 人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。	
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	(学修内容) 科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。	
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	(学修内容) 資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。	
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	(学修内容) クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと	
第14回	電子書籍、電子ジャーナルー 図書館情報資源としての意義と課題	(学修内容) 電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと	
第15回	まとめ	(学修内容) 総復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと	

授 業 名	図書館基礎特論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	CL1703
英 文 名	Special Lecture on Library			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館司書資格の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的課題の一つである広報活動の在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して実践的に学習する。								
学 修 成 果 対 達 目 標	1) 各自の関心のあるテーマについて、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 自らの考えを映像資料にまとめることができる。 3) 図書館サービスを紹介する映像資料を通して、プレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)		課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。								
留 意 事 項	講義形式ではなく、受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な資料を収集し、整理し、成果物を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の今日的課題について話をします。								

授業名	図書館基礎特論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館資料の探索と活用	(学修内容)図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。
第3回	レファレンスサービスを考える	(学修内容)図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。
第4回	レファレンス質問を考える	(学修内容)レファレンス質問を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) インターネット等を利用してレファレンス事例を探しておくこと。
第5回	レファレンス回答をつくる	(学修内容)図書館資料を探索し、前回の授業で作成したレファレンス質問の回答を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に向き、レファレンス資料に目を通しておくこと。
第6回	図書館の広報活動について考える	(学修内容)図書館の広報活動の概要を説明する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 広報の意義について考えておくこと。
第7回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するグループをつくる	(学修内容)レファレンスサービスを中心とした図書館紹介ビデオを作成する。グループをつくる。レファレンス質問を決める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レファレンス回答を完成させておくこと。
第8回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ストーリーを考えておくこと。
第9回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する絵コンテをつくる	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオの絵コンテを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。
第10回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する仮撮影	(学修内容)仮撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオと絵コンテを完成させておくこと。
第11回	図書館サービスを紹介するビデオを作成するシナリオ修正	(学修内容)図書館サービスを紹介するビデオのシナリオを修正する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 仮撮影の内容を振り返る。
第12回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する本撮影	(学修内容)本撮影を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シナリオを完成させておくこと。
第13回	図書館サービスを紹介するビデオを作成する編集	(学修内容)撮影したビデオの編集作業を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) サウンドトラックなどの準備をしておくこと。
第14回	発表	(学修内容)完成した図書館サービス紹介ビデオを発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) ビデオを完成させておくこと。
第15回	まとめ	(学修内容)授業を振り返り、レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。

授 業 名	情報資源組織論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL1707
英 文 名	Theory of Informational Resource Organization			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館の利用者に情報資源に関する情報を提示し、情報資源そのものを提供できるよう、目録作業、分類作業、件名付与といった間接サービスについて学習する。また、地域、一国、あるいは国際的なレベルでの書誌コントロール、急速な発展を遂げた書誌情報ユーティリティ、メタデータ、書誌データの活用法などについても解説を行なう。基本的には講義形式をとるが、学内の図書館を見学しながら、授業を進める回もある。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化を行う意義や目的について説明できる。 2) 情報資源の目録作成に関する基礎的事項を説明することができる。 3) 分類法を理解し、書架を管理する方法を理解できる。 4) 主題分析、統制語検索の手法について理解できる。 5) コンピュータを利用した書誌情報の作成とその活用について理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	講義内で配布するプリント。								
参 考 書	講義で紹介。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物を添削し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授 業 名	情報資源組織論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報資源組織化の意義	(学修内容) 情報資源組織の業務とその意義について (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、図書館員の業務内容をリストアップしておく
第2回	目録の役割と種類	(学修内容) 目録の役割、目録の種類について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第3回	目録記入の構成	(学修内容) 書誌記述の規則、『日本目録規則』の概要について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第4回	標目の役割	(学修内容) 標目の機能、標目の種類、典拠コントロールについて (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第5回	主要な書誌記述規則	(学修内容) 主要な目録規則の概要について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第6回	集中目録作業	(学修内容) 書誌データの流通、MARCについて (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第7回	共同目録作業	(学修内容) 総合目録、書誌ユーティリティについて (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第8回	書誌コントロールと標準化	(学修内容) 書誌コントロールの機能、標準化の意義について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第9回	OPACの管理と運用	(学修内容) OPACの機能と管理、メタデータ、RDFについて (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第10回	主題の分析と検索	(学修内容) 主題分析の意義、主題索引法について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第11回	件名標目表とシソーラス	(学修内容) 件名標目表、シソーラス、「基本件名標目表」の構成について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第12回	図書の配架方法	(学修内容) 図書の配架方法、分類の留意点について (事前事後学修課題の内容) (20分) 各自 図書館へ行き、図書の配架方法、および図書館利用者が目的の場所へたどりつけるよう配置された案内板の記載内容を確認しておく
第13回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 分類法の概要、「日本十進分類法」の構成について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第14回	多様な情報資源組織の配架と分類記号の付与	(学修内容) 別置資料の配架方法とその理由、図書ラベルについて (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする
第15回	主要な分類法	(学修内容) 主要な分類法の概要について (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、講義で配布したプリントを用いて、講義内容をおさらいする

授 業 名	図書館制度・経営論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL1706
英 文 名	Theory of Library System and Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3) 図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館制度や経営について話をします。								

授業名	図書館制度・経営論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館の制度	(学修内容)図書館設置を規定する各法律について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	図書館法	(学修内容)図書館法の条文を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館法の条文を読んでおくこと。
第4回	他館種の図書館に関する法律	(学修内容)学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスと法律	(学修内容)著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 著作権法の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の管理運営の外部化 指定管理者制度	(学修内容)指定管理者制度について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定管理者制度について調べておくこと。
第7回	図書館の管理運営の外部化 PFI	(学修内容)PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PFIについて調べておくこと。
第8回	図書館のサービス計画	(学修内容)図書館サービスの計画について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	図書館のマーケティング	(学修内容)図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	図書館の建築計画	(学修内容)図書館建設手順の流れについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	レイアウト図をつくる ゾーニング計画	(学修内容)ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。
第12回	レイアウト図をつくる 書架	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。
第13回	レイアウト図をつくる 閲覧席	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。
第14回	レイアウト図を発表する ゾーニング計画	(学修内容)作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。
第15回	レイアウト図を発表する コンセプト・レイアウト図	(学修内容)コンセプトをふまえて作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。

授業名	図書・図書館史			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	CL2713
英文名	History of Books and Libraries			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。 2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。 3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ11) 佃一可、樹村房、2012年								
参考書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察しておいてもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の歴史について解説します。								

授 業 名		図書・図書館史
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館(西洋)	(学修内容)文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館(西洋)	(学修内容)修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館(西洋)	(学修内容)ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近現代の図書館(西洋)	(学修内容)大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。
第6回	中国の図書の歴史(古代・中世)	(学修内容)紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(学修内容)印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。
第8回	古代の図書館(日本)	(学修内容)奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。
第9回	中世の図書館(日本)	(学修内容)鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。
第10回	近世の図書館(日本)	(学修内容)江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。
第11回	近代の図書館(日本)	(学修内容)明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.147~P.166をよく読んでおくこと。
第12回	現代の図書館(日本)	(学修内容)第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.183~P.204をよく読んでおくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授 業 名	情報資源組織演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2719
英 文 名	Bibliographic Organization Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	喜多 祐子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	多様な情報資源に関するデータを整理し、図書館の利用者に目的の情報資源を提供することができるための技術を習得する。情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、メタデータの作成などを理解し、情報資源の組織化に必要な能力を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源の組織化業務に必要な技術について説明できる。 2) 書誌データを作成することができる。 3) ネットワーク情報資源のメタデータの作成手法を理解できる。 4) 主題分析、分類作業、統制語彙適用を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	木原通夫・志保田務『分類・目録法入門（新改訂第6版）メディアの構成』第一法規 2020年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に行う課題については、その場で添削をし、解説をする。提出物に関しては後日コメントをつけて返却をする。								
留 意 事 項	講義内容を復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：宝塚市立中央図書館 資料調査員								

授 業 名		情報資源組織演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	書誌データの作成	(学修内容) 目録法及び記述に関する総則、タイトルと責任表示に関する事項について解説。演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。	
第2回	各書誌の事項の記述	(学修内容) 版、出版・頒布などに関する事項を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第3回	単行書に関する書誌的記述	(学修内容) 形態、注記に関する事項を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第4回	書誌階層構造	(学修内容) 集合・基礎・構成単位の書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第5回	継続資料の書誌データの作成	(学修内容) 逐次刊行物に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第6回	非図書資料の書誌データの作成	(学修内容) 地図資料、電子資料、映像資料、録音資料に関する書誌情報の記載方法を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第7回	標目の付与、『日本目録規則2018年版』	(学修内容) 標目の表記方法を解説、演習問題。『日本目録規則2018年版』の内容を解説。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第8回	書誌ユーティリティにおける目録作成	(学修内容) 集中化・共同化による書誌データ作成の実際、メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第9回	書誌データ管理・検索システムの構築	(学修内容) 書誌データベースの構築。メタデータの作成。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第10回	日本十進分類法の活用法	(学修内容) 主題分析の方法、日本十進分類法の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第11回	日本十進分類法による分類作業 形式区分	(学修内容) 日本十進分類法の形式区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第12回	日本十進分類法による分類作業 地理区分、海洋区分	(学修内容) 日本十進分類法の地理区分・海洋区分に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第13回	日本十進分類法による分類作業 言語区分、固有補助表	(学修内容) 日本十進分類法の言語区分、固有補助表(言語共通区分、文学共通区分ほか)に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第14回	分類規程・図書記号の付与	(学修内容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	
第15回	基本件名標目表による件名付与	(学修内容) 基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のノート・配布したプリントを見て、復習しておくこと。	

授 業 名	秘書実務			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2720
英 文 名	Practical Business in Office Administration			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>「秘書の仕事内容の理解と求められる基礎能力の習得」 秘書学概論で学んだことを具現化する。秘書業務を系統立てて具体的に学びながら、秘書だけでなくあらゆる業種や職種において必要とされるビジネス実務のマナー、ルールにまで理解を広げる。グループワークも取り入れながら、学んだ知識を実践で活用できる能力を修得する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 秘書活動の基盤となる知識・技能を身につけることができる。 2. ロールプレイング(役割演習)などを通して秘書業務を演習し、秘書業務が「できる」人材になる。 3. 秘書業務内容を具体的に学び、秘書検定試験に合格できる技能を身につけることができる。 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	「秘書・オフィス実務」 武田秀子・岡田小夜子 著、早稲田教育出版								
参 考 書	「全訂新版 秘書実務」田中篤子著 嵯峨野書院								
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出される気づきや質問には、コメントを付けて返却します。実技や口述については、その都度コメントをします。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に提出用の課題問題が付いているので、必ず教科書は購入し、配布プリントと一緒に持参のこと。 ・ 科目の性格上、出席・時間・私語・提出期限・言葉遣いなどマナーに厳しくします。その覚悟で受講のこと。 ・ 学んだことは日常生活でも活かし、日常から社会の動きに興味を持つように心掛けて下さい。 								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 その後、接遇インストラクターとして新入社員・秘書・ホテル等各種企業研修を担当。 それらの経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学・短期大学部 准教授として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務とインターンシップの教育指導。</p>								

授業名	秘書実務	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「秘書実務」では何を学ぶのか	(学修内容) 秘書学概論で学んだことを「秘書実務」で実践へ (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) シラバスを確認しておく (事後) 授業内容を復習する
第2回	言葉遣い	(学修内容) 敬語、接遇用語 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第3回	ビジネスマナー	(学修内容) 来客対応(受付・名刺交換・案内・席次・茶菓のマナー、ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第4回	電話対応	(学修内容) 電話のマナー(かけ方・受け方、ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第5回	指示の受け方と報告の仕方	(学修内容) 聴き方、伝え方(ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第6回	スケジュール管理	(学修内容) スケジュール表作成、アポイントメントを取る・受ける(ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第7回	出張業務	(学修内容) 予約、手配、旅程表作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第8回	ファイリング	(学修内容) 書類・名刺の整理 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第9回	会議・会合	(学修内容) 会議・会合の準備の留意、議事録作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第10回	ビジネスメール&文書-1(社内文書)	(学修内容) 社内メール&社内文書作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第11回	ビジネスメール&文書-2(社外文書)	(学修内容) 社外メール&社外文書作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第12回	受信と発信	(学修内容) 文書&秘密文書の取り扱い (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第13回	慶弔	(学修内容) 慶事、弔事のマナーと心得 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第14回	食事のマナー	(学修内容) 洋食、和食、立食のマナー (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) テキストに目を通し、Exercise問題を考えておく (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす
第15回	来客・電話対応まとめ	(学修内容) まとめの状況対応ロールプレイング(役割演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 授業を振り返り、役割演習の準備 (事後) 授業内容を復習し、日常生活に活かす

授 業 名	秘書学概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2714
英 文 名	Introduction to Office Administration			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>「秘書」という職務について、企業組織の中での秘書に着目し、秘書の役割、秘書の業務内容、秘書に求められるもの、秘書として最適な行動をとるための思考などを理論的に学ぶ。さらに、変化する社会環境・経済情勢の中で、上司を補佐する秘書として何が求められるかを考察する。さらに、自分自身のこれからのキャリアについても考える。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織の中で上司を補佐する秘書として、臨機応変にその場に応じた対応がとれるよう、必要な知識・考え方などを身に付けることができる。 ・ 秘書としてだけでなく、ビジネスパーソンとして変容するビジネス社会に対応でき柔軟な思考力を養うことができる。 ・ 秘書検定試験について知ることができる。 								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	高橋真知子・北垣日出子「秘書概論」樹村房								
参 考 書	田中 篤子「秘書学概論」嵯峨野書院								
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出される理解度テストと気づきや質問には、コメントを付けて返却する。毎回の理解度テストについては、その都度解説・コメントする。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の性格上、出席・時間・私語・提出期限・言葉遣いなどマナーに厳しくします。その覚悟で受講のこと。 ・ 日常から社会の動きに興味を持つように心掛けて下さい。 								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。 その後、接遇インストラクターとして新入社員・秘書・ホテル等各種企業研修を担当。 それらの経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学・短期大学部 准教授として秘書実務・ビジネス実務・エアライン実務とインターンシップの教育指導。</p>								

授業名	秘書学概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、「秘書学概論」の内容	(学修内容)「秘書学概論」では何を学ぶのか (事前事後学修課題の内容)(20分) (事前)シラバスの確認と教科書の準備 (事後)学ぶ内容の理解
第2回	第1章 秘書とは	(学修内容)秘書の定義と歴史について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、秘書とは何か自分なりに考えてみる (事後)授業内容と問題の復習をする
第3回	第2章 秘書と急変する企業環境	(学修内容)組織と企業環境の関わりについて (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、企業環境について考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第4回	第3章 秘書と会社組織	(学修内容)会社組織の理解と秘書の位置づけ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書1.2.3の内容を読み、会社組織について考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第5回	第3章 4. 秘書の業務形態	(学修内容)組織体に見る様々な秘書の業務形態 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書4の内容を読んでおく (事後)授業内容と問題の復習をする
第6回	第4章 秘書の職務と職能	(学修内容)秘書業務内容とそれぞれの目的・目標 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書1-4の内容を読んで秘書業務の目的・目標を考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第7回	第4章 5. 秘書に求められる能力	(学修内容)秘書に求められる能力 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書5の内容を読み、秘書に求められる能力を考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第8回	第5章 秘書に求められる資質	(学修内容)秘書に求められる資質と自己理解 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、求められる資質を考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第9回	第6章 秘書と人間関係	(学修内容)職場での人間関係と求められるコミュニケーション力 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書内容を読み、求められるコミュニケーション力を考える (事後)授業内容と問題の復習をする
第10回	第7章 秘書と情報管理	(学修内容)秘書が扱う情報の収集・整理・提供、その留意点 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読んで、留意点について考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第11回	第8章 秘書とキャリア	(学修内容)様々な分野の秘書、その任務と求められる知識・技能 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、各分野の秘書に求められるものを考える (事後)授業内容と問題の復習をする
第12回	第 部 グローバル化と国際秘書 第1章 これからの企業	(学修内容)企業のグローバル化について (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、最近の企業の動きをニュース等で調べる (事後)授業内容と問題の復習をする
第13回	第2章 秘書と異文化理解	(学修内容)異文化理解と異文化コミュニケーション (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、異文化コミュニケーション事例を考える (事後)授業内容と問題の復習をする
第14回	第3章 秘書とプロトコール	(学修内容)プロトコールとは (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の内容を読み、プロトコールの事例を考えておく (事後)授業内容と問題の復習をする
第15回	第4章 これからの秘書	(学修内容)今後求められる秘書像と自分のキャリアデザインを考える (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書の内容を読み、授業振り返りとキャリアデザインを考える (事後)授業内容をまとめ、レポートの準備

授 業 名	ビジネス実務総論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2715
英 文 名	Outline of Practical Business Affairs			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	市川 順子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>私たちの日々の生活は、衣食住の提供はもちろん、家庭を維持する礎である収入や保険まで、企業とのかかわりをなくしては考えられません。職業人として社会に出るまでの準備としてビジネス社会の仕組みや活動について学修します。また、テキストの第3部を予習・復習に使い理解を深め、社会人としての基礎能力を身につけていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ビジネス社会を理解できる。 2) 職業人として求められる基本的な知識を理解できる。 3) ビジネス実務全体に必要な情報業務や対人業務に関する知識・スキル・態度およびそれらを活用するための力を身につけることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	『新版 ビジネス実務総論』 水原道子・大島武編著 樹村房								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却をします。 解説については、授業内で行います。								
留 意 事 項	社会人になるまでに社会(世の中のできごと)に対して興味・関心を持ち、新聞や企業のHPなどで自分が目指す業界の情報を積極的に収集してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	ビジネス実務総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/ビジネス社会とは	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと
第2回	社会と企業	(学修内容) 社会における企業の役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が興味のある企業のC R Sを調べておく
第3回	企業の種類	(学修内容) 企業の種類・組織について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストを読み、ふりかえりシートを使って予習しておく
第4回	企業の会計	(学修内容) 企業会計について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が興味のある企業の決算について調べておく
第5回	身の回りの経済	(学修内容) 日常生活と経済についての関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 身の回りのものの値段について調べてみる
第6回	日本経済の流れ	(学修内容) 戦後から現代までの経済の流れについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ふりかえりシートを使って復習する
第7回	グローバル社会とビジネス	(学修内容) グローバル社会がビジネスにもたらす影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) インバウンドと観光について調べておく
第8回	企業研究	(学修内容) 各自が興味のある企業を調べ、特徴を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が興味のある企業(業界)について調べておく
第9回	さまざまな働き方	(学修内容) 働く意義や働き方の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 回りの人たち(両親等)がどのような働き方をしているのか調べておく 自分がどのような働き方をしたいのか考える
第10回	税と社会保険	(学修内容) 税金の種類と社会保険について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 税金の種類、社会保険について調べておく ふりかえりシートを使って復習する
第11回	労働と法律	(学修内容) 労働者を守る法律について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 労働三法について調べておく ふりかえりシートを使って復習する
第12回	地域連携	(学修内容) 大学と地域連携のあり方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分たちができる地域連携を考えてみる
第13回	ボランティア	(学修内容) ボランティアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身ができるボランティア活動を考えてみる
第14回	情報管理の重要性	(学修内容) 情報化社会の中で情報を管理することの重要性について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 情報漏洩の過去の事例を調べておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身のキャリアプランを考える

授 業 名	応用ビジネス実務論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2721
英 文 名	Theory of Business Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会の中にあつて、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務に存在する意義とは何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきなのかなど理論的に考察していく。「ビジネス実務総論」で学んだことをベースに、ビジネスコミュニケーション、アクティブリスニング、ビジネスプレゼンテーション、KT法による意思決定・問題解決、メンタルヘルス、ビジネス法律などを学習する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。 2) 対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。 3) 論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	適宜授業内に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に関して、評価基準を授業内あるいはメールにて解説する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	応用ビジネス実務論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	ビジネスを考える	(学修内容) ビジネスは何を目指しているのか、説明します。 (事前事後学修課題の内容) (69分) テキストP10-23を読んでおく。
第3回	ビジネス環境をとらえる --グローバル化、情報化について	(学修内容) 経済のグローバル化、高度情報化について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (69分) テキストP25-36を読んでおく。
第4回	ビジネス環境をとらえる --環境問題、少子高齢化について	(学修内容) 地球環境問題、少子高齢化の問題について解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP36-49を読んでおく。
第5回	ビジネス現場をとらえる	(学修内容) 日本の雇用のありかたやワークスタイルについて解説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP51-68を読んでおく。
第6回	ビジネス実務について	(学修内容) ビジネス実務とは何かについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP71-83を読んでおく。
第7回	ビジネス実務の基本について --仕事の進め方	(学修内容) 仕事の進め方などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP85-111を読んでおく。
第8回	ビジネス実務の基本について --情報活用	(学修内容) 情報活用などビジネス実務の基本について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP112-136を読んでおく。
第9回	ビジネス実務の活動をとらえる --オペレーションとマーケティング	(学修内容) オペレーション活動とマーケティング活動について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP137-152を読んでおく。
第10回	ビジネス実務の活動をとらえる --キャリア形成とコストパフォーマンス	(学修内容) キャリア形成とコストパフォーマンスについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP152-174を読んでおく。
第11回	ビジネス実務の創造	(学修内容) これからのビジネス実務について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP175-195を読んでおく。
第12回	業界研究	(学修内容) グループワークで、関心のある業界から始まり、それに関連する業種を整理していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の興味・関心のある企業を調べる。
第13回	業界研究	(学修内容) 前講から引き続き、グループワークで、業種から企業を絞り、歴史など調べてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞記事など企業に関連する記事を収集してみる。
第14回	自分のキャリア形成の方向性について考える	(学修内容) 「生き方・働き方・休み方・楽しみ方」それぞれの選択肢をどのように組み合わせしていくのか考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のキャリア形成について考え、整理する。
第15回	まとめ	(学修内容) 自己啓発について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートに向けた質問事項を整理する。

授 業 名	ビジネス実務実践演習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2722
英 文 名	Practical Business Affairs			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	市川 順子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	社会に出たときに必要とされる知識とスキルを学び、即、実践できることを目標に、演習を行います。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 職業人として必要な基本的知識を身に付け実践する力をつけることができる。 2) 仕事を進める上での課題を見つけ、問題解決に向けて論理的思考ができる。 3) さまざまな場面・状況を想定し、臨機応変に対応することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	『ビジネス実務事例研究』 菊地史子・浅野浩子・福永晶彦 著 学文社								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却します。 解説については、授業内で行います。								
留 意 事 項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。 学んだことは、できる限り実践して身に付けるよう心がけてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マネー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。								

授 業 名	ビジネス実務実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。
第2回	対人応対 1/来客応対	(学修内容) 敬語を復習し、お客さまとの会話、社内での会話を演習によって学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 敬語・接遇用語について確認しておく。
第3回	対人応対 2/電話応対	(学修内容) 電話での会話(受けたとき・かけたとき)を演習によって学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第4回	報・連・相	(学修内容) 社内における報告・連絡・相談のポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第5回	慶弔業務	(学修内容) 慶弔業務のそれぞれの対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 上書き等、学んだことを確認しておく。
第6回	文書作成 1/社内文書(案内文)	(学修内容) 文書作成の基本的ルールを学び、簡単な社内文書を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 文書作成のポイント・レイアウトを確認しておく。
第7回	文書作成 2/社内文書(報告書)	(学修内容) 報告書のフォーム(レイアウト)を学び、報告書を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告書に必要な項目は何か確認しておく。
第8回	文書作成 3/社外文書(取引文書)	(学修内容) 社外文書のポイントを学び、簡単な取引文書を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 頭語と結語、時候のあいさつについて確認しておく。
第9回	文書作成 4/社外文書(社交文書)	(学修内容) 社交文書のポイントを学び、簡単な社交文書を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 祝い状や礼状のポイントを確認しておく。
第10回	郵便の知識・ファイリング	(学修内容) 郵便の知識とファイリングの方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分自身の資料・プリントをファイリングしてみる。
第11回	雑談力	(学修内容) 初対面の人や親しくない人との会話(話題)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第12回	パブリックスピーキング	(学修内容) 公の場での話し方のポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 面接の場を想定して、パブリックスピーキングを考えてみる。
第13回	接客応対	(学修内容) お客さまを意識した接客応対を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常で目にする接客について考えてみる。
第14回	クレーム対応	(学修内容) 誠実なクレーム対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) クレームの理由や対応について確認しておく。
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでの学習したことを実践できるよう確認しておく。

授 業 名	観光実務			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2723
英 文 名	Practical Business in Tourism			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯川 宗紀			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中の「観光地理」を取り上げ、北海道から沖縄までの自然景観、世界遺産、温泉、祭、社寺など様々な視点から広範囲にわたる知識の取得をめざす。 最終的な目的は、旅行業務取扱管理者試験に合格することなので、国内旅行業務取扱管理者試験に向け、演習問題を取り入れ合格をめざす。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1.日本の各地域の観光資源の特徴を把握できる 2.日本の各地域の観光資源の位置関係を把握できる 3.日本の各地域の観光資源の特徴、位置関係を把握することにより観光ルートの習得ができる 								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	随時必要な資料を配付する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	テストの回答を解説する								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義の前後に対応する								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	観光実務		
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義概要 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス内容を確認する	
第2回	日本の観光資源 北海道	(学修内容) 北海道のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第3回	日本の観光資源 東北	(学修内容) 東北のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第4回	日本の観光資源 関東1	(学修内容) 関東のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第5回	日本の観光資源 関東2	(学修内容) 関東のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第6回	日本の観光資源 中部	(学修内容) 中部のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第7回	日本の観光資源 近畿1	(学修内容) 近畿のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第8回	日本の観光資源 近畿2	(学修内容) 近畿のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第9回	日本の観光資源 近畿3	(学修内容) 近畿のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第10回	日本の観光資源 中四国1	(学修内容) 中四国のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第11回	日本の観光資源 中四国2	(学修内容) 中四国のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第12回	日本の観光資源 九州・沖縄1	(学修内容) 九州・沖縄のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第13回	日本の観光資源 九州・沖縄2	(学修内容) 九州・沖縄のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第14回	日本の観光資源 九州・沖縄3	(学修内容) 九州・沖縄のカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う	
第15回	日本の観光資源 まとめ	(学修内容) これまでのカテゴリー別観光資源を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでのまとめを行う	

授業名	図書館情報技術論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CL2718
英文名	Theory of Library Information Technology			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	岡 紀子			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。								
学修成果到達目標	1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習・情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (課題遂行能力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	改訂 図書館と情報技術(樹村房)2018 4月発刊								
参考書	・メディアリテラシ(Computer ScienceLibrary15)植田裕子・増永良文(サイエンス社) ・最新情報リテラシー第4版-インターネットと情報機器を上手に利用するために-(監:久野靖他)大串 夏身(青弓社) ・デジタルアーカイブ 基点・手法・課題(文化とまちづくり叢書) 笠羽 晴夫(水曜社) ・検索スキルをみがく第二版検索技術者検定3級公式テキスト吉田孝明 森美由紀(樹村房)								
課題に対するフィードバックの方法	・提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。 ・制作物などについては、その実習中に個別に対応します。								
留意事項	・授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せずに各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既成概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。 ・自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。								
オフィスアワー	担当授業後に質問を受け付ける								
実践的教育									

授業名	図書館情報技術論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	(学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	(学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	(学修内容) 情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	(学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習0
第8回	図書館の新たなITの活用 その1	(学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術などを活用したシステムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第9回	図書館の新たなITの活用 その2	(学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスカバリーサービスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	(学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第11回	1) デジタルアーカイブ 2) 最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 3) 図書館における障がい者支援のとりくみ M-DAISY作成の概要、アカウントとPWを配布	(学修内容) 1) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする。 (事前事後学修課題の内容) (10分) アカウント・PWでアクセスの確認
第13回	最終レポート提出 プレゼンテーション(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(学修内容) レポート提出期限 課題レポートの発表(1) (事前事後学修課題の内容) (60分) mDAISY編集作業を継続
第14回	最終レポートのプレゼンテーション(2) プレゼンの状況に応じて、 マルチメディアDAISY作成の演習(3)継続	(学修内容) 課題レポートの発表(2) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続
第15回	最終レポートのプレゼンテーション(2) マルチメディアDAISY完成・提出(4)	(学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業完成

授 業 名	図書館サービス概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2711
英 文 名	Introduction to Library Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川瀬 綾子			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。授業では、図書館に関する映像を見たり、ディスカッションやレポートの作成、プレゼンテーションにも取り組む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を把握することができる。 2) 図書館における様々なサービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	高山正也・村上篤太郎編『改訂 図書館サービス概論』樹村房、2019年								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのようなサービスが行われているかなどを注意深く観察してください。授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて図書館サービスについて話をします。								

授業名	図書館サービス概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	(学修内容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法、本講義の進め方等についての説明)、図書館のサービスとはどのようなものであるのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念1 - 図書館サービスの概要 -	(学修内容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念2 - 図書館業務の概要 -	(学修内容) 図書館で行われている業務について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章3 - 5項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷	(学修内容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第2章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスとコンプライアンス	(学修内容) 知識のデジタル化・オープンアクセス化についてを中心に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	(学修内容) 資料提供サービスについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第4章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	(学修内容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第5章を読んでおくこと。レファレンスサービスに関する課題を課す。
第8回	図書館サービスの協力と連携	(学修内容) 図書館や関係機関との協力・連携について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第6章を読んでおくこと。
第9回	課題解決支援サービス	(学修内容) 各種課題解決支援サービスを事例映像を観ながら確認及び解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第7章を読んでおくこと。
第10回	利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて -	(学修内容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8・9章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスとコミュニケーション	(学修内容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。第7回の授業で課した課題の発表とディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。
第12回	図書館サービスと著作権1 - 著作権の概要 -	(学修内容) 著作権の意義と概要について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスと著作権2 - 図書館における著作権 -	(学修内容) 図書館で行われている複写サービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	(学修内容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。教科書第11章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	(学修内容) これからの図書館の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書を再度通読すること。

授 業 名	児童サービス論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	CL2712
英 文 名	Theory of Child Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	杉岡 和弘			対 象 学 生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>公共図書館にとって児童サービスは重要な担当業務である。子どもは、生涯続く図書館利用者だからです。知識を得るだけでなく、業務の実際を体験しながら、自発的に考え行動する児童図書館員の育成をめざします。</p> <p>子どもの図書館にとって、1. 子どもを知ること、2. 子どもの本を知ること、3. 子どもと本を結びつけること、が重要です。この3点を基軸に、子どもの読書、子どもの図書館、子どもの本を学習し、子どもの本を紹介する技術の習得を、ワークショップ形式で学んでいきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 公共図書館における児童サービスの役割を生涯学習者形成の観点から理解できること。</p> <p>2) 児童図書館員の役割を主眼に、講義中の各テーマについて自分の視点に沿って意見を論述できること。</p> <p>3) グループ討論を通して、根拠に根ざした意見を他者に伝えるスキルを身につけること。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力 (課題発見・解決能力 (
テ キ ス ト	使用しない(適宜プリントを配布)。								
参 考 書	<p>堀川照代編著、『児童サービス論』,日本図書館協会,2014,ISBN9784820413158</p> <p>日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス1・2』,日本図書館協会,2011,ISBN9784820411062,ISBN9784820411079</p> <p>杉岡和弘著、『子ども図書館をつくる』(図書館の現場 ; 4), 2005,勁草書房.ISBN9784326098309</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出物については、ポータルにて講評及びコメントする。</p> <p>コメントシートに記載内容については、授業内で適宜フィードバックする。</p>								
留 意 事 項	<p>授業は、学んだことをグループ討議を通して学習していく。また、グループ学習の報告・課題のレポート提出・小テストが学習システムで求められる。積極的に授業参加し、課題解決できるように受講してほしい。課題・小テストは、随時与えられるので、心構えしてほしい。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：香寺町立図書館における館長、姫路市立図書館における司書の実務経験をもとに、具体的な事例を紹介しながら解説します。</p>								

授業名	児童サービス論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要や課題、学習方法を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んで授業内容や到達目標と評価方法を確認しておく。 自分の幼い時の読書体験、図書館利用を討議する。
第2回	子どもを知る	(学修内容) 子どもの成長に応じた、読書の変化、子どもの情報行動について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの成長と読書の関係を、自分の経験をもとに考えておくこと。また、グループ討議します。
第3回	子どもの図書館を知る	(学修内容) 子どもの図書館が歩んできた過程を通して、児童サービスの重要性を学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の図書館経験をグループ討議します。また、課題「図書館見学レポート」が出題されます。
第4回	子どもの本を知る(1)	(学修内容) 就学前の子どもの本(わらべうた、なぞなぞ、昔話、絵本)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書からどの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第5回	子どもの本を知る(2)	(学修内容) 学童期の子どもの本(少年詩、児童文学、科学読み物、ノンフィクション)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書からどの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第6回	本を選ぶ(1)	(学修内容) 児童図書出版状況、選書の実際とその重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 児童サービスにとって選書の大切さを整理して置くこと。次週、また課題の「書評(レビュー)スリップ」を利用して選書会議をします。
第7回	本を選ぶ(2)	(学修内容) 書評(レビュー)スリップを利用して、グループ討議を通して選書を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 選書会議で、得られた他メンバーの意見の相違点や類似点を書評(レビュー)スリップにまとめておくこと。
第8回	書評を書く	(学修内容) 書評を書くことを通して、子どもの本を正しく捉え、評価することを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップをもとに、「書評を書く」課題について、締め切り、字数に留意して作成してください。
第9回	ブックリストを作る	(学修内容) 子ども向けの文章の違いを学び、子どものためのブックガイドの書き方、ブックリストを作成について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ討議「テーマ探し」を参考に、課題「ブックリストを作る」について書評(レビュー)スリップをもとに取り組んでください。
第10回	子どもの本を紹介する	(学修内容) 公共図書館で行われている読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど、子どもと本を結ぶ技術を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもに直接本を紹介する技術にはどのようなものがあるか、またどのような違いがあるか整理してください。
第11回	子どもの図書館を考える	(学修内容) 図書館計画において子どものために留意する点について学びます。レポート「図書館見学」をもとにグループ討議します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題「図書館見学レポート」をもとに、グループ討議をします。子どもに対する配慮や利用しやすい図書館を考えます。
第12回	児童室のレイアウトを考える	(学修内容) 図書館の中の児童室の書架レイアウトを考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題「児童室のレイアウトをつくる」が出題されます。グループ討議の意見を参考にし、課題に取り組んでください。
第13回	子どもの図書館の運営	(学修内容) ヤングアダルト、特別なニーズを持つ子どもたちに対する図書館サービス、他機関の連携を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ヤングアダルト文学の特徴、それぞれの特別なニーズに対してどのような資料があるか整理してください。
第14回	子ども読書活動推進計画を考える	(学修内容) 児童サービスを、政策として捉え、子どもの読書を推進していくための具体的な方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ討議「子ども読書活動推進計画を考える」を、次回授業時にプレゼンテーションで発表できるように準備をしてください。
第15回	おはなし会の実際とグループ発表「子ども読書活動推進計画」	(学修内容) おはなし会の実際について学ぶ。「子ども読書活動推進計画」をグループ発表します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 他のグループの「子ども読書活動推進計画」との相違や類似について整理してください。

授 業 名	社会の理解			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Understanding Society			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>わたしたちは、生計が安定し、安心して安全な地域社会の中で暮らすことができれば、特段の不満は生まれません。しかし、日本経済の不況や自然災害による被災者の二次被害などが、容赦なく国民の生活を奈落の底へと誘っている現実がある。そうした時に、国は社会保障という枠組みで、国民の生活を立て直す施策を展開するという仕組みがある。本講では、国民一人ひとりに付与されている尊厳の保持や権利擁護の視点に基づきながら、地域の中で生きていくために必要とされる社会保障について理解することを目的とします。さらには、子どもの貧困、子ども虐待、障害、高齢化、ワーキングプアなどの問題を取り上げ、その現状と背景を分析しながら原因と解決策をディスカッションを通して考えていきたい。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養うことができる。 2) 対象者の生活を地域の中で支えていく視点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につけることができる。 3) さまざまな環境にある対象者への介護実践に対応できるように、社会保障の制度や施策についてその基礎的な知識を身につけることができる。 4) 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲 ()		コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	増田幸弘・三輪まどか・根岸忠 編著『変わる福祉社会の論点』信山社 2018年								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。								
留 意 事 項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授業名	社会の理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) テキストのはしがきと目次を見ておくこと。
第2回	地域がどう変わったのか、変わるのか	(学修内容)地域の現状や市町村の役割について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「地域が変わる」(pp.3-40)を読んでおくこと。
第3回	高齢者を支える地域の仕組み	(学修内容)高齢者を取り巻く社会環境について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の内容をまとめておくこと。
第4回	介護とケアと子育てと	(学修内容)用語を頼りに現代社会における福祉的課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 介護と子育てのうちいずれかのトピックスを用意しておく。
第5回	家族の変容	(学修内容)家族のあり用について誰が介護をするのか、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「家族が変わる」(pp.41-80)を読んでおくこと。
第6回	生まれ方の多様化	(学修内容)子どもの誕生をめぐる問題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「2生まれ方の多様化」を読んでおくこと。
第7回	無戸籍児の福祉	(学修内容)無戸籍児の現状とその課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「4日本国民なのに登録されない!？」を読んでおくこと。
第8回	高齢者に群がる人びと	(学修内容)認知症高齢者の現状とその課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「6高齢者に群がる人びと」を読んでおくこと。
第9回	外国人労働者の受け入れとAI・ロボット時代	(学修内容)外国人労働者の受け入れをめぐる現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「働き方が変わる」(pp.81-128)を読んでおくこと。
第10回	現代日本における貧困について	(学修内容)貧困の現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「「中流」が変わる?」(pp.129-172)を読んでおくこと。
第11回	老後の社会保障	(学修内容)高齢者世帯の現状と課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「-4国民皆年金ではないの?」を読んでおくこと。
第12回	医療体制の変容と自分らしい最期を迎えるには	(学修内容)医療制度の変遷と終の棲家について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「医療が変わる」(pp.173-220)を読んでおくこと。
第13回	介護予防と社会保障	(学修内容)予防重視型システムのあり方について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト「5健康づくり・介護予防と社会保障」を読んでおくこと。
第14回	福祉現場のこれから	(学修内容)高齢者が増加する中で福祉施設に求められるものは何なのかを、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「福祉現場が変わる」(pp.221-255)を読んでおくこと。
第15回	まとめにかえて ～介護の魅力って、なに?～	(学修内容)介護の魅力について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テーマに沿った内容でまとめ、発表の準備を行っておくこと。

授 業 名	介護の基本			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Fundamental Nursing Care I			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>そのために、介護福祉士の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人の理解や介護実践における安全とリスクマネジメントについての介護実践の知識を理論的に学ぶ。</p> <p>この授業は、講義を主とするが、ディスカッションを行い進めていく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>多様化・高度化する介護ニーズ、介護福祉を取り巻く状況について理解することができる</p> <p>介護福祉士の専門性について理解できる。</p> <p>介護福祉士に求められる専門職としての態度が形成される</p> <p>介護実践における安全とリスクマネジメントについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座『介護の基本』、中央法規								
参 考 書	適宜、紹介します								
課題に対するフィードバックの方法	授業内レポートについては確認後返却します								
留 意 事 項	介護福祉を取り巻く状況等について、歴史的背景をおさえつつ、現在進行形である様々な課題について思考できるよう新聞やニュース等に目をむけてください								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業内でお知らせします 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授 業 名	介護の基本	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護の目的、基本的な考え方	(学修内容) シラバスに沿って授業の進め方を知る。介護とは何か、ディスカッションを行いながら介護福祉士のイメージを膨らませる (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 介護とは何か、介護福祉士の職務は何かを考え言語化しておく 事後 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく
第2回	障がいを持つ人の介護の歴史 ノーマライゼーションの理念	(学修内容) 障がいを持つ人の介護の変遷をから海外の優生思想、ノーマライゼーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく 事後 基本的人権について調べ発言できるようにしておく
第3回	障がいを持つ人の介護の歴史 基本的人権と尊厳の保持	(学修内容) 戦争時における障がいを持つ人の基本的人権と尊厳について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 基本的人権について調べ発言できるようにしておく 事後 在宅介護の変遷についてホームヘルプサービスをもとに調べる
第4回	日本の社会福祉史における介護福祉の位置づけ	(学修内容) 日本社会、家族機能の変化と高齢者に対する介護の変遷について学ぶ(施設介護、在宅介護) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 在宅介護の変遷についてホームヘルプサービスをもとに調べる 事後 介護保険法第1条を読み理解し、説明できるようにしておく
第5回	介護福祉制度のなりたちと発展	(学修内容) 時代に伴う介護ニーズの変化と措置制度から契約制度への変換を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護保険法第1条を読み理解し、説明できるようにしておく 事後 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく
第6回	介護福祉士の役割と機能1 法的根拠と介護福祉士法	(学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士法、及び介護福祉士養成や介護福祉士を支える専門職団体の役割や機能を学習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく 事後 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく
第7回	介護福祉士の役割と機能2 求められる介護福祉士像	(学修内容) 求められる介護福祉士像と生涯研修制度について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく 事後 介護福祉職の職業倫理について調べる
第8回	介護福祉士の役割と機能3 専門職の倫理	(学修内容) 介護福祉職の職業倫理や法廷遵守についてディスカッションをしながら学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 介護福祉職の職業倫理について調べる 事後 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる
第9回	介護福祉士の役割と機能4 介護福祉の基本理念	(学修内容) 介護福祉士の基本理念である「尊厳」「自立支援」を支える介護について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる 事後 介護職がチームで働くための多職種の職種と役割について調べる
第10回	多職種の機能と役割1 多職種の役割と専門性の理解	(学修内容) 医療・保健職の役割や機能について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護職がチームで働くための多職種の職種と役割について調べる 事後 自身の地域のサービスを調べまとめておく
第11回	多職種の機能と役割2 多職種の役割と専門性の理解	(学修内容) 介護福祉士以外の福祉職、その他インフォーマルな機能と役割について学習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 自身の地域のサービスを調べまとめておく 事後 介護労働によるリスクとは何か調べ、発表できるようにしておく
第12回	介護従事者の安全と健康管理	(学修内容) 介護労働に関する法律を理解し、安全な労働環境と作業環境について理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護労働によるリスクとは何か調べ、発表できるようにしておく 事後 感染症と感染経路について調べてくる
第13回	介護における安全の確保とリスクマネジメント	(学修内容) 実習施設に多い感染とリスクマネジメントについて演習を行いながら学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 感染症と感染経路について調べてくる 事後 課題を明らかにするために必要な資料をそろえる
第14回	介護福祉を取り巻く課題1 課題への取り組みとまとめ	(学修内容) 授業や時事から得た知識をもとに、介護福祉を取り巻く課題について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 課題を明らかにするために必要な資料をそろえる 事後 今日の学びを踏まえ発表準備を行う
第15回	介護福祉を取り巻く課題2 課題発表	(学修内容) 授業や時事から得た知識をもとに、介護福祉を取り巻く課題について考えたことを発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 発表準備を行う 事後 発表資料(レポート)を作成する

授 業 名	介護の基本			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Fundamental Nursing Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>住み慣れた地域で可能な限り生活を継続したいと願っている高齢者や障害者に対して、そのニーズを充足するために保健・医療・福祉の専門職からなる多職種の連携が叫ばれて久しい。本講では、介護福祉士の役割や機能について地域共生社会の理念などを通して理解し、現場において介護実践に求められる観察力、判断力及び思考力を養うことを目的とします。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 介護福祉士に求められる役割と機能について理解し、専門職としての態度を養うことができる。 2) 専門職倫理について理解し、介護実践における判断力や思考力を養うことができる。 3) 多職種の専門性を理解し、自立に向けた介護について考えることができる。 4) 介護を必要とする人の生活を支援するためのサービスをマネジメントすることができる。 5) 介護におけるリスクマネジメントと労働環境の整備・改善について考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	介護福祉士養成講座編集委員会編『介護の基本』中央法規 2019年								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。								
留 意 事 項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実 践 的 教 育									

授業名	介護の基本	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストを必ず購入しておくこと。
第2回	介護福祉士の専門性	(学修内容)介護福祉士を取り巻く社会環境を整理し、その専門性について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。
第3回	介護福祉士の倫理	(学修内容)介護福祉士の倫理について、ワークシートを使用しながらディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 前回の講義後に配布したワークシートを完成させて、持参する。
第4回	介護サービスの特性と歴史の変遷	(学修内容)戦後の高齢者福祉に関する制度の変遷とその背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。
第5回	高齢者に対する居宅系サービスの場とその特性	(学修内容)高齢者への居宅系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。
第6回	高齢者に対する入所系サービスの場とその特性	(学修内容)高齢者への入所系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。
第7回	障害者に対する居宅系のサービスの場とその特性	(学修内容)障害者への居宅系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。
第8回	障害者に対する入所系サービスの場とその特性	(学修内容)障害者への入所系福祉サービスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 必要事項を記したワークシートを完成させ、持参すること。
第9回	介護実践における連携について	(学修内容)多職種連携、チームケアについて理解し、介護福祉士の役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。
第10回	介護における安全の確保について	(学修内容)安全確保におけるリスクマネジメントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。
第11回	介護の場における事故防止と安全対策について	(学修内容)介護の現場において予測できる事態への対応について、口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンテーションに必要な資料を収集し、まとめておくこと。
第12回	感染症対策について	(学修内容)感染症について理解し、対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。
第13回	こころとからだの健康管理	(学修内容)専門職として必要なセルフケアについて、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指示したテキストの章を読んでおくこと。
第14回	よりよく生きるために	(学修内容)高齢者・障害者が最期まで生き生きを支えることができる地域社会について、口頭発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンテーションに必要な資料を収集し、まとめておくこと。
第15回	最終講 ～介護への「望み」～	(学修内容)介護への「望み」について、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 全講をふりかえり、「望み」について考えておくこと。

授 業 名	介護ソーシャルワーク論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Theory of Nursing Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>ソーシャルワークとは、狭義には相談援助をさす言葉であり、広義には社会福祉援助全般をさす言葉である。本講義では、ソーシャルワークを広義にとらえ、ソーシャルワークを実践する1つの技術として介護を明確に位置付けることで、ソーシャルワークの理論に基づく介護の展開について考えていく。介護福祉学は実践の学であることから、理論を学ぶだけではなく、学生が自分で考え、自分の意見を表明し、教員や学生同士でディスカッションする場を大切に授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ソーシャルワークの基礎理論を用いて介護場面(事例)に活用できる。 2) 地域包括ケアシステムが推進される意味について説明できる。 3) 自分自身の地域の社会資源を調べ発表することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	必要なプリント等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出課題(レポート等)については口頭でコメントするか、コメントを記入して現物を返却する。								
留 意 事 項	「介護ソーシャルワーク」という概念は決して主流ではないので、既存の「介護」という概念にとらわれず、学びの中で常に新しく柔軟に考えることを大切にする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示し、授業時に口頭でも伝える。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会にて地域福祉権利擁護事業専門員として相談援助職として勤務</p>								

授業名	介護ソーシャルワーク論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーションと導入 ソーシャルワークとは何か？(ソーシャルワークの定義)	(学修内容) 国際ソーシャルワーカー連盟の定義を解説しながら、ソーシャルワークの特徴を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 シラバスの内容に目を通しておく。 事後 地域の社会資源を理解するための資料を収集する
第2回	ソーシャルワークの理論的展開 (課題解決アプローチまで)	(学修内容) ソーシャルワークの理論的変遷について、診断主義と機能主義の論争を経て課題解決アプローチに至る経過を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 地域の社会資源を理解するための資料を収集する 事後 ICFの概念について復習し説明できるようにしておく
第3回	ソーシャルワークの理論的展開 (医学モデルから生活モデルへ)	(学修内容) 1980年を境に医学モデルから生活モデル(社会モデル)に転換し現在に続くソーシャルワークの理論的基礎について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ICFの概念について復習し説明できるようにしておく 事後 授業で示すいくつかの用語について調べてくる
第4回	ソーシャルワークの理念 ノーマライゼーションの理解	(学修内容) ノーマライゼーションとインクルージョン、権利擁護に関する文献を用いた事例検討と講義を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 授業で示すいくつかの語句について調べてくる 事後 憲法11条~14条までの意味を調べてくる
第5回	ソーシャルワークの理念 利用者本位、自立支援の理解	(学修内容) 事例をもとに、利用者本位と人権尊重、自立支援に関する文献・憲法の理解をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 憲法11条~14条までの意味を調べてくる 事後 ソーシャルワークを構成する要素を調べてくる
第6回	ソーシャルワークを構成する要素	(学修内容) ソーシャルワークの「目的」「価値」「知識」「方法・技能」「権限の委任」について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ソーシャルワークを構成する要素を調べてくる 事後 バイステックの7原則を書き写す
第7回	ソーシャルワークの基本原則 バイステックの7原則	(学修内容) バイステックの7原則を丁寧に読み込むことで、ソーシャルワークの基本原則、立ち位置について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 バイステックの7原則を書き写す 事後 配付プリントを読んでくる
第8回	相談援助(ケースワーク)の展開過程 ケースの発見とインテーク	(学修内容) 演習シートを活用し、本人及び家族の援助場面におけるケースワークの展開についてディスカッションを取り入れながら授業を進める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 配付プリントを読んでくる 事後 ディスカッションを通じて感じたことをまとめる。
第9回	地域包括ケアシステムの構築と推進 地域の理解と地域包括ケアシステム	(学修内容) 持続可能なシステムの構築を目的とした地域包括ケアシステムの捉え方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ディスカッションを通じて感じたことをまとめる。 事後 見学実習の注意について配付資料を読む
第10回	地域包括ケアシステムの構築と推進 リガーレ北大路の取り組み	(学修内容) 地域包括ケア実現に向けた「地域ケア」のとりくみについて実践している事業所を見学する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 見学実習の注意について配付資料を読む 事後 学んだことをレポートにする
第11回	地域包括ケアの構築と推進 社会資源の考え方	(学修内容) 地域の考え方とフォーマル・インフォーマルな社会資源について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 学んだことをレポートにする 事後 学んだことをレポートにする
第12回	ケアマネジメントと介護支援専門員の役割	(学修内容) ケアマネジメントの方法と介護支援専門員の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 学んだことをレポートにする 事後 配布した資料(厚生労働省通知)に目を通し、質問を考えておく
第13回	災害と介護ソーシャルワーク 災害活動と福祉チーム	(学修内容) 介護ソーシャルワークが必要となる災害時の援助活動について、災害派遣福祉チームの動きも交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 配布した資料(厚生労働省通知)に目を通し、質問を考えておく。 事後 配付資料を読んでおく
第14回	災害と介護ソーシャルワーク 京都府災害派遣福祉チーム(京都DWAT)	(学修内容) 災害ソーシャルワークの枠組みを踏まえ、ゲストを呼び、東日本大震災、熊本地震、西日豪雨の事例を活用し、質疑応答を交えながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 配付資料を読んでおく(過去の災害、熊本、阪神大震災等) 事後 発表されたことに対してレポートにする
第15回	授業の振り返りと総括	(学修内容) 地域における社会資源についてまとめてきたものを発表しあい、社会資源の捉え方を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 発表されたことに対してレポートにまとめる 事後 今までの配付資料の整理

授 業 名	チームマネジメント論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Theory of Team Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護実践は介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、介護実践をマネジメントを行うために必要な組織の運営と管理、人材育成の活用、それらに必要なリーダーシップとフォロワーシップなど、チームで働く力を養うためのストレスマネジメントやチームマネジメントの基礎的な知識を身につけることを目指します。本授業では、講義の他、様々なチームのあり方、多様なメンバーでの会議、事業所組織の経営についてゲストを呼び学ぶ機会をもちます。</p> <p>また、反転授業を行うため、事前にしておかなければならない学修課題については必須です。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>福祉サービスにおける組織の機能や構造を説明できる チームでケアを展開するために必要なチームの構成や役割について説明できる リーダーとフォロワーの役割について説明できる チームで働くためのストレスマネジメントについて自分自身のマネジメント方法を見つけることができる</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	適宜、プリントを配布します								
参 考 書	古川久敬 『グループマネジメント入門』日本介護協会出版会								
課題に対するフィードバックの方法	授業内レポートは確認後、コメントを入れ返却を行う								
留 意 事 項	マネジメントの知識や、介護実践にかかわる問題理解と解決にむけた考え方を得るために役立ちます。様々な現場へ出向く機会もあるので、積極的に学んでください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業時に提示します 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実践的教育									

授業名	チームマネジメント論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 実習から学ぶチームマネジメント	(学修内容) 4つの特性を軸に介護サービスに求められるチームマネジメントの視点を学習する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 実習で学んだチームとチームを構成するメンバーを整理しておく
第2回	介護実践におけるチームの実際	(学修内容) チームの目的とリーダーとフォロワーの役割について実習で学んだことをディスカッションしながら確認する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習で学んだチームとチームを構成するメンバーを整理しておく 事後 感情労働をしている他の職種について調べ発言できるようにする
第3回	介護従事者の心身の管理1 介護労働と感情労働	(学修内容) 感情労働の意味と感情労働である介護福祉職での働き方を理解し、働き方への影響について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 感情労働をしている他の職種について調べ発言できるようにする 事後 自身のストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする
第4回	介護従事者の心身の管理2 ストレスとストレスマネジメント	(学修内容) 介護労働におけるストレス要因とそのマネジメント方法についてディスカッションを行いながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 自身のストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする 事後 スーパービジョンの機能について調べ発言できるようにする
第5回	介護従事者の心身の管理3 スーパービジョンの機能と役割	(学修内容) スーパービジョンの機能について事例を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 スーパービジョンの機能について調べ発言できるようにする 事後 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる
第6回	介護従事者の心身の管理4 チーム内の関係性をつくるマネジメント	(学修内容) 社会人基礎力をもちに、求められる社会人像を明確にし、人間関係を作るための傾聴力、情動のマネジメントについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる 事後 実習施設の組織図を持参する
第7回	チーム運営の基本1 組織と運営管理	(学修内容) 多様な施設の組織図を活用し、法人と事業所、事業所組織の階層等について学習する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習施設の組織図を持参する 事後 聞きたいこと、質問内容を考えてくる
第8回	チーム運営の基本2 組織と運営管理の実際	(学修内容) 協力施設に出向き実習、事業所の組織とマネジメント方法について学習する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 聞きたいこと、質問内容を考えてくる 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する
第9回	チーム運営の基本3 事業所組織の役割と機能	(学修内容) 介護サービス事業所における設備、備品、人材確保やハラスメント防止について学習する (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習の施設・事業所の設備や備品等の取り扱いについてまとめる 事後 リーダーやフォロワーの果たす役割について調べてくる
第10回	チーム運営の基本4 実践力を高めるためのチームマネジメント	(学修内容) 介護実践をされているリーダー職から、リーダーシップ及びフォロワーシップの実際を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 リーダーやフォロワーの果たす役割について調べてくる 事後 事前に配布した資料を読み、説明できるようにしておく
第11回	人材の育成と管理1 コーチングの基本的な考え方	(学修内容) コーチングの基本を理解し、事例をもとにロールプレイングを行いながら傾聴、話し方の工夫を行う。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 事前に配布した資料を読み、説明できるようにしておく 事後 OJTとOFF J Tについて説明できるようにしておく
第12回	人材の育成と管理2 キャリア開発の仕組み	(学修内容) 介護施設における委員会やOJTの必要性と活用について学習する。(委員会、OJT等) (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 OJTとOFF J Tについて説明できるようにしておく 事後 聞きたいこと、質問内容を考えてくる
第13回	人材の育成と管理3 キャリア開発の仕組みの実際	(学修内容) 協力施設に出向き実習、委員会やOJTが、どのように策定されているのかを学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 聞きたいこと、質問内容を考えてくる 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する
第14回	人材の育成と管理4 プリセプター制度の意義、目的、方法	(学修内容) プリセプター制度の意義と目的、方法について具体的に学び、社会人1年生に對して行われるプリセプターの実験を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 学んだ内容をまとめレポートにして提出する 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する
第15回	まとめ	(学修内容) プリセプター制度の意義を理解し、実習終了後のアンケートをもとにありたいリーダー像を明確にする (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 学んだ内容をまとめレポートにして提出する 事後 ありたいリーダー像についてまとめレポートにする

授 業 名	ターミナルケア論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Thory of Terminal Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>「死」とは何か？「いのち」って何だろう？この問いにははっきりとした答えはあるのだろうか。人は必ず死ぬという事実は、知識としてみなさんは理解しています。しかし、あなた自身や親しい人が余命いくばくもないと告知を受けたとしたら、あなたはどのような思いを抱きますか。</p> <p>本講では、まず現代社会における「死」の様相を明らかにし、次いで「死にゆく人」への関わりについて社会福祉なかならず介護においてどのような視点で捉えていくことが必要とされるのかについて考察を深めていきたい。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 現代社会における「死」と「生」について意見を述べるができる。</p> <p>2) 自らの死生観を養うことができる。</p> <p>3) 介護における終末期の関りについて「こころ」と「からだ」の両面より支援する技術と創造力を身につけることができる。</p> <p>4) 「生きること」への執着ではなく人生観を見出すことができる。</p> <p>5) 安楽死や尊厳死の違いについて説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (65 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (35 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	随時資料を配布する。								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。								
留 意 事 項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授業名	ターミナルケア論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか？～	(学修内容) 講義の進め方、成績評価の方法について説明する。 「死」に関してディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(15分) シラバスより学びの道筋をイメージしておく。
第2回	現代社会における誕生と死	(学修内容) 統計資料に基づき誕生と死の現状を把握し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『国民の福祉と介護の動向』『国民衛生の動向』や人口動態統計のサイトを閲覧しておく。
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	(学修内容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 時事問題の中から学修項目に照らした気になる話題を選択しておく。
第4回	ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～	(学修内容) ターミナル・ケアの歴史をその語義よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第5回	ターミナル・ケアの歴史 ～ビハラの誕生と成立過程～	(学修内容) 仏教と基礎としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第6回	全人的ケアについて ～4つの痛みへのアプローチ～	(学修内容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第7回	ホスピス病棟の実際 ～がん看護専門看護師を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ホスピス病棟では、どのようなケアが展開されているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第8回	ビハラ病棟の実際 ～病と向き合う僧侶を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ビハラ病棟では、僧侶がどのようなケアを展開し、患者と向き合っているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第9回	痛みを緩和する ～寄り添うケアに向けて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；終末期の患者をアセスメントし、シートに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、アセスメントシートに患者のニーズを記入し、どのようなケアを展開する必要があるのかをまとめる。
第10回	痛みを緩和する ～遺されるものへのケア～	(学修内容) ビデオ鑑賞；遺族の気持ちに寄り添いながら展開される緩和ケアについて知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第11回	生死をめぐる諸問題 ～生殖補助医療とその課題～	(学修内容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上で、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。
第12回	生死をめぐる諸問題 ～安楽死と尊厳死～	(学修内容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく意見を述べる事ができるよう事例を通して学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。
第13回	満足な看取りは可能か？ ～福祉施設での看取り～	(学修内容) ビデオ鑑賞；福祉施設での看取りについて考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第14回	満足な看取りは可能か？ ～在宅緩和ケアの現場より～	(学修内容) ビデオ鑑賞；在宅での緩和ケアの現場を取り上げ、家で看取ることについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支える介護とは～	(学修内容) 「生ききる」ことを支えることのできる地域社会の構築について考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びについて各回の要点をまとめておくこと。

授 業 名	介護技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nursing Care Work Skills			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の能力を活用し、自立を支援するための生活支援技術（食事・排泄・清潔保持等）の基本を習得する。自分が行った技術について、科学的に説明できる能力を身につけるための学習とする。 この授業は、2コマを利用し、理論と実践を行う。実践については、学内で自分自身が対象者になる実体験を行うとともに、協力施設に向いて行うこともある。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な生活支援技術を身につける 2) 実践の根拠について説明できる。 3) 介護を受ける側の気持ちを理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	最新 介護福祉士養成講座7 『生活支援技術』中央法規 最新 介護福祉士養成講座7 『生活支援技術』中央法規のテキストについては、下記の授業でも使用します。 春学期 「介護技術」 - 木村先生担当								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	毎回行う小テストは、確認後コメントをいれて返却を行う。 提出されたレポート等においても同様。								
留 意 事 項	なぜ、この方法をとっているのかということを常に頭におきながら介護技術を行ってください。 実践時には、メモを取りながら積極的に見学を行ってください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業内で発表する 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授 業 名	介護技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 自立にむけた食事の介護 食事介助の意義と目的	(学修内容) 授業の概要説明、食事介助の意義(生理的、心理的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 シラバスを読んでおくこと 事後 自身の食文化について人に説明できるようにしておく
第2回	自立にむけた食事の介護 食事介助の基本	(学修内容) 「食べる」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 自身の食文化について人に説明できるようにしておく 事後 テキストp2~40でわからない語句を調べノートにまとめる
第3回	自立にむけた食事の介護 用具の選択と食事形態	(学修内容) 食事に必要な様々な用具を見学し、食事形態(とろみ、ミキサー等)を試食し、口から食べる意味について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp2~40でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 口腔ケアの意義と方法について調べてくる
第4回	自立にむけた食事の介護 用具の選択と食事形態の振り返り 食事後の口腔ケア	(学修内容) 食事後の口腔ケアの意義や目的、方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 口腔ケアの意義と方法について調べてくる 事後 テキストp41~80でわからない語句を調べノートにまとめる
第5回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔の介護の意義と目的	(学修内容) 入浴・清潔保持の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)をディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp41~80でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp81~150でわからない語句を調べノートにまとめる
第6回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護	(学修内容) 「清潔保持」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する。足浴、手浴の実践。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキストp81~150でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp151~220でわからない語句を調べノートにまとめる
第7回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 入浴におけるリスクとリスクマネジメント	(学修内容) 「清潔保持」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術の実践。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキストp151~220でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp221~270でわからない語句を調べノートにまとめる
第8回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 洗髪の介護	(学修内容) 洗髪の実践、入浴における事故とその対応を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキストp221~270でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp271~330でわからない語句を調べノートにまとめる
第9回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 特殊入浴を行う利用者	(学修内容) 見学実習を行い、特殊入浴の様子を知る。一人の人を対象にし、その人の心身状態を観察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp271~330でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 テキストp330~でわからない語句を調べノートにまとめる
第10回	自立にむけた排泄の介護 排泄介護の意義と目的	(学修内容) 排泄介護の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp330~でわからない語句を調べノートにまとめる 事後 今までの小テストの復習をする
第11回	自立にむけた排泄の介護 排泄の基本的介護	(学修内容) 「排泄介護」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術を実践する用具を使用した排泄介護(ポータブルトイレ、便尿器、おむつ)。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 今までの小テストの復習をする 事後 ストマについて調べてくる
第12回	自立にむけた排泄の介護 心身の状態に応じた排泄介護	(学修内容) ストマのある方の排泄介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 ストマについて調べてくる 事後 ストマをつけ生活したことをレポートにまとめる
第13回	自立に向けた休息・睡眠の介護 休息・睡眠の介護の意義	(学修内容) 休息と睡眠の介護の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ストマをつけ生活したことをレポートにまとめる 事後 実技テストのための復習をする
第14回	自立に向け休息・睡眠の介護 休息・睡眠の基本的介護	(学修内容) 良質な睡眠のための方法をディスカッションを行い根拠とともに考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実技テストのあめの練習をする 事後 実技テストのための練習をする
第15回	実技テストと振り返り	(学修内容) 実技テストを行い、その後振り返りディスカッションを行う。なぜその方法をとったのかということの説明できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実技テストの準備として練習を行う 事後 実技テストに必要な知識について用紙にまとめ提出する

授 業 名	介護技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nursing Care Work Skills			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>対象者の能力を活用し、対象者の状態・状況に応じた自立を支援するための生活支援技術、医療との連携や人生の最終段階の介護方法を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。</p> <p>この授業は、2コマ連続で、理論と実技を同時に行います。介護技術の総まとめですので、他の授業で学んだ知識を活かし、テキストを読み込みわからない語句がないようにノートに調べまとめておくようにしてください。毎授業時、小テストがあります。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>医療との連携において介護福祉士としての役割を明確にし、それを言語化することができる。</p> <p>基本的な介護技術を習得することができる。</p> <p>実践の根拠について他者に説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	<p>最新 介護福祉士養成講座8 『生活支援技術』中央法規 春学期 「介護技術」 木村先生担当の授業でも使用したテキストを使用します。</p>								
参 考 書	<p>宮崎総一郎・佐藤尚武 『睡眠と健康』、放送大学教育振興会、2013</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>見学実習のレポートについては、コメントを入れて返却します。</p>								
留 意 事 項	<p>施設での実践時には、メモを取りながら積極的に見学を行ってください。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>授業最初にお知らせします 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務</p>								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス 介護技術 の復習	(学修内容) 授業の進め方の理解。 介護技術 の復習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護技術 で学んだことを見直しておくこと 事後 実習で学んだ感染予防についてまとめレポートにする	
第2回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 リラクゼーション	(学修内容) 副交感神経を高めるための方法を考え、癒しを目的としたマッサージを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習で学んだ感染予防についてまとめレポートにする 事後 テキスト2~30を読み、わからない語句を調べる	
第3回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 電法	(学修内容) 症状を軽減させるために家庭で行っている温電法と冷電法の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト2~30を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp31~45を読み、わからない語句を調べる	
第4回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際	(学修内容) 見学実習を行い、休息・睡眠の様子を知る。 実際にリラクゼーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp31~45を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp45~62を読み、わからない語句を調べる	
第5回	医療と介護 介護福祉士と医療行為、医療的ケアの違いを学ぶ	(学修内容) 医師法第17条に基づく内容の理解を行い、介護福祉士が医療的ケアを行う法的、歴史的意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp45~62を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp63~90を読み、わからない語句を調べる	
第6回	医療と介護 薬剤の知識と介護福祉士が行う薬剤使用	(学修内容) 介護福祉士が行う薬剤使用の方法、留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp63~90を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp91~120を読み、わからない語句を調べる	
第7回	医療と介護 緊急時の対応	(学修内容) 異常時の発見と在宅における緊急時の対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp91~120を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp121~157を読み、わからない語句を調べる	
第8回	医療と介護 心肺蘇生法	(学修内容) 心肺蘇生法やAEDの使い方を学び、普通救命救命を取得する。 (事前事後学修課題の内容) (600分) 事前 テキストp121~157を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp158~195を読み、わからない語句を調べる	
第9回	人生の最終段階における介護 死を迎える人の介護	(学修内容) 人生の最終段階の意義とその段階にある人への介護の視点を理解し、臨終に向かうプロセスと生活支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp158~195を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp196~228を読み、わからない語句を調べる	
第10回	人生の最終段階における介護 死後のからだを整える	(学修内容) 死後に行う介護や家族支援、グリーフケアについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp196~228を読み、わからない語句を調べる 事後 テキストp246~294を読み、わからない語句を調べる	
第11回	障害に応じた介護 感覚障害	(学修内容) 感覚障害(視覚、聴覚)に応じた介護の方法を、事前・事後学習してきた内容を踏まえ、他者にティーチングする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp246~294を読み、わからない語句を調べる 事後 ティーチングするための資料作成	
第12回	障害に応じた介護 内部障害	(学修内容) 内部障害に応じた介護の方法を、事前・事後学習してきた内容を踏まえ、他者にティーチングする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ティーチングするための資料作成 事後 ティーチングするための資料作成	
第13回	障害に応じた介護 難病	(学修内容) 難病に応じた介護の方法を、事前・事後学習してきた内容を踏まえ、他者にティーチングする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ティーチングするための資料作成 事後 介護技術試験の作成をする	
第14回	知識と技術の統合 介護技術試験の作成	(学修内容) 介護技術試験をグループで考え作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 作成に必要な根拠となる資料を集めておく 事後 介護技術試験を仕上げ発表できるようにしておく	
第15回	知識と技術の統合 介護技術試験発表と振り返り	(学修内容) 介護技術試験の発表を行い内容を振り返りディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 作成した試験を行えるよう準備しておく 事後 行ったあとの振り返りをレポートにして提出する	

授 業 名	介護過程			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nursing Care Process I			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	金澤 美穂子			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	利用者の望む生活の実現のためには、利用者ひとりひとりの生活上の課題を明確にし、根拠に基づいた介護実践が求められる。この授業では、利用者の課題解決の思考過程としての介護過程について、グループワークやディスカッションを取り入れながら、事例を通して学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 介護過程の意義を理解し、介護過程の全体像を説明出来る。 2. 事例において、諸科目で学んだ知識を統合したうえで生活課題を導き、その過程を説明できる。 3. 事例を通して、介護過程の展開を実施できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (思考力)	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された作成物は確認後、コメントを入れて返却します。								
留 意 事 項	授業で使用したプリントや作成したシートは、毎回持参してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の業務経験など：社会福祉法人洛東園にて介護支援専門員、介護職員として勤務。								

授業名	介護過程	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 介護過程の意義と目的	(学修内容) シラバスをもとに授業の概要説明を説明する。 介護過程の意義と目的を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを読んでおいてください。 テキスト 第1章を読んでおいてください。
第2回	介護過程の全体像	(学修内容) 介護過程の全体像、各プロセスの思考方法を理解する。 介護過程の展開における知識の統合について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト 第2章第1節、2節を読んでまとめておいてください。 介護過程のプロセスを確認しておいてください。
第3回	アセスメント 情報収集	(学修内容) 情報収集の必要性を理解し、事例を通してICFを活用した情報収集を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布した事例を読んでおいてください。 テキスト 第2章第3節を読んで、まとめておいてください。
第4回	アセスメント 情報の解釈、関連付け、統合、生活上の課題	(学修内容) グループワークを通して、アセスメントにおける専門的諸知識の統合、アセスメントの思考について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で行った情報収集でわからない語句を調べておいてください。 テキスト第2章第4節を読んでおいてください。
第5回	施設で生活する利用者の事例検討 1 情報収集	(学修内容) 事例を通して、実際の情報収集の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配布した事例を読み込み、わからない語句があれば、調べておいてください。
第6回	施設で生活する利用者の事例検討 2 情報の整理、全体像	(学修内容) グループワークを通してさらに情報収集を進め、対象の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で行った、情報収集したシートを整理しておいてください。
第7回	施設で生活する利用者の事例検討 3 情報の解釈、関連付け、統合、生活上の課題	(学修内容) 整理した情報に他の科目で学習した知識を活用し、解釈、関連付け、統合の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 整理した情報の中にある語句を説明できるように調べておいてください。
第8回	施設で生活する利用者の事例検討 4 介護目標	(学修内容) 事例について、ディスカッションしながら、介護目標の設定方法、計画立案の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で作成したアセスメントシートを読んでおいてください。 テキスト第2章 第5節を読んでおいてください。
第9回	施設で生活する利用者の事例検討 5 実施・評価	(学修内容) 介護計画実施における留意点、記録の方法、評価の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト第2章 第6節 第7節を読んでおいてください。 テキスト第3章を読んでおいてください。
第10回	在宅で生活する利用者の事例検討 1 情報収集	(学修内容) 事例を通して、情報収集の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配布した事例を読み込み、対象者の自宅での生活をイメージしてきてください。
第11回	在宅で生活する利用者の事例検討 2 情報の整理、全体像	(学修内容) グループワークを通してさらに情報収集を進め、対象の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回作成した情報収集シートを整理してきてください。
第12回	在宅で生活する利用者の事例検討 3 情報の解釈、関連付け、統合、生活上の課題	(学修内容) 整理した情報に他の科目で学習した知識を活用し、解釈、関連付け、統合の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 整理した情報の中にある語句を説明できるように調べておいてください。
第13回	在宅で生活する利用者の事例検討 4 介護目標、計画立案	(学修内容) 事例について、ディスカッションしながら、介護目標の設定方法、計画立案の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 在宅において利用できる様々な介護サービス等を調べてきてください。 テキスト第2章 第5節を読んでおいてください。
第14回	在宅で生活する利用者の事例検討 5 実施・評価	(学修内容) 在宅生活における、介護計画実施についての留意点、記録の方法、評価の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第2章 第6節 第7節を読んでおいてください。 テキスト第3章を読んでおいてください。
第15回	介護過程の実際	(学修内容) 実施された介護過程の展開により、利用者がどのような生活を送っているのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) ケアプランについて調べておいてください。 紹介した事例について感想文を書く。

授 業 名	介護過程			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nursing Care Process			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できることを目的とします。</p> <p>夏季実習で行った介護過程の展開を見直し、上記の目的と照らし、自身に必要な学びを深める授業となります。</p> <p>個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるように、この授業においては、事例を使用し、介護過程の展開を行います。</p> <p>介護過程の展開を行うためには、科学的根拠が必要となるため、様々な知識を必要とするので、授業以外にもおおいに専門書を読んでください。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. チームとして介護過程を展開することの意義を理解できる</p> <p>2. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開ができる</p> <p>3. 介護過程の展開について、人に説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業内容に沿ったワークシートと資料を必要に応じて配布する								
参 考 書	適宜、紹介します								
課題に対するフィードバックの方法	課題（事例）は確認後、コメントをいれ返却します。								
留 意 事 項	<p>テキストで紹介されている考え方や他の人の考えに左右されず、自分の考えや視点を明らかにし、その考えをわかりやすく人に説明できるようにしてください。</p> <p>特に、介護過程では人間科学の視点が大きくその人に影響しますので、テキスト以外の本も参考にしてください。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業内で提示します 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育</p> <p>教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務</p>								

授業名	介護過程	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護過程とチームアプローチ1	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 再確認に必要な資料を集めておく 事後 まとめたものを発表できるように資料を作成する
第2回	介護過程とチームアプローチ2 他の専門職のケアとの関係性	(学修内容) 介護過程を行う上でのチームとチームアプローチについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 まとめたものを発表できるように資料を作成する 事後 発表する準備を行う
第3回	介護過程とチームアプローチ3 チームとしての介護過程の展開	(学修内容) チームの目標設定とチームケアの必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 発表する準備を行う 事後 カンファレンスの行い方について予習しておく
第4回	介護過程とチームアプローチ4 カンファレンスの持ち方についての理解	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認したものを資料をもとにカンファレンスを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 カンファレンスの行い方について予習しておく 事後 発表後の教員からのコメント等を踏まえレポートにする
第5回	介護過程の展開の理解1 事例理解	(学修内容) 事例をもとに、情報の理解を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 事例を読んでおく 事後 情報の読み込みに必要な資料を集める
第6回	介護過程の展開の理解2 事例を用い、ICFの観点を考える	(学修内容) 事例からICFへの分類を行い、ICFの理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 情報の読み込みに必要な資料を集める 事後 ICFについて復習しておく
第7回	介護過程の展開の理解3 事例を用い、統合・分析を行う	(学修内容) 事例をもとに情報を統合し分析を行い、分析に必要な知識を再確認する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ICFについて復習しておく 事後 分析に必要な資料を集める
第8回	介護過程の展開の理解4 事例を用い、ニーズの抽出と優先を考える	(学修内容) 事例からニーズを抽出しニーズの考え方、利用者主体について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 分析に必要な資料を集める 事後 マズローの欲求段階を復習しておく
第9回	介護過程の展開の理解5 事例を用い、目標設定する	(学修内容) 事例からその人の望む目標設定の考え方について学ぶ。短期目標、長期目標を考えたことを確認する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 マズローの欲求段階を復習しておく 事後 マズローの欲求段階を復習しておく
第10回	介護過程の展開の理解6 事例を用い、計画策定する	(学修内容) 優先順位の高い目標設定を行い、それが可能になるための計画を策定する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 マズローの欲求段階を復習しておく 事後 計画に必要な内容をまとめ模造紙に仕上げる
第11回	介護過程の教授法1 介護過程について自身が教授する	(学修内容) 介護過程の振り返りを行い、ひとつひとつの意味の言語化を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 今までに配布した資料、参考になる図書をまとめ持参する 事後 教授するために必要なレジュメを作成する
第12回	介護過程の教授法2 教授するための方法を理解する	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)にディスカッションを行いながら必要なレジュメの作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 教授するために必要なレジュメを作成する 事後 レジュメに必要な図書を集める
第13回	介護過程の教授法3 教授するためのレジュメの作り方を学ぶ	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)に必要なレジュメを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 レジュメに必要な図書を集める 事後 レジュメを最後まで完成させる
第14回	介護過程の教授法4 レジュメを使った指導の実践を行う	(学修内容) レジュメを使って発表準備を行う。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 レジュメを最後まで完成させる 事後
第15回	介護過程の教授法5 介護過程の展開についての実践を振り返る	(学修内容) 介護過程の教授法をプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前 発表に必要な物品等の準備を行う 事後 事後指導された内容を含め振り返りレポートにして提出する

授 業 名	介護総合演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nursing Care Practce I			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵・野田 隆生			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の教育効果を高めるため、介護実習に向けての心がまえ、動機付け、事前の実習する施設や事業所についての理解等の準備を行うとともに、その他介護実習に必要な知識・技術・態度等について習得することをねらいとする。講義を中心とするが、ディスカッションを通し、理解を深められるように進めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	介護実習の目的や目標を理解し、それらに必要な事前の準備及び学習をすることができる 介護福祉士の対象を理解することができる 実習のイメージを膨らませ、自身の実習目標や学習課題を整えることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規								
参 考 書	社会福祉小六法 是枝祥子他『介護職のための根拠に基づいた記録の書き方』エルゼビアジャパン、2006 福祉用語辞典								
課題に対する フィードバック の方法	授業内レポートは確認後添削を行い返却する。 実習目標、実習記録、プロセスレコード等の実習課題についても同様である。								
留 意 事 項	実習先では、知識や技術と同様、利用者や職員とのコミュニケーションや誠実な態度が求められます。授業においても積極的に教員とコミュニケーションをとるようにしてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に提示します。必要ときにはGメールを活用して連絡してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授 業 名		介護総合演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス 介護実習の概要 介護総合演習の位置づけを理解する	(学修内容) シラバスを見ながら授業の内容を確認する。 介護実習の全体概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 シラバスを読んでおく 事後 配布した資料を読んでおく	
第2回	介護実習の基本的理解 介護実習の意義と目標を理解する	(学修内容) 介護実習の意義と目的についてディスカッションしながら学ぶ 介護実習の場について理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 配布した資料を読んでおく 事後 特別養護老人ホームの法的根拠を調べる	
第3回	介護実習の場の理解1 入所施設(高齢者施設)	(学修内容) 映像を利用し、特別養護老人ホーム、老人保健施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 特別養護老人ホームの法的根拠を調べる 事後 重症心身障害児施設の法的根拠を調べる	
第4回	介護実習の場の理解2 入所施設(障がい児施設)	(学修内容) 重症心身障害児施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 重症心身障害児施設の法的根拠を調べる 事後 在宅3本柱について調べる	
第5回	介護実習の場の理解3 利用サービス事業所の理解(在宅3本柱)	(学修内容) ホームヘルプ事業、ショートステイの基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 在宅3本柱について調べる 事後 デイサービスの役割について調べてくる	
第6回	介護実習の場の理解4 利用サービス事業所の理解(デイサービス)	(学修内容) 在宅3本柱であるデイサービスの機能、利用者の理解を行う。(見学実習) (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 デイサービスの役割について調べてくる 事後 見学実習を終えてレポート提出(800字)	
第7回	介護実習の場の理解5 利用サービス事業所の理解(小規模多機能)	(学修内容) 小規模多機能型居宅介護、デイサービス事業の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ(見学実習) (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 見学実習を終えてレポート提出(800字) 事後 見学実習を終えてレポート提出(800字)	
第8回	事前学習の内容と方法1 実習にあたっての心構えと注意点を理解する	(学修内容) 介護実習事前準備と事務手続きを行う。実習にあたっての心構え、注意点の再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 見学実習を終えてレポート提出(800字) 事後 事務手続きを行う	
第9回	事前学習の内容と方法2 実習記録の理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) 介護実習記録の意義と目的、書き方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 事務手続きを行う 事後 実習記録の宿題(授業中に広報)	
第10回	事前学習の内容と方法4 プロセスレコードの理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) プロセスレコードを書く意味について理解し、書き方と活用法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実習記録の宿題の提出 事後 プロセスレコードの宿題(授業中に広報)	
第11回	事前学習の内容と方法5 事前オリエンテーションの持ち方と留意	(学修内容) 自身の実習する施設での事前オリエンテーションへの連絡や留意点について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 プロセスレコードの宿題の提出 事後 実習へ行く施設について調べてくる	
第12回	事前学習の内容と方法6 実習目標の意義と考え方について理解する	(学修内容) 夏季実習施設の基本的理解を行い、実習目標を作成する。自己の目標を明確化する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習へ行く施設について調べてくる 事後 実習目標の下書きを行う	
第13回	事前学習の内容と方法7 実習目標指導	(学修内容) 個別指導 自己の目標を明確化したものを言語化しディスカッションを通し、実習目標を完成させる。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 実習目標の下書きを行う 事後 実習目標を完成させる	
第14回	事前学習の内容と方法8 介護実習の実践をイメージする	(学修内容) 卒業生に実習内容等を聞く機会をもち、実習に対する質問を行い不安を取り除く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 実習目標を完成させる 事後 授業を受けて感想(800字)	
第15回	総合演習のまとめ	(学修内容) 実習前に必要な記録物の確認及び作成を行う。総合演習のまとめを行う (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 記録物の整理を行う 事後 介護実習記録への書き込める事項を書きこむ	

授 業 名	介護総合演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Nursing Care Practce			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の効果を高めるため、介護実習にむけての事前学習を行うとともに、介護実習を振り返り、介護の知識や実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。また、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法について理解できることをねらいとする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	介護の知識や技術を実践と結び付けることができる。 自己の課題を明確にし、言語化することができる。 エビデンスの構築につながる実践研究を行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規								
参 考 書	適宜、紹介します								
課題に対する フィードバック の方法	実習評価についてはルーブリックで示す。実習施設から返却された評価については個別面談にて評価を確認する。								
留 意 事 項	介護福祉士養成の締めくくりとして、他の教科で学んだ内容と実習からの学びを統合し、実践研究を行います。エビデンスの構築につながるように、文献を収集し自主的に研究を行ってください。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業時に提示します 必要なときにはGメールを活用して連絡してください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護実習事後指導 1		(学修内容) 秋学期授業の進め方とルーブリックを使用して夏季実習の自己評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 実習の自己評価を行う 事後 夏期実習の報告をまとめておく
第2回	介護実習事後指導 2 カンファレンス準備		(学修内容) 夏季実習の振り返りをまとめ、カンファレンスの準備を行う。資料の作成を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 夏期実習の報告をまとめておく 事後 実習報告資料作成
第3回	介護実習事後指導 3 カンファレンスの実際		(学修内容) カンファレンスを行い、それぞれの学びを理解し自己の学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実習報告資料作成 事後 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること
第4回	事前学習の内容と方法1 実習施設の理解		(学修内容) 居宅介護実習の理解を行い目標を設定の準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること 事後 事務手続きに必要なものを準備する
第5回	事前学習の内容と方法2 在宅実習事務手続き		(学修内容) 実習に必要な書類や課題について整理しマナーやルールについて確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 事務手続きに必要なものを準備する 事後 実習に必要な書類を完成させておく
第6回	事前学習の内容と方法3 実習目標の作成		(学修内容) 実習目標を整え清書を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習に必要な書類を完成させておく 事後 実習記録に実習目標を清書しておく
第7回	在宅実習事前オリエンテーション		(学修内容) 実習へ行く前の準備と守秘義務等についての再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習記録に実習目標を清書しておく 事後 自己の評価を主観的に評価する
第8回	実習の振り返り 1 実習での学びを振り返る		(学修内容) 実習で学んだことを目標に沿って振り返り記録にとどめる (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 介護実習記録に施設の概要等を記録する 事後 介護実習の振り返りを発表できるような資料を作成する
第9回	実習の振り返り 2 実習での学びを共有する		(学修内容) 目標に沿った振り返りを発表しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護実習の振り返りを発表できるような資料を作成する 事後 自己の評価を主観的に評価する
第10回	実習評価の確認と自己覚知		(学修内容) 客観的・主観的に居宅実習評価を行い、自己覚知を行う。(個別指導) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自己の評価を主観的に評価する 事後 学校での学びから探究したい事柄についてテーマを考える
第11回	介護実践探求 1 研究を行う意義と方法		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶとともに、実習から気になる事例を選択しディスカッションしながら探究したい事柄を選択する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 学校での学びから探究したい事柄についてテーマを考える 事後 テーマに即した必要な文献等を収集する
第12回	介護実践探求 2 研究デザインの選択		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 文献の取り扱い方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テーマに即した必要な文献等を収集する 事後 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める
第13回	介護実践探求 3 執筆作業		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 章立てに基づいて研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める 事後 研究デザインを提出できるようにする
第14回	介護実践探求 4 執筆作業		(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 発表資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 事前 研究デザインを提出できるようにする 事後 事例研究をまとめる
第15回	介護実践探求 5 研究発表		(学修内容) 自身の介護実践研究を発表する。 他の発表者の研究を聞く。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 事例研究をまとめる 事後 質疑応答した内容をまとめて提出する

授業名	障害の理解			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Study of Disability			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	武田 康晴			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>本講義のタイトルは「障害の理解」ではあるが、単に医学レベルでの障害の理解ではなく、社会モデルとしての障害理解を重視し、また障害をもちながら営む「生活」という視点で障害について理解を深めていく。障害に関する考え方は医学モデルから社会モデル、生活モデルへと変遷し、介護福祉士は介護という専門性を用いて生活支援に取り組むソーシャルワーカーだからである。具体的には、障害概念の変遷、主観としての障害、障害者福祉の制度、障害種別と生活、障害種別と介護等について扱っていく。単なる知識の習得だけでなく実践に活用できる応用力・実践力の獲得を目指すため、学生同士、教員と学生によるディスカッションを取り入れながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションについて、成り立ちを含め説明することができる。 2) 障害概念について、医学モデルと生活モデルの違いについて明確に説明することができる。 3) 自立支援について、介護場面における具体例をあげて説明することができる。 4) 各種の障害（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害など）について、特徴を説明することができる。 5) 各種の障害特性と介護の留意点について、基礎的な事柄を説明することができる。 								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 () () ()			
テキスト	竹端寛・山下幸子ほか著『新・基礎からの社会福祉 障害者福祉』第3版、ミネルヴァ書房								
参考書	授業の中で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポート等に関してはコメントの記入、口頭での解説で対応する。								
留意事項	実戦を想定して授業を実施するので、常に自分の考えを持ちながら授業に参加する。								
オフィスアワー	研究室前に掲示し、授業中に口頭でも伝える。								
実践的教育									

授業名	障害の理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 障害に対するイメージ	(学修内容) シラバスを活用しながら授業計画について説明する。 障害に対するイメージについて、講師と学生がディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスの内容を確認しておく。
第2回	障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションについて	(学修内容) 障害者福祉の基本理念のうちノーマライゼーションについて、定義、内容、達成過程、現代的意義について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめておく。事後: ノーマライゼーション達成過程の具体例についてまとめる。
第3回	障害者福祉の基本理念 自立と自立支援	(学修内容) 障害者福祉の基本理念である自立と自立支援について、概念成立の背景から福祉分野での意味について具体例を交えながら解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 自立と自立支援に関する自分なりの考えをまとめておく。事後: 自立と自立支援について、介護現場での具体例を書き出してみる。
第4回	障害とは 医学モデルと生活モデル	(学修内容) 障害者基本法など各種法制度に位置付けられた障害の定義について、国際障害分類及び国際生活機能分類について具体例を交えて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、分かったことをまとめておく。事後: ICFを活用した介護支援の例について書き出してみる。
第5回	障害とは 法制度に見る障害の定義	(学修内容) 障害者基本法など各種法制度に位置付けられた障害の定義について、法律の成立や改正の背景も含めて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、障害の定義にあたる部分に線を引いてくる。事後: 各障害について、特徴の概要についてノートにまとめる。
第6回	障害とは 障害が及ぼす心理的影響 (障害の主観的側面)	(学修内容) 障害をもつ人の側に立ち、障害の心理的・主観的側面について基本事項を解説し、ディスカッションにより共感的理解に近づけていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 書籍またはインターネットで障害者の記事を探し、気持ちに着目して呼んでくる。事後: ディスカッションで感じたことをまとめる。
第7回	障害の理解とその援助 身体障害 (肢体不自由・内部障害) の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち肢体不自由と内部障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第8回	障害の理解とその援助 進退障害 (視覚障害・聴覚障害) の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち視覚障害と聴覚障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第9回	障害の理解とその援助 知的障害の理解と援助	(学修内容) 知的障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第10回	障害の理解とその援助 発達障害の理解と援助	(学修内容) 発達障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第11回	障害の理解とその援助 精神障害の理解と援助	(学修内容) 精神障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第12回	障害の理解とその援助 難病の理解と援助	(学修内容) 難病について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第13回	事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: これまでの学修内容を振り返り、不明点は解決しておく。事後: ディスカッションの内容をまとめる。
第14回	事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: これまでの学修内容を振り返り、不明点は解決しておく。事後: ディスカッションの内容をまとめる。
第15回	授業の総括と質疑応答	(学修内容) 全ての授業内容を総括的に振り返りながらまとめ、学生の質問に質疑応答形式で答えながら内容をさらに深めていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: これまでの授業を振り返り、質問事項をまとめておく。

授業名	リハビリテーション論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Rehabilitation Theory			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	中平 剛志			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	リハビリテーションの理念を理解し、「障害」に対するリハビリテーションの視点を学びます。対象者の自立支援に向けた「リハビリテーション」の専門性に触れ、介護との接点を考えることが授業全体の共通したテーマになります。個人の考えを他者に伝え、考え方の多様性に触れることを目的として、グループワークやプレゼンテーションなども実施します。								
学修成果到達目標	1) リハビリテーションに関連する職種を理解し、その専門性を説明することができる 2) 基本的な介護技術についてリハビリテーションの理論や技術を活用できる 3) 障害の構造について「ICF」モデルを用いて説明することができる 4) 事例を通じて「ICF」モデルを活用してアセスメントができる 5) 介護とリハビリテーションの連携について説明することができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テキスト	各授業で資料を配布します。								
参考書	ICFの理解と活用 ~人が「生きること・生きることの困難(障害)」をどうとらえるか~ 著者：上田 敏 出版社：きょうされん								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、添削とコメントを記載して返却いたします。								
留意事項									
オフィスアワー	質問などは、メールで受け付けます。 takeshi.nakahira@ocr.ac.jp								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：現在、理学療法士(非常勤)として介護老人福祉施設に勤務しています。								

授業名	リハビリテーション論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	リハビリテーションの理念・歴史・役割について	(学修内容) リハビリテーションの語源、リハビリテーションの歴史と定義、理学療法 の定義について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第2回	A D L (日常生活活動) の基本的概念とリハビリテーションについて	(学修内容) A D L の定義、A D L の範囲、self care と IADL・APDLについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第3回	疾病と障害について	(学修内容) 疾病(疾患)と障害の関係について 一次障害と二次障害について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第4回	リハビリテーション・ゴールについて	(学修内容) ニーズの構造について リハビリテーションのゴール設定について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第5回	介護とリハビリテーションの連携	(学修内容) 事例を提示して介護とリハビリテーションの連携について検討する 「長期臥床者へのリハビリテーションアプローチと介護の視点」 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第6回	生活期のリハビリテーションの実際(1)	(学修内容) 生活期の高齢者に対するリハビリテーションの実際事例から生活を支援 する方法について検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第7回	障害の構造について(1) ICDHモデルとICFモデルの歴史的変遷	(学修内容) I C I D H から I C F への歴史的変遷について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第8回	障害の構造について(2) IDHモデルとICFモデルの概念	(学修内容) I C F 諸相の理解について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第9回	障害の構造について(3) ICFモデルの実際事例検討(情報収集)	(学修内容) 事例検討としてV T Rを視聴して情報収集を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 第9回～第10回の学習内容を、第11回でプレゼンテーションします。 その後、個人でレポートを作成し提出してもらいます
第10回	障害の構造について(4) ICFモデルの実際事例検討(情報の整理)	(学修内容) 得た情報を I C F モデルに整理する過程を経験する (事前事後学修課題の内容) (60分) 第9回～第10回の学習内容を、第11回でプレゼンテーションします。 その後、個人でレポートを作成し提出してもらいます。
第11回	障害の構造について(5) ICFモデルの作図・まとめ	(学修内容) I C F 図を作成して、プレゼンテーションする クラスで共有し、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (120分) I C F 図をレポートとして作成して提出してもらいます
第12回	生活期のリハビリテーションの実際(2)	(学修内容) 生活期の高齢者に対するリハビリテーションの実際事例から生活を支援 する方法について検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第13回	介護予防とリハビリテーション	(学修内容) 病期とリハビリテーションの役割 介護予防の位置づけ、介護予防の意義について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第14回	フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて	(学修内容) フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第15回	総括	(学修内容) 1回～14回の授業内容を振り返り、共通したリハビリテーションの視点を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと

授業名	コミュニケーション技術			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Communication Skills I			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	名賀 亨			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護に焦点をあてソーシャルワークの視点から、介護を必要とする人と支援する人の関係を良好なものにするために必要な「コミュニケーション」について、ロールプレイやグループワークなどを通してその理念を理解するとともに具体的スキルを修得することを目指す。								
学修成果到達目標	1) 人間関係におけるコミュニケーションの意味と大切さを理解できる 2) 具体的に相手との適切なコミュニケーションを実践することができる 3) 相手の意識を高め自主性を高めるようなファシリテーションを理解し実践することができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	適宜、プリントを配布する。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートや適宜行う発表に関してその内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留意事項	ロールプレイなども含めて参加型の内容を中心に授業を進めるので、自発的かつ主体的な授業参加を求める。								
オフィスアワー	水曜日 昼休み								
実践的教育									

授 業 名		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術
授 業 計 画	学 修 項 目	学 修 内 容 ・ 課 題
第1回	第1回 オリエンテーション	(学修内容) 授業の意義、進め方について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく
第2回	コミュニケーションの基本	(学修内容) コミュニケーションの意味、利用者満足とコミュニケーションなど基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP8～16を読み、メッセージを共有することの意味について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第3回	コミュニケーションマインド 1	(学修内容) 心を開いて相手に接することや熱意をもって接することについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP34～41を読み、余裕のある態度で接することや熱意を高める接し方について、整理しまとめる。その日の授業を振り返りまとめる。
第4回	コミュニケーションマインド 2	(学修内容) 傾聴、受容、共感のコミュニケーションを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP42～53を読み、傾聴や気持ちに寄り添うことについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第5回	言語的なテクニック&スキル 1	(学修内容) 挨拶や敬語など相手への気遣いや心配りを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP54～62を読み、挨拶から始まる友好的関係について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第6回	言語的なテクニック&スキル 2	(学修内容) 自信や意欲を引き出す言葉がけや質問の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP63～70を読み、肯定的な言葉や開かれた質問、熱意を伝える相槌について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第7回	言語的なテクニック&スキル 3	(学修内容) 言葉の繰り返しや沈黙あるいは明確化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP71～78を読み、言葉の一部を繰り返すことや沈黙することの意味を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第8回	言語的なテクニック&スキル 4	(学修内容) 要点を整理して返すことや気持ちに理解を示すことについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP79～84を読み、要約・共感について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第9回	言語的なテクニック&スキル 5	(学修内容) 受け入れてもらえるような指示のあり方や助言の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP85～93を読み、ティーチングについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第10回	言語的なテクニック&スキル 6	(学修内容) 考えを引き出し支持することや声のトーンについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP94～101を読み、コーチングについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第11回	準言語的なテクニック&スキル	(学修内容) 適度な声の大きさや話す速度について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP102～105を読み、声の大小による影響や話す速度の影響について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第12回	非言語的なテクニック&スキル 1	(学修内容) コミュニケーションで重要な表情や目線など非言語コミュニケーションについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP106～111を読み、自然な笑顔や目の高さの大切さについて整理しまとめておく。
第13回	非言語的なテクニック&スキル 2	(学修内容) コミュニケーションで大切なアイコンタクトや姿勢などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP112～118を読み、アイコンタクトの効果や姿勢の及ぼす影響について整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第14回	非言語的なテクニック&スキル 3	(学修内容) コミュニケーションにおける動作や装いさらに適切な距離について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP119～124を読み、身のこなし方や身だしなみについて整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業を振り返りながらコミュニケーションの重要性や適切なあり方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業を振り返っておく。

授 業 名	コミュニケーション技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Communication Skills			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者				対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>様々な障がいのある人と円滑な援助関係の構築のために、障害に応じた基本的知識と具体的なコミュニケーション方法について学ぶ。また、介護を必要とする人の家族や他の職種に対するコミュニケーション方法、さらには介護福祉士として自分の意見や感情を述べる力を身につける。</p> <p>介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を身につける。</p> <p>授業の方法としてはコミュニケーションに障害のある人との援助関係形成について、ビデオ等の視聴覚教材や事例、ロールプレイ、グループワーク、ディスカッションを用いて演習形式で学習する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>障害に応じたコミュニケーション方法を身につけることができる。</p> <p>自分の考えを整理して他者に伝えることができる。</p> <p>介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (5 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	コミュニケーション技術（中央法規出版）								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で説明する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：障害者の入所施設で生活指導員として勤務 シリアダマスカス脳性麻痺教育センターに青年海外協力隊員として派遣</p>								

授 業 名	コミュニケーション技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方 介護実習の振り返り (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと 介護実習について説明できるように準備しておくこと
第2回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき	(学修内容) 実習で困った場面をピックアップして、それをロールプレイで再現する。ビデオ撮影をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習の振り返りを行う。
第3回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき	(学修内容) ビデオを視聴し、自身のコミュニケーションの特徴を知り、よりよい方法を考える(ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習での自らの課題について振り返りを行うこと。
第4回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 視覚障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 視覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 傾聴、共感についてを復習しておく
第5回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 聴覚障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 聴覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 非言語コミュニケーションについてを復習しておく。
第6回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 言語障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 言語障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 非言語コミュニケーションを復習しておく。
第7回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 コミュニケーション障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) コミュニケーション障がいのある人の事例でロールプレイを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションについてを復習しておく。
第8回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 発達障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 発達障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容について復習しておく。
第9回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 知的障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) コミュニケーション技術 を復習しておく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容についてを復習しておく。
第10回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 重度障害児とのコミュニケーション	(学修内容) 重度障害児とのコミュニケーションの留意点や工夫を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容についてを復習しておく。
第11回	介護における家族とのコミュニケーション 配慮・気遣い	(学修内容) 家族とのコミュニケーションにおいて、配慮すべき事項や・気遣いについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションの技法を復習しておく。
第12回	介護における家族とのコミュニケーション 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法	(学修内容) 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法を事例を通し実践する。(ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションの技法を復習しておく。
第13回	介護における家族とのコミュニケーション 相談、助言、指導	(学修内容) 家族とのコミュニケーションにおける、相談、助言、指導について学ぶ(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 相談援助についてを復習しておく。
第14回	介護におけるチームのコミュニケーション 報告、連絡、相談 チーム運営の基本(チームの機能と構成、リーダーの機能と役割、リーダーシップとフォローアップ、課題発見と解決の過程PDCA)	(学修内容) その人を支えるチーム内のコミュニケーションにおいて、報告、連絡、相談の重要性について事例を通して考える。(ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) (30分) 相談援助を復習しておく。
第15回	介護におけるチームのコミュニケーション アサーティブコミュニケーション	(学修内容) アサーティブコミュニケーションについて グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) コミュニケーションのまとめ

授 業 名	生活支援技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Livelihood Support Skills I			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>「生活とは何か」「生活支援とは何か」を理解し、生活を支える基盤である家事の基本を学びます。さらに、高齢者が暮らす施設や介護予防事業で行われているレクリエーション活動や介護予防運動を実施するためのアセスメントの視点、素材の選び方と展開の方法をペアワークやディスカッションは実技を行いながら授業を進めます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 介護福祉士が行う生活支援の基本的な考え方を説明することができる。 2) 生活の意欲を引き出す介護予防活動を企画できる。 3) 生活を行うための家事支援が実践できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (実践力)			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	<p>介護福祉士養成講座編集委員会、介護福祉士養成講座7「生活支援技術」2019、中央法規 最新 介護福祉士養成講座6『生活支援技術』中央法規のテキストについては、下記の授業でも使用します。 春学期 「介護技術」- 木村あい先生担当、 秋学期 「生活支援技術」 鈴木みどり先生担当</p>								
参 考 書	<p>楽しさを通した心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人 日本レクリエーション協会 2017</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。実技については、この都度コメントを返します。</p>								
留 意 事 項	<p>授業では、実際に体を動かすことで体の動きやそのときの感じ方を確認をする内容を含みます。さらに、家庭での家事支援の実践をしますので常日頃から家事を行ってください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>担当授業の終業後に実施する。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護員、介護支援専門員に従事。</p>								

授業名	生活支援技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 生活と介護福祉士が行う生活支援の理解	(学修内容) 授業概要の説明、ライフサイクルを作成し自身の生活スタイルを確認する。介護福祉士が行う生活支援の意味を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 親世代が20代の頃の楽しみについて3分の口頭発表準備
第2回	社会の変化に伴う生活の変化についての理解1 ライフサイクルと心の豊かさについて	(学修内容) 事前課題の口頭発表とディスカッション、ボードゲームを使い時代背景を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前 親世代が20代の頃の楽しみについて3分の口頭発表準備 事後 便利になった家事用品について3分の口頭発表準備
第3回	社会の変化に伴う生活の変化についての理解2 生活習慣と生活支援	(学修内容) 事前課題の口頭発表とディスカッションを通して、生活習慣を理解し介護福祉士が行う生活支援について考える。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前 便利になった家事用品について3分の口頭発表 事後 介護保険、介護サービス「生活援助」の内容を調べてくる
第4回	自立生活を支える家事1 生活の自立と家事支援	(学修内容) 介護保険の介護サービスを踏まえて、生活が自立するための生活支援とサービスについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護保険、介護サービス「生活援助」の内容を調べてくる 事後 テキストP216~228を読み、わからない語句を調べてくる
第5回	自立生活を支える家事2 調理の介助方法	(学修内容) ICFに基づき、調理に関する一連の流れを理解し、在宅で行う調理の基本を理解し実践する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP216~228を読み、わからない語句を調べてくる 事後 テキストP228~232を読み、わからない語句を調べてくる
第6回	自立生活を支える家事3 洗濯の介助方法	(学修内容) ICFに基づき、洗濯を行うときの視点や介助手順を理解し、洗濯を行うときに必要な知識(表示、染み抜き等)を養い実践する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP228~232を読み、わからない語句を調べてくる 事後 テキストP235~236を読み、わからない語句を調べてくる
第7回	自立生活を支える家事4 裁縫の介助方法	(学修内容) ICFに基づき、衣類の補修の方法、縫い方を理解し、実際に雑巾を縫う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP235~236を読み、わからない語句を調べてくる 事後 テキストP233~234を読み、わからない語句を調べてくる
第8回	自立生活を支える家事5 掃除の介助方法	(学修内容) ICFに基づき、掃除やごみ捨ての基本を理解し、セルフネグレクトの問題について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP233~234を読み、わからない語句を調べてくる 事後 介護保険の変遷について調べてくる
第9回	介護予防1 介護予防の考え方の変遷	(学修内容) 介護保険法の変遷から、介護予防への転換について理解し、介護予防について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護保険の変遷について調べてくる 事後 フレイルとサルコペニア、ロコモの語句を調べてくる
第10回	介護予防2 介護予防運動の実際	(学修内容) フレイルとサルコペニア、ロコモの語句理解を行い、原因を考え、実際に体操を通して体の動き方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 フレイルとサルコペニア、ロコモの語句を調べてくる 事後 総合演習見学実習でのプログラムをまとめておく
第11回	介護予防3 入所・通所施設における活動	(学修内容) 介護総合演習の見学実習を通して、通所施設における活動についてディスカッションしながらプログラムやプログラムの素材を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 総合演習見学実習でのプログラムをまとめておく 事後 認知症カフェや注文を間違えるレストランについて調べておく
第12回	介護予防4 地域における様々な介護予防の実践	(学修内容) 認知症カフェや注文を間違えるレストランへ足を運び、事業運営やそこでの関わり方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 認知症カフェや注文を間違えるレストランについて調べておく 事後 見学実習をレポートにまとめ授業時に提出
第13回	自立に向けた介護1 生活意欲にむけた介護の重要性	(学修内容) 見学実習を通じた学びについてグループディスカッションを行い、個々の生活意欲について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 見学実習をレポートにまとめ授業時に提出 事後 生活意欲を引き出すプログラムの素材について考えてくる
第14回	自立に向けた介護2 生活意欲を引き出す取り組み	(学修内容) 介護実習で使える「生活意欲を引き出すプログラムの素材」を考え計画する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 生活意欲を引き出すプログラムの素材について考えてくる 事後 計画書を作成し発表できるようにまとめる
第15回	自立に向けた介護3 ICFと生活意欲	(学修内容) 計画してきたことを実施し、生活意欲を引き出せるものになっているのかICFに沿って振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 計画書を作成し発表できるようにまとめる 事後 発表後の振り返りを行いレポート提出

授 業 名	生活支援技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Livelihood Support Skills			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	鈴木 みどり			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>多様な住まいにおいて、安全・安心・快適な生活環境確保のための居住環境の整備について理解する。 また福祉用具の機能を理解し、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する技術を学び、これまでの暮らしを継続させるための視点や工夫を学ぶ。 実際に福祉用具を使用しながら体験的に学ぶ。また、多様な福祉用具の機能と活用方法を理解するために見学実習を行う。 （見学ができない状況の場合は、動画などを活用する。） グループワークやディスカッションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 快適な生活環境を整備するためのアセスメントと住環境改善計画ができる。 2) 対象者の能力に応じた福祉用具を選択することができる。 3) 多様な住まいについて理解することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	<p>新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術』 春学期 「介護技術」 木村先生担当、春学期 「生活支援技術」 高岡先生担当で使用したテキストと同じ テキストを使用します。</p>								
参 考 書	<p>授業にて指示する。 プリントも使用する。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。口述については、その都度コメントを返却します。</p>								
留 意 事 項	<p>自分が車椅子で生活しているならば、どんなことがバリアになるか・・・生活している環境の中で想像してみてください。 バリアフリーやユニバーサルデザインも気にしてみてください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：福祉用具販売・レンタル、リフォームの会社の代表取締役。福祉用具専門相談員・2級建築士の実務経験をもちに多様な住まいや住環境整備、福祉用具についてお話しします。</p>								

授 業 名		生活支援技術
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	自立に向けた居住環境の整備：居住環境の整備の意義と目的	(学修内容) 住まいの役割や居住環境整備の身体的・心理的・文化的意義と目的について理解できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、もし自分が高齢者で動作がしにくい場合に自宅内でのバリアになる事を書き出す
第3回	自立に向けた居住環境の整備：高齢者の多様な住まい 高齢者施設（従来型・ユニット型）について	(学修内容) 高齢者施設（従来型・ユニット型）について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、高齢者施設（従来型・ユニット型）についてレポートにまとめて提出する
第4回	自立に向けた居住環境の整備：高齢者の多様な住まい サービス付高齢者向け住宅について	(学修内容) サービス付高齢者向け住宅について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、サービス付高齢者向け住宅についてレポートにまとめて提出する
第5回	自立に向けた居住環境の整備：高齢者の多様な住まい 有料老人ホームについて	(学修内容) 有料老人ホームについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、有料老人ホームについてレポートにまとめて提出する
第6回	自立に向けた居住環境の整備：住まいの変遷と住居の維持管理や災害に対する備えについて	(学修内容) 住居の維持管理や災害に対する備えについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、住居の維持管理や災害に対する備えについてレポートにまとめて提出する
第7回	自立に向けた居住環境の整備：居住環境のアセスメント	(学修内容) 利用者の状況・状態に応じた居住環境のアセスメントを事例を通じて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、利用者の状況・状態に応じた居住環境についてレポートにまとめて提出する(60分)
第8回	自立に向けた居住環境の整備：居住環境のアセスメントと計画	(学修内容) 利用者の状況・状態に応じた居住環境のアセスメントと改善計画をグループワークをして理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、アセスメントと改善計画をしてみの気づきをレポートにまとめて提出する
第9回	福祉機器の意義と活用：福祉用具の概念と目的	(学修内容) 福祉用具活用の意義と目的、福祉用具の分類や介護ロボットについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、身近にある福祉用具を書き出しておく
第10回	福祉機器の意義と活用：利用者の能力に応じた福祉用具の機能と活用方法（ベッド関連・排泄関連・入浴関連他）	(学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する（ベッド関連・排泄関連・入浴関連他） (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具（ベッド関連・排泄関連・入浴関連他）のそれぞれの機能についてレポートにまとめて提出する
第11回	福祉機器の意義と活用：利用者の能力に応じた福祉用具の機能と活用方法（移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他）	(学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する（移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他） (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具（移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他）のそれぞれの機能についてレポートにまとめて提出する
第12回	福祉機器の意義と活用：福祉用具見学	(学修内容) 福祉用具の体験をしながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具体験を通じて学んだことや感じたことをレポートにまとめて提出する
第13回	福祉機器の意義と活用：制度の利用	(学修内容) 介護保険や障害者総合支援法の下での福祉用具と住宅改修 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、介護保険下での福祉用具と住宅改修についてレポートにまとめて提出する
第14回	福祉機器の意義と活用：リスクマネジメント	(学修内容) 福祉用具のリスクとリスクマネジメントについてグループディスカッションを通じて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具のリスクマネジメントについて気づきをレポートにまとめて提出する
第15回	福祉機器の意義と活用と自立に向けた居住環境の整備のまとめ	(学修内容) 事例を通して福祉用具導入や住環境改善にあたり、多職種連携や状態の変化に気づくことの大切さを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、福祉用具導入や住環境改善にあたり連携する職種を書き出しておく

授 業 名	生活支援技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Livelihood Support Skills			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	馬場 まみ・平 正人			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>生活に関わる知識は、健康な生活を営むうえでも、福祉の現場で働くうえでも必要である。介護の対象となる人が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するために必要な基本的事象について以下の内容で講義する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p> <p>1．家庭生活を運営するための基礎知識 2．衣食住の基礎</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1．生活に関わる基本的な知識を身につけ、実践することができる。 2．介護の対象となる人が個々の状態に応じた家事を自立的に行えるよう支援できる。 3．獲得した知識を、福祉の現場で役立てることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新版 福祉のための家政学 - 自立した生活者を目指して - 建帛社								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項	受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨んでほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		生活支援技術
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 生活と家族のとらえ方	(学修内容)生活と家族について学ぶ意義を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。
第2回	家族の変容	(学修内容)戦後の家族の変化と現代の課題を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。
第3回	家族と法律	(学修内容)家族に関わる法律について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。
第4回	生活史	(学修内容)戦後の社会と人々の生活の変化を学び、グループワークにより理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 戦後の社会の変化を調べる。
第5回	家庭経済 消費者問題	(学修内容)生活設計と家計、現代の消費者問題を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。
第6回	被服の素材	(学修内容)被服素材の種類と特徴を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 身の回りの衣服素材を調べておく。
第7回	被服の洗濯と管理	(学修内容)繊維製品の品質表示と管理の方法を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。
第8回	住生活 これまでの授業の振り返りとまとめ	(学修内容)住まいの役割と機能を学ぶ。 家族、消費者問題、衣生活、住生活に関する内容の振り返りとまとめ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の関連部分をよく読んでおく。 現代の住宅の間取りを調べる。
第9回	食生活と栄養	(学修内容)食生活とその意義を考える。 ・食生活の現状と課題についてグループワーク。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。
第10回	栄養素の種類と消化・吸収・代謝	(学修内容)五大栄養素について、その特徴と主な働きを見るときともに、それらがどのように消化・吸収され、代謝されるかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。
第11回	食事摂取基準 食材の特徴と使い方	(学修内容)何をどれだけ食べればよいのか。(日本人の食事摂取基準) ・自分の食事のバランスは適正か否か。食材の旬や加工食品を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。 ・食材の旬や加工食品における食品表示部分の情報を収集しておく。
第12回	献立作成	(学修内容)献立作成に必要な基本的知識と生活習慣病における留意点 (事前事後学修課題の内容)(30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。 ・家庭料理のレシピなどの情報を収集しておく。
第13回	栄養補給方法	(学修内容)栄養補給方法について学ぶ。 ・経口栄養法、(強制栄養法)経腸栄養法・静脈栄養法の分類と特徴。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ・生活場面で入手可能な経腸栄養剤(食品)などの情報を収集しておく。
第14回	食の安全と食中毒	(学修内容)食の安全をめぐる諸問題を学ぶ。 ・食中毒の種類や予防、食品衛生、環境衛生、人の衛生管理について。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。 ・食の安全をめぐる最近のニュース、情報を収集しておく。
第15回	健康と食生活 生活支援における食生活の振り返りとまとめ	(学修内容)生活習慣病予防やサルコペニア予防の食生活を学ぶ。 ・要介護因子となる生活習慣病、サルコペニアについて。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ・教科書や新聞、ネット情報より関連部分の情報を収集しておく。 ・筆記試験問題にチャレンジ、振り返りとまとめ。

授 業 名	介護技術			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nursing Care Work Skills			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	木村 あい			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>科学的根拠を踏まえながら、居住環境の整備、移動の介護、身支度の介護技術を実践する。学生自身が援助者・モデルになり、利用者の気持ちの理解を深める。また、利用者の気持ちを知ることで、介護実践に活かせるよう工夫をする。</p> <p>ICFの視点に基づいたアセスメントを行い、対象者の能力を活用・発揮できるようからだの動きを理解した上で、基本的な介護技術を学ぶ。また、住環境や最新の福祉用具を学ぶために、フィールドワークとしてバリアフリー展に参加する。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>介護実践の根拠を説明できる 基本的な介護技術を身につける。 される側(介助を受ける側)の気持ちを理解できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	<p>最新 介護福祉士養成講座6 『生活支援技術』中央法規：春学期 「生活支援技術」-高岡先生担当、秋学期 「生活支援技術」-鈴木先生担当でも使用 最新 介護福祉士養成講座7 『生活支援技術』中央法規：春学期 「介護技術」-高岡先生担当でも使用 最新 介護福祉士養成講座8 『生活支援技術』中央法規：秋学期 「介護技術」-高岡先生担当でも使用</p>								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	次の授業時にフィードバックを行う。								
留 意 事 項	<p>予習・復習をしっかりと行ってください。 介護技術を実践しますので、上靴と動きやすい服装を準備してください。授業内で確認します。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で説明する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：障害者の入所施設で生活指導員として勤務 シリアダマスカス脳性麻痺教育センターに青年海外協力隊員として派遣</p>								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 介護技術の進め方と考え方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておくこと	
第2回	自立に向けた環境の整備	(学修内容) 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除について フィールドワーク、バリアフリー展に参加 (事前事後学修課題の内容) (60分) 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除の予習をしておくことノ ートをまとめておく	
第3回	自立に向けた環境の整備 シーツ交換	(学修内容) シーツ交換、物品整理について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめとシーツ交換、物品整理予習	
第4回	自立に向けた移動の介護 移動の意義と目的、ボディメカニクス	(学修内容) 移動の意義と目的、ボディメカニクスについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめと移動の意義と目的、ボディメカニクスの予習	
第5回	自立に向けた移動の介護 ICFの視点に基づくアセスメントと移動・移乗 の介護	(学修内容) ICFの視点に基づくアセスメントと移動・移乗の介護について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習	
第6回	自立に向けた移動の介護 ベッド上での移動	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 ベッド上での移動について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習とベッド上での移動の予習	
第7回	自立に向けた移動の介護 車いすへの移乗	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 車いすへの移乗について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と車いすへの移乗の予習	
第8回	自立に向けた移動の介護 福祉用具を活用した移乗	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 福祉用具を活用した移乗について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と福祉用具を活用した移乗の予習	
第9回	自立に向けた移動の介護 歩行等移動	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 歩行等移動について 車いすや杖での外出支援の実習を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と歩行等移動の予習	
第10回	自立に向けた身支度の介護 生活習慣と装いの楽しみを支える介護	(学修内容) 生活習慣と装いの楽しみを支える介護について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と生活習慣と装いの楽しみを支える介護について教科書 を読んでおく	
第11回	自立に向けた身支度の介護 整容	(学修内容) 整容(爪きり、化粧、髭剃り、洗顔、整髪、耳掃除等)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と整容についての予習	
第12回	自立に向けた身支度の介護 衣服の着脱	(学修内容) 衣服の着脱について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と衣服の着脱についての予習	
第13回	自立に向けた身支度の介護 衣服(着物)の着脱	(学修内容) 衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方	
第14回	演習課題 事例	(学修内容) 事例をもとにアセスメントし介護技術を実践する (事前事後学修課題の内容) (120分) 前回までの復習	
第15回	総括	(学修内容) 全15回の授業の振り返り (事前事後学修課題の内容) (120分) 復習	

授 業 名	介護過程			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Nursing Care Process			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>利用者の望む生活の実現のためには、利用者ひとりひとりの生活上の課題を明確にし、根拠に基づいた介護実践が求められる。この授業では、その課題を解決していく介護過程について、基礎的知識を踏まえ事例を通して学んでいく。最後に、介護過程の展開事例をゲストスピーカーから聞き、専門職として介護を行う上での思考過程、実践過程に介護過程の展開が必須であることを学ぶものである。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1)介護過程の全体像を説明できる。 2)介護過程の各プロセスの思考方法を理解できる。 3)事例において、介護過程の展開を実施できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()				
テ キ ス ト	必要に応じてプリント配付								
参 考 書	大川弥生 「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 中央法規								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題は、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	授業で使用したプリントや作成したシートなどは、毎回持参してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：島本町社会福祉協議会 訪問介護、介護支援専門員として勤務								

授業名	介護過程	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 介護過程の意義と目的	(学修内容) 授業概要についてシラパスをもとに説明。 介護を行う上で介護過程を学ぶ意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 シラパスを確認しておいてください 事後 配付資料を読んでおいてください
第2回	アセスメント1 アセスメント理解とバイタルサインの理解	(学修内容) 観察の一つであるバイタルサインを読み、身体の正常・異常を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 配付資料を読んでおいてください 事後 宿題1 情報収集(できるところから)
第3回	アセスメント2 バイタルチェックの留意と観察	(学修内容) バイタルチェックの復習後、DVD(事例)を視聴し観察できた事柄をまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 宿題1 情報収集(できるところから) 事後 観察した事柄を表にまとめる
第4回	アセスメント3 事例を通じた観察	(学修内容) 主観的・客観的について理解し、DVDを再度視聴し観察を行い表を整理する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 DVDを視聴し観察を行い表にまとめる 事後 ICFの考え方を調べてくる
第5回	ICFの考え方について理解する	(学修内容) アセスメントにおける専門的諸知識の統合についてICFの概念、考え方の理解を事例を通して理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ICFの考え方を調べてくる 事後 ICFの考え方を自分の言葉で説明できるようにしておく
第6回	アセスメント4 情報整理	(学修内容) ICFの考え方に沿って情報を整理し、対象の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ICFの考え方を自分の言葉で説明できるようにしておく 事後 事例の情報を整理してくる
第7回	アセスメント5 情報の解釈、関連付け、統合	(学修内容) 統合の意味や方法を理解し整理した情報に、他の科目で学習した知識を活用し、解釈、関連付け統合をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 事例に情報を整理してくる 事後 情報の解釈に必要な知識を調べ解釈を行う
第8回	アセスメント6 情報の解釈、関連付け、統合を深め全体像を把握する	(学修内容) 宿題してきたものをグループワークを通して、事例の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 情報の解釈に必要な知識を調べ解釈を行う 事後 宿題1を整理し提出できるようにしておく
第9回	アセスメント7 総括(情報収集、統合、関連付け、解釈)	(学修内容) 宿題をもとにアセスメントを行う。グループワークを通して全体像を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 宿題1を整理し提出できるようにしておく 事後 宿題1のアセスメント表を提出できるようにしておく
第10回	アセスメント8 解釈に必要な知識の整理とニーズの捉え方	(学修内容) グループワークを通して、解釈に必要な知識を調べ、ニーズの理解を行い、優先を決定する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 宿題1のアセスメント表を提出できるようにしておく 事後
第11回	介護目標の理解と計画作成の留意点	(学修内容) 介護目標を立てるときの留意を理解し目標をたて、計画作成を行う。事例の介護目標の設定、計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 事例のアセスメント表を完成させてくる 事後 介護目標の優先度を決定する
第12回	介護目標の優先と計画作成の実際	(学修内容) 事例を通して計画を策定する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護目標の優先度を決定する 事後 介護計画表を完成させる
第13回	介護目標の評価と評価観点、モニタリング	(学修内容) 行った目標の評価の方法を理解し次の新たな目標・終結の方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(15分) 事前 介護計画表を完成させる 事後 実習に必要な書類の整理
第14回	在宅で生活する利用者の介護過程の実際	(学修内容) 在宅で生活する利用者が介護過程の展開を行いどのような生活を送っているのか視聴覚教材を用いて理解する。(ゲスト) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 実習に必要な書類の整理 事後 感想文を書く(800字以上)
第15回	施設で生活する利用者の介護過程の実際	(学修内容) 施設で生活する利用者が介護過程の展開を行い、どのような生活を送っているのか視聴覚教材を用いて理解する。(ゲスト) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 感想文を書く(800字以上) 事後 感想文を書く(800字以上)

授 業 名	発達と老化			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Development and Aging			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	人間の発達過程と、ライフサイクル中の老年期の特徴を理解し、老化（加齢）に伴う身体的・心理的・社会的変化と、それらが高齢者の生活や日常生活動作に及ぼす影響について学ぶ。老年期の特徴に応じた生活支援を考え実践するための基礎的な知識を習得する。理解を深めるために、適宜、動画視聴、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。また学習内容や理解度の確認のため、適宜、課題発表やプレゼンテーションの機会を設ける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	人間の各発達段階の特徴と発達課題について知っており、老年期の特徴と発達課題を説明できる。 老化に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴と起こりやすい疾患について学び、生活および日常生活動作への影響を説明できる。 根拠に基づいた介護の実践につながる知識を身につけ、適切な支援を考えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 () () ()			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	介護福祉士養成講座編集委員会 編「最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」中央法規								
参 考 書	長谷川和夫・長嶋紀一・遠藤英俊 編「こころとからだのしくみ 発達と老化の理解 介護の視点からみる高齢者の心理と健康」建帛社								
課題に対するフィードバックの方法	授業後の小テストや小課題に対する解説のコメントバックや、受講者間での発表やディスカッションへのコメントバックを行う。								
留 意 事 項	教科書とノート持参で受講してください。 人間の成長と発達の過程と各段階での発達課題の特徴をおさえた基礎知識をもとに、老年期についての理解を深め、支援を考えられるようになることが求められる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回授業オリエンテーションで知らせる。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：病院での看護師・助産師の実務経験、大学での指導経験から、高齢者の様子や状況がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	授業オリエンテーション 人間の成長と発達、発達段階と発達課題についての基礎知識の確認 ライフサイクルにおける各段階の特徴と発達課題	(学修内容) 授業の目的・内容・評価等についての説明(メモを取って控えておくこと)。各ライフサイクル期の特徴と発達課題、環境要因を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスと教科書P2～65を熟読しておく。成長と発達の過程(身体的・心理的・社会的機能)と各発達段階の特徴・課題をまとめておくこと。	
第2回	老年期の特徴と発達課題 高齢者の現状、今日の課題	(学修内容) 老年期の特徴と発達課題を学ぶ。高齢者が経て来た時代背景について各自の調べてきた内容を発表し合い、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P70～97、P98～106を熟読。70年前、80年前、90年前の日本はどのような時代だったか調べておくこと(授業内で発表)	
第3回	老化(加齢)に伴う身体的変化と生活への影響 (生理機能/骨格筋/脳・神経/感覚器・皮膚)	(学修内容) 加齢による生理機能、骨格筋系、脳・神経系、感覚器系の機能の変化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P110～126を熟読。サルコペニア、フレイルについて調べておくこと。	
第4回	老化(加齢)に伴う身体的変化と生活への影響 (血液・循環器/呼吸器/消化器)	(学修内容) 加齢による血液・循環器、呼吸器、消化器・口腔の機能の変化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P126～133を熟読しておくこと。	
第5回	老化(加齢)に伴う身体的変化と生活への影響 (腎・泌尿器/内分泌・免疫機能)	(学修内容) 加齢による腎・泌尿器、内分泌の機能の変化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P133～140を熟読しておくこと。	
第6回	老化(加齢)に伴う身体的変化と生活への影響	(学修内容) 老化に伴う身体的変化をふまえ、日常生活動作の援助・配慮についてグループ(もしくはペア)ディスカッションを行い、内容を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P70～140を繰り返し読み、老化に伴う身体的変化をふまえ、日常生活への援助について考えておくこと。	
第7回	老化に伴う心理的变化と生活への影響 (知覚/注意/記憶/知能/認知・人格)	(学修内容) 高齢者の知覚、記憶、人格、認知、知能、パーソナリティ、やる気や意欲などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P143～161を熟読しておくこと。	
第8回	老化に伴う心理的变化と生活への影響	(学修内容) 介護場面での高齢者との関わりについてディスカッションを行い、知能・認知・人格の変化をふまえた接し方の留意点について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P164～184を熟読しておくこと。(30分)	
第9回	社会の中での高齢者 高齢者の健康(健康長寿へ向けて)	(学修内容) 社会の現状とその中の高齢者、老化について学び、老年期の健康増進に向けての支援について考える。ドキュメンタリー動画を紹介する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P164～183、188～194を熟読しておくこと。	
第10回	高齢者の症状・疾患の特徴 高齢者に多い疾病や症状と生活上の留意点 (骨格筋系/脳・神経系/感覚器系・皮膚)	(学修内容) 高齢者の症状や疾患の特徴について学ぶ。骨格筋系、脳・神経系、感覚器系、皮膚の疾患と予防、生活上の留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P196～200、202～227を熟読しておくこと。	
第11回	高齢者に多い疾病や症状と生活上の留意点 (循環器系/呼吸器)	(学修内容) 高齢者の循環器系、呼吸器系の疾患と予防、生活上の留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P228～240を熟読しておくこと。	
第12回	高齢者に多い疾病や症状と生活上の留意点 (消化器系/歯・口腔/内分泌系)	(学修内容) 高齢者の消化器系・歯口腔、内分泌系の疾患と予防、生活上の留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P240～246、251～266を熟読しておくこと。	
第13回	高齢者に多い疾病や症状と生活上の留意点 (腎・泌尿器系/がん/感染症/精神/その他)	(学修内容) 高齢者の腎・泌尿器系、がん、感染症、精神、その他の疾患と予防、生活上の留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P246～251、266～287を熟読しておくこと。	
第14回	地域における他職種との連携 疾患の早期発見と保健医療職との連携	(学修内容) 疾患の予防や早期発見と保健医療職との連携について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書P294～299を熟読しておくこと。連携の必要性や意義について考えておく。	
第15回	全体のまとめ 定期試験オリエンテーション	(学修内容) 授業全体のまとめ 定期試験についての方法などの説明。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 全ての教科書と授業資料に目を通して復習し、わからないところを明確にしておく。	

授 業 名	認知症の理解			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Study of Dementia			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	早川 京子			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	認知症の人の身体的な機能、心理的・社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。認知症の医学的側面の理解、診断、治療、予防のための知識を学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	脳の仕組みが理解できる。 認知症の症状、治療、予防が理解できる。 認知症の方の生活を理解し、支援ができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	最新介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解 中央法規出版株式会社								
参 考 書	井藤英喜 認知症の人の「想い」からつくるケア - 在宅ケア・介護施設・療養型病院編一 株式会社インターメディカ								
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施し、解説します。								
留 意 事 項	ニュースや新聞等の情報に目を通しておいってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	事前に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名	認知症の理解	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 認知症の基本的理解	(学修内容) 授業の目的・計画・内容・評価について 認知症とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスをよく読んでおくこと
第2回	認知症の基本的理解	(学修内容) 脳のしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料を確認しておくこと
第3回	認知症の基本的理解	(学修内容) 認知症の人の心理 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第4回	認知症の症状・診断・治療・予防	(学修内容) 中核症状の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第5回	認知症の症状・診断・治療・予防	(学修内容) 生活障害の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第6回	認知症の症状・診断・治療・予防	(学修内容) B P S Dの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第7回	認知症の症状・診断・治療・予防	(学修内容) 認知症の診断と重症度 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第8回	認知症の症状・診断・治療・予防	(学修内容) 認知症の原因疾患と症状・生活障害 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第9回	認知症の症状・診断・治療・予防	(学修内容) 認知症の治療薬 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第10回	認知症の症状・診断・治療・予防	(学修内容) 認知症の予防 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第11回	障害をかかえて生きることへの支援	(学修内容) 認知症を取り巻く状況 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第12回	障害をかかえて生きることへの支援	(学修内容) 認知症ケアの理念と視点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第13回	障害をかかえて生きることへの支援	(学修内容) 認知症当事者の視点からみえるもの (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書及び配布した資料を確認しておくこと
第14回	まとめ	(学修内容) 全体的なまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までに配布された資料をすべて確認、持参すること
第15回	まとめ	(学修内容) 全体的なまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までに配布された資料をすべて確認、持参すること

授 業 名	認知症の理解			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Study of Dementia			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	早川 京子			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	認知症に伴う生活への影響と認知症ケアが理解できる。 地域での連携と協働が理解できる。 家族への支援ができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (6 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (4 0 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	最新 介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解 中央法規出版株式会社								
参 考 書	認知症介護研究・研修東京センター編 三訂『認知症の人のためのケアマネジメント「センター方式の使い方・活かし方」』中央法規（2012年） 本田美和子他編「ユマニチュード入門」医学書院（2014年） 一般社団法人全国認知症介護指導者ネットワーク「実践事例でわかる認知症ケアの視点」中央法規出版（2017年） 一般社団法人日本ユニットケア推進センター秋葉郁子「24Hシートの作り方・使い方」中央法規出版（2013年）								
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施し解説します。								
留 意 事 項	講義時使用するので、前期「認知症の理解1」の資料を持参してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業開始時に提示します。確認しておいてください。								
実践的教育									

授業名	認知症の理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 認知症ケアの実際	(学修内容) 授業の目的、計画、内容、評価について パーソン・センタード・ケアとは (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと 前学期の学びを復習しておくこと
第2回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人の理解と特性 - センター方式- (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第3回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人の理解と特性 - ひもときシート- (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第4回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人とのコミュニケーション及びケア (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第5回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人とのコミュニケーション及びケア (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第6回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人へのアプローチ - コミュニチュード- (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第7回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人へのアプローチ - パリテーション等- (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第8回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人へのアプローチ - 回想法等- (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第9回	認知症ケアの実際	(学修内容) 認知症の人の終末期医療と介護 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第10回	認知症ケアの実際	(学修内容) 環境づくり (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第11回	介護者支援	(学修内容) 家族への支援 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第12回	介護者支援	(学修内容) 認知症の人と家族の会とは (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第13回	認知症の人の地域生活支援	(学修内容) 制度、サービス、機関、地域づくり (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第14回	認知症の人の地域生活支援	(学修内容) 多職種連携と協働 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料を読んでおくこと
第15回	まとめ	(学修内容) 第1回～14回までをまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までの資料すべてに目を通しておくこと

授 業 名	こころとからだのしくみ			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Structure of Mind and Body			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	早川 京子			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	こころのしくみが理解できる。 からだのしくみが理解できる。 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる知識を理解する事ができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 堺 章 「新訂 目でみるからだのメカニズム」								
参 考 書	江連和久 村田栄子「看護学生のための解剖生理」								
課題に対する フィードバック の方法	小テストの実施及び前回の授業内容の要約プリント配布								
留 意 事 項	介護をする上で、基本的なこころやからだのしくみの理解は非常に大切です。十分理解するために予習復習をしておきましょう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	事前に申し出てください。								
実 践 的 教 育									

授業名	こころとからだのしくみ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「健康」とは	(学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 「健康」とは何か 健康を阻害する要因 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	人間の欲求の基本的理解 自己概念と尊厳	(学修内容) 基本的欲求、社会的欲求など 自己概念に影響する要因 自律の意欲と自己概念 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をよく読んでおくこと
第3回	こころのしくみの理解	(学修内容) 脳とこころのしくみの関係 学習、記憶、思考のしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をよく読んでおくこと
第4回	からだのしくみの理解	(学修内容) からだのつくりの理解 身体各部の名称 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をよく読んでおくこと
第5回	からだのしくみの理解	(学修内容) 脳と神経 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をよく読んでおくこと
第6回	からだのしくみの理解	(学修内容) 骨格系、筋系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をよく読んでおくこと
第7回	からだのしくみの理解	(学修内容) 皮膚、感覚器系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書をよく読んでおくこと
第8回	からだのしくみの理解	(学修内容) 呼吸器系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を読んでまとめておくこと
第9回	からだのしくみの理解	(学修内容) 血液、循環器系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を確認しておくこと
第10回	からだのしくみの理解	(学修内容) 血液、循環器系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料・教科書を読んでおくこと
第11回	からだのしくみの理解	(学修内容) 消化器系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料・教科書を確認しておくこと
第12回	からだのしくみの理解	(学修内容) 腎・泌尿器系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料・教科書を確認しておくこと
第13回	からだのしくみの理解	(学修内容) 生殖器系、内分泌系 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を読んでおくこと
第14回	生命維持をするしくみ	(学修内容) 生命を維持するしくみ ホメオスタシス (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を読んでおくこと
第15回	全体のまとめ	(学修内容) 配布資料のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布した資料をすべて確認しておくこと

授 業 名	こころとからだのしくみ			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Structure of Mind and Body			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	早川 京子			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下が生活に及ぼす影響について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	基礎で学んだからだ及びこころのしくみを応用することができる。 それぞれの生活上の場面に応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。 人生の最終段階のケアに応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学习支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規出版								
参 考 書	新訂 目でみるからだのメカニズム 医学書院 東京都健康長寿医療センター研究所島田千穂 伊藤美緒「認知症・超高齢者の看取りケア実践」日総研（2016年）								
課題に対する フィードバック の方法	小テスト及びワークシートで学びを深めます。								
留 意 事 項	基礎的なことに加えて、専門用語を多く用います。事前事後学習をしっかりとってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時表示します。確認しておいてください。								
実 践 的 教 育									

授業名	こころとからだのしくみ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 移動に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 移動に関連したからだのメカニズム (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスをよく読んでおくこと
第2回	移動に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 心身の機能低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第3回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 身じたくのしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第4回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響、変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第5回	食事に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 食事のしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第6回	食事に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第7回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 入浴・清潔保持のしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第8回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第9回	排泄に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 排泄のしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第10回	排泄に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第11回	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 休息・睡眠のしくみ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第12回	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第13回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 「死」のとらえ方 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第14回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	(学修内容) 「死」に対する心の理解 DVD視聴 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第15回	死にゆく人に関連したしくみ まとめ	(学修内容) 医療関係者との連携 まとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までの資料すべてに目を通しておくこと

授 業 名	医療的ケア			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名	Medical Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	中島 香織			対 象 学 生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の基礎的教育をベースとして医療的ケアを安全・適切に実施するための、専門的知識を習得する。医療的ケアを安全かつ感染防止をふまえ、技術を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 評価基準に沿って、シュミレータを用いて喀痰吸引を実施することができる。 評価基準に沿って、シュミレータを用いて経管栄養を実施することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (基準に達する技術)	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	川井 太加子 「医療的ケア」 メヂカルフレンド社 13								
参 考 書	随時紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。 実技については、その都度コメントを返します。								
留 意 事 項	実技についてはテキスト内にあるDVDを事前に観てもらい手順を理解してから行います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：済生会京都府病院 看護師 水無瀬訪問環濠テーション 管理者 水無瀬ケアプランセンター 地域包括支援センター ケアマネジャー								

授業名	医療的ケア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	喀痰吸引概論 ・痰の吸引とは ・人工呼吸器と吸引	(学修内容) ・痰を排出するしくみと痰貯留を示す状態を理解する。 ・人工呼吸器装着時の吸引のリスク (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、人工呼吸器のしくみを理解しておくこと。
第2回	喀痰吸引概論 ・子供の吸引 ・吸引を受ける利用者や家族の気持ち	(学修内容) ・吸引を必要とするこどもとは ・吸引の実施に関する説明と同意 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、大人と子供の違いを理解しておくこと。
第3回	喀痰吸引概論 ・呼吸器系の感染と予防 ・吸引に伴う利用者の変化	(学修内容) ・感染を示す状態とその予防 ・吸引後の観察と報告 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、喀痰吸引後の観察項目を書きだしておくこと。
第4回	経管栄養概論 ・経管栄養実施上の留意点 ・こどもの経管栄養とは	(学修内容) ・必要物品、内容に関する知識 ・こどもの経管栄養の適応 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、大人と子供の違いを理解しておくこと。
第5回	経管栄養概論 ・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ち ・急変時、事故発生時の対応と事前対策	(学修内容) ・経管栄養を受ける利用者の気持ち・家族の気持ちと対応 説明と同意 ・経管栄養注入時、おこりやすい症状 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、経管栄養注入時におこりやすい症状を書きだしておくこと。
第6回	記録の書き方、報告	(学修内容) 記録の意義・記録内容・書き方、報告内容 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてテキストを熟読、記録に書く内容を理解しておくこと。
第7回	喀痰吸引(気管)実施手順解説	(学修内容) 気管吸引の手順と留意点の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、気管吸引の手順を理解しておくこと
第8回	喀痰吸引(鼻)実施手順解説	(学修内容) 鼻吸引の手順と留意点の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、鼻吸引の手順を理解しておくこと
第9回	喀痰吸引(口)実施手順解説	(学修内容) 口吸引の手順と留意点の説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、口吸引の手順を理解しておくこと
第10回	喀痰吸引(気管)演習	(学修内容) 気管吸引手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、気管吸引の手順を理解しておくこと
第11回	喀痰吸引(鼻)演習	(学修内容) 鼻腔吸引手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、鼻吸引の手順を理解しておくこと
第12回	喀痰吸引(口)演習	(学修内容) 口腔内吸引手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 喀痰吸引のDVD学習、口吸引の手順を理解しておくこと
第13回	経管栄養実施手順解説	(学修内容) 必要物品・設置・利用者の観察と準備・実施を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 経管栄養のDVD学習しておくこと
第14回	経管栄養演習(経鼻)	(学修内容) 経鼻栄養手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 経管栄養のDVD学習、経鼻の手順を理解しておくこと
第15回	経管栄養演習(胃瘻)	(学修内容) 経管栄養手順と留意点の復習 (事前事後学修課題の内容)(30分) 経管栄養のDVD学習、胃瘻の手順を理解しておくこと

授業名	医療的ケア			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Medical Care			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	中島 香織			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアを受ける人の立場にたつて尊厳を守ることができる。また、医療的ケアを安全・適切に実施するために、感染予防、安全管理体制について知識を身につける。さらに、医療職と介護職の連携の重要性と役割を認識する。								
学修成果到達目標	<p>個人の尊厳と自立、医療的ケアに関係する法律・制度について説明できる。</p> <p>感染について学び、予防方法を説明することができる。</p> <p>医療的ケアについて医療職と介護職の連携について説明できる。</p> <p>医療的ケアの実施において、リスクマネジメントやヒヤリハットなど安全な療養生活について説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()		
テキスト	川井 太加子 「医療的ケア」 メヂカルフレンド社 13								
参考書	随時紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	「提出されたレポートは、コメントをつけて返却します」								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書中心に進めるので、事前学習・復讐をして授業に臨んでください。 ・わからないことは調べたり、聞くなどして明らかにし、その都度理解しておいてください。 								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	<p>実践的教育</p> <p>教員の実務経験など：済生会京都府病院 看護師 水無瀬訪問看護ステーション 管理者 水無瀬ケアプラザセンター 地域包括支援センター ケアマネジャー 実践事例をもとに介護について話します。</p>								

授 業 名	医療的ケア	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	なぜ医療的ケアを学ぶのか	(学修内容) 医療的ケアを学ぶ経緯、医療的ケアと医行為の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 医療的ケアでどのようなことを学びたいのかを述べられるようにしておくこと。
第2回	保健医療に関する制度	(学修内容) 保健医療に関する制度と医療的ケア提供の場について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストに載っている制度をノートに書きあげてくること。
第3回	人間と社会(尊厳と自立)	(学修内容) 医療の倫理・医療的ケアを受ける利用者の尊厳と自立、個人情報について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストを熟読して、「尊厳」について意見を述べられるようにしておくこと。
第4回	チーム医療と介護職の連携	(学修内容) 介護福祉士と看護師の役割の違い、チーム医療とその実際・安全な療養生活について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として介護福祉士の役割を書きあげてくる。
第5回	感染予防	(学修内容) 細菌とウイルスの違いを理解する。感染予防(スタンダードプリコーション)、職員の健康管理の必要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にテキストを熟読しておくこと。終了後、学んだことをレポートにまとめ提出する。
第6回	滅菌と消毒	(学修内容) 居室などの療養環境の清潔や消毒方法(消毒と滅菌、消毒液の使い方等)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習としてテキストを熟読して消毒方法を理解しておくこと。
第7回	リスクマネジメント	(学修内容) 安全で確実な医療的ケアを実施するためのリスクマネジメント及びヒヤリハットとアクシデントを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてヒヤリハットとアクシデントの違いを述べられるようにしておくこと。
第8回	健康状態の把握(バイタルサイン)	(学修内容) 健康状態の把握、バイタルサインや観察、報告の必要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストを熟読してバイタルサインの項目を理解しておくこと。
第9回	急変状態(連絡と報告)	(学修内容) 身体・精神の健康と急変時の対応を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストを熟読して急変時に報告する内容をまとめておくこと。
第10回	急変状態(救急蘇生)	(学修内容) 救急蘇生法の知識と技術、救急時の対応や連絡方法を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを熟読しておくこと。終了後、学んだことをレポートにまとめ提出する。
第11回	呼吸のしくみと働き	(学修内容) 高齢者及び児童の呼吸の状態観察と呼吸の異常の観察や利用者への対応を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストの呼吸器のしくみの図を理解しておくこと。
第12回	喀痰吸引とは	(学修内容) 痰の排出のしくみ、喀痰吸引の必要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストを熟読して、喀痰吸引が必要な状態を理解しておくこと。
第13回	喀痰吸引に伴うリスク	(学修内容) 感染予防、喀痰吸引により生じる危険を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 終了後、学んだことをレポートにまとめ提出すること。
第14回	消化器系のしくみと働き	(学修内容) 高齢者及び児童の食品摂取から消化吸収までのしくみを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストの消化器のしくみの図を理解しておくこと。
第15回	経管栄養とは	(学修内容) 経管栄養の必要性、実施上の留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習としてテキストを熟読して、経管栄養の必要な人とはどのような人かを理解しておくこと。

実 習 名	介護実習 a・b	対 象 学 生	専攻科介護専攻
担 当 者	高岡 理恵・野田 隆生		
実習の概要	<p>1. 実習の目的 講義、演習、学内実習で学んだ理論と技術を実際に活用し、利用者への総合的な介護が実践できるための基礎能力を習得する。実習指導者の指導を受けながら、実習目標に沿った介護計画のたてかたや記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養い、介護福祉士の役割について理解を深めることを目的とする。</p> <p>2. 実習内容の区分及び形態 「実習施設・事業等（ ）」及び「実習施設・事業等（ ）」に区分して、210時間の介護実習を実施する。 「実習施設・事業等（ ）」 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて、利用者、家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践・多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 秋学期に「介護総合演習」を配当し「実習施設・事業等（ ）」において5日間の実習を行う。1日8時間。 「実習施設・事業等（ ）」 一つの施設・事業所等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程の展開を行う。 介護実習は春学期に「介護総合演習」を配当し、8月に「実習施設・事業等（ ）」において22日間の実習を行う。1日8時間。</p> <p>3. 実習施設 介護実習の実習施設は、老人福祉法に定められている特別養護老人ホーム、介護保険法に定められている老人保健施設、児童福祉法に定められている重度心身障がい児施設、障がい者自立支援法に定められている施設であって、本校と契約を取り交わしている施設である。</p> <p>4. 実習生に対する指導 実習中は、実習担当者から指導、助言を受けながら実習を行う。教員は週に1回訪問し、指導を行う。</p> <p>5. 実習受講条件 「介護総合演習」を受講していること</p> <p>6. 実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。積極的に実習に臨んでください。</p>		
備 考	<p>実習先でオリエンテーションを受け、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。 介護総合演習を履修していなければ介護実習ができません。</p>		